

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第399集

泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書

—閑遊水地事業関連遺跡発掘調査

(第1分冊)

国土交通省東北地方整備局岩手工事務所

財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書

(第1分冊)

序

本県には、旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、10,000カ所以上にも及ぶ遺跡が確認されております。先人の残した文化遺産を保護し、保存していくことは、私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、快適な生活を送るために地域開発と社会資本の充実もまた県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日における課題であり、財團法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を実施し、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、一関遊水地事業に係わる太田川堤防建設工事に関連して、平成8年度・11年度・12年度に実施した平泉町泉屋遺跡の調査結果をまとめたものであります。

発掘調査の結果、12世紀奥州藤原氏の時代に關係する遺物や遺構が多数発見され、貴重な資料を加えることができました。

この報告書が広く活用され、考古学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する关心と理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査ならびに報告書作成にご援助・ご協力を賜りました、国土交通省東北地方整備局・平泉町教育委員会をはじめとする多くの関係各位に衷心より謝意を表します。

平成15年2月

財團法人 岩手県文化振興事業団

理事長 合 田 武

例　　言

1. 本報告書は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字泉屋23-8ほかに所在する、泉屋遺跡の第16次・19次・21次調査の報を収録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、一関遊水地事業太田川堤防工事に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会と国土交通省東北地方整備局との協議を経て（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県遺跡登録台帳に記載されている遺跡番号はNE76-1079、遺跡略号は調査次順にIY-96-16・IY-99-19・IY-00-21である。
4. 発掘調査は、平成8年度・11年度・12年度に実施した。各年度の調査期間・調査面積・調査担当者は次のとおりである。

<第16次> 平成8年4月9日～9月30日 1,760m² 羽柴直人・杉沢昭太郎・千葉和弘

<第19次> 平成11年4月14日～11月12日 2,565m² 佐々木務・吉川徹・布谷義彦

<第21次> 平成12年5月18日～11月10日 1,875m² 濱田宏・吉川徹・熊谷佳恵

調査面積合計 6,200m²

5. 室内整理期間・整理担当者は次のとおりである。

平成8年11月1日～平成9年3月31日 羽柴直人・千葉和弘

平成11年11月1日～平成12年3月31日 佐々木務・吉川徹

平成12年11月1日～平成13年3月30日 濱田宏・吉川徹

平成13年4月1日～平成13年7月31日 濱田宏

6. 本報告書は執筆は、第16次調査分を羽柴が、第19・21次調査分を濱田・吉川が分担して行った。執筆者は文末に名前を付した。編集は、羽柴と濱田がそれぞれ行った。また、本報告書は整理の都合上、第16次調査分の報告と第19・21次調査分のそれを分離して二部構成としている。

7. 各種出土遺物の分析・鑑定は次の方々に依頼した。(敬称略)

- | | |
|--------------------|---------------------|
| (1) 石質鑑定 | 花崗岩研究会 |
| (2) 樹種同定 | 高橋利彦(木工舎「ゆい」) |
| (3) 木製品・金属製品の保存処理 | 岩手県立博物館文化財科学 |
| (4) ガラス玉の分析 | 岩手県立博物館文化財科学 |
| (5) 植物遺存体の分析 | 辻誠一郎・辻圭子(国立歴史民俗博物館) |
| (6) 動物遺存体の鑑定 | 熊谷賢(陸前高田市立博物館) |
| (7) 火山灰分析 | (株)パリノ・サーヴェイ |
| (8) 国産陶器・中国産陶磁器の鑑定 | 八重樋忠郎(平泉町教育委員会) |

8. 本報告書作成にあたり、次の方々にご協力・ご指導いただいた。(敬称略)

飯村均(福島県教育庁)、本澤慎輔・及川司・八重樋忠郎・菅原計二・鈴木江利子・鹿野里絵(以上平泉町教育委員会)、辻誠一郎・小野正敏(以上国立歴史民俗博物館)、及川真紀(前沢町教育委員会)、吉田欽(東北大学)、岡田茂弘(東北歴史博物館)、久保智康(京都国立博物館) 斎藤邦雄(柳之御所遺跡調査事務所)、国生尚(国土交通省東北地方整備局) 平泉町教育委員会

9. 土壙の観察は「新版標準土色板」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、（財）日本色彩研究所監修 1989）を使用した。
10. これまでに、調査成果の一部を現地説明会資料や調査略報等に発表しているが、本書と記載事項が異なる場合はすべて本書が優先するものである。
11. 調査で得られた出土遺物や整理に係わる諸記録等については、すべて岩手県立埋蔵文化財センターが保管・管理している。

第1分冊目次

序		(3) 内折れ、柱状高台かわらけ	132
例言		(4) 13~14世紀のかわらけ	132
第1章 調査に至る経過	1	3 国産陶器	133
第2章 遺跡の立地と環境	3	(1) 常滑陶器	133
第1節 位置	3	(2) 邊境陶器	133
第2節 地形	3	(3) 須恵器系陶器	133
第3節 これまでの泉屋遺跡の調査	6	(4) 中世の壺器系陶器	142
第3章 調査と整理の方法	7	4 中国産磁器	142
第1節 調査の経過	7	(1) 12世紀の中国産磁器	142
1 泉屋遺跡16次調査	7	(2) 中世の中国産磁器	142
2 泉屋遺跡19次調査	7	5 瓦	145
3 泉屋遺跡21次調査	7	6 近世の陶磁器	145
第2節 野外調査の方法	7	(1) 近世の磁器	145
第3節 室内整理の方法	8	(2) 近世の陶器	150
第4章 泉屋遺跡16次調査	10	7 木製品	157
第1節 検出した遺構	10	8 石製品	162
1 据立柱建物	10	9 金属製品	168
2 柱列	66	(1) 銭貨	168
3 井戸	69	(2) その他の金属製品	171
4 土坑	79	10 その他の遺物	174
5 溝	104	11 縄文時代の遺物	176
6 穫穴建物	116	(1) 縄文時代の土器	176
第2節 出土遺物	118	(2) 縄文時代の石器	184
1 古代の土師器、須恵器	119	第3節 まとめ	209
2 かわらけ	126	1 遺構	209
(1) 手づくねかわらけ	126	2 遺物	210
(2) ロクロかわらけ	132	第4節 泉屋遺跡16次調査におけるトイレ 遺構分析	212
		写真図版	224

〈図版・表目次〉

第1回 遺跡位置図	2	第52回 漢⑤ (16S D 11、15、16)	110
第2回 基本構序	4	第53回 漢⑥ (16S D 14、17~19)	112
第3回 泉屋遺跡の周辺地形と調査区	5	第54回 漢⑦ (16S D 20、21)	114
		第55回 漢⑧ (16S D 5、12、13)	115
		第56回 古代の堅穴建物 (16S I 1、2)	117
		第57回 古代の土師器、須恵器① (1~8)	120
		第58回 古代の土師器、須恵器② (9~21)	121
		第59回 古代の土師器、須恵器③ (22~32)	122
		第60回 古代の土師器、須恵器④ (33~50)	123
		第61回 古代の土師器、須恵器⑤ (51~63)	124
		第62回 古代の土師器、須恵器⑥ (64~74)	125
		第63回 古代の土師器、須恵器⑦ (75~79)	126
		第64回 12世紀のかわらけ① (1001~1021)	127
		第65回 12世紀のかわらけ② (1022~1043)	128
		第66回 12世紀のかわらけ③ (1044~1068)	129
		第67回 12世紀のかわらけ④ (1069~1092)	130
		第68回 12世紀のかわらけ⑤ (1093~1116)	131
		第69回 12世紀のかわらけ⑥	
		13、14世紀のかわらけ (1119~1125)	132
		第70回 常滑窯陶器① (2001~2011)	134
		第71回 常滑窯陶器② (2012~2023)	135
		第72回 常滑窯陶器③ (2024~2036)	136
		第73回 清美窯陶器① (2037~2052)	137
		第74回 清美窯陶器② (2053~2066)	138
		第75回 清美窯陶器③ (2067~2081)	139
		第76回 須恵器系陶器 (2082~2091)	140
		第77回 中曾の焼器系陶器 (2092~2102)	141
		第78回 中国磁器① (3001~3018)	143
		第79回 中国磁器② (3019~3035)	144
		第80回 中国磁器③ (3036~3039)	145
		第81回 12世紀の瓦 (4001~4007)	146
		第82回 近世の磁器① (5001~5028)	147
		第83回 近世の磁器② (5029~5046)	148
		第84回 近世の磁器③ (5047~5056)	149
		第85回 近世の陶器① (5057~5073)	151
		第86回 近世の陶器② (5074~5098)	152
		第87回 近世の陶器③ (5099~5117)	153
		第88回 近世の陶器④ (5118~5129)	154
		第89回 近世の陶器⑤ (5130~5136)	155
		第90回 近世の陶器⑥ (5137~5148)	156
		第91回 木製品① (6001~6006)	158
		第92回 木製品② (6007)	159
		第93回 木製品③ (6008~6009)	160
		第94回 木製品④ (6010~6011)	161
		第95回 木製品⑤ (6011)	162
		第96回 石製品① (7001~7005)	163
		第97回 石製品② (7006~7012)	164
		第98回 石製品③ (7013~7020)	165
		第99回 石製品④ (7021~7022)	166
		第100回 石製品⑤ (7023~7024)	167
		第101回 石製品⑥ (7025)	168
		第102回 石製品⑦ (7026)	169
		第103回 銀貨① (8001~8011)	170
		第104回 銀貨② (8012~8014)	171

第105回	銭貨③ (8015~8026)	172
第106回	金属製品 (8027~8043)	173
第107回	鉄津 (8044~8050)	174
第108回	その他の遺物 (8051~8053)	175
第109回	縄文時代の土器① (9001~9007)	177
第110回	縄文時代の土器② (9008~9021)	178
第111回	縄文時代の土器③ (9022~9030)	179
第112回	縄文時代の土器④ (9031~9050)	180
第113回	縄文時代の土器⑤ (9051~9069)	181
第114回	縄文時代の土器⑥ (9070~9081)	182
第115回	縄文時代の土器⑦ (9082~9085)	183
第116回	縄文時代の石器① (9101~9116)	185
第117回	縄文時代の石器② (9117~9127)	186
第118回	縄文時代の石器③ (9128~9135)	187
第119回	縄文時代の石器④ (9136~9141)	188
第120回	縄文時代の石器⑤ (9142~9148)	189
第121回	縄文時代の石器⑥ (9149~9155)	190
第122回	縄文時代の石器⑦ (9156~9164)	191
第123回	縄文時代の石器⑧ (9165~9172)	192
第124回	縄文時代の石器⑨ (9173~9178)	193
第125回	縄文時代の石器⑩ (9179~9184)	194
第126回	縄文時代の石器⑪ (9185~9186)	195
第127回	縄文時代の石器⑫ (9187~9188)	196
第128回	縄文時代の石器⑬ (9189~9191)	197
第129回	縄文時代の石器⑭ (9192)	198
第130回	縄文時代の石器⑮ (9193)	199
柱穴計測表①		200
柱穴計測表②		201
柱穴計測表③		202
柱穴計測表④		203
柱穴計測表⑤		204
柱穴計測表⑥		205
柱穴計測表⑦		206
柱穴計測表⑧		207
柱穴計測表⑨		208

付図 泉屋遺跡16次調査構造図

〈泉屋遺跡16次調査写真図版〉

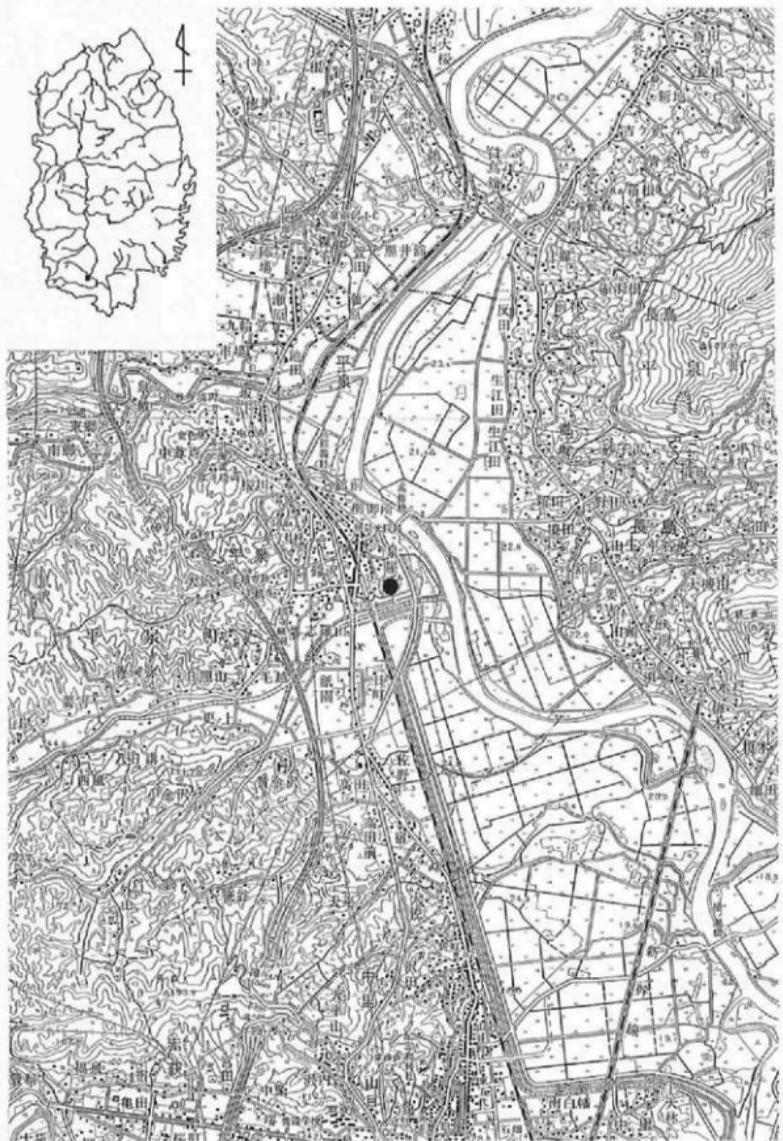
写真図版1	調査区遠景	226
写真図版2	調査区航空写真	227
写真図版3	掘立柱建物①	228
写真図版4	掘立柱建物②	229
写真図版5	掘立柱建物③	230
写真図版6	掘立柱建物④	231
写真図版7	掘立柱建物⑤	232
写真図版8	掘立柱建物⑥	233
写真図版9	掘立柱建物⑦	234
写真図版10	掘立柱建物⑧・井戸①	235
写真図版11	井戸②	236
写真図版12	井戸③	237
写真図版13	井戸④	238
写真図版14	井戸⑤	239
写真図版15	井戸⑥・土坑①	240
写真図版16	土坑⑦	241
写真図版17	土坑⑧	242
写真図版18	土坑⑨	243
写真図版19	土坑⑩	244
写真図版20	土坑⑪	245
写真図版21	土坑⑫	246
写真図版22	土坑⑬	247
写真図版23	土坑⑭	248
写真図版24	土坑⑮	249
写真図版25	土坑⑯	250
写真図版26	土坑⑰	251
写真図版27	土坑⑱	252
写真図版28	土坑⑲	253
写真図版29	土坑⑳	254
写真図版30	土坑㉑・溝①	255
写真図版31	溝②	256
写真図版32	溝③	257
写真図版33	溝④	258
写真図版34	溝⑤	259
写真図版35	溝⑥	260
写真図版36	溝⑦	261
写真図版37	壘穴建物	262
写真図版38	古代の土師器、須恵器① (1~9)	263
写真図版39	古代の土師器、須恵器② (10~22)	264
写真図版40	古代の土師器、須恵器③ (23~37)	265
写真図版41	古代の土師器、須恵器④ (38~52)	266
写真図版42	古代の土師器、須恵器⑤ (53~65)	267
写真図版43	古代の土師器、須恵器⑥ (66~79)	268
写真図版44	かわらけ① (1001~1015)	269
写真図版45	かわらけ② (1017~1031)	270
写真図版46	かわらけ③ (1032~1052)	271
写真図版47	かわらけ④ (1053~1081)	272
写真図版48	かわらけ⑤ (1082~1111)	273
写真図版49	かわらけ⑥・常滑産陶器① (1112~1125、2001~2010)	274
写真図版50	常滑産陶器② (2011~2024)	275
写真図版51	常滑産陶器③・ 瀬美産陶器① (2025~2041)	276
写真図版52	瀬美産陶器② (2042~2049)	277
写真図版53	瀬美産陶器③ (2050~2062)	278
写真図版54	瀬美産陶器④ (2063~2074)	279
写真図版55	瀬美産陶器⑤・ 須恵器系陶器 (2075~2091)	280
写真図版56	中世の瓷器系陶器 (2092~2102)	281
写真図版57	中国産磁器① (3001~3019)	282
写真図版58	中国産磁器② (3020~3039)	283
写真図版59	近世の磁器① (5001~5034)	284

写真図版60	近世の磁器③ (5035~5056)	285
写真図版61	近世の陶器① (5057~5076)	286
写真図版62	近世の陶器② (5077~5100)	287
写真図版63	近世の陶器③ (5101~5117)	288
写真図版64	近世の陶器④ (5118~5125)	289
写真図版65	近世の陶器⑤ (5126~5134)	290
写真図版66	近世の陶器⑥ (5135~5146)	291
写真図版67	近世の陶器⑦ (5147~5148)	292
写真図版68	木製品 (6001~6005, 6007, 6008, 6010, 6011)	293
写真図版69	石製品① (7001~7013)	294
写真図版70	石製品② (7014~7021)	295
写真図版71	石製品③ (7022, 7023)	296
写真図版72	石製品④ (7024~7026)	297
写真図版73	鉄貨① (8001~8014)	298
写真図版74	鉄貨② (8015~8024)・漆紙 (8042)	299
写真図版75	縄文時代の土器① (9001, 9002, 9005~ 9010, 9012, 9013, 9016, 9017)	300
写真図版76	縄文時代の土器② (9022, 9030, 9051~ 9053, 9057~9061, 9065, 9070~9072)	301
写真図版77	縄文時代の土器③ (9073~9077, 9080, 9082~9085)	302
写真図版78	縄文時代の土器④ (9082)	303
写真図版79	縄文時代の石器① (9101~9126)	304
写真図版80	縄文時代の石器② (9127~9138)	305
写真図版81	縄文時代の石器③ (9139~9148)	306
写真図版82	縄文時代の石器④ (9149~9157)	307
写真図版83	縄文時代の石器⑤ (9158~9159)	308
写真図版84	縄文時代の石器⑥ (9160~9164)	309
写真図版85	縄文時代の石器⑦ (9165~9175)	310
写真図版86	縄文時代の石器⑧ (9176~9186)	312
写真図版87	縄文時代の石器⑨ (9187~9193)	313

第1章 調査に至る経過

一関遊水地事業は、北上川上流改修の一大プロジェクトとして、岩手県一関市・平泉町地区を洪水から守るために、二線堤方式による遊水地の建設をするもので、上流ダム群とともに北上川治水計画の根幹をなすものである。遊水地は延長25kmの地区堤と延長18kmの小堤に囲まれた第一遊水地から第三遊水地まで合わせて1,450haからなり、洪水調整・市街地等の水害防除および土地の高度利用を目的とするものである。事業は昭和48年に工事実施基本計画が決定されたのを受けて昭和53年から本格的な着工の運びとなった。

この事業に関わる埋蔵文化財包含地の取り扱いについては、岩手県教育委員会と建設省東北地方建設局岩手工事事務所との間に協議がおこなわれた。関連する遺跡は柳之御所・志羅山・泉屋の3遺跡であり、岩手工事事務所長と岩手県文化振興事業団理事長との間で受諾契約がおこなわれた。柳之御所遺跡は昭和63年度、志羅山遺跡は平成4年度、泉屋遺跡は平成3年度より財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの委託事業として調査が開始された。そのうち、本報告書に関連する太田川堤防建設に伴う泉屋遺跡の調査は平成8年度からおこなされることになり平成8年4月9日から野外調査を着手した。なお泉屋遺跡は平泉町教育委員会などにより幾度か調査がおこなわれており、一連の調査次数を与えてきた。そこで平泉町教育委員会と埋蔵文化財センターが協議の上、平成8年度の調査は第16次調査、平成11年度は第19次調査、平成12年度は第21調査とすることとした。



第1図 遺跡位置図

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 位置

泉屋遺跡が所在する西磐井郡平泉町は岩手県南部に位置し、北は胆沢郡衣川村と前沢町、南と西は一関市、東は東福山を境に東磐井郡東山町と接する。町の総面積は63.75km²で、そのおよそ半分は山林・原野が占め、水田・畑地の割合は3割弱である。昭和20年代半ばに1万人を超えた人口は、それ以降減少傾向にあって、現在はおよそ9,000人強となっている。平泉町には奥州藤原氏を今に伝える遺産、平安美術の宝庫といわれる「中尊寺」、特別史跡・特別名勝の二重の指定を受ける「毛越寺」があり、年間200万人以上の観光客が訪れる全国有数の観光都市として知られる。平成12年度には、世界遺産の暫定リストに「平泉の文化遺産」として登載され、本登録へ向けた官民一体の活動が様々な形で展開している。

泉屋遺跡は平泉町市街地の南東部、東日本旅客鉄道東北本線平泉駅の南東に広がる遺跡で、北に伽羅之御所跡、西に志羅山遺跡が隣接し、平泉館とされる柳之御所跡遺跡とは北北西に1kmほどの距離がある。今回報告する第16・19・21次調査各次の調査範囲は、第3図にあるとおり東北本線の東側で、金体から見ると遺跡の南東端部にある。遺跡の南側には、河川改修を受けた太田川が東流し、東にはその太田川に注ぐ鈴沢川が南流している。

本遺跡は、西磐井郡平泉町平泉字泉屋31-3ほかに所在し、国土地理院発行の5万分の1地形図「一関」(NJ-54-14-15)及び2万5千分の1地形図「平泉」(NJ-54-14-15-3)内にある。遺跡の経緯度は、北緯38°58'59" 東經141°7'21"である。

第2節 地形

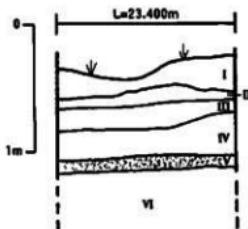
平泉町周辺は、東は北上山地、西は奥羽山脈に囲まれ、その中央部を一般河川北上川が南流している。宮城県追波湾に注ぐ北上川は、一関市狐桜寺付近の狭窄部が要因の一つとなって度々大洪水をおこし、この地方に甚大な被害を与えていた。既述のとおり、一関遊水地事業はその水害の防御と土地の高度利用を目的として実施されている。

平泉町は北上川の中流域にあたり、この川によって形成された氾濫平野や谷底平野、後背湿地などの低地と河岸段丘上にのる。町はその北上川を境として、西側の平泉地区と東側の長島地区に大きく二分されるが、北上川西岸の平泉地区はそのほとんどが衣川丘陵からなり、解釈が及んでいない丘陵緩斜面では牧場等に利用されている。町の中心部は、北上川と太田川によって解釈された段丘と氾濫原上にあって、多くの藤原氏関連の遺跡と重なり、この地域に暮らす町民はこれら文化遺産と生活を共にしている。一方、東岸の長島地区は北上川の氾濫原と東福西龍丘陵からなるが、丘陵地の大部分は侵食性の緩斜面で、遺跡の多くはその侵食された段丘の縁辺部と支流谷沿いにある。近年、この長島地区で大規模なほ場整備事業が予定され、それに伴う事前の発掘調査で北上川東岸の冲積地にも藤原氏関連の遺跡があることが確認された。和鏡の出土をみた里遺跡、十和田a降下火山灰に覆われた水田跡が検出された竪ヶ坂遺跡、茶見所と推定される遺構や中世の墓域群、平安時代に所属する島跡などが見つかった木町II遺跡、それに隣接する細中遺跡がそれである。いずれも、從来言られてきた藤原時代「都市平泉」の構造を再考すべき内容をもっており、注目される

遺跡群である。

平泉町やその周辺地域の地質は、南北に継続する盛岡-白河線と呼ばれる構造線によって東西に分けられる。その西側は新生代新第三紀以降の堆積岩や火山岩が分布し、東側では石灰岩・花崗岩・礫岩などで構成される古生層が基盤岩類となっている。北上川によって形成された沖積地や原生地の堆積物は、砂礫泥からなり、多くは泥を主体とした細粒堆積物である。

各調査次とも、調査区内では概ね全城で第2回のような層序が観察される。(第19・21回調査旧河道部を除く)

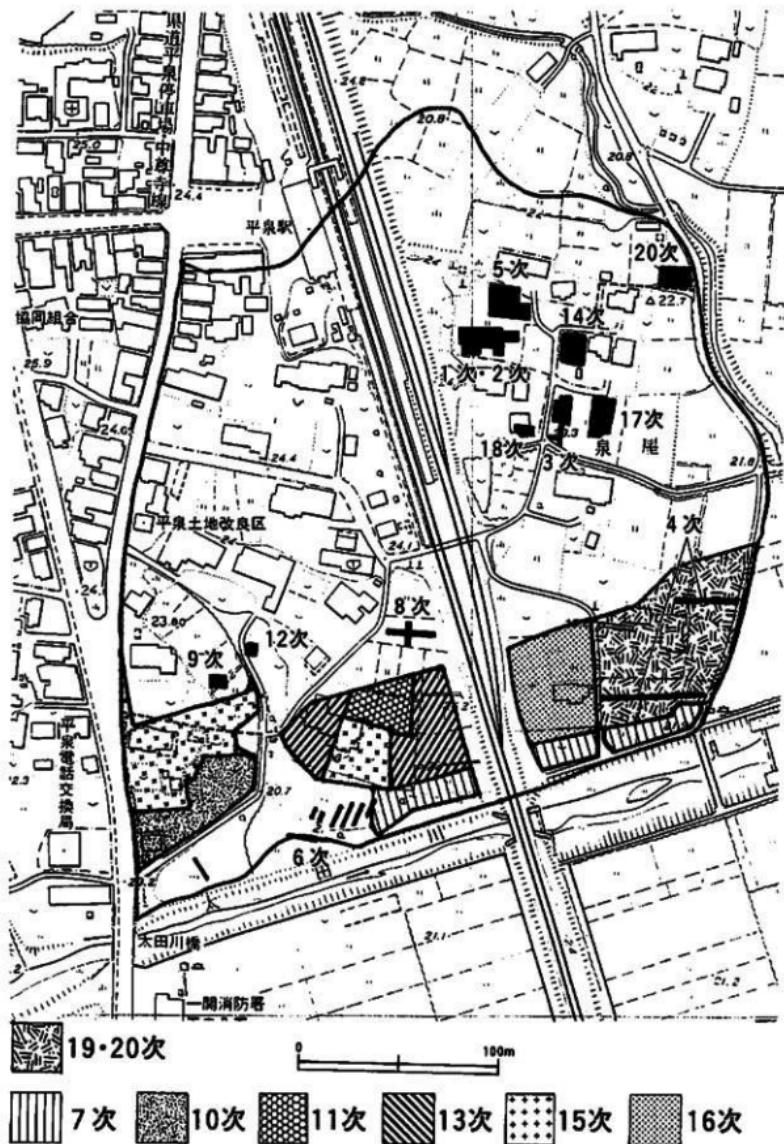


第2回 基本層序

- | | |
|-----------------------------|---|
| <第Ⅰ層> 黒褐色土 (10Y R 2 / 2) | シルト 現表土・耕作土。層厚20cm前後。 |
| <第Ⅱ層> 暗褐色土 (10Y R 3 / 3) | シルト 旧表土。層厚20~40cm。 |
| <第Ⅲ層> 暗褐色土 (10Y R 3 / 3) | シルト ビニール等含む擾乱層。層厚0~30cm。 |
| <第Ⅳ層> にぶい黄褐色土 (10Y R 5 / 4) | シルト 本層上面が古代から近世にかけての遺構検出面で、縄文時代後・晩期の土器を包含する層。層厚20~60cm。 |
| <第Ⅴ層> 黒褐色土 (10Y R 2 / 3) | 粘土質シルト 縄文時代前期の土器・剣片を含む層。層厚15cm。 |
| <第Ⅵ層> 明黄褐色土 (10Y R 6 / 6) | 粘土質シルト 地山。層厚50cm以上。 |
| <第Ⅶ層> 段丘構成疊層 | |

<引用・参考文献>

- (財)岩手理文 (2000) :「佐野遺跡第1次・三日町1遺跡第2次発掘調査報告書」岩文理調査報告書第313集
岩手県農政部北上開発室 (1978) :「北上山系開発地帯七分類基本調査一回」
(財)岩手理文 (1993) :「新山推現社遺跡発掘調査報告書」岩文理調査報告書第188集
平泉町教育委員会 (1993) :「志願山遺跡第13・15・16・17・18・20次発掘調査報告書」平泉町文化財調査報告書第35集
(財)岩手理文 (1997) :「御所1遺跡第2次・第3次発掘調査報告書」岩文理調査報告書第257集
平泉郷土館 (1987) :「平泉の歴史文化財」平泉郷土館図録第1号
本中真 (2001) :「今、世界遺産委員会で語られていること」「平泉文化研究年報第1号」岩手県教育委員会



第3図 泉屋遺跡の周辺地形と調査区

第3節 これまでの泉屋遺跡の調査

泉屋遺跡は一間遊水地事業関連事業以外にも、様々な要因で発掘調査がおこなわれている。これまでの調査次数は本報告書で報告する第21次調査を含め、21次におよぶ（平成11年度分まで）。

これまでの各調査次の位置は第3図に示している。また1次～15次の要綱と概要是（財）岩手県埋蔵文化財センター1997「泉屋遺跡10・11・13・15次発掘調査報告書」第246集で示してあるのでここでは割愛する。ここでは本報告書で報告する16次、18次、21次を除いた17次、18次、20次の要綱と概要を記す。

泉屋遺跡調査要項（17次・18次・20次）

調査次	地点	調査要因	調査期間	調査面積	調査担当者
17次	泉屋52-1	集合住宅建設	1997年8月27日～9月16日	230m ²	町教委 八重原忠郎
18次	泉屋51-1	防火用水槽の設置	1999年1月25日～2月10日	39m ²	町教委 菅原伸二
20次	泉屋57-12	個人住宅建築	1999年10月29日～1月14日	480m ²	町教委 八重原忠郎

17次調査概要

掘立柱建物5棟、井戸2基、便所土坑5基、溝3条検出。時期は縄文時代、12世紀、14世紀、近世以降のものがある。便所土坑からは多量のウリ科の種子、チュウ木が出土した。掘立柱建物には14世紀と推測されるものと、縄文時代と推測されるものがある。

18次調査概要

柱穴約120個、溝9条、土坑2基検出。12世紀の建物の一部分と推測される柱列がある。遺物はかわらけ、国産陶磁器、中国磁器、縄文土器、石器が出土した。

20次調査概要

近世掘立柱建物4棟、近代瓦窯1基、近世近代溝5条、中世井戸1基、近世近代土坑7期、近世井戸6基、12世紀の土坑5基、12世紀の井戸1基、12世紀の溝1条を検出。12世紀の土坑には便所状土坑も含まれる。かわらけ、国産陶器、近世陶磁器などが出土。

第3章 調査と整理の方法

第1節 調査の経過

1 泉屋遺跡16次調査

泉屋遺跡第16次調査は平成8年度におこなわれた。野外調査は平成8年4月9日から9月30日である。発掘調査面積は1,760m²である。野外調査担当者は4月9日～8月3日まで羽柴直人と千葉和弘である。8月6日からは羽柴と杉沢昭太郎が交替し、杉沢と千葉が9月30日まで調査をおこなった。4月9日から8月3日までは古代～近世の遺構が検出されるIV層上面の調査をおこなった。IV層上面の調査終了後、地形測量及び航空写真の撮影を行った。8月6日からは縄文土器を含むする材の振り下げを行い、縄文時代の遺物及び遺構の検出をおこなった。調査終了後廻め戻しを行い。9月30日に器材を撤収した。

室内整理は11月1日から3月31にまでおこなった。担当者は羽柴直人と千葉和弘である。

2 泉屋遺跡19次調査

泉屋遺跡19次調査は平成11年度におこなわれた。野外調査は平成11年4月14日から11月12日である。発掘調査面積は2,565m²を終了した。野外調査担当者は佐々木務と吉川徹である。10月9日に現地公開をおこなった。11月12日に器材を撤収した。

野外調査終了後、3月31日まで室内整理をおこなった。担当は佐々木務、吉川徹である。

3 泉屋遺跡21次調査

泉屋遺跡21次調査は平成12年度におこなわれた。野外調査は5月18日から11月10日である。発掘調査面積は1,875m²である。野外調査の担当者は濱田宏と吉川徹である。21次調査は主に、旧太田川河道とその落ち際に堆積した遺物包含層の調査をおこなった。10月24日に現地公開をおこない。11月10に器材を撤収した。

野外調査終了後、3月31にまで室内整理をおこなった。担当は濱田宏、吉川徹である。また平成13年度4月2日～7月31日にも室内整理作業をおこなった。担当は濱田宏である。

第2節 野外調査の方法

1 グリッドの設定

グリッドの設定は志羅山遺跡第14次調査（財岩埋文 1995 「志羅山遺跡第14・25次発掘調査報告書」 第216集）の基準に準拠しており、その名称の付し方も同一である。グリッドは平面直角座標のX系に沿って設定しており、大グリッドは一辺が50m、小グリッドは大グリッドの各辺を10等分して一辺5mとしている。グリッドの基点（IA0a）はX = -112945,000m、Y = 24720,000mとし、ここから大グリッドは北に向かってローマ数字（I、II、III・・・）、東に向かって大文字のアルファベット（A、B、C・・・）とする。小グリッドは北に向かって向かって（0、1、2・・・9、0）、東に向かって（a、b、c・・・j）で示している。グリッドの名称はその南北西隅の杭の名称による。

2 遺構の名称

遺構の名称は以下のように略号を付した。

建物・SB　　堅穴建物・SI　　非戸・井戸状・SE　　土坑・SK　　溝・SD　　カマド・
焼土遺構・SX　柱穴・P

本報告書では調査次が複数にわたるため、遺構の略号の上に調査次数を付している。遺構の番号は検出順に算用数字を付していった。

3 調査・遺構検出

雜物撤去後にトレンチを設定し、遺物の包含状況、遺構の確認面を把握した。その後、遺構確認面まで重機を用いて表土を除去した。遺物を多く包含する所に関しては人力によって表土の除去をした。

遺構の確認は表土を除去した面をジョレン、両刃鋸で、平滑にしプランを確認するようにした。

4 遺構の精査

検出した遺構は土層を観察するベルトを設定して掘り下げる基本とした。柱穴は平面での柱痕の確認、他の遺構、柱穴どうしの切り合いを把握することに意を注ぎ、基本的に断ち削りをおこなっていない。

5 遺物の取り上げ

遺構外の遺物はグリッド毎に取り上げた。遺構内の遺物は必要と思われる場合、地点とレベルを記録した。またそれ以外では可能な限り埋土の層位ごとに取り上げるように努めた。

6 実測・写真撮影

平面実測は簡易造り方測量で、5mグリッドを1mに細分したメッシュを用いておこなった。原則として1/20の縮尺を用い、必用に応じて任意の縮尺を用いた。

写真撮影は35mmモノクロームとカラースライドを主に使用し、6×7cmモノクローム1台を補助的に使用した。撮影は理土堆積状態や遺物の出土状況、遺構の完損状況などについて行った。また各調査終了時にはセスナ機により空中写真を撮影した。

第3節 室内整理の方法

出土遺物は水洗注記を行い、必用なものは接合、復元作業を実施した。これらの作業終了後、報告書掲載遺物を選び出し、登録をおこなった。

遺物実測は原則として実寸で行った。野外調査で作成した遺構実測図は、必要なものについては第2原図を作成した。その後、これらの遺構、遺物実測図のトレースを行い、種別ごとに観察表と図版を作成した。

撮影したフィルムはネガアルバムにベタ焼きの写真と一緒にして収納した。カラースライドはスライドファイルに撮影順に収納した。また報告書掲載分の遺物の撮影を行い、写真図版を作成した。これらの作業の終了後、原稿の執筆を行い、報告書を編集した。



第4図 泉屋遺跡16次調査全体図

第4章 泉屋遺跡16次調査

第1節 検出した遺構

泉屋遺跡16次調査で検出した遺構は、堀立柱建物（S B）69棟、柱列5条、井戸（S E）14基、土坑（S K）60基、溝（S D）21条、竪穴建物（S I）2棟である。

これらの所属時期は、绳文時代（後期、晚期）、古代（9～10世紀）、12世紀、13世紀後半～14世紀前半、16世紀、近世（17世紀～19世紀）、近代以降（19～20世紀）と多岐にわたる。

遺構の検出面は、古代以降は基本層序のVI層上面、绳文時代の遺構はV～VI層上面である。

1 堀立柱建物

堀立柱建物は69棟を示した。古代以降の検出面が同一のため所属時期を確定できないものが多い。

16 S B 1（第5図）

〔位置〕 III G 7 g、7 h に位置する。

〔重複〕 16 S B 2、16 S B 6 とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く、前後関係は不明である。

〔平面形式〕 堀立柱建物である。桁行きは739.5cmである。面積は梁間が検出されていないので不明である。使用した柱穴は4個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向は N-3° - E である。

〔柱間寸法〕 種々の寸法が用いられており、基準寸法を見出すことができない。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 なし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16 S B 2（第6図）

〔位置〕 III G 7 g、7 h に位置する。

〔重複〕 16 S B 2、16 S B 3、16 S B 6 とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く、前後関係は不明である。

〔平面形式〕 堀立柱建物である。桁行きは657.5cm、梁間は370cmである。面積は24.3m²である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向は N-12° - E である。

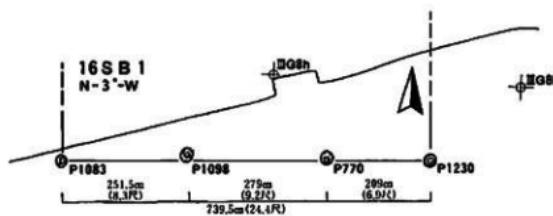
〔柱間寸法〕 種々の寸法が用いられており、基準寸法を見出すことができない。

〔出土遺物〕 なし。

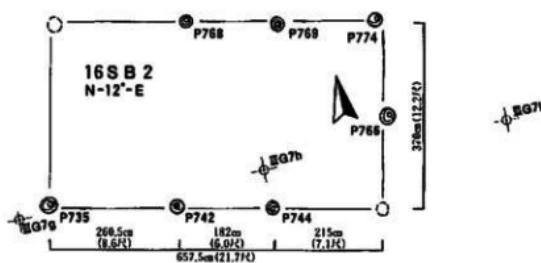
〔付属施設〕 なし。

〔建物の性格〕 不明である。

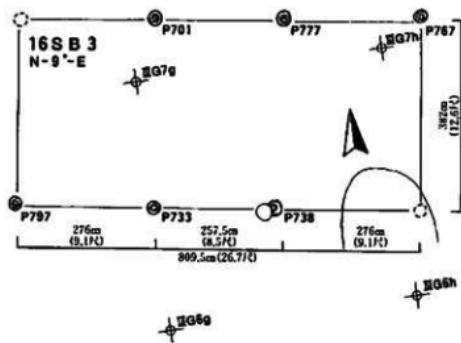
〔年代〕 不明である。



16 S B 1		
番号	まき	底面の標高 (m)
P1083	12.5	22.41
P1098	16.3	22.34
P770	9.3	22.40
P1230	19.4	22.21



16 S B 2		
番号	まき	底面の標高 (m)
P768	12.5	22.33
P769	24.1	22.29
P774	28.9	22.27
P766	49.2	22.06
P744	21.8	22.31
P742	23.6	22.29
P735	26.7	22.27



16 S B 3		
番号	まき	底面の標高 (m)
P781	27.6	22.26
P777	30.1	22.23
P767	32.5	22.25
P738	36.9	22.17
P733	38.3	22.22
P797	35.4	22.20



第5図 捕立柱建物①

16S B 3 (第7図、写真図版3)

【位置】 III G 6 f、6 g に位置する。

【重複】 16S B 3、16S B 4、16S B 6、16S B 7、16S B 8 とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。16S K40とも重複するがおそらく本建物が古い。また本建物の柱穴 P738が、建物に組めない柱穴 P739と重複するがそれよりも古い。

【平面形式】 据立柱建物である。桁行きは809.5cm、梁間は382cmである。面積は30.9m²である。使用した柱穴は5個である。

【建物方位】 梁間の軸方向は N - 9° - E である。

【柱間寸法】 種々の寸法が用いられており、基準寸法を見出すことができない。

【出土遺物】 なし。

【付属施設】 なし。

【建物の性格】 不明である。

【年代】 不明である。

16S B 4 (第6図)

【位置】 III G 5 f、5 g、6 f、6 g に位置する。

【重複】 16S B 10の柱穴 P1216と重複するが本建物が新しい。また16S E 7とP1217が重複するが本建物が古い。また16S B 3、16S B 5、16S B 6、16S B 7、16S B 8、16S B 64、16S E 11とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

【平面形式】 据立柱建物である。桁行きは894cm、梁間は446cmである。面積は39.9m²である。使用した柱穴は7個である。

【建物方位】 梁間の軸方向は N - 1° - W である。

【柱間寸法】 200cm (6.7尺) を多用するが、他にも種々の寸法が用いられており、基準寸法を見出すことができない。

【出土遺物】 なし。

【付属施設】 なし。

【建物の性格】 不明である。

【年代】 19世紀代の遺物を含む16S E 7より古い。しかし所持年代は不明である。

16S B 5 (第6図)

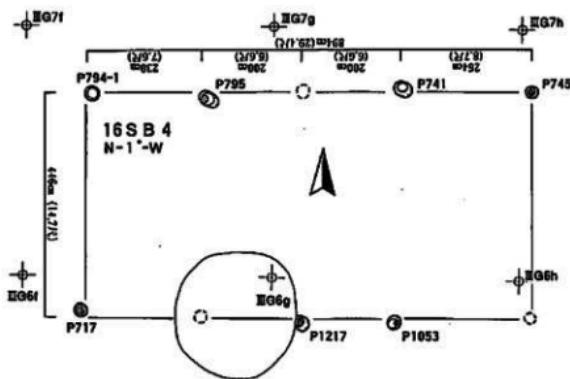
【位置】 III G 5 f、6 f に位置する。

【重複】 16S B 6の柱穴 P1089とP1211が重複するが本建物が古い。また16S E 11とP743が重複するが本建物が古い。また16S B 4、16S B 7、16S B 8、16S B 9、16S B 10、16S B 64とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

【平面形式】 据立柱建物である。桁行きは509cm、梁間は448cmである。面積は22.8m²である。使用した柱穴は5個である。

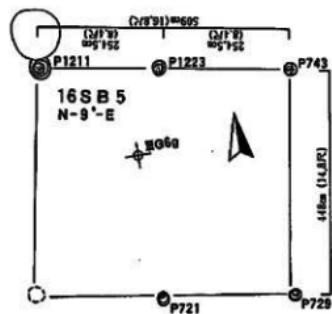
【建物方位】 梁間の軸方向は N - 9° - E である。

【柱間寸法】 桁行きでは254.5cm (8.4尺) を使用する。



16 S B 4

番号	辺 S (cm)	底面の標高 (m)
P794-1	不明	不明
P795	6.9	22.32
P741	7.8	22.46
P745	13.7	22.38
P1053	10.4	22.45
P1217	37.7	22.22
P717	18.4	22.32



16 S B 5

番号	辺 S (cm)	底面の標高 (m)
P1211	35.2	22.23
P1223	21.0	22.17
P745	33.5	22.24
P729	26.1	22.27
P721	4.4	22.55



第6図 捕立柱建物②

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕12世紀後半の建物16S B 6より古く、12世紀又は古代の建物と推測される。

16S B 6 (第7、8図、写真図版3~6)

〔位置〕III G 6 d、6 e、6 f、6 g、7 d、7 e、7 f、7 gに位置する。

〔重複〕16S B 5の柱穴P1211とP1089が重複するが本建物が新しい。また16S B 7の柱穴P1068と重複するが本建物が古い。また16S B 8の柱穴P866とP1069と重複するが本建物が古い。また16S B 1、16S B 2、16S B 3、16S B 4、16S B 62、16S B 64とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。プランの北半が調査区外に伸びるため全体形は不明であるが、桁行き4間と仮定すると、桁行きは1999cm、梁間は1152cmである。面積は221.0m²である。身舎2×3間に四面庇、東側と西側に孫庇がつく形態と推測される。

〔柱穴〕使用した柱穴は検出した分で19個である。身舎と庇の柱穴の掘方は径1m以上あり非常に大きい。それに比して孫庇の柱穴の径は30~50cmほどで小さい。身舎と庇の柱穴は柱の抜き取りがおこなわれている。底面には礎盤が残存しているものがある。また底面に圧痕の状態で柱の位置が判断できるものがある。東側の孫庇の柱穴は柱痕あり、抜き取りがおこなわれていないようである。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-7°-Eである。

〔柱間寸法〕303cm(10.0尺)を多用している。他に242cm(8.0尺)、273cm(9.0尺)が使用されている。

〔出土遺物〕P1049から中國麻白磁片(3022)が出土している。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕12世紀平泉遺跡群でも有数の大きさの建物である。建物の規模から奥州藤原氏、またはその類族が関係する格の高い建物と推定される。

〔年代〕12世紀後半の建物と推測される。

16S B 7 (第9図、写真図版3)

〔位置〕III G 5 f、5 g、6 f、6 gに位置する。

〔重複〕16S B 6の柱穴P1089とP867が重複するが本建物が新しい。また16S B 8の柱穴P719、P1061と重複するが本建物が古い。また16S B 9の柱穴P1059と重複するが本建物が新しい。また16S B 4、16S B 5、16S B 10と16S E 7、16S E 11プランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは北辺と南辺で長さが違い、北辺659cm、南辺627cmである。梁間は516cmである。面積は32.8m²である。使用した柱穴は8個である。

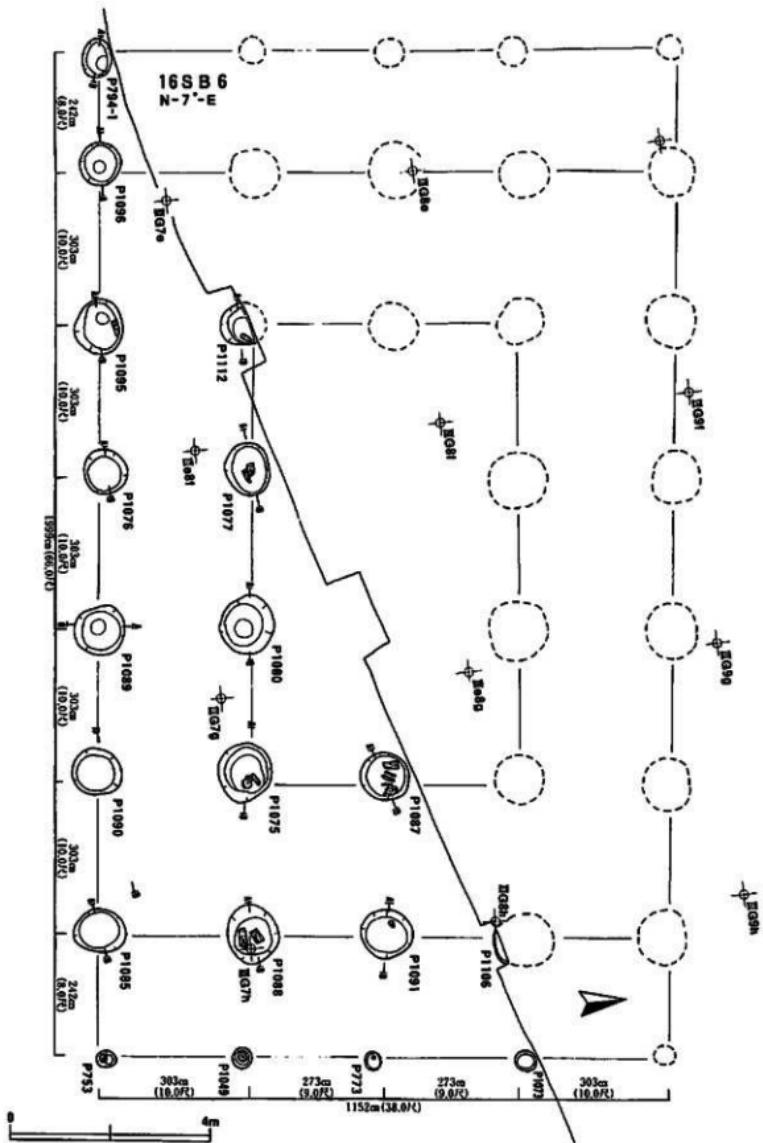
〔建物方位〕梁間の軸方向はN-3°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行きでは209cm(6.9尺)を多用する。

〔出土遺物〕なし。

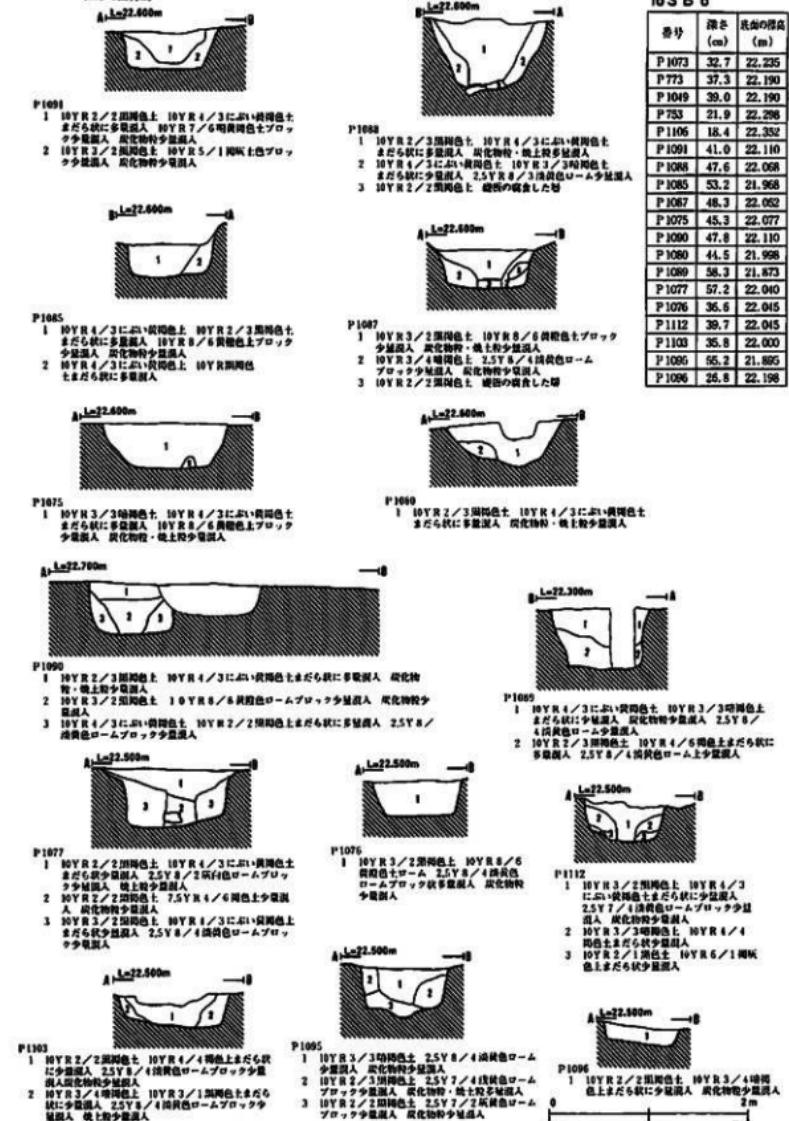
〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。



第7図 据立柱建物③

16SB6柱穴断面



第8図 埋立柱建物④

〔年代〕不明である。

16S B 8（第9図、写真図版3）

〔位置〕Ⅲ G 5 f、5 g、6 f、6 gに位置する。

〔重複〕16S B 6の柱穴P1089、P1079と重複するが本建物が新しい。また16S B 7の柱穴P1060、P1050と重複するが本建物が新しい。また16S B 9の柱穴P1059と重複するが本建物が新しい。また16S B 4、16S B 5、16S B 10、16S E 7、16S E 11とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは733cmである。梁間は491cmである。面積は36.0m²である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-5°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行きでは227cm(7.5尺)を多用する。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B 9（第9図、写真図版3）

〔位置〕Ⅲ G 5 f、5 g、6 f、6 gに位置する。

〔重複〕16S B 7の柱穴P1060、16S B 8の柱穴P719と重複するが本建物が古い。また16S B 4、16S B 5、16S B 10、16柱列1、16S E 7とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは609cmである。梁間は230cmである。面積は14.0m²である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-2°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行きでは209cm(6.9尺)を多用する。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B 10（第10図）

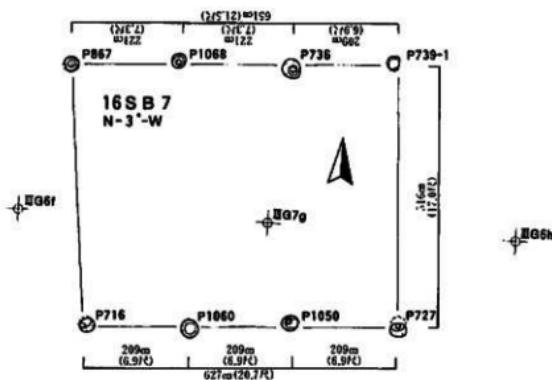
〔位置〕Ⅲ G 5 f、5 gに位置する。

〔重複〕16S B 4の柱穴P1053と重複するが本建物が古い。また16S E 7と重複するが本建物が古い。16S B 5、16S B 7、16S B 8とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

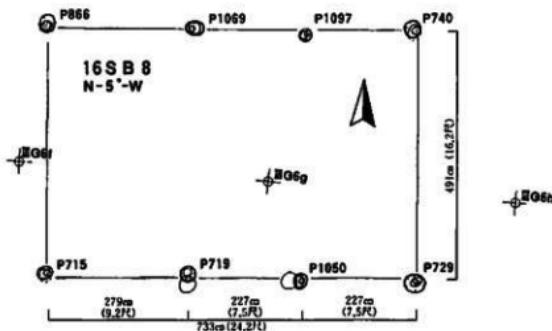
〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは406cmである。梁間は346cmである。面積は14.0m²である。使用した柱穴は6個である。

〔建物方位〕桁行きの軸方向はN-4°-Wである。

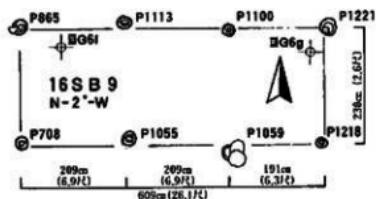
〔柱間寸法〕桁行きでは203cm(6.7尺)、梁間では173cm(5.7尺)を使用する。



番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P867	28.2	22.15
P1068	34.2	22.33
P736	17.9	22.39
P739-1	41.6	22.13
P727	48.8	22.11
P1050	不明	不明
P1060	45.3	22.18
P716	41.3	22.10



番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P866	29.1	22.21
P1069	56.6	22.01
P1097	23.6	22.39
P740	31.8	22.23
P728	38.8	22.16
P1051	4-8	不明
P719	46.9	22.12
P715	38.1	22.12



番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P865	11.0	22.32
P1113	20.9	22.21
P1100	21.7	22.36
P1221	26.4	22.18
P1218	15.3	22.21
P1059	39.2	22.19
P1055	24.0	22.25
P708	17.9	22.30



第9図 挿立柱建物⑤

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B 11（第10図）

〔位置〕Ⅲ G 6 c に位置する。

〔重複〕16S B12、16S B14とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは555cmである。梁間は調査区北側に伸びるため不明である。面積も不明である。使用した柱穴は3個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-11°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行きでは185cm(6.1尺)を使用する。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B 12（第10図）

〔位置〕Ⅲ G 6 c に位置する。

〔重複〕16S B11、16S B14とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは612cmである。梁間は調査区北側に伸びるため不明である。面積も不明である。使用した柱穴は4個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-6°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行きでは209cm(6.9尺)を多用する。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B 13（第10図、写真図版3）

〔位置〕Ⅲ G 5 b、5 c、5 d、5 e に位置する。

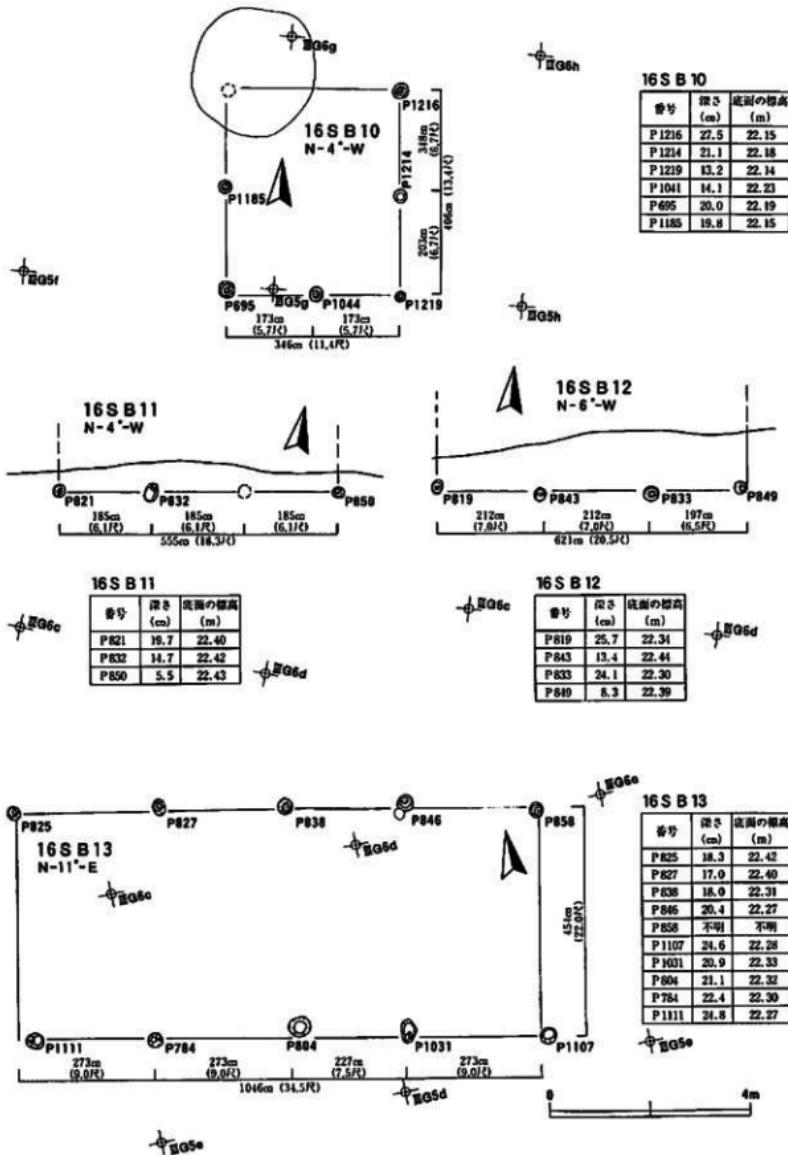
〔重複〕16S D13よりも本建物が新しい。また16S B15とは柱穴が接するが前後関係を明確に判断できない。また16S B16、16柱列5、16S E10とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは1046cmである。梁間は454cmである。面積は47.5m²である。使用した柱穴は10個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-11°-Eである。

〔柱間寸法〕桁行きでは273cm(9.0尺)と227cm(7.5尺)を使用している。

〔出土遺物〕P1031から常滑片口鉢(2001)が出土した。



第10図 据立柱建物⑥

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明であるが、常滑片口鉢の出土から12世紀後半以降の建物である。

16S B 14 (第11図)

〔位置〕Ⅲ G 6 c、6 dに位置する。

〔重複〕16S B 11、16S B 12とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは699cmである。梁間は調査区北側に伸びるため不明である。面積も不明である。使用した柱穴は4個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-3°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行きでは233cm(7.7尺)を多用する。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B 15 (第11図)

〔位置〕Ⅲ G 5 b、5 c、5 d、6 b、6 c、6 dに位置する。

〔重複〕16柱列2の柱穴P703と重複するが本建物が古い。また16S B 13とは柱穴が接するが前後関係を明確に判断できない。また16S B 16、16柱列5、16S E 10とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは962cm、梁間は344cmである。面積は33.8m²である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-11°-Eである。

〔柱間寸法〕様々な寸法を用いており、基準寸法を見出せない。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕なし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

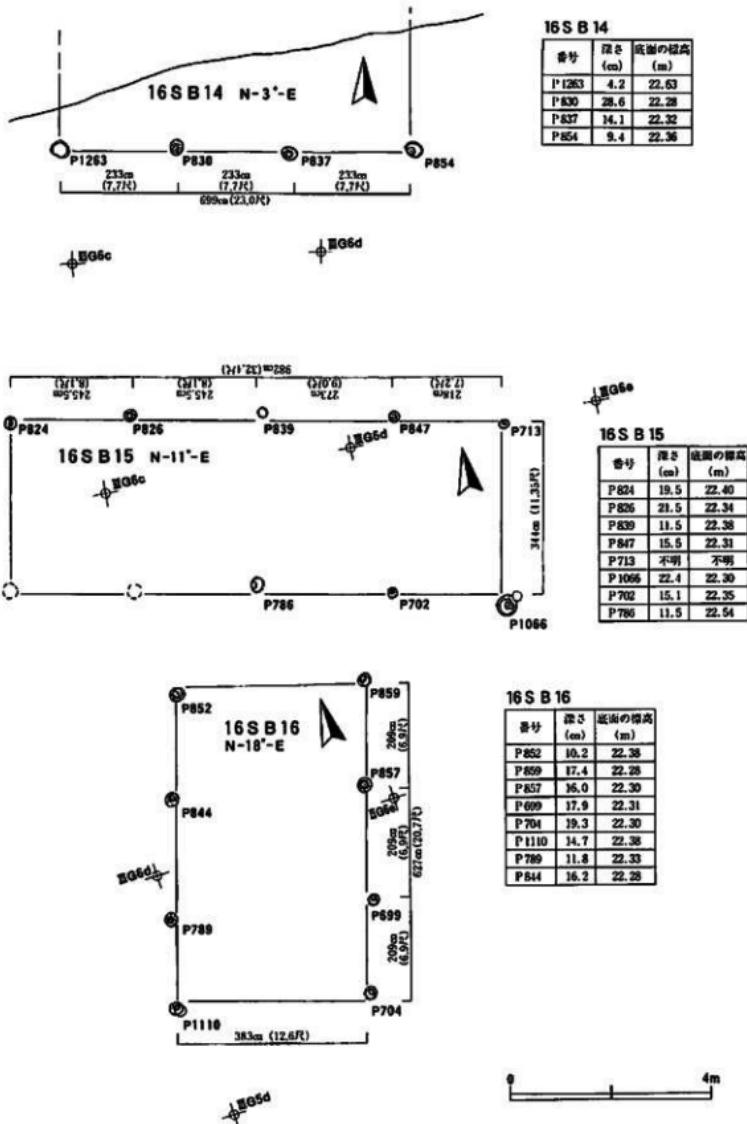
16S B 16 (第11図、写真図版3)

〔位置〕Ⅲ G 5 d、6 dに位置する。

〔重複〕16柱列2の柱穴P703と重複するが本建物が古い。また16S B 13とは柱穴が接するが前後関係を明確に判断できない。また16S B 13、16S B 14、16S B 15とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは627cm、梁間は383cmである。面積は24.0m²である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕桁行きの軸方向はN-11°-Eである。



第11図 埋立柱建物⑦

〔柱間寸法〕 桁行きでは209cm (6.9尺) を用いている。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 なし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S B 17 (第12図、写真図版3)

〔位置〕 III G 4 b、4 c に位置する。

〔重複〕 16柱列3の柱穴P1245と重複するが本建物が古い。また16S E 9、16S D 12、16S K 17と重複するが本建物が新しい。また16S B 18、16S B 19とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕 捩立柱建物である。桁行きは1059cm、梁間は529cmである。面積は56.0m²である。使用した柱穴は12個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-11° - Eである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは227cmを多用している。これを6で割った数値は37.8cmである。これを任意の1尺とすると、桁行きで他に使用されている189cmは5尺、梁間529cmは14尺となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の1尺=37.8cmを使用したと推測される。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 なし。

〔建物の性格〕 民家の主屋の可能性がある。

〔年代〕 不明あるが、重複する16S B 19と規模が類似し同じ性格の建物と考えられる。16S B 19は出土遺物から15~16世紀代の建物と考えられ、本建物はこれに近接する中世後半の建物と推測される。

16S B 18 (第12図、写真図版7)

〔位置〕 III G 3 c、3 d、4 c、4 d に位置する。

〔重複〕 16S B 17、16S B 19、16S D 12とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕 捩立柱建物である。桁行きは726cm、梁間は394cmである。面積は28.6m²である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-11° - Eである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは242cm (8.0尺) を使用している。

〔出土遺物〕 なし。

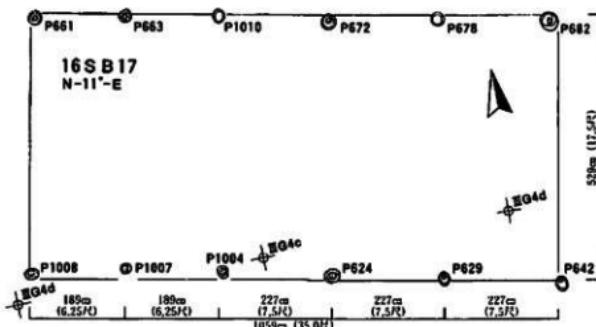
〔付属施設〕 なし。

〔建物の性格〕 不明である。

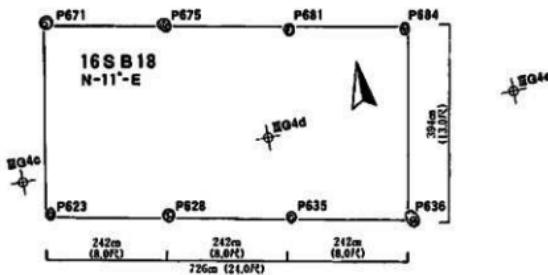
〔年代〕 不明ある。

16S B 19 (第12図、写真図版7)

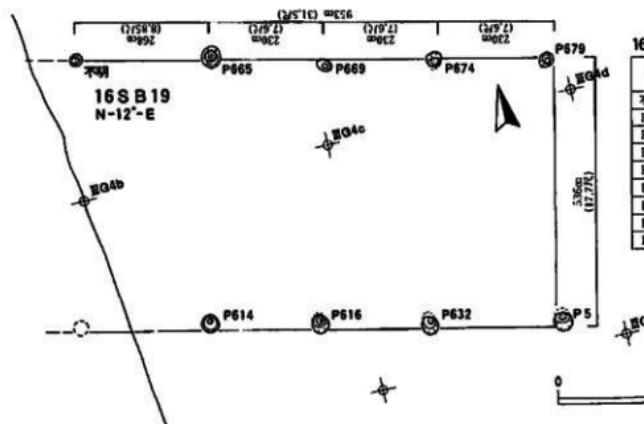
〔位置〕 III G 3 b、3 c、4 b、4 c に位置する。



番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P661	25.7	22.31
P663	12.5	22.43
P1010	5.0	22.45
P672	20.0	22.37
P678	31.0	22.26
P642	23.3	22.34
P642	22.6	22.31
P629	38.4	22.14
P624	20.0	22.32
P1004	36.5	22.17
P1007	26.4	22.25
P1008	38.0	22.14



番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P671	19.6	22.34
P675	19.3	22.34
P681	20.0	22.36
P684	15.4	22.35
P623	31.0	22.19
P628	19.7	22.34
P635	23.8	22.30
P636	19.6	22.34



番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
T-4	9.4	22.17
P665	32.1	22.22
P669	48.3	22.08
P674	37.9	22.16
P679	30.1	22.24
P 5	56.1	22.07
P632	50.1	22.10
P616	53.1	22.07
P614	34.1	22.17

0 4m

第12図 据立柱建物⑧

〔重複〕 16S D11、16S D12、16S D15と重複するが本建物が新しい。また16S B17、16S B19とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕 扱立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びると推測され、全体形は不明である。桁行きは958cm以上、梁間は536cmである。検出された分の面積は51.3m²である。使用した柱穴は9個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-12°-Eである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは230cmを多用している。これを6で割った数値は38.3cmである。これを任意の1尺とすると、桁行きで他に使用されているに268cmは7尺、梁間536cmは14尺となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の1尺=38.3cmを使用したと推測される。

〔出土遺物〕 P669から瀬戸美濃焼の陶器皿の口縁部破片(5064)が出土した。

〔付属施設〕 なし

〔建物の性格〕 民家の主屋の可能性がある。

〔年代〕 P669の出土遺物から15~16世紀代の建物と考えられる。

16S B20 (第13図)

〔位置〕 III G 2 h、2 i、3 h、3 iに位置する。本建物の東側は19次調査区に含まれる。

〔重複〕 16S D13とプランが重複するが、直接切り合う柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕 扱立柱建物である。桁行きは788cm、梁間は394cmである。面積は31.0m²である。使用した柱穴は9個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-2°-Eである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは197cm(6.5尺)を使用している。梁間の長さは13尺でその2倍である。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 なし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S B21 (第13図、写真図版7)

〔位置〕 III G 2 f、2 g、3 f、3 gに位置する。

〔重複〕 16S K20と重複するが本建物が古い。

〔平面形式〕 扱立柱建物である。桁行きは970cm、梁間は388cmである。面積は37.6m²である。使用した柱穴は13個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-2°-Wである。

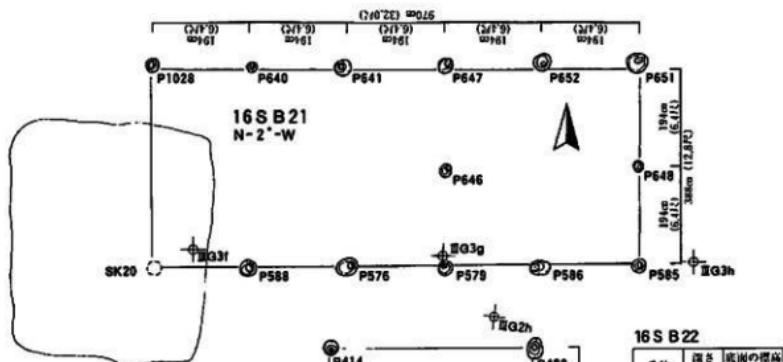
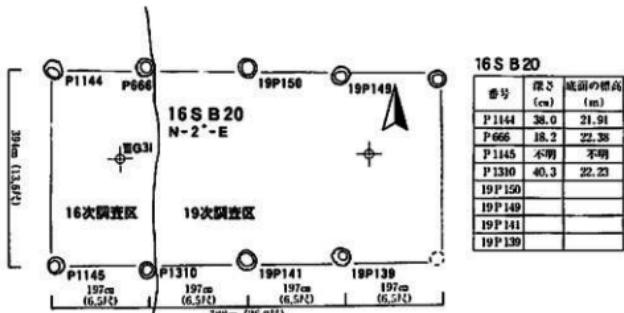
〔柱間寸法〕 基準寸法は194cm(6.4尺)である。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 なし。

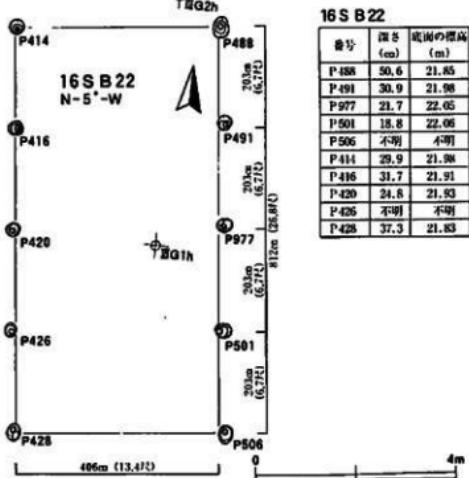
〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。



16 S B 21

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1028	19.1	22.07
P640	36.5	22.15
P641	33.8	22.04
P647	17.7	22.15
P652	14.2	22.14
P651	15.0	22.15
P648	9.6	22.15
P588	13.2	22.09
P596	11.2	22.12
P579	41.3	21.97
P576	19.6	22.17
P588	26.7	22.07
P646	15.0	22.14



第13図 据立柱建物⑨

16S B22 (第13図、写真図版7)

【位置】 III G 1 g、1 h、2 g、2 h に位置する。

【重複】 16S I 1 と重複するが本建物が古い。また16S B23、16S E 4、16S E 8 と重複するが直接重複する柱穴が無く前後関係は不明である。

【平面形式】 据立柱建物である。桁行きは812cm、梁間は406cmである。面積は33.0m²である。使用した柱穴は8個である。

【建物方位】 桁行きの軸方向はN-5°-Wである。

【柱間寸法】 基準寸法は203cm (6.7尺) である。

【出土遺物】 なし。

【付属施設】 なし。

【建物の性格】 不明である。

16S B23 (第14図、写真図版7)

【位置】 III G 0 h、0 i、1 h、1 i、2 h、2 i に位置する。

【重複】 16S I 1、16S E 4、16S E 8 と重複するが本建物が古い。また16S B22と重複するが直接重複する柱穴が無く前後関係は不明である。

【平面形式】 据立柱建物である。桁行きは930cm、梁間は400cmである。面積は37.2m²である。使用した柱穴は10個である。

【建物方位】 桁行きの軸方向はN-1°-Wである。

【柱間寸法】 200cm (6.6尺) が多用されており、基準寸法と推測される。

【出土遺物】 なし。

【付属施設】 なし。

【建物の性格】 不明である。

【年代】 不明である。

16S B24 (第14図、写真図版7)

【位置】 III G 0 e、0 f、1 e、1 f、2 e、2 f に位置する。

【重複】 16S E 6 と重複するが本建物が新しい。また16S K20と重複するが本建物が古い。また16S B25と重複するが直接重複する柱穴が無く前後関係は不明である。

【平面形式】 据立柱建物である。桁行きは1045.5cm、梁間は424cmである。面積は44.3m²である。使用した柱穴は19個である。

【建物方位】 桁行きの軸方向はN-10°-Eである。

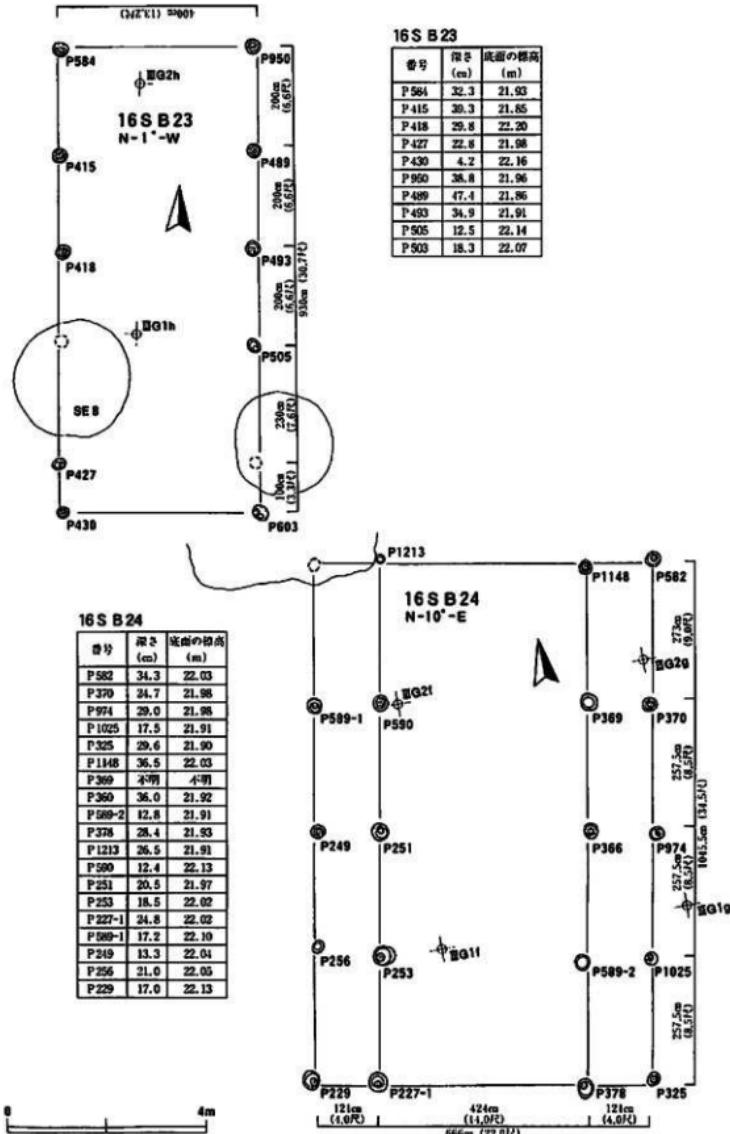
【柱間寸法】 桁行きでは257cm (8.5尺) が多用されている。

【出土遺物】 なし。

【付属施設】 なし。

【建物の性格】 不明である。

【年代】 不明である。



第14図 烟立柱建物①

16S B 25 (第15回)

〔位置〕 III G 0 e、1 e に位置する。

〔重複〕 16S D 5 と重複するが本建物が古い。また16S B25、16S B28、16S B38、16S B46と重複するが直接重複する柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕 捩立柱建物である。桁行きは717cm、梁間は398cmである。面積は28.5m²である。使用した柱穴は6個である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方向はN-3°-Eである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは239cm(7.9尺)が多用されている。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 なし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S B 26 (第15回)

〔位置〕 III G 2 b、2 c に位置する。

〔重複〕 16S I 2 と重複するが本建物が新しい。また16S B27、16S B37、16S D11と重複するが直接重複する柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕 捩立柱建物である。桁行きは824cm、梁間は452cmである。面積は37.2m²である。使用した柱穴は6個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-24°-Eである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは194cm(6.4尺)が多用されている。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 なし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S B 27 (第15回)

〔位置〕 III G 2 c、2 d に位置する。

〔重複〕 また16S B26、16S B37と重複するが直接重複する柱穴が無く前後関係は不明である。

〔平面形式〕 捩立柱建物である。桁行きは699cm、梁間は388cmである。面積は27.1m²である。使用した柱穴は5個である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方向はN-27°-Eである。

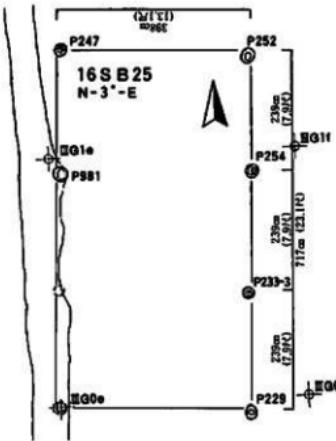
〔柱間寸法〕 桁行きでは233cm(7.7尺)が使用されている。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 なし。

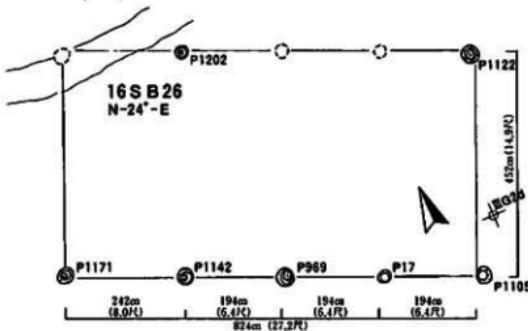
〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。



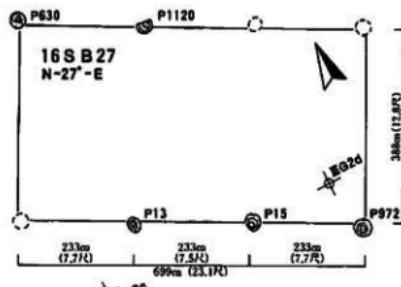
16S B 25

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P247	24.0	22.05
P252	5.0	22.14
P981	19.1	22.16
P254	13.5	22.05
P233-3	17.1	22.05
P228	13.1	22.12



16S B 26

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1202	19.2	22.19
P1122	43.0	22.17
P1171	22.3	22.15
P1142	15.9	22.26
P969	31.6	22.27
P17	25.5	22.29
P1105	23.8	22.38



16S B 27

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P630	27.7	22.33
P1120	31.1	22.30
P13	16.1	22.43
P15	24.7	22.33
P072	39.6	22.15



第15図 挖立柱建物①

16S B28 (第16図、写真図版7)

〔位置〕 III G 8 d、8 e、8 f、8 g、8 h、9 d、9 e、9 f、9 g、9 h、III G 0 d、0 e、0 f、0 g、0 hに位置する。

〔重複〕 16S B34の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16S B32の柱穴、16S D 5と重複するが本建物が古い。また16S B29、16S B30、16S B31、16S B33、16S B34、16S B35、16S B36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 据立柱建物である。桁行きは1840cm、梁間は873cmである。面積は169.4m²である。使用した柱穴は42個である。現存する近世民家の間取りに当てはめるならば、東側の部屋は「ニワ」、真ん中の前の部屋が「ナカマ」、真ん中の後が「オカミ」、西側前の部屋が「ザシキ」、西側後が「ナンド」ということになる。

〔柱穴〕 上屋柱と下屋柱で、柱穴掘方の大きさ、深さに著しい差がある。また上屋柱と下屋柱の掘方が一体化しているものがある。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-1°-Eである。

〔柱間寸法〕 一見すると、柱間寸法は様々で基準寸法は見出せない。しかし梁、桁の全長を、194cm(6.4尺)で割ると、それぞれ4.5間、9.5間で割り切れる。よって全体のプランの設定には194cm(6.4尺)を基準寸法にしたと理解できる。またザシキ部分で4寸角の柱を使用したと想定し、その柱間の内法寸法を求めるとき、ザシキ部分に6.4尺×3.2尺の間をぴったり12段半敷くことができる。よって本建物のザシキ部分には隣接を想定した内法寸法の柱間寸法が用いられていたと考えられる。

〔出土遺物〕 P290から12世紀の軒丸瓦片(4001)、P376から中国産青白磁合子(3034)と中国産染付碗(5003)、P395-1から寛永通寶(古寛永8016)、P425から中国産染付碗(5001)と中国産染付皿(5008、5009)、P494から湘美産陶器壺(2080)、P498から北宋銅鑄宋元寶(8002)が出土した。

〔付属施設〕 位置関係から16S B67が付属屋の可能性がある。

〔建物の性格〕 近世民家の主屋である。

〔年代〕 柱穴から出土した遺物と、他の重複する建物の年代観の兼ね合いから18世紀初頭～18世紀前半の建物と推測される。

16S B29 (第17図、写真図版7)

〔位置〕 III G 8 e、8 f、8 g、8 h、9 e、9 f、9 g、9 h、III G 0 e、0 f、0 g、0 hに位置する。

〔重複〕 16S B29、16S B33と重複するが本建物が新しい。また16S B32の柱穴と重複するが本建物が古い。また16S B30、16S B31、16S B34、16S B35、16S B36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

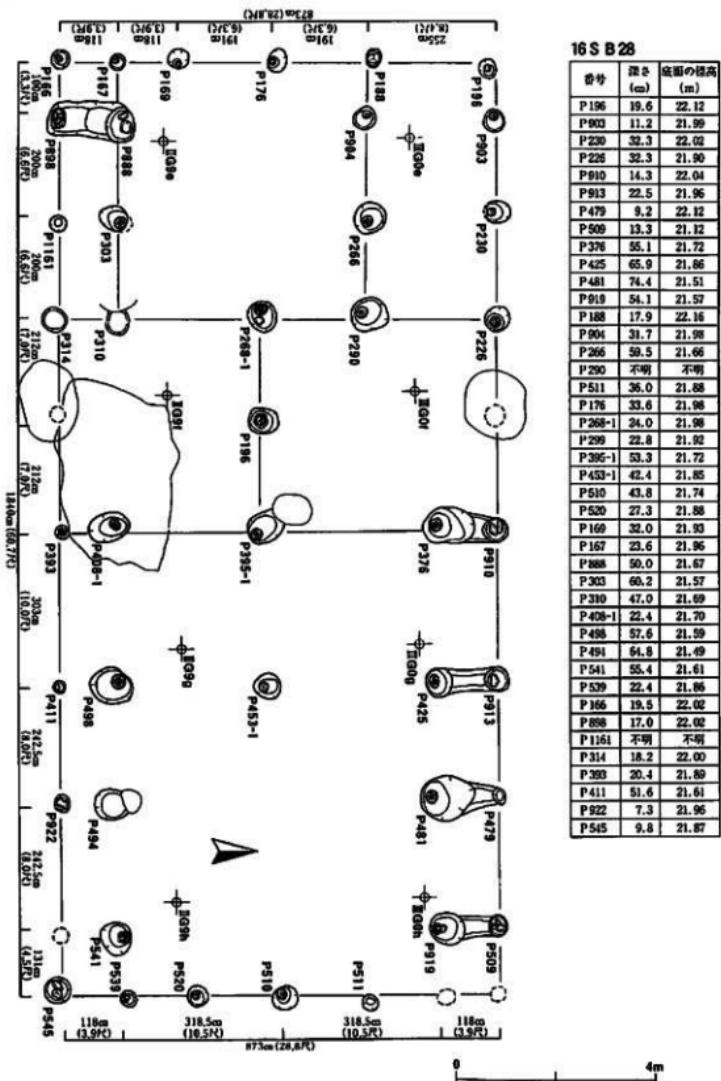
〔平面形式〕 据立柱建物である。桁行きは1674.5cm、梁間は887cmである。面積は148.5m²である。使用した柱穴は37個である。現存する近世民家の間取りに当てはめるならば、東側の部屋は「ニワ」、真ん中の前の部屋が「ナカマ」、真ん中の後が「オカミ」、西側前の部屋が「ザシキ」、西側後が「ナンド」ということになる。

〔柱穴〕 上屋柱と下屋柱で、柱穴掘方の大きさ、深さに著しい差がある。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-2°-Wである。

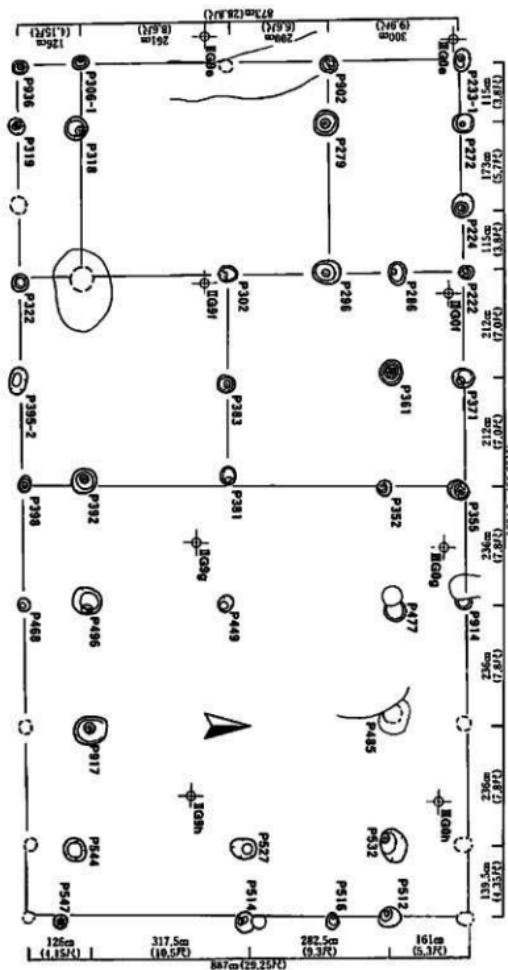
〔柱間寸法〕 一見すると、柱間寸法は様々で基準寸法は見出せない。しかし梁、桁の全長を、197cm(6.5尺)で割ると、それぞれ4.5間、8.5間で割り切れる。よって全体のプランの設定には197cm(6.5尺)を基準寸法

16S B 28
N-1'-E



第16図 挖立柱建物②

16S B29
N-2'-W



16S B29

番号	距 S (m)	底面の標高 (m)
P233-1	32.4	21.94
P272	35.5	21.97
P224	29.0	21.99
P222	31.2	21.95
P371	46.8	21.81
P355	21.2	21.96
P914	17.0	22.02
P286	22.4	21.99
P361	16.5	22.10
P332	48.8	21.81
P477	64.9	21.62
P485	57.2	21.64
P532	54.0	21.74
P512	30.6	21.89
P902	7.5	21.99
P279	54.1	21.74
P296	54.2	21.66
P516	10.5	22.05
P302	11.6	22.05
P363	14.4	21.91
P381	15.1	22.04
P449	10.3	22.03
P527	42.5	21.73
P514	30.3	21.86
P306-1	24.0	21.93
P318	42.6	21.76
P362	32.0	21.78
P456	45.0	21.68
P917	32.0	21.68
P544	29.5	21.71
P547	20.4	21.75
P936	17.0	21.99
P319	18.4	22.02
P322	21.3	21.86
P365-2	14.7	21.87
P389	4.6	21.87
P468	10.4	21.98

第17図 据立柱建物①

にしたと理解できる。またザシキ部分で4寸角の柱を使用したと想定し、その柱間の内法寸法を求めるに、ザシキ部分に6.4尺×3.2尺の枠をぴったり10枚敷くことができる。よって本建物のザシキ部分には骨剤を想定した内法寸法の柱間寸法が用いられていたと考えられる。

〔出土遺物〕 P361から寛永通寶（背文8019）、P512から肥前産染付皿（5029）が出土した。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 近世民家の主屋である。

〔年代〕 柱穴から出土した遺物と、他の重複する建物の年代観の兼ね合いから18世紀中葉～18世紀後半の建物と推測される。

16S B30（第18図、写真図版8）

〔位置〕 II G 8 d、8 e、8 f、8 g、9 d、9 e、9 f、9 gに位置する。

〔重複〕 16S D 6と重複するが本建物が新しい。また16S E 5と重複するが本建物が古い。また16S B 28、16S B 29、16S B 31、16S B 32、16S B 33、16S B 34、16S B 35、16S B 36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 捩立柱建物である。桁行きは1521.5cm、梁間は609cmである。面積は92.7m²である。使用した柱穴は21個である。上屋柱と下屋柱からなる構造である。

〔柱穴〕 上屋柱と下屋柱で、柱穴掘方の大きさ、深さに著しい差がある。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-0°である。

〔柱間寸法〕 桁行きでは203cmを多用している。これを6で割った数値は33.8cmである。これを任意の1尺とすると、桁行きで他に使用されているに236.5cmは7尺、梁間の身合609cmは18尺=3間となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の1尺=33.8cmを使用したと推測される。

〔出土遺物〕 P530から瀬戸・美濃産灰釉皿（5066）、P926から砥石（7012）が出土した。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 近世民家の主屋である。

〔年代〕 柱穴から出土した遺物と、他の重複する建物の年代観の兼ね合いから16世紀末～17世紀初頭の建物と推測される。

16S B31（第19図、写真図版8）

〔位置〕 II G 8 e、8 f、8 g、8 h、9 e、9 f、9 g、9 hに位置する。

〔重複〕 16S D 6と重複するが本建物が新しい。また16S B 29、16S E 5と重複するが本建物が古い。また16S B 28、16S B 30、16S B 32、16S B 33、16S B 34、16S B 35、16S B 36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

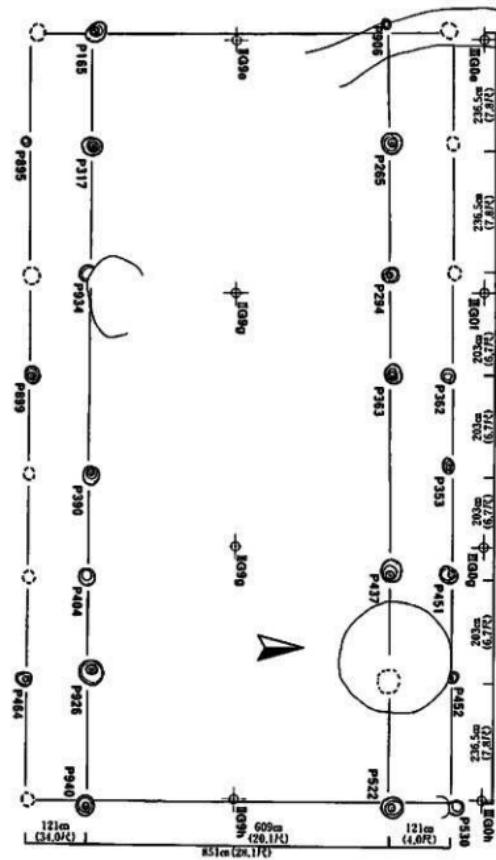
〔平面形式〕 捩立柱建物である。桁行きは1543cm、梁間は591cmである。面積は91.2m²である。使用した柱穴は18個である。上屋柱と下屋柱からなる構造である。

〔柱穴〕 上屋柱と下屋柱で、柱穴掘方の大きさ、深さに著しい差がある。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-3°-Wである。

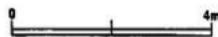
〔柱間寸法〕 桁行きでは197cmを多用している。これを6で割った数値は32.8cmである。これを任意の1尺とすると、桁行きで他に使用されているに230cmは7尺、262.5cmは8尺、梁間の身合591cmは18尺=3間とな

16 S B 28
N-1'-E



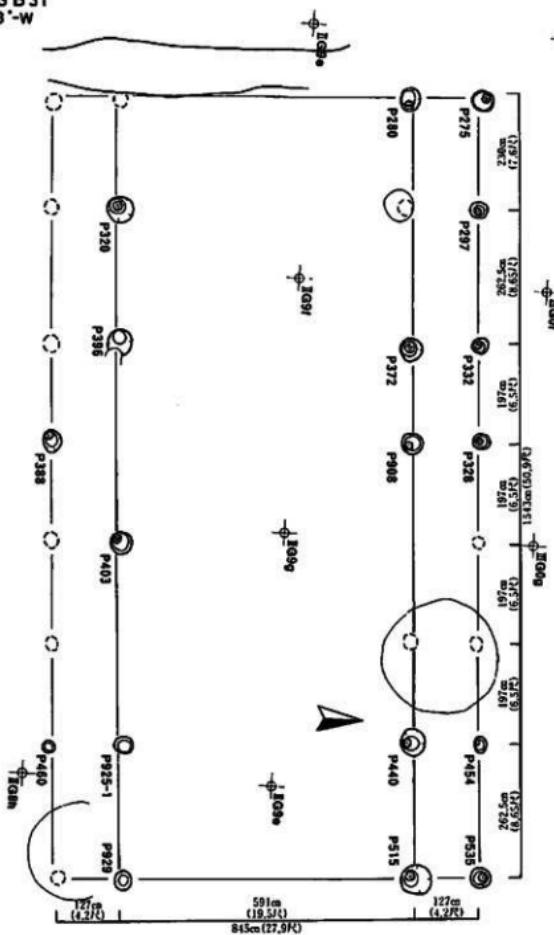
16 S B 30

番号	高さ (cm)	底面の幅高 (m)
P361	10.9	22.20
P353	23.1	22.04
P451	17.6	22.08
P452	19.5	22.00
P538	20.2	22.04
P522	31.0	21.93
P940	19.2	21.86
P928	26.5	21.80
P404	14.5	21.91
P280	5.6	21.92
P354	4.0	4.0
P317	33.9	21.86
P165	19.8	22.03
P906	4.0	4.0
P265	34.6	21.91
P294	28.5	21.92
P363	30.8	21.95
P437	43.2	21.83
P454	9.0	21.89
P899	12.3	21.85
P806	8.7	22.08



第18図 標立柱建物④

16S B31
N-3'-W



16S B31

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P215	25.5	22.00
P297	不明	不明
P332	25.5	22.01
P326	24.1	22.03
P454	不明	不明
P535	30.8	21.94
P515	46.0	21.75
P929	25.7	21.69
P469	3.4	21.85
P386	20.8	21.67
P280	26.1	21.98
P372	37.9	21.80
P908	29.3	21.97
P440	40.0	21.81
P925-1	22.0	21.73
P403	36.0	21.71
P396	30.9	21.72
P320	32.9	21.80

第19図 据立柱建物⑤

る。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の1尺=32.8cmを使用したと推測される。

【出土遺物】P332から美濃産志野皿(5073)、P372から水楽通寶(8013)、P454から肥前産陶器皿(5081)が出土した。

【付属施設】特になし。

【建物の性格】近世民家の主屋である。

【年代】柱穴から出土した遺物と、他の重複する建物の年代観の兼ね合いから17世紀前半～17世紀中葉の建物と推測される。

16S B32 (第20図、写真図版8)

【位置】II G 8 e、8 f、8 g、8 h、9 e、9 f、9 g、9 h、III G 0 e、0 f、0 g、0 hに位置する。

【重複】16S B28、16S B29の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16S E 5と重複するが本建物が古い。また16S B30、16S B31、16S B33、16S B34、16S B35、16S B36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い間係からの前後関係は不明である。

【平面形式】据立柱建物である。桁行きは1719cm、梁間は764cmである。面積は131.3m²である。使用した柱穴は29個である。現存する近世民家の間取りに当てはめるならば、東側の部屋は「ニワ」、真ん中の前の部屋が「ナカマ」、真ん中の後が「オカミ」、西側前の部屋が「ザシキ」、西側後が「ナンド」ということになる。

【柱穴】上層柱と下層柱で、柱穴掘方の大きさ、深さに著しい差がある。

【建物方位】梁間の軸方向はN-1°-Eである。

【柱間寸法】一見すると、柱間寸法は様々で基準寸法は見出せない。しかし梁、桁の全長を、191cm(6.3尺)で割ると、それぞれ4間、9間で割り切れる。よって余分のプランの設定には191cm(6.3尺)を基準寸法にしたと理解できる。またザシキ部分で4寸角の柱を使用したと想定し、その柱間の内法寸法を求めるとき、ザシキ部分に6.3尺×3.15尺の脛をびったり15脛敷くことができる。よって本建物のザシキ部分には長削を想定した内法寸法の柱間寸法が用いられていたと考えられる。

【出土遺物】P391から寛永通寶(8020)、P400から肥前産陶器皿(5100)と中国産白磁壺(3016)が出土した。

【付属施設】特になし。

【建物の性格】近世民家の主屋である。

【年代】柱穴から出土した遺物と、他の重複する建物の年代観の兼ね合いから18世紀末～19世紀初頭の建物と推測される。

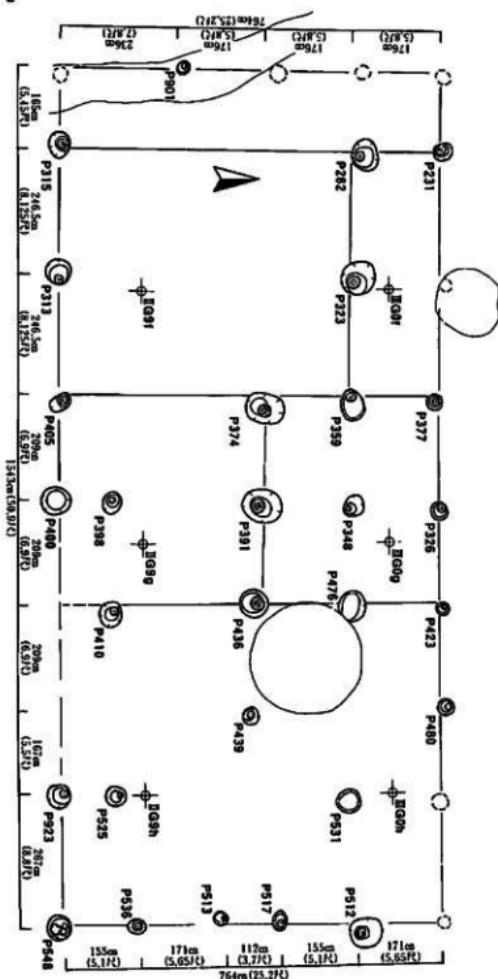
16S B33 (第21図、写真図版8)

【位置】II G 8 e、8 f、8 g、8 h、9 e、9 f、9 g、9 hに位置する。

【重複】16S B28、16S B29、16S K 5と重複するが本建物が古い。また16S B30、16S B31、16S B32、16S B33、16S B34、16S B35、16S B36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い間係からの前後関係は不明である。

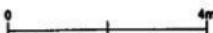
【平面形式】据立柱建物である。桁行きは1649cm、梁間は582cmである。面積は96.0m²である。使用した柱穴は22個である。下屋柱が検出されていないが、本來は存在していたが失われたと推測される。本來は上屋柱と下屋柱からなる構造と考えられる。

16S B32
N-1'-E



16S B32

番号	根号 (cm)	底面の標高 (m)
P231	22.7	22.12
P377	26.4	21.95
P326	26.7	21.95
P423	18.2	22.03
P480	31.2	21.89
P512	29.8	21.89
P517	44.9	21.76
P513	36.0	21.79
P536	14.9	21.80
P548	不明	不明
P923	31.3	21.77
P526	27.2	21.87
P410	17.6	22.01
P398	13.8	22.05
P400	16.5	21.99
P405	20.0	21.72
P313	42.1	21.74
P315	28.5	21.88
P901	20.0	21.95
P262	39.7	21.89
P323	43.9	21.77
P356	33.5	21.95
P348	19.4	22.06
P476	不明	不明
P531	36.9	21.86
P439	31.5	21.91
P436	43.0	21.84
P391	44.3	21.84
P374	43.8	21.83



第20図 捶立柱建物⑥

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-5°-Eである。

〔柱間寸法〕 衍行きでは194cmを多用している。これを6で割った数値は32.3cmである。これを任意の1尺とすると、衍行きで他に使用されているに258.5cmは8尺、291cmは9尺、129.5cmは4尺、梁間の身合582cmは18尺=3間となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の1尺=32.3cmを使用したと推測される。

〔出土遺物〕 P304から永楽通寶(8012)、P528から永楽通寶(8014)、P935から寛永通寶(古寛永8017)、P953から中国産朱付鏡(5003)と英濃産鉄絵志野皿(5068)が出土した。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 近世民家の主屋である。

〔年代〕 柱穴から出土した遺物と、他の重複する建物の年代観の兼ね合いから17世紀後半の建物と推測される。

16S B34 (第22図、写真図版8)

〔位置〕 II G 8 e、8 f、8 g、9 e、9 f、9 gに位置する。

〔重複〕 16S B28、16S B29、16S B32、16S E 5と重複するが本建物が古い。また16S B30、16S B31、16S B32、16S B33、16S B35、16S B36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 独立柱建物である。衍行きは1167cm、梁間は480cmである。面積は56.0m²である。使用した柱穴は9個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-3°-Eである。

〔柱間寸法〕 衍行きでは206cmを多用している。これを6で割った数値は34.3cmである。これを任意の1尺とすると、衍行きで他に使用されているに171.5cmは5尺、梁間の480cmは14尺となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の1尺=34.3cmを使用したと推測される。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 不明であるが、中世後半(16世紀頃)の民家の主屋の可能性が考えられる。

〔年代〕 不明であるが、16S B30に先行する中世後半(16世紀頃)の可能性が考えられる。

16S B35 (第22図、写真図版8)

〔位置〕 II G 8 e、8 f、8 g、8 h、9 e、9 f、9 g、9 hに位置する。

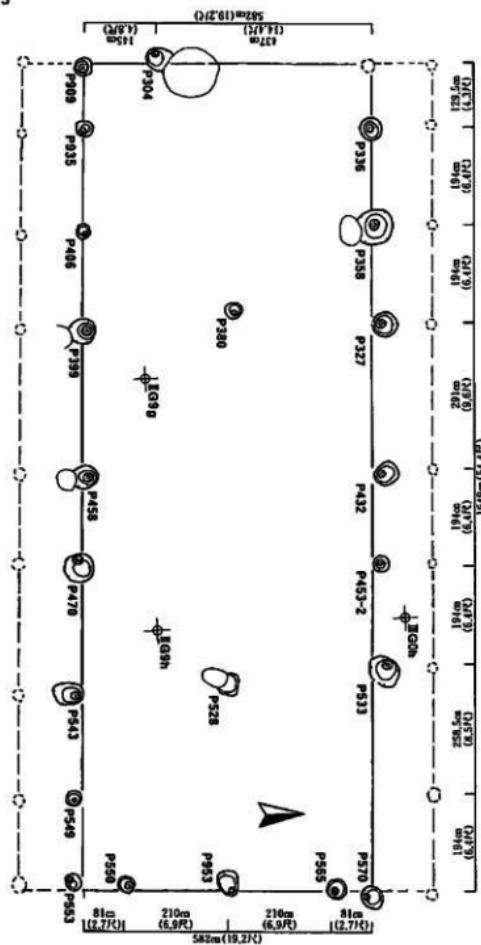
〔重複〕 16S B32、16S B33、16S B32と重複するが本建物が古い。また16S B28、16S B29、16S B30、16S B31、16S B34、16S B36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 独立柱建物である。衍行きは1270cm、梁間は480cmである。面積は61.0m²である。使用した柱穴は10個である。

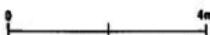
〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-1°-Wである。

〔柱間寸法〕 衍行きでは206cmを多用している。これを6で割った数値は34.3cmである。これを任意の1尺とすると、衍行きで他に使用されているに189cmは5尺5寸、257cmは7尺5寸、梁間の480cmは14尺となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の1尺=34.3cmを使用したと推測される。

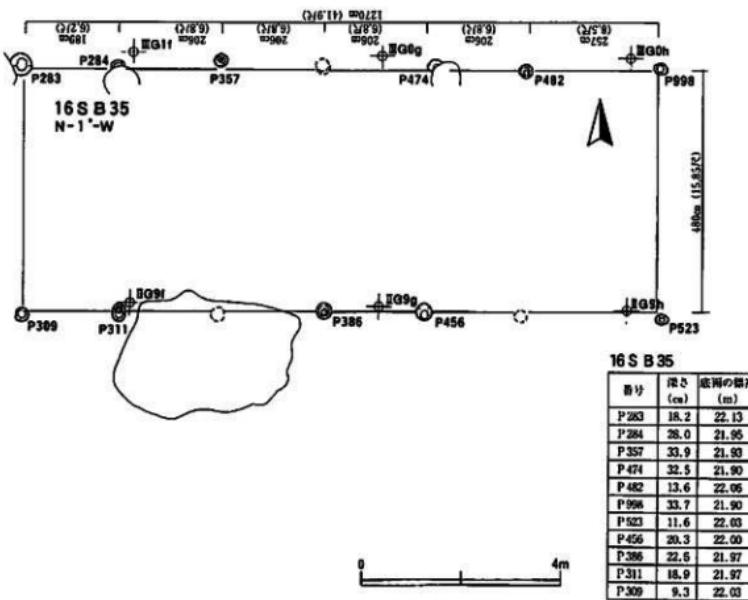
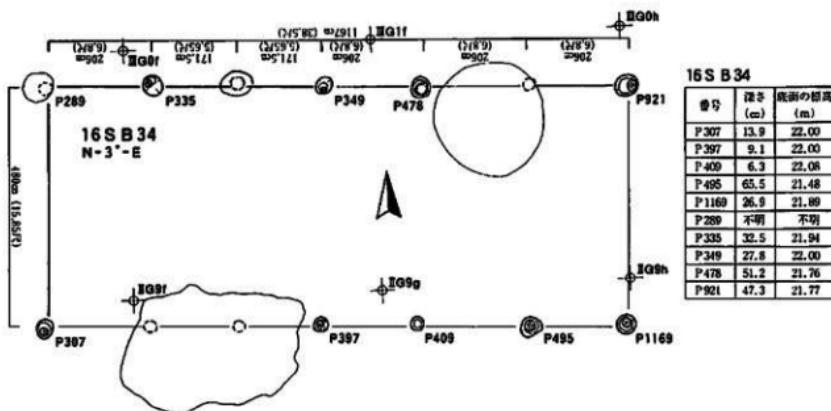
16S B33
N-5'-E



16S B33



第21図 捨立柱建物⑦



第22図 振立柱建物⑩

〔出土遺物〕 P 284から同安窯青磁碗（3032）、P 474から涅美窯山茶碗（2040）、肥前窯？磁器皿（5045）が出土した。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 不明であるが、中世後半（16世紀頃）の民家の主屋の可能性が考えられる。

〔年代〕 16S B34と同様に16S B30に先行する中世後半（16世紀頃）の可能性が考えられる。しかし、この年代であるとP 474出土の肥前磁器（5045）の年代観17世紀前半と合わない。よって年代については不明とせざるを得ない。磁器の年代の再検討が必要である。

16S B36（第23図、写真図版8）

〔位置〕 II G 7 e、7 f、7 g、8 e、8 f、8 g、9 e、9 f、9 gに位置する。

〔重複〕 16S B29と重複するが本建物が古い。また16S D 6と重複するが本建物が新しい。また16S B28、16S B29、16S B30、16S B31、16S B32、16S B33、16S B34、16S B36とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 挿立柱建物である。桁行きは1152cm、梁間は576cmである。面積は66.3m²である。使用した柱穴は10個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-5°-Wである。

〔柱間寸法〕 288cm（9.5尺）を基準寸法に用いている。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S B37（第23図）

〔位置〕 III G 1 b、1 c、1 d、1 e、2 b、2 c、2 d、2 eに位置する。

〔重複〕 16S B41の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16S B26、16S B27、16S B38、16S B39、16S B40、16S B42とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 挿立柱建物である。桁行きは1288cm、梁間は849cmである。面積は109.3m²である。使用した柱穴は16個である。身舎と底からなる建物である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-11°-Eである。

〔柱間寸法〕 288cm（9.5尺）を多用している。

〔出土遺物〕 なし。

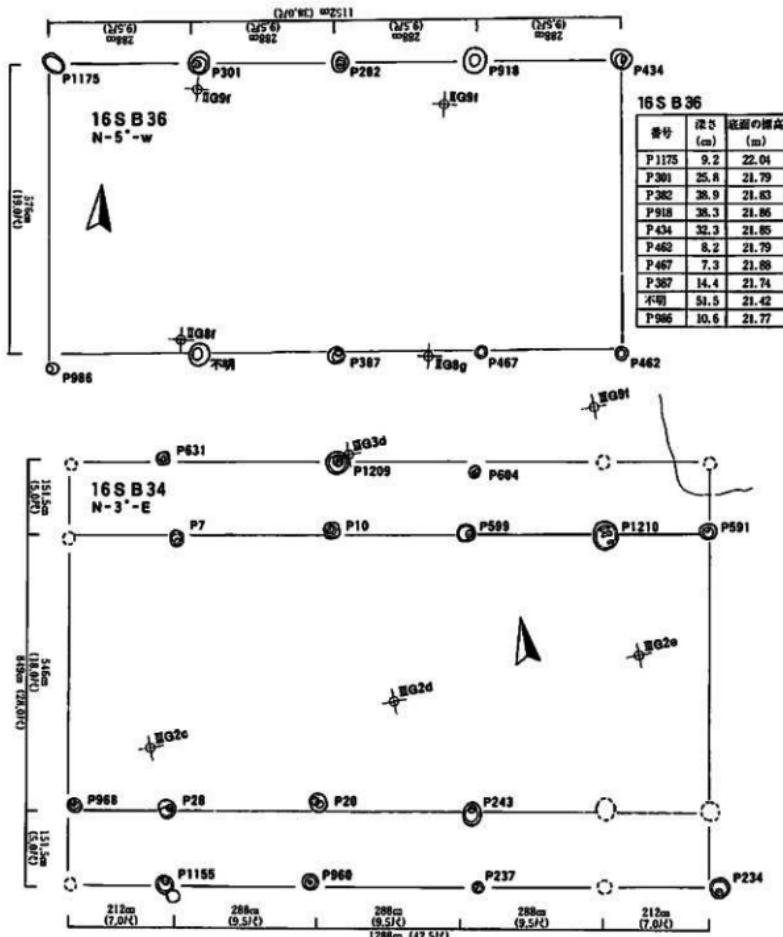
〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。近世には下らない建物と推測される。

16S B38（第24図、写真図版8）

〔位置〕 III G 0 b、0 c、0 d、0 e、1 b、1 c、1 d、1 eに位置する。



第23図 樹立柱建物⑨

〔重複〕 16S B41、16S B42、16S B47、16S D 5、16S D 8と重複するが本建物が古い。また16S B37、16S B39、16S B40、16S B43、16S B44、16S B45、16S B46、16S B47とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 据立柱建物である。桁行きは1212.5cm、梁間は696cmである。面積は84.4m²である。使用した柱穴は26個である。身舎と庇からなる建物である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-13°-Eである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは242.5cm(8.0尺)を使用している。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。

〔遺物の性格〕 不明である。

〔年代〕 建物の形態から12世紀に属する可能性が高いと思われる。

16S B39 (第24図、写真図版9)

〔位置〕 III G 0 b、0 c、1 b、1 cに位置する。

〔重複〕 16S B56と重複するが本建物が新しい。また16S B37、16S B38、16S B40、16S B41、16S B42、16S B43、16S B44、16S B45、16S B46、16S B47、16S B48、16S B49、16S B50、16S B51、16S B52、16S B53、16S B54、16S B55、16S B57、16S B58とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 据立柱建物である。桁行きは848cm、梁間は485cmである。面積は41.1m²である。使用した柱穴は8個である。南西側は調査区境の搅乱のため失われている。

〔建物方位〕 桁行きの軸方向はN-7°-Eである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは212cm(7.0尺)を使用している。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S B40 (第25図)

〔位置〕 III G 0 c、0 d、1 c、1 dに位置する。

〔重複〕 16S B38の柱穴と接するが前後関係は確定できない。また16S B37、16S B39、16S B41、16S B42、16S B43、16S B44、16S B45、16S B46とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

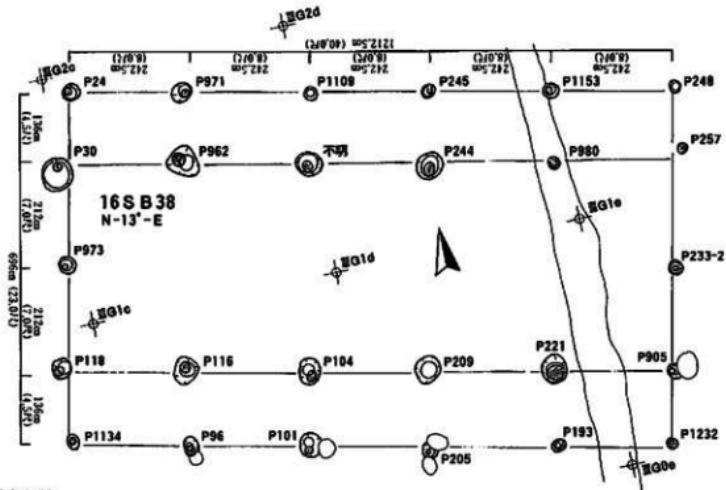
〔平面形式〕 据立柱建物である。桁行きは564cm、梁間は540cmである。面積は30.5m²である。使用した柱穴は8個である。2間×2間の純柱建物である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-2°-Wである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは282cm(9.3尺)、梁間では270cm(8.9尺)を使用している。

〔出土遺物〕 P 114から常滑産陶器壺(2025)が出土している。

〔付属施設〕 特になし。



16S B 38

番号	延長 (cm)	底面の標高 (m)
P24	47.1	22.12
P971	32.1	22.22
P1108	44.1	22.08
P245	10.3	22.26
P1153	21.0	22.07
P248	14.2	22.09
P30	41.4	22.18
P962	44.0	22.12
不明	43.5	22.10
P244	27.1	22.08
P980	43.5	22.10
P257	7.9	22.19
P973	23.2	22.29
P118	30.2	22.20
P116	25.9	22.23
P104	33.9	22.15
P209	39.6	22.08
P221	23.5	22.12
P905	25.1	22.02
P233-2	21.0	22.08
P1134	36.0	22.21
P96	28.9	22.26
P101	36.9	22.13
P205	26.2	22.13
P193	9.6	22.24
P1232	9.1	21.99

16S B 39

番号	延長 (cm)	底面の標高 (m)
P27		
P19	212cm (7.0ft)	
P966		
P1154		
EG1e		
P959	212cm (7.0ft)	
P107	212cm (7.0ft)	
P99	212cm (7.0ft)	
P49	212cm (7.0ft)	



第24図 据立柱建物②

〔建物の性格〕高床の倉庫の可能性もあるが不明である。

〔年代〕不明である。近世に下る可能性は非常に低い。

16S B41 (第25図)

〔位置〕Ⅲ G 0 b、0 c、0 d、1 b、1 c、1 dに位置する。

〔重複〕16S B37、38と重複するが本建物が古い。また16S B40、16S B41、16S B42、16S B43、16S B44、16S B45、16S B46とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは739cm、梁間は409cmである。面積は30.2m²である。使用した柱穴は7個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-6°-Wである。

〔柱間寸法〕様々な寸法を用いており、基準寸法を見出せない。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B42 (第25図、写真図版9)

〔位置〕Ⅲ G 0 b、0 c、0 d、1 b、1 c、1 dに位置する。

〔重複〕16S B43、16S B52の柱穴と重複するが本建物が古い。また16S B37、16S B38、16S B39、16S B40、16S B41、16S B43、16S B44、16S B45、16S B46、16S B47、16S B48、16S B49、16S B50、16S B57とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びている。桁行きは検出された分で597cm、梁間は540cmである。検出された分の面積は32.2m²である。使用した柱穴は9個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-6°-Eである。

〔柱間寸法〕様々な寸法を用いており、基準寸法を見出せない。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

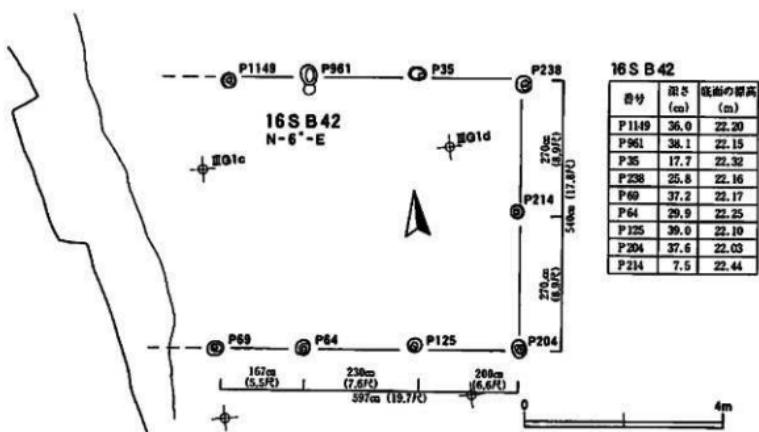
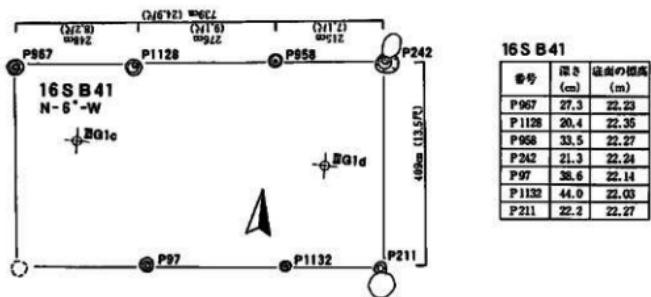
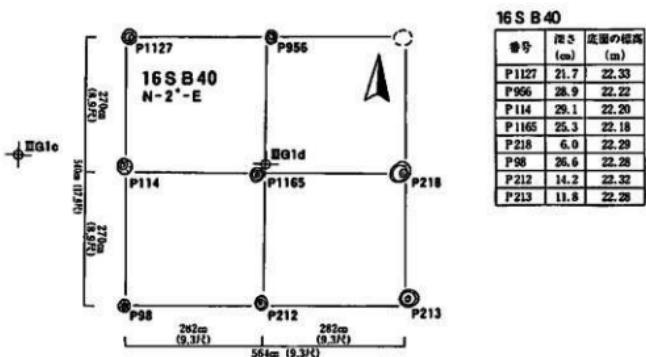
〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B43 (第26図、写真図版9)

〔位置〕Ⅲ G 0 b、0 c、0 d、1 b、1 c、1 dに位置する。

〔重複〕16S B42の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16S B50の柱穴と重複するが本建物が古い。また16S B38、16S B39、16S B40、16S B41、16S B44、16S B45、16S B46、16S B47、16S B48、16S B49、16S B57とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。



第25図 墓立柱建物②

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは982cm、梁間は509cmである。面積は50.0m²である。使用した柱穴は10個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-13°-Eである。

〔柱間寸法〕桁行きでは245.5cm(8.1尺)を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B44 (第26図)

〔位置〕Ⅲ G 0 b、0 c、0 d、1 b、1 c、1 dに位置する。

〔重複〕16S B46の柱穴と重複するが本建物が古い。また16S B39、16S B40、16S B41、16S B42、16S B43、16S B45、16S B47、16S B48、16S B49、16S B50、16S B51、16S B52、16S B53、16S B57とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びている。桁行きは検出された分で668cm、梁間は540.5cmである。検出された分の面積は36.1m²である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-14°-Eである。

〔柱間寸法〕桁行きでは159cm(5.25尺)を多用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B45 (第26図)

〔位置〕Ⅲ G 0 b、0 c、1 b、1 cに位置する。

〔重複〕16S B46の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16S B55の柱穴と重複するが本建物が古い。また16S B39、16S B40、16S B41、16S B42、16S B43、16S B44、16S B47、16S B48、16S B49、16S B50、16S B51、16S B52、16S B53、16S B55、16S B56、16S B57とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びている。桁行きは検出された分で515cm、梁間は515cmである。検出された分の面積は26.5m²である。使用した柱穴は5個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-10°-Eである。

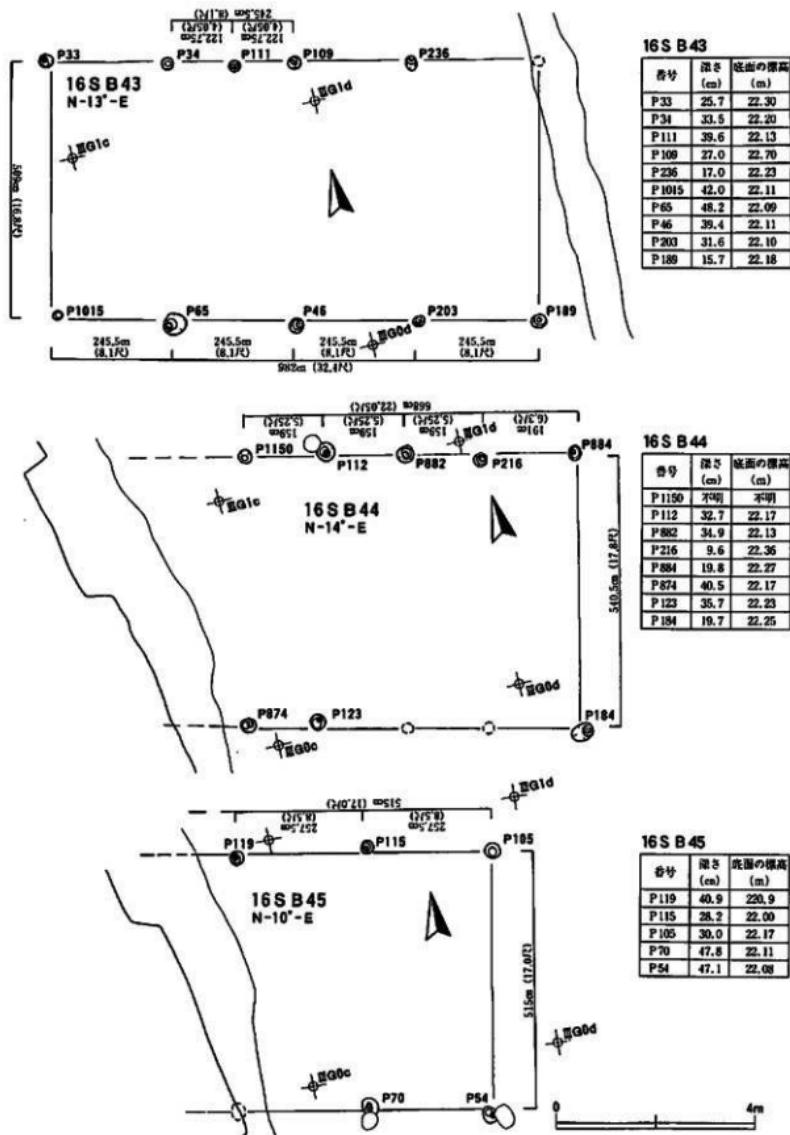
〔柱間寸法〕257.5cm(8.5尺)を標準寸法にしている。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。



第26図 摂立柱建物②

16S B 46 (第27図、写真同版9)

【位置】 II G 9 c、9 d、9 e、III G 0 c、0 d、0 e、1 c、1 b、1 d に位置する。

【重複】 16S B45、16S B58の柱穴、16S D 5と重複するが本建物が古い。また16S B39、16S B40、16S B41、16S B42、16S B43、16S B44、16S B47、16S B48、16S B49、16S B50、16S B51、16S B 52、16S B53、16S B56、16S B57とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

【平面形式】 捩立柱建物である。桁行きは863cm、梁間は666cmである。検出された分の面積は57.5m²である。使用した柱穴は23個である。2間×3間の身舎に四面庇が付く形態である。

【建物方位】 梁間の軸方向はN-5°-Eである。

【柱間寸法】 身舎では197cm(6.5尺)、庇は136cm(4.5尺)を基準寸法している。

【出土遺物】 なし。

【付属施設】 特になし。

【建物の性格】 不明である。

【年代】 12世紀の可能性が高い。

16S B 47 (第27図、写真同版9)

【位置】 II G 9 c、9 d、III G 0 c、0 d に位置する。

【重複】 16S B38の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16S B50の柱穴と重複するが本建物が古い。また16S B39、16S B42、16S B43、16S B44、16S B45、16S B46、16S B48、16S B49、16S B50、16S B51、16S B52、16S B53、16S B54、16S B55、16S B56、16S B58とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

【平面形式】 捩立柱建物である。桁行きは775cm、梁間は456cmである。面積は35.3m²である。使用した柱穴は8個である。

【建物方位】 梁間の軸方向はN-11°-Eである。

【柱間寸法】 様々な寸法を用いており、基準寸法を見出せない。

【出土遺物】 なし。

【付属施設】 特になし。

【建物の性格】 不明である。

【年代】 不明である。

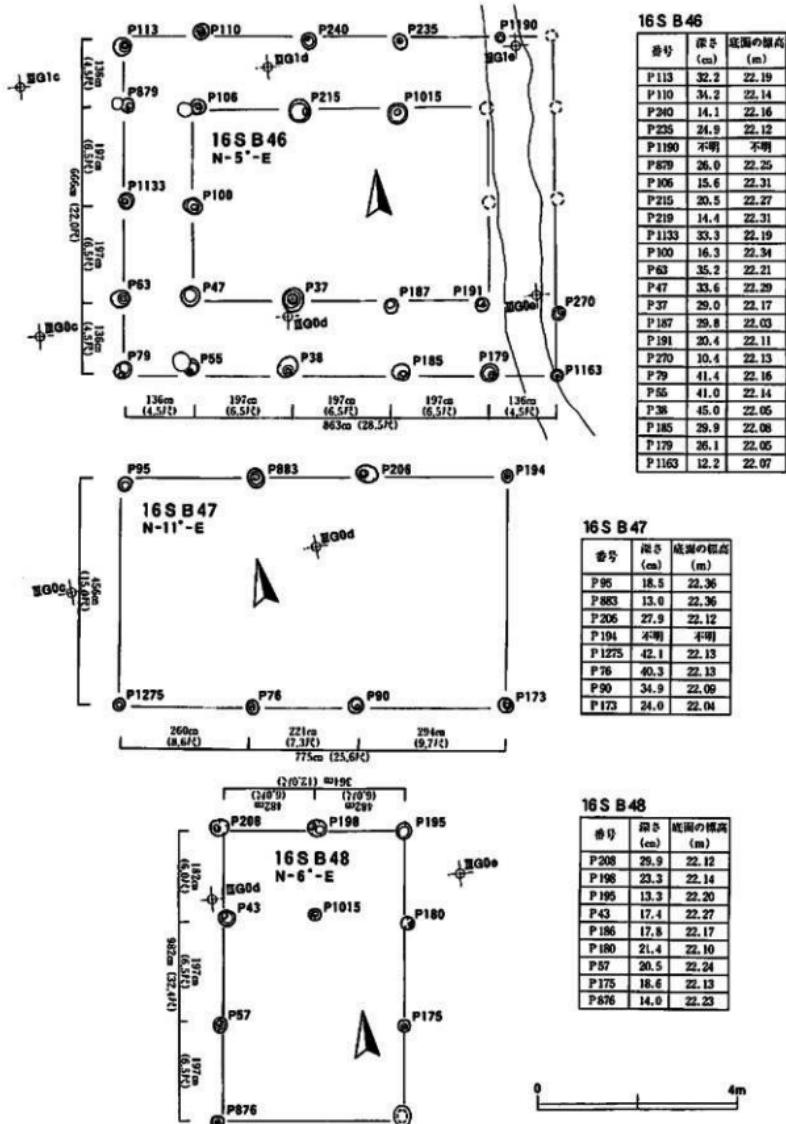
16S B 48 (第27図)

【位置】 II G 9 d、III G 0 d に位置する。

【重複】 16S B28の柱穴と接するが前後関係を判断できない、おそらく本建物が古い。また16S B42、16S B43、16S B47、16S B49、16S B50、16S B51、16S B52、16S B53、16S B54、16S B55とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

【平面形式】 捩立柱建物である。桁行きは576cm、梁間は364cmである。面積は21.0m²である。使用した柱穴は8個である。

【建物方位】 桁行きの軸方向はN-5°-Eである。



第27図 挖立柱建物②

〔柱間寸法〕 197cm (6.5尺) と 182cm (6.0尺) を使用している。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S B 49 (第28図)

〔位置〕 III G 0 b、0 c、0 d、1 b、1 c、1 d に位置する。

〔重複〕 16S B 43 の柱穴と重複するが本建物が新しい。また 16S D 5 と重複するが本建物が古い。また 16S B 39、16S B 40、16S B 41、16S B 42、16S B 44、16S B 45、16S B 46、16S B 47、16S B 48、16S B 57 とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 横立柱建物である。桁行きは 1012cm、梁間は 509cm である。面積は 51.5m² である。使用した柱穴は 6 個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向は N - 9° - E である。

〔柱間寸法〕 254.5cm (8.4尺) を基準寸法として使用している。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S B 50 (第28図)

〔位置〕 II G 9 b、9 c、9 d、III G 0 b、0 c、0 d に位置する。

〔重複〕 16S B 52、16S B 53、16S B 55、16S B 56、16S B 57、16S B 58 とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 横立柱建物である。桁行きは 591cm、梁間は 357cm である。面積は 21.1m² である。使用した柱穴は 6 個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向は N - 15° - E である。

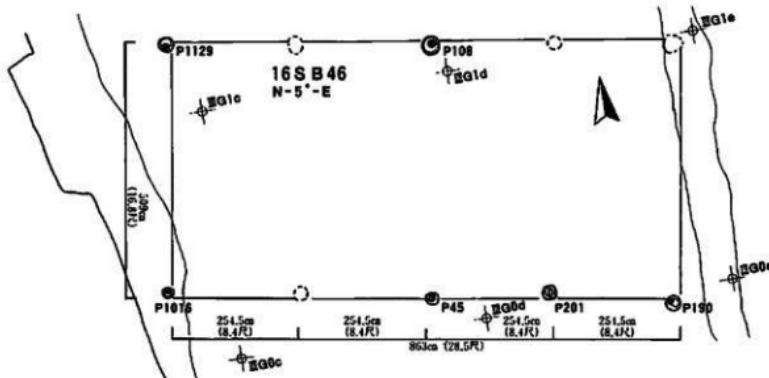
〔柱間寸法〕 衍行きでは 197cm (6.5尺) を使用している。

〔出土遺物〕 なし。

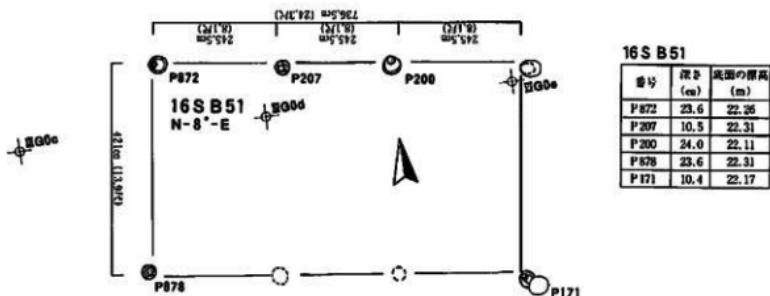
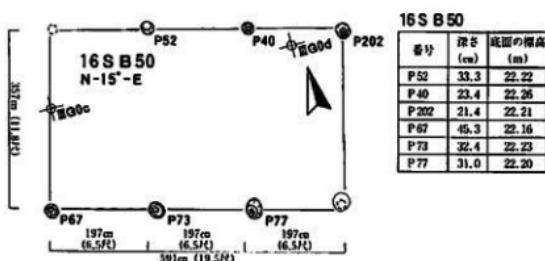
〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。



番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P1129	23.0	22.30
P108	34.6	22.11
P1016	45.6	22.07
P45	39.7	22.11
P201	32.2	22.09
P190	29.5	22.02



第28図 捨立柱建物②

16S B51（第28図）

〔位置〕 II G 9 c、9 d、III G 0 c、0 dに位置する。

〔重複〕 16S B29の柱穴と重複するが本建物が古い。また16S B42、16S B49、16S B50、16S B52、16S B53、16S B54、16S B55、16S B56、16S B58とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 振立柱建物である。桁行きは736cm、梁間は421cmである。面積は31.0m²である。使用した柱穴は5個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-8°-Eである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは245.5cm（8.1尺）を使用している。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S B52（第29図）

〔位置〕 II G 9 b、9 c、III G 0 b、0 cに位置する。

〔重複〕 16S B42の柱穴、16S D 2と重複するが本建物が古い。また16S B53、16S B55、16S B56、16S B57、16S B58、16S B59、16S B61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 振立柱建物である。桁行きは764cm、梁間は432cmである。面積は33.0m²である。使用した柱穴は7個である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方向はN-20°-Eである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは191cm（6.3尺）、梁間では216cm（7.1尺）を使用している。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S B53（第29図、写真図版9）

〔位置〕 II G 9 c、9 d、III G 0 c、0 dに位置する。

〔重複〕 16S D 3と重複するがおそらく本建物が古い。また16S B52、16S B54、16S B55、16S B56、16S B58とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

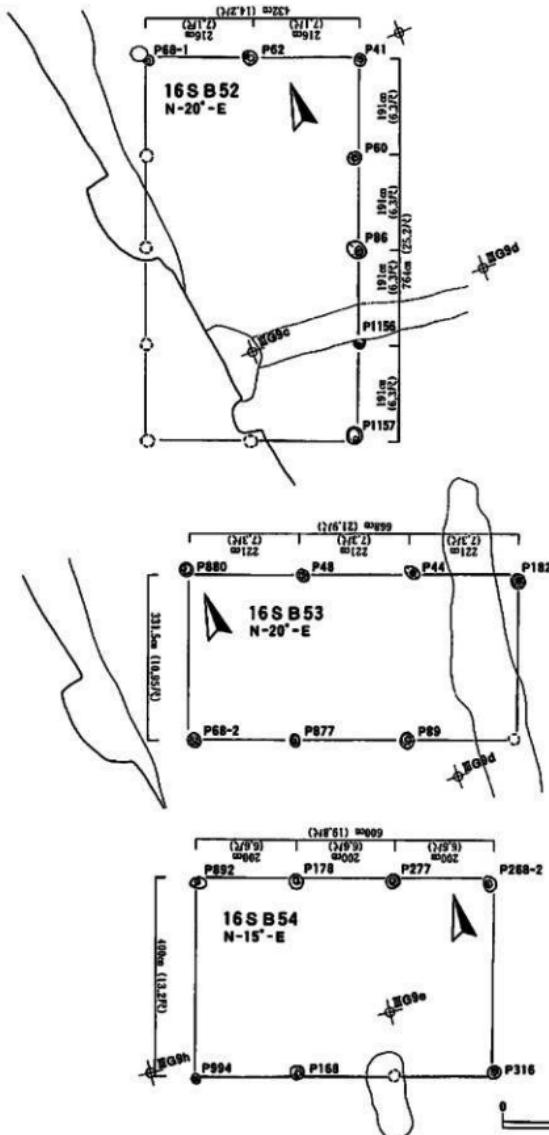
〔平面形式〕 振立柱建物である。桁行きは663cm、梁間は331.5cmである。面積は22.0m²である。使用した柱穴は7個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向はN-20°-Eである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは221cm（7.3尺）を使用している。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。



第29図 堀立柱建物②

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B54 (第29図、写真図版9)

〔位置〕 II G 9 d、9 e に位置する。

〔重複〕 16S B48、16S B55とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 捩立柱建物である。桁行きは600cm、梁間は388cmである。面積は23.2m²である。使用した柱穴は7個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向は N-15° - E である。

〔柱間寸法〕 桁行きでは200cm (6.6尺) を使用している。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B55 (第30図)

〔位置〕 II G 8 b、8 c、8 d、9 b、9 c、9 d に位置する。

〔重複〕 16S B45の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16S B52、16S B53、16S B54、16S B56、16S B57、16S B58、16S B59、16S B61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 捩立柱建物である。桁行きは924cm、梁間は524cmである。面積は48.4m²である。使用した柱穴は9個である。

〔建物方位〕 梁間の軸方向は N-12° - E である。

〔柱間寸法〕 桁行きでは185cm (6.1尺) を使用している。

〔出土遺物〕 P 889から古代の須恵器長頸壺 (33) が出土した。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

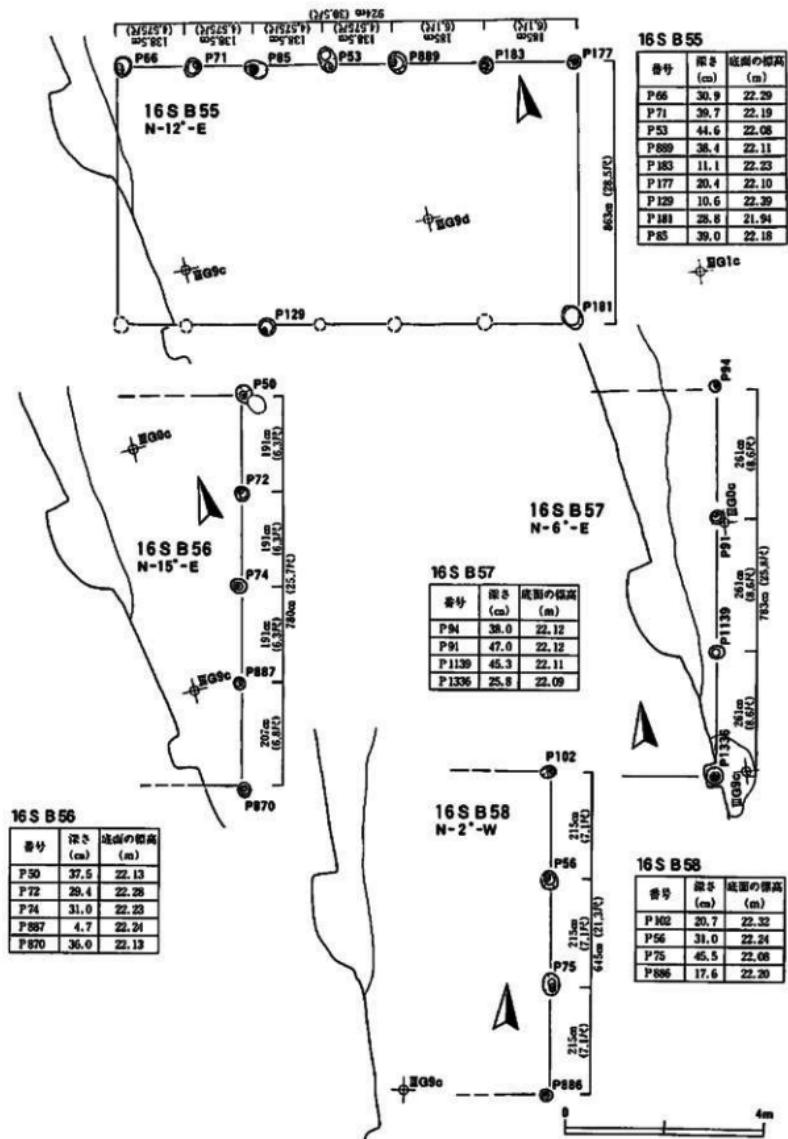
16S B56 (第30図)

〔位置〕 II G 8 b、8 c、9 b、9 c、III G 0 b、0 c に位置する。

〔重複〕 16S B39の柱穴と重複するが本建物が古い。また16S B52、16S B53、16S B55、16S B57、16S B58、16S B59、16S B61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 捩立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びており、全体の平面形は不明である。桁行きは780cm、梁間は不明である。使用した柱穴は5個である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方向は N-15° - E である。



第30図 堀立柱建物②

〔柱間寸法〕 桁行きでは191cm（6.3尺）を多用している。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S B57（第30図）

〔位置〕 II G 9 b、III G 0 bに位置する。

〔重複〕 16S B39の柱穴と重複するが本建物が古い。また16S B38、16S B41、16S B42、16S B43、16S B44、16S B45、16S B46、16S B49、16S B50、16S B52、16S B55、16S B56、16S B58、16S B61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 据立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びており、全体の平面形は不明である。桁行きは783cm、梁間は不明である。使用した柱穴は4個である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方向はN-6°-Eである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは261cm（8.6尺）を多用している。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。

〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S B58（第30図）

〔位置〕 II G 8 c、9 cに位置する。

〔重複〕 16S B46の柱穴と重複するが本建物が新しい。また16S B38、16S B45、16S B50、16S B51、16S B52、16S B53、16S B55、16S B56、16S B57、16S B61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕 据立柱建物である。調査区外西側にプランが伸びており、全体の平面形は不明である。桁行きは645cm、梁間は不明である。使用した柱穴は4個である。

〔建物方位〕 桁行きの軸方向はN-2°-Wである。

〔柱間寸法〕 桁行きでは215cm（7.1尺）を多用している。

〔出土遺物〕 なし。

〔付属施設〕 特になし。

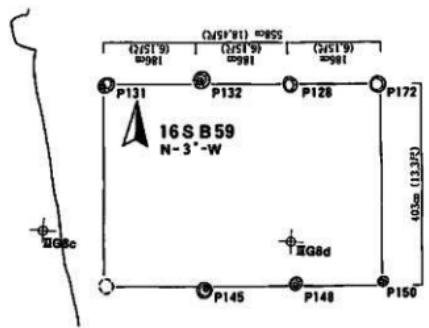
〔建物の性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

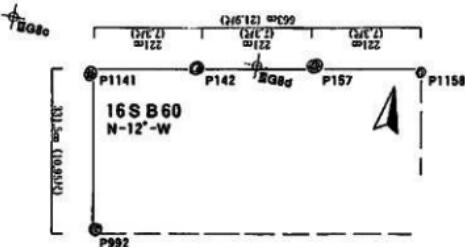
16S B59（第31図）

〔位置〕 II G 7 c、7 d、8 c、8 dに位置する。

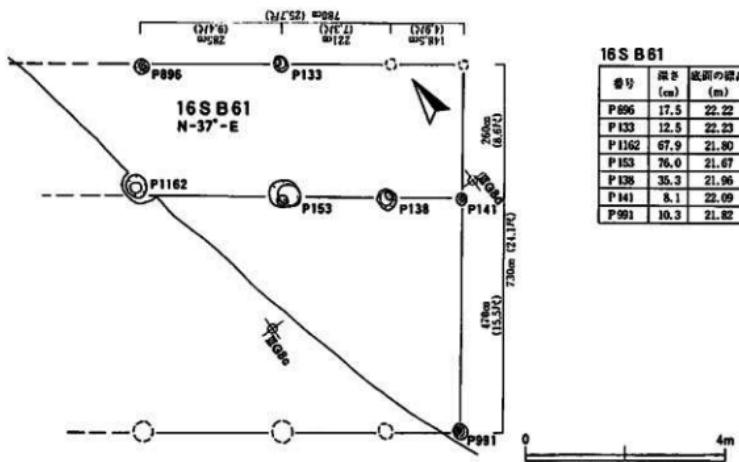
〔重複〕 16S B52、16S B55、16S B60、16S B61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、遺構の切り合い関係からの前後関係は不明である。



番号	高さ (cm)	底面の標高 (m)
P131	24.5	22.25
P132	36.2	22.05
P128	26.7	22.05
P172	27.4	22.02
P145	18.4	21.94
P148	6.2	22.10
P150	11.6	22.02



番号	高さ (cm)	底面の標高 (m)
P1141	11.5	22.06
P142	23.0	21.96
P157	10.7	22.13
P1158	11.0	22.11
P992	8.1	21.81



番号	高さ (cm)	底面の標高 (m)
P896	17.5	22.22
P133	12.5	22.23
P1162	67.9	21.80
P153	76.0	21.87
P138	35.3	21.96
P141	8.1	22.09
P991	10.3	21.82

第31図 墓立柱建物②

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは558cm、梁間は403cmである。面積は22.5m²である。使用した柱穴は7個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-3°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行きでは186cm(6.15尺)を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B60 (第31図)

〔位置〕II G 7c、7d、8c、8dに位置する。

〔重複〕16S B59、16S B61とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは663cm、梁間は331.5cmである。面積は21.0m²である。使用した柱穴は5個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-12°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行きでは221cm(7.3.尺)を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B61 (第31図)

〔位置〕II G 7b、7c、8b、8cに位置する。

〔重複〕16S B52、16S B55、16S B56、16S B57、16S B59、16S B60とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。調査区外南西側にプランが延び、全形は不明である。検出された分で桁行きは654cm、梁間は730cmである。面積は47.7m²である。使用した柱穴は7個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-37°-Eである。

〔柱間寸法〕様々な寸法を用いており基準寸法を見出し難い。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B62 (第32図)

〔位置〕III G 6h、6i、7iに位置する。東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16S K37と重複するが本建物が新しい。また16S B2、16S B6、16S B63、16S B64とプランが

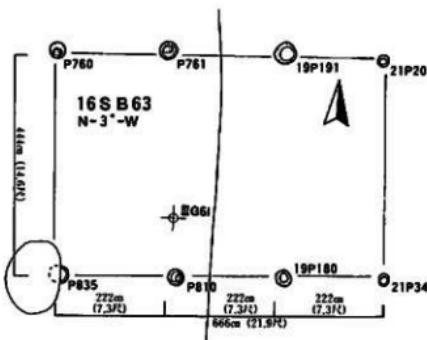
EGGh



16S B 62

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P762	31.6	22.24
P763	45.1	22.13
P765	11.8	22.43
P755	33.1	22.17
P758	26.6	22.23
19P189	27.3	22.13

EGGh



16S B 63

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P760	49.7	22.04
P761	38.9	22.13
P835	不明	不明
P810	39.2	22.12
19P191	38.4	22.18
19P180	40.0	21.95
19P20	11.8	21.87
19P34	14.3	21.82

(14.8ft)

16S B 64
N-3°-W

EGGh



16S B 64

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P751	21.9	21.31
P752	45.6	22.04
P758	35.2	22.07
P1215	17.3	22.18
P1044	38.4	22.03
19P190	38.6	22.11
19P178	52.0	21.87
19P181	33.1	21.93
19P21	22.2	21.68



第32図 堤立柱建物②

重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは519cm、梁間は311.5cmである。面積は16.2m²である。使用した柱穴は6個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-12°-Eである。

〔柱間寸法〕桁行きでは173cm(5.7尺)を用いている。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B 63 (第32図、写真図版9)

〔位置〕Ⅲ G 5 h、5 i、6 h、6 iに位置する。東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16S K30と重複するが本建物が古い。また16S K36と重複するが本建物が新しい。また16S B 6、16S B 62、16S B 64、16S B 65とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは666cm、梁間は444cmである。面積は29.6m²である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-3°-Wである。

〔柱間寸法〕222cm(7.3尺)を基準寸法に用いている。

〔出土遺物〕P 761から陶器仏飯器？(5116)が出土している。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕出土した陶器から19世紀前半以降の年代が推測される。

16S B 64 (第32図、写真図版10)

〔位置〕Ⅲ G 5 g、5 h、5 i、6 g、6 h、6 iに位置する。東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16S K37と重複するが本建物が新しい。また16S K31と接するが前後関係を判断できなかった。また16S B 62、16S B 63、16S B 65、16S E 11とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは106.75cm、梁間は466cmである。面積は49.7m²である。使用した柱穴は10個である。

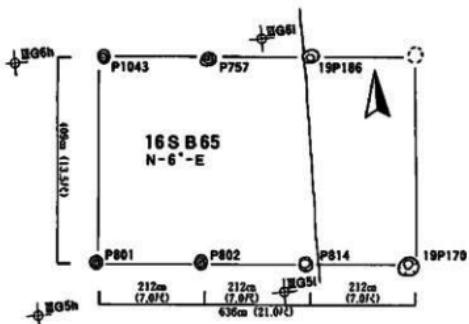
〔建物方位〕梁間の軸方向はN-3°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行きでは233cmを多用している。これを6で割った数値は38.8cmである。これを任意の1尺とすると、桁行きで他に使用されているに310.5cmは8尺、291cmは7尺5寸、梁間の466cmは12尺=2間となる。よって本建物の寸法には曲尺を用いず、任意の1尺=38.8cmを使用したと推測される。

〔出土遺物〕なし。

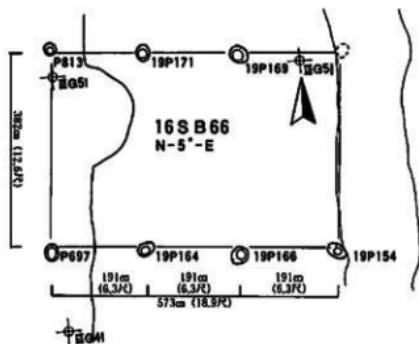
〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明であるが、中世後半(16世紀頃)の民家の主屋の可能性が考えられる。



16S B 65

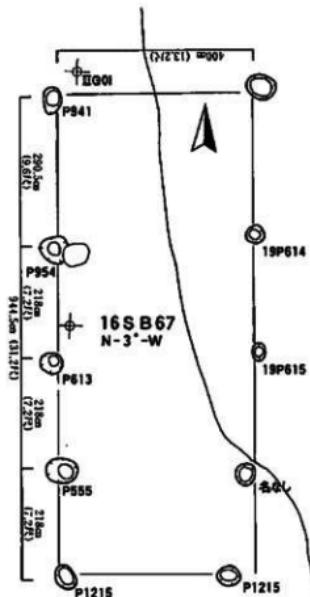
番号	測定 (cm)	底面の標高 (m)
P1043	36.3	22.10
P757	29.2	22.17
P801	12.3	22.26
P802	25.4	22.12
P814	30.5	22.06
19P186	39.3	22.02
19P170	37.9	22.00



16S B 66

16S B 67

番号	測定 (cm)	底面の標高 (m)
P941	6.0	21.32
P954	46.2	21.48
P613	50.3	21.85
P568	50.2	21.33
P1342	36.5	21.28
P1333	35.2	21.39
19P614	12.2	21.54
19P615	9.6	21.37



第33図 堀立柱建物②

〔年代〕不明であるが、中世後半の可能性がある。

16S B65 (第33図、写真図版10)

〔位置〕Ⅲ G 5 h、6 hに位置する。東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16S K29と重複するが本建物が新しい。また16S B64、16S B66とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは636cm、梁間は409cmである。面積は26.0m²である。使用した柱穴は7個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-6°-Eである。

〔柱間寸法〕桁行きでは212cm(7.0尺)を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B66 (第33図)

〔位置〕Ⅲ G 4 i、4 j、5 i、5 jに位置する。東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16S B65、16S E13、16S D12とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは573cm、梁間は382cmである。面積は21.9m²である。使用した柱穴は7個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-5°-Eである。

〔柱間寸法〕191cm(6.3尺)を基準寸法に使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B67 (第33図)

〔位置〕Ⅱ G 8 h、8 i、9 h、9 iに位置する。北東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16S B33の柱穴と重複するが前後関係を明らかにできなかった。また建物のプラン内に16S K11が存在するが同時存在の可能性がある。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは944.5cm、梁間は400cmである。面積は37.8m²である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕桁行きの軸方向はN-3°-Wである。

〔柱間寸法〕桁行きでは218cm(7.2尺)を多用している。

〔出土遺物〕P555から肥前磁器碗(5013)とP941から產地不明陶器碗(5099)が出土している。

〔付属施設〕建物内部に取り込まれる状態の16S K11が伴う可能性が高い。

〔建物の性格〕近世民家の附着屋の可能性が高い。16S K11が既の窓みの可能性がある。

〔年代〕出土遺物から近世の建物と判断できる。主屋である16S B28か16S B29に伴う可能性が高い。

16S B68 (第34図)

〔位置〕Ⅲ G 1 h、1 i、2 h、2 iに位置する。東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16S B20、16S E69とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕掘立柱建物である。桁行きは636cm、梁間は382cmである。面積は24.3m²である。使用した柱穴は8個である。

〔建物方位〕梁間の軸方向はN-6°-Eである。

〔柱間寸法〕桁行きでは212cm(7.0尺)を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

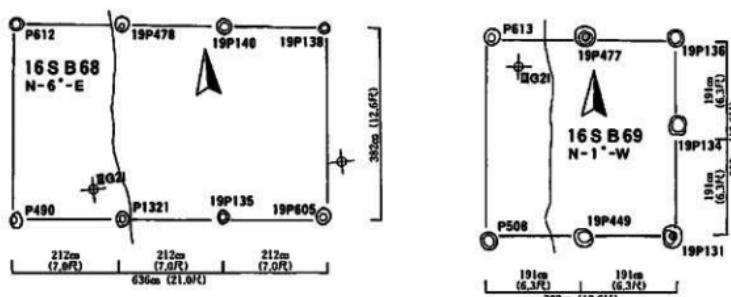
〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S B69 (第34図)

〔位置〕Ⅲ G 1 h、1 i、2 h、2 iに位置する。東半は19次、21次調査区である。

〔重複〕16S B69とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。



16S B68

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P612	32.2	21.96
P490	38.8	21.95
P1321	30.7	22.02
19P278	12.2	22.16
19P140	33.9	21.92
19P138	9.0	22.11
19P135	22.4	22.29
19P605	23.6	21.96



16S B69

番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)
P613	50.3	21.85
P508	不明	不明
19P477	34.7	21.82
19P136	49.5	21.80
19P134	19.1	22.04
19P131	31.0	21.94
19P479	35.0	21.80

第34図 堀立柱建物③

〔平面形式〕掘立柱建物である。南北辺382cm、東西辺は382cmである。面積は14.6m²である。使用した柱穴は7個である。

〔建物方位〕南北辺の軸方向はN-1°-Wである。

〔柱間寸法〕191cm(6.3尺)を基準寸法に使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔付属施設〕特になし。

〔建物の性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

2 柱列

柱穴が直線上に並ぶが、建物に組めないものを柱列とした。5条示した。

16柱列1(第35図)

〔位置〕III G 5 e、6 eに位置する。

〔重複〕16S E 9とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕全長は600cmである。使用した柱穴は4個である。

〔軸方向〕南北辺の軸方向はN-4°-Wである。

〔柱間寸法〕206cm(6.8尺)を多用している。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16柱列2(第35図)

〔位置〕III G 5 c、5 dに位置する。

〔重複〕16S B 15の柱穴と重複するが本柱列が新しい。また16S D 13と重複するが前後関係は明らかでない。また16S B 13とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕全長は925cmである。使用した柱穴は5個である。

〔軸方向〕軸方向はN-86°-Wである。これと直交する角度はN-4°-Eになる。

〔柱間寸法〕188cm(6.2尺)と173cm(5.7尺)を多用している。

〔出土遺物〕なし。

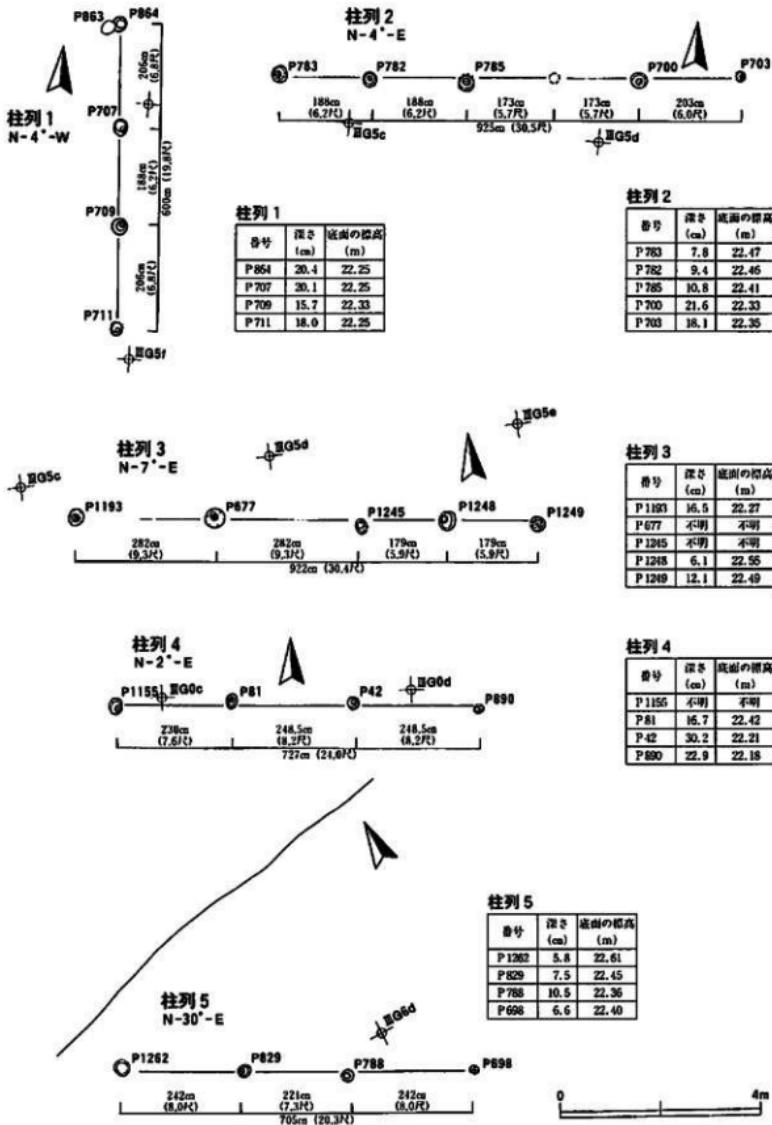
〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16柱列3(第35図)

〔位置〕III G 4 c、4 dに位置する。

〔重複〕16S B 17の柱穴と重複するが本柱列が新しい。また16S D 20とプランが重複するが直接重複する柱



第35図 柱列

穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕全長は922cmである。使用した柱穴は5個である。

〔軸方向〕軸方向はN-83°-Wである。これと直交する角度はN-7°-Eになる。

〔柱間寸法〕282cm(9.3尺)と179cm(5.9尺)を使用している。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16柱列4(第35図)

〔位置〕Ⅲ G 9 b、9 cに位置する。

〔重複〕16S B45、16S B46、16S B48、16S B50、16S B52、16S B53とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕全長は727cmである。使用した柱穴は4個である。

〔軸方向〕軸方向はN-88°-Wである。これと直交する角度はN-2°-Eになる。

〔柱間寸法〕248.5cm(8.2尺)を多用している。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16柱列5(第35図)

〔位置〕Ⅲ G 5 c、5 dに位置する。

〔重複〕16S B13、16S B15とプランが重複するが直接重複する柱穴が無く、造構の切り合い関係からの前後関係は不明である。

〔平面形式〕全長は705cmである。使用した柱穴は4個である。

〔軸方向〕軸方向はN-60°-Wである。これと直交する角度はN-30°-Eになる。

〔柱間寸法〕242cm(8.0尺)を多用している。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

3 井戸状遺構

検出面からの深さが200cm以上の遺構を井戸とした。14基を示した。遺構の性格は井戸の可能性が高いが、井戸以外の用途も存在し得る。

16S E 1 (第36図、写真図版10)

【位置】Ⅲ G 0 h に位置する。

【重複】16S I 1、16S B23と重複するが本井戸が新しい。

【形態】開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は開口部がやや聞く形態である。確認面からの深さは364cmである。底面の標高は18.64mである。

【埋土】5層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。3層には大きめの砾を含む。

【出土遺物】埋土中から土師器内黒ロクロ坏 (20)、ロクロかわらけ (1105)、肥前磁器小杯 (5050) が出土した。

【性格】井戸である。

【年代】出土した肥前磁器から18世紀以降の年代に属する。

16S E 2 (第36図、写真図版10)

【位置】Ⅲ G 0 e、0 f に位置する。

【重複】16S K12と重複するが本井戸が新しい。また近世民家の主屋16S B28、16S B32と重複するが、おそらく本井戸が新しい。

【形態】開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は壁がほぼ垂直に落ちる形態である。確認面からの深さは326cmである。底面の標高は18.94mである。

【埋土】4層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

【出土遺物】埋土中から肥前磁器碗 (5014、5015)、砥石 (7004、7006) が出土した。

【性格】井戸である。

【年代】出土した肥前磁器と重複する近世民家の主屋の年代観から19世紀以降の年代に属する可能性が高い。

16S E 3 (第36図、写真図版11)

【位置】Ⅲ G 3 g、3 h に位置する。

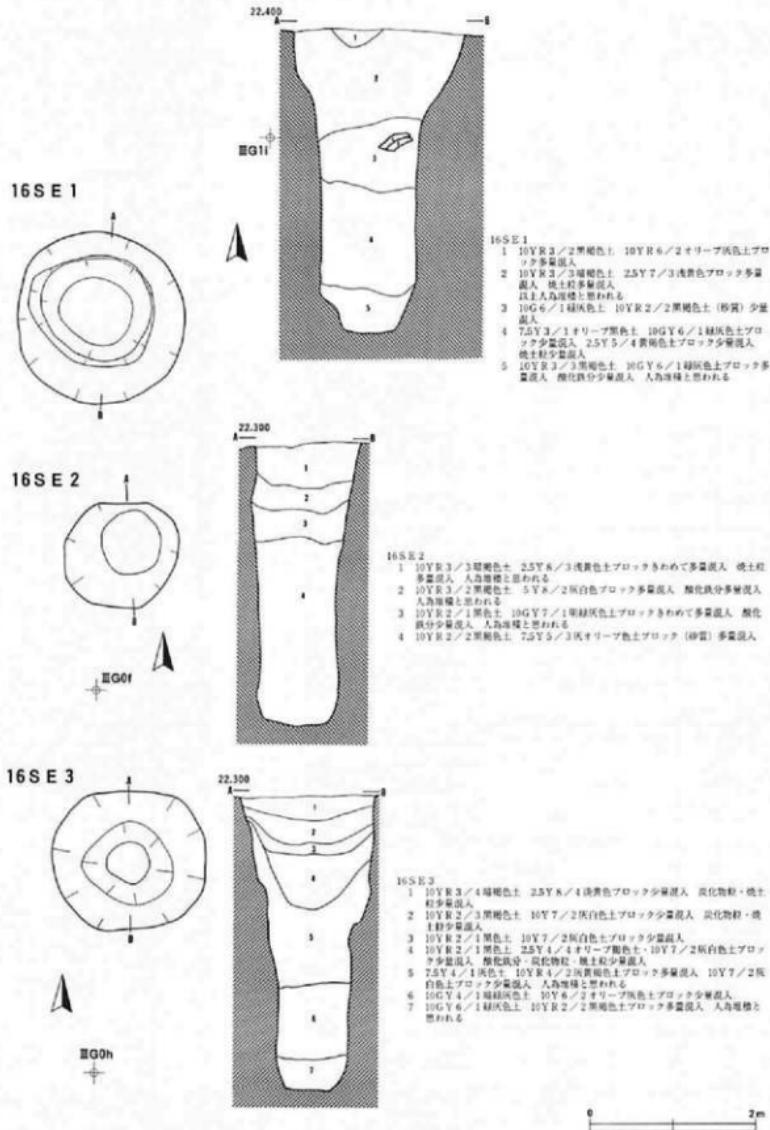
【重複】16S I 1と重複するが本井戸が新しい。また16S B22のプランと重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

【形態】開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は中ほどで怪がすさまる形態である。確認面からの深さは353cmである。底面の標高は18.66mである。

【埋土】7層に分けられる。埋土下半の5~7層は人為的に埋め戻した土と推測される。

【出土遺物】埋土中から白磁盤 (3020) が出土した。また1層中から瀬戸美濃産灰釉皿 (5057)、美濃産野皿 (5058、5059)、瀬戸美濃産鉄釉皿 (5060)、肥前産 (唐津) 皿 (5061)、朝鮮系瓶 (5062)、木製杓瓶 (6001)、漆器碗 (6009) 横桶 (6010) が一括状態で出土した。

【性格】井戸である。



第36図 井戸①

〔年代〕 1層中の出土遺物から17世紀初頭に廃絶した井戸と理解できる。

16S E 4 (第37図、写真図版11)

〔位置〕 III G 0 f、0 g に位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は底面に向かうにつれ、径が小さくなる形態である。確認面からの深さは353cmである。底面の標高は18.58mである。

〔埋土〕6層に分けられる。人為堆積と推測されるがはっきりしない。

〔出土遺物〕埴土中から肥前産磁器碗(5016、5025)、大膳相馬産陶器碗(5096)、在地産陶器おはぐろ壺(5117)が出土した。また底面から桶の側板(6007)が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土遺物から19世紀以降の井戸と理解できる。

16S E 5 (第37図、写真図版12)

〔位置〕 III G 9 g に位置する。

〔重複〕近世民家の主屋16S B32と重複するが本井戸が新しい。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは365cmである。底面の標高は18.58mである。

〔埋土〕4層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕埴土中から瀬戸産壺(2081)、平瓦(4005)、肥前産磁器皿(5035、5048)、美濃産志野壺(5076)、在地産陶器鉢？(5111)、在地産陶器切立(5113)が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土遺物から19世紀以降の井戸と理解できる。

16S E 6 (第38図、写真図版12)

〔位置〕 III G 1 f、2 f に位置する。

〔重複〕16S B24と重複するが本井戸が古い。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は底面に向かうにつれ、径が小さくなる形態である。確認面からの深さは399cmである。底面の標高は18.34mである。

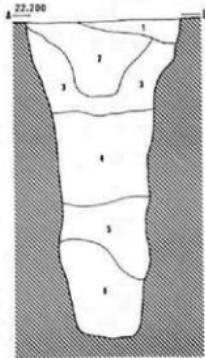
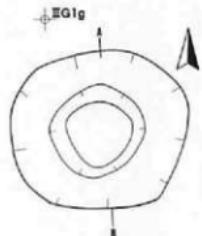
〔埋土〕17層に分けられる。埴土は人為的に埋め戻した土と推測される。埴土上部に遺物を多量に含む。

〔出土遺物〕埴土中から古代の須恵器大甕(50、77)、手づくねかわらけ(1001、1003、1004、1008、1009、1017、1021、1022、1024、1027、1031、1032、1033、1037、1038、1039、1040、1042、1043、1044、1046、1049、1052、1053、1066、1069、1071、1078、1084、1085、1087、1092)、ロクロかわらけ(1094、1096、1098、1101、1113)、常滑産片口鉢(2002)、常滑産壺(2020、2024)、瀬戸産壺(2044、2057、2060、2069、2070、2071)、中国産白磁碗(3002、3011、3012)、曲物底板(6005)、漆紙(8042)が出土した。また底面近くからほぼ完形の曲物(6003)が出土した。

〔性格〕井戸の可能性が高い。

〔年代〕出土遺物から12世紀後半と推測される。

16S E 4

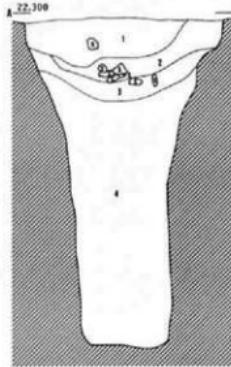
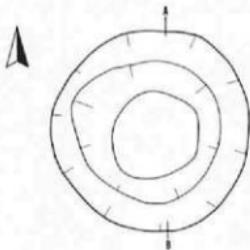


16S E 4

- 1 10YR 4 / 3 に近い黄褐色土。10YR 6 / 5 黄褐色土ブロック少量混入。5Y 7 / 3 淡黄色ブロック少量混入
- 2 10YR 4 / 3 黑褐色土。2.5Y 3 / 4 黑褐色土ブロック少量混入。炭化物粒・燒土粒少量混入
- 3 10YR 2 / 3 黑褐色土。10YR 4 / 3 に近い黄褐色土まだら状に多量混入。10Y 5 / 2 オリーブ灰褐色土ブロック
(砂質) 多量混入。炭化物粒・燒土粒少量混入
- 4 10YR 4 / 6 灰色土。2.5Y 3 / 2 黑褐色土。2.5Y 6 / 6 明瞭褐色土ブロック少量混入。酸化鉄分多量混入
- 5 10Y 3 / 2 オリーブ黒褐色土。2.5Y 7 / 4 淡黄色土。10G Y 7 / 1 明瞭灰褐色土ブロック少量混入
- 6 10YR 2 / 3 黑褐色土。10G Y 7 / 1 明瞭灰褐色土ブロック多量混入

16S E 5

EG0g
↑



16S E 5

- 1 10YR 4 / 3 に近い黄褐色土。2.5Y 8 / 4 淡黄色土ブロック少量混入。炭化物粒・燒土粒少量混入
- 2 10YR 4 / 3 黑褐色土。10G Y 3 / 4 褐褐色土。2.5Y 7 / 3 淡黄色土(砂質) ブロック多量混入。人骨堆積七
思われる
- 3 10Y 3 / 4 黑褐色土。2.5Y 3 / 1 黑褐色土上層や外縁に多量混入。炭化物粒・燒土粒少量混入
- 4 10YR 4 / 4 灰色土。10YR 2 / 1 黑褐色土まだら状に多量混入。2.5Y 7 / 4 淡黄色土ブロック多量混入。酸化鉄
分・炭化物少量混入。人骨堆積と思われる



第37図 井戸②

16S E 7 (第38図、写真図版13)

〔位置〕 III G 5 f、5 g、6 f、6 gに位置する。

〔重複〕 16S B 4、16S K23と重複するが本井戸が新しい。また16S B 5、16S B 7、16S B 8、16S B 9のプランと重複するが直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕 開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは420cmである。底面の標高は18.30mである。

〔埋土〕 3層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕 墓土中から手づくねかわらけ(1041)、肥前産磁器皿(5049)、美濃産志野皿(5072)、在地産陶器甕(5120、5121)、近世の常滑産甕(5125)、在地産陶器擂鉢(5138、5139、5144)、砥石(7013、7014)が出土した。

〔性格〕 井戸である。

〔年代〕 出土遺物から19世紀以降の井戸と理解できる。

16S E 8 (第39図、写真図版13)

〔位置〕 III G 1 gに位置する。

〔重複〕 16S B 22のプランと重複するが直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕 開口部は円形である。断面形は開口部がやや聞く。石組みの井戸である。4層より下の部分に石組みが残存している。石の崩落の危険があり4層より下の掘り下げはおこなっていない。

〔埋土〕 堀った分では4層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。1~4層の石組みを崩した後に埋め戻しをおこなったと考えられる。

〔出土遺物〕 墓土中から常滑産甕(2032、2033)が出土した。

〔性格〕 井戸である。

〔年代〕 平泉でこれまで検出された石組みの井戸は近世後半以降の所産である。本井戸も近世後半以降の井戸と推測される。

16S E 9 (第39図、写真図版13)

〔位置〕 III G 4 b、4 c、5 bに位置する。

〔重複〕 16S B 17と重複するが本井戸が古い。

〔形態〕 開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは345cmである。底面の標高は19.03mである。

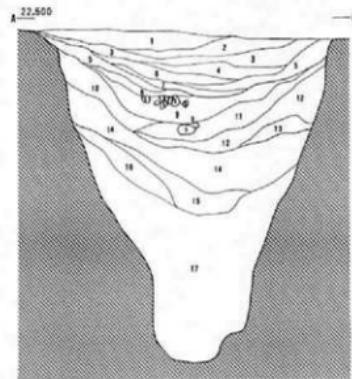
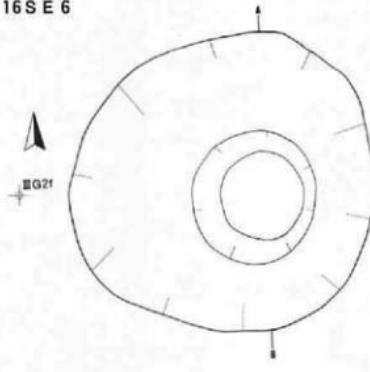
〔埋土〕 9層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕 墓土中から古代の須恵器大甕(39、44、45、51、62、68、70)、手づくねかわらけ(1026)、ロクロかわらけ(1093、1100、1104、1106、1111、1114、1116)、内折れかわらけ(1119)、常滑産甕(2026)、深美濃甕(2059、2079)が出土した。

〔性格〕 井戸である。

〔年代〕 出土遺物から12世紀後半の井戸と推測される。

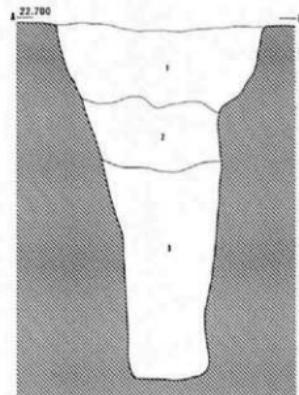
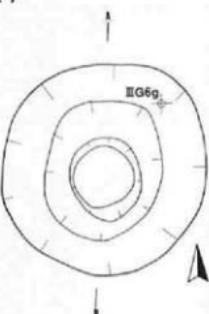
16S E 6



16S E 6

- 1 10YR 4/3に近い黄褐色土、2.5Y 8/3灰白色土ブロック多量混入。炭化物少
・無土粒少量混入。人为堆積と思われる。
- 2 10YR 4/3に近い黄褐色土、10YR 3/2黒褐色土まだら状に少量混入。2.5Y
8/3灰白色土ブロック多量混入。かすれけ付・炭化物粒・焼土粒少量混入。
- 3 10YR 4/3に近い黄褐色土、10YR 3/2黒褐色土まだら状に少量混入。かすれけ付
量混入。10Y 5-6灰褐色土、炭化物粒・焼土粒少量混入。
- 4 10YR 3/2黒褐色土、7.5Y 4/6灰褐色土まだら状に多量混入。かわらけ付・燒
土粒・炭化物粒少量混入。
- 5 10Y 2/3黒褐色土、10YR 4/6褐色土多量混入。2.5Y 8/3灰白色土ブロック
少量混入。炭化物粒・焼土粒少量混入。かすれけ付・焼土粒少量混入。
- 6 10YR 3/2黒褐色土、2.5Y 8/3灰白色土ブロック少量混入。炭化物粒少量混
入。
- 7 10YR 2/2黒褐色土、10YR 5/6黄褐色土ブロック多量混入。炭化物粒多量
混入。地・粒少量混入。人为堆積と思われる。
- 8 10YR 2/2黒褐色土、7.5Y 7/2灰白色土ブロック多量混入。炭化物粒・炭化
物粒少量混入。人为堆積と思われる。
- 9 10YR 2/2黒褐色土、10YR 6/1褐色土まだら状に多量混入。炭化物粒少
量混入。
- 10 YR 2/3黒褐色土、20YR 4/4褐色土ブロック多量混入。炭化物粒・炭化
物粒少量混入。人为堆積と思われる。
- 11 5Y 5-6オリーブ褐色土、10G 7/1明緑灰褐色土ブロック少量混入。炭化物粒少
量混入。
- 12 7.5Y 4/4褐色土、5Y 4/1灰褐色土・10G 7/1明緑灰褐色土ブロック少量
混入。炭化物粒・炭化物粒少量混入。
- 13 10YR 3/2黒褐色土、20YR 4/4褐色土ブロック少量混入。5Y 5-6
褐色土、10G 7/1明緑灰褐色土まだら状に少量混入。
- 14 10G 7/1明緑灰褐色土、5Y 5-6褐色土・10G 7/1明緑灰褐色土まだら状に少量混入。
ブロック少量混入。
- 15 7.5Y 3/1オリーブ褐色土。
- 16 10YR 2/2黒褐色土、7.5G 7/1明緑灰褐色土ブロック多量混入。人为堆積
と思われる。
- 17 10G 7/1明緑灰褐色土、10YR 2/2黒褐色土ブロック少量混入。

16S E 7



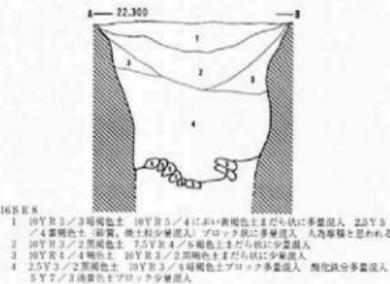
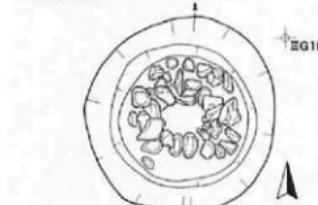
16S E 7

- 1 5Y 8/2灰白色土、酸化鉄分少量混入。10YR 3/3褐色土地・粒少量混入。
上部2層の土が交互に堆積する。
- 2 10YR 2/3黒褐色土、10G 7/5/1褐色土(砂質)ブロック多量混入。人为堆積と思われる。
- 3 10YR 3/2黒褐色土、5Y 8/2灰白色土ロームブロック状に多量混入。人为堆積と思われる。

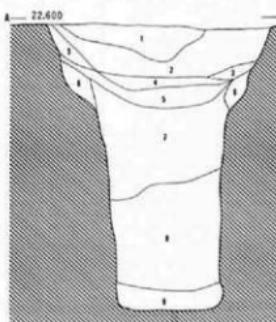
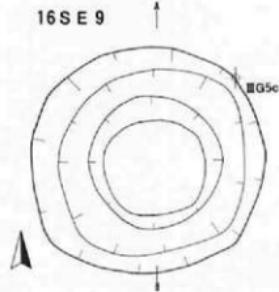


第38図 井戸③

16S E 8

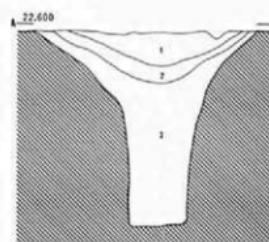
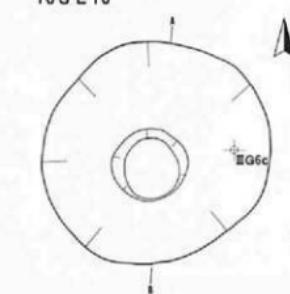


16S E 9



16S E 9
 1 10Y R 3 / 3 黄褐色土 水化物跡多量混入
 2 10Y R 3 / 3 黄褐色土 2.5 Y 8 / 2 黑褐色土 ブロック状多量混入 水化物跡少量混入
 3 10Y R 2 / 3 黑褐色土 水化物跡・地下水少量混入
 4 2.5 Y 7 / 2 黑褐色土 水化物跡・地下水少量混入
 5 Y 2 / 2 黑褐色土 水化物跡・地下水少量混入
 6 10Y R 4 / 3 に近い黄褐色土 10Y R 2 / 2 黑褐色土まだら状少量混入
 7 5 Y 2 / 2 リープ里鉄土 10Y R 6 / 1 錆斑色土 ブロック状少量混入
 8 10Y R 6 / 1 黑褐色土 10Y R 3 / 2 黑褐色土 ブロック状少量混入
 9 2.5 Y 7 / 2 黑褐色土 10G 7 / 1 明礬化土 ブロック状多量混入 水化物跡少量混入
 入為地盤と想われる

16S E 10



16S E 10
 1 10Y R 2 / 2 黑褐色土 10Y R 4 / 3 に近い黄褐色土まだら状多量混入 水化物跡
 - 1.5 Y 1 程少量混入
 2 10Y R 3 / 3 黄褐色土 水化物跡多量混入
 3 10Y R 3 / 1 黑褐色土 10Y R 3 / 3 黄褐色土まだら状少量混入



第39図 井戸④

16S E 10 (第39図、写真図版13、14)

〔位置〕 III G 5 b、5 c、6 b、6 cに位置する。

〔重複〕 16S D 1と重複するが本井戸が古い。また16S B 13、16S B 15のプランと重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕 開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは235cmである。底面の標高は20.14mである。

〔埋土〕 3層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕 埋土中から古代の須恵器大甕 (58.61)、13~14世紀のロクロかわらけ (1123)、須恵器系陶器甕 (2087)、在地産陶器片口鉢 (2100)、中国産白磁碗 (3005)、中国産青磁碗 (3027)、中国産青磁篇連弁文碗 (3038) が出土した。また検出面からの出土で確実に本井戸に伴うかはっきりしないが、北宋錢天聖元寶 (8001) がある。

〔性格〕 井戸である。

〔年代〕 出土遺物から13世紀後半~14世紀前半の井戸と推測される。

16S E 11 (第40図、写真図版14)

〔位置〕 III G 5 g、5 h、6 g、6 hに位置する。

〔重複〕 16S B 5、16S K40、16S D16と重複するが本井戸が新しい。また16S B 4、16S B 7、16S B 8、16S B 64のプランと重複するが直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕 開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は下に進むにつれ徐々に径が狭くなる。確認面からの深さは390cmである。底面の標高は18.71mである。

〔埋土〕 6層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕 埋土中から常滑産窯 (2012、2021、2034、2036)、瀬美産窯 (2075)、須恵器系陶器窯 (2090)、中国産白磁盤 (3006)、平清水産磁器碗 (5027)、肥前産磁器皿 (5034)、瀬戸美濃産灰釉皿 (5065)、美濃産志野皿 (5075)、大堀相馬産?土瓶 (5106)、在地産陶器擂鉢 (5130、5131、5132、5136、5141、5143)、土人形 (5145)、焜炉? (5146)、砾石 (7005、7009)、撫白 (7025)、鉄津 (8035、8036) が出土した。また底面から桶の側板と底板 (6011) がばらばらの状態で出土した。

〔性格〕 井戸である。

〔年代〕 出土遺物から19世紀以降の井戸と推測される。

16S E 12 (第40図、写真図版14)

〔位置〕 III G 5 a、5 b、6 a、6 bに位置する。

〔重複〕 16S E 14、16S D 15と重複するが本井戸が新しい。また16S D 1と重複するが本井戸が古い。

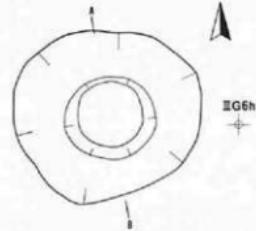
〔形態〕 開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは203cmである。底面の標高は20.54mである。

〔埋土〕 5層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕 埋土中から手づくねかわらけ (1012、1081、1089)、13~14世紀のロクロかわらけ (1124、1125)、須恵器系陶器片口鉢 (2084)、中国産白磁碗 (3004) が出土した。

〔性格〕 井戸である。

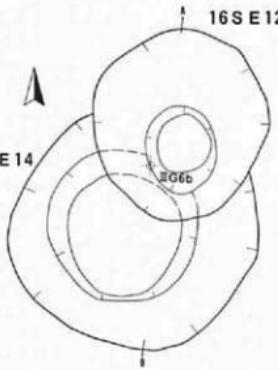
16S E11



16S E11

- 1 10YR 4 / 2 黒褐色土 10YR 8 / 3 淡黄褐色土ロームブロック・礫多量混入、炭化物少
量混入 陶器片混入 人為堆積と思われる
- 2 10YR 3 / 2 黒褐色土、炭化物少量混入
- 3 10YR 3 / 1 黒褐色土 10YR 4 / 2 黑褐色土ロームブロック状に少量混入
- 4 10YR 3 / 2 黑褐色土 10YR 8 / 3 淡黄褐色土ロームブロック状に多量混入 人為堆積と思
われる
- 5 10YR 3 / 3 淡黄褐色土ローム 10YR 3 / 2 黑褐色土まだら状に少量混入
- 6 10YR 3 / 2 黑褐色土

16S E14



16S E14

- 1 10YR 2 / 2 黒褐色土 10YR 4 / 3 に高い黄褐色土まだら状に多量混入 10YR 4 / 1 黒
色土ブロック状混入 炭化物少、陶土粒少量混入
- 2 10YR 3 / 2 黑褐色土 10YR 4 / 3 に高い黄褐色土まだら状に多量混入 25Y 6 / 4 淡黄
色ロームブロック少量混入、炭化物少量混入
- 3 10YR 3 / 1 黑褐色土 10YR 4 / 2 黑褐色土ロームブロック多量混入、炭化物少
量混入 人為堆積と思われる
- 4 10YR 4 / 1 黑褐色土、炭化物少、陶土粒少量混入
- 5 10YR 3 / 1 黑褐色土 5Y 7 / 2 从白色土ロームブロック多量混入 10G Y 5 / 1 绿褐色
土少量混入 炭化物少量混入 人為堆積と思われる

16S E12

- 1 10YR 2 / 2 黑褐色土 10YR 4 / 3 に高い黄褐色土まだら状に多量混入 黄褐色土
少、陶土粒少
- 2 10YR 2 / 2 黑褐色土 25Y 8 / 1 淡黄褐色土ロームブロック多量混入 10G Y 5 / 1 绿褐色
土少量混入 炭化物少量混入 人為堆積と思われる
- 3 10YR 2 / 2 黑褐色土 10YR 4 / 2 黑褐色土ローム状に多量混入
- 4 10YR 3 / 1 黑褐色土 10YR 6 / 1 砂色土ロームブロック少量混入
- 5 10G Y 7 / 1 绿褐色土 10YR 3 / 1 黑褐色土まだら状に少量混入



第40図 井戸⑤

〔年代〕出土遺物から13世紀後半～14世紀前半の井戸と推測される。

16S E 13 (第41図、写真図版14)

〔位置〕Ⅲ G 4 h、4 i、5 h、5 iに位置する。

〔重複〕16S D12と重複するが本井戸が新しい。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは265cmである。底面の標高は19.07mである。

〔埋土〕4層に分けられる。4層は人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕埋土中から古代の須恵器大甕(67)、涙美産壺(2048、2062、2064)、在地産陶器片口鉢(2092、2093、2094)、在地産陶器壺(2095)、在地産陶器壺(2101)、中国産白磁壺(3026、3037)、刀？(8030)が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土遺物から13世紀後半～14世紀前半の井戸と推測される。

16S E 14 (第40図、写真図版15)

〔位置〕Ⅲ G 5 a、5 b、6 a、6 bに位置する。

〔重複〕16S D15と重複するが本井戸が新しい。また16S E12、16S D1と重複するが本井戸が古い。

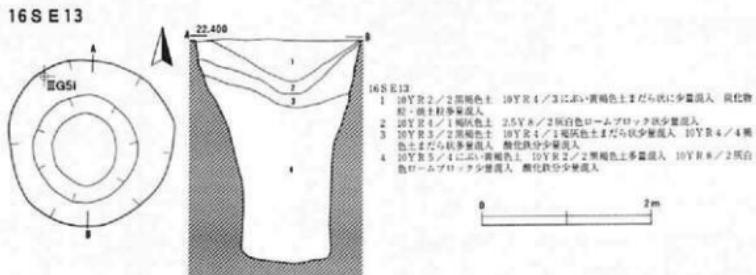
〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。断面形は漏斗形である。確認面からの深さは393cmである。底面の標高は18.59mである。

〔埋土〕5層に分けられる。人為的に埋め戻した土と推測される。

〔出土遺物〕埋土中から土師器長胴壺(26)、手づくねかわらけ(1020、1057、1065、1067、1091)、ロクロかわらけ(1107)、常滑産壺(2016、2017)、涙美産壺(2066)、須恵器系陶器片口鉢(2083)が出土した。

〔性格〕井戸である。

〔年代〕出土遺物から12世紀後半の可能性が高いが、12世紀後半に属する溝16S D12を切っていることから13世紀以降に属する可能性もある。



第41図 井戸⑥

4 土坑

古代以降の土坑は51基、縄文時代の土坑は9基検出した。16S K 2、15、45、46、47、49、51、54は欠番である。これは主に、検出時に土坑として遺構名を付したもののが調査の結果、柱穴になったため生じたものである。また16S K 101～109は縄文土器を包含する基本層序IV層を除去した後、V層上面で検出された遺構である。検出画から縄文時代に属する可能性が高い土坑である。形状の不整なものが多く人為的な遺構ではない可能性も含む遺構である。

16S K 1 (第42図、写真図版15)

〔位置〕 II G 8 c に位置する。

〔重複〕 16S B59、16S B61とプランが重複するが直接切り合う部分が無く、前後関係を判断できない。

〔形態〕 開口部は円形である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは48cmである。底面の標高は21.93mである。

〔埋土〕 2層に分けられる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 16S B59のプラン中央にちょうど納まり、建物に伴う可能性がある。

〔年代〕 不明である。

16S K 2 欠番

16S K 3 (第42図、写真図版15)

〔位置〕 II G 9 f に位置する。

〔重複〕 16S B28、16S B34と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕 開口部は円形である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは18cmである。底面の標高は21.99mである。内部に桶の底板、側板がばらばらの状態で出土した。

〔埋土〕 1層に分けられる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 桶の底板、側板が出土した。(図示なし)

〔性格〕 桶を黒設した肥溜めである。

〔年代〕 近代以降のものである。

16S K 4 (第42図、写真図版15)

〔位置〕 II G 8 e に位置する。

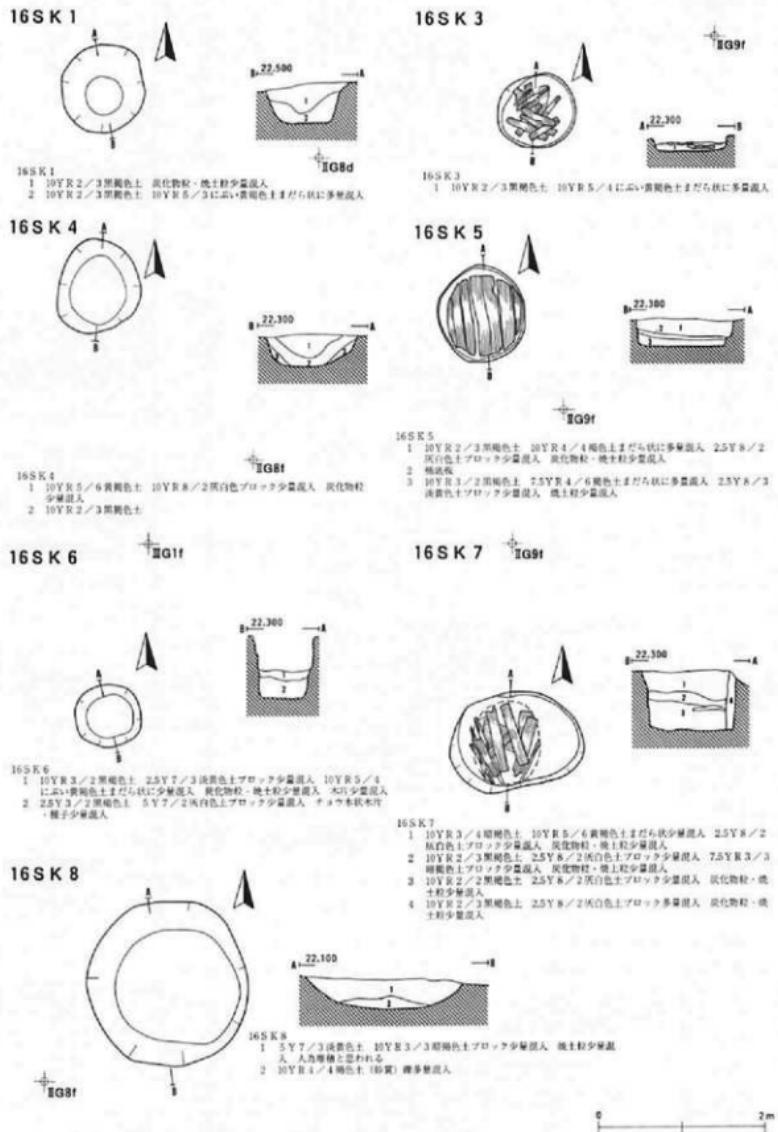
〔重複〕 16S B29、16S B30、16S B31とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係を判断できない。

〔形態〕 開口部は不整な円形である。確認面からの深さは38cmである。底面の標高は21.98mである。

〔埋土〕 3層に分けられる。おそらく自然堆積と推測できる。

〔出土遺物〕 墓土中からロクロかわらけ(1115)、肥前磁器皿(5040)、在地産陶器土瓶(5107)、が出土した。

〔性格〕 不明である。



第42図 土坑①

〔年代〕出土遺物から19世紀以降のものと推測される。

16S K 5 (第42図、写真団版16)

〔位置〕 II G 9 e に位置する。

〔重複〕 16S B33と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕 開口部は円形である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは34cmである。底面の標高は21.85mである。内部から桶の底板が取れた状態で出土した。

〔埋土〕 3層に分けられる。2層は土ではなく桶の底板である。3層は桶を埋設する前に置いた土である。

〔出土遺物〕 桶の底板、側板(図示なし)が出土した。底板の樹種はヒノキ属の一種、側板はヒノキ科類似種である。また在地産陶器壺(5123)、在地産陶器鉢(5127)が出土した。

〔性格〕 桶を埋設した肥溜めである。

〔年代〕 近代以降のものである。

16S K 6 (第42図、写真団版16)

〔位置〕 III G 0 f に位置する。

〔重複〕 16S B21とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係を判断できない。

〔形態〕 開口部は円形である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは74cmである。底面の標高は21.47mである。

〔埋土〕 2層に分けられる。人為堆積と推測できる。有機質分が多く木片、種子が混入する埋土である。

〔出土遺物〕 埋土中から土師器長胴壺(23)、漆器皿(6006)、ちゅう木(國化不能)が出土した。ちゅう木の樹種はヒノキ属の一種である。

〔性格〕 トイレ状土坑である。

〔年代〕 12世紀の土坑と推測される。

16S K 7 (第42図、写真団版16)

〔位置〕 II G 8 e、8 f に位置する。

〔重複〕 16S B32と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕 開口部は梢円形である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは70cmである。底面の標高は21.46mである。内部から桶の底板、側板がばらばらの状態で出土した。

〔埋土〕 4層に分けられる。4層は桶を埋設した際の表込めの土である。

〔出土遺物〕 埋土から桶の底板、側板、蓋(図示なし)が出土した。側板の樹種はスギ、蓋はイネ科タケ亜科の一種である。また磁石(7010)、寛永通寶(背文、8021)、近代以降と思われる漆器碗(図示なし)が出土した。

〔性格〕 桶を埋設した肥溜めである。

〔年代〕 近代以降のものである。

16S K 8 (第42図、写真団版16)

〔位置〕 II G 8 d に位置する。

〔重複〕 16S B29、16S B31と重複するが、本土坑が新しい。

〔形態〕 開口部は円形である。断面形は皿型である。確認面からの深さは35cmである。底面の標高は21.57mである。

〔埋土〕 2層に分けられる。2層は砂質で水が溜まって生成されたと推測される。1層は人為堆積と推測できる。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 近世以降の可能性が高い。

16SK9 (第43図、写真図版17)

〔位置〕 II G 9 h に位置する。

〔重複〕 16S B32と重複するが本土坑が古い。

〔形態〕 開口部は梢円形である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは55cmである。底面の標高は21.42mである。

〔埋土〕 3層に分けられる。2、3層は有機質分の多い土で種子が混じる。

〔出土遺物〕 樹土から手づくねかわらけ(1086)、白磁水注(3018)、ちゅう木(同示不能)が出土した。ちゅう木の樹種はネズコ類似種である。

〔性格〕 トイレ状土坑である。

〔年代〕 12世紀後半のものと推測される。

16SK10 (第43図、写真図版17)

〔位置〕 II G 8 h に位置する。

〔重複〕 16S B29と重複するが、前後関係を把握できなかった。

〔形態〕 開口部は梢円形である。断面形は東側の一部分が深い。確認面からの深さは52cmである。底面の標高は21.28mである。

〔埋土〕 3層に分けられる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16SK11=19SK10 (第43図、写真図版17)

〔位置〕 II G 8 i、9 i に位置する。

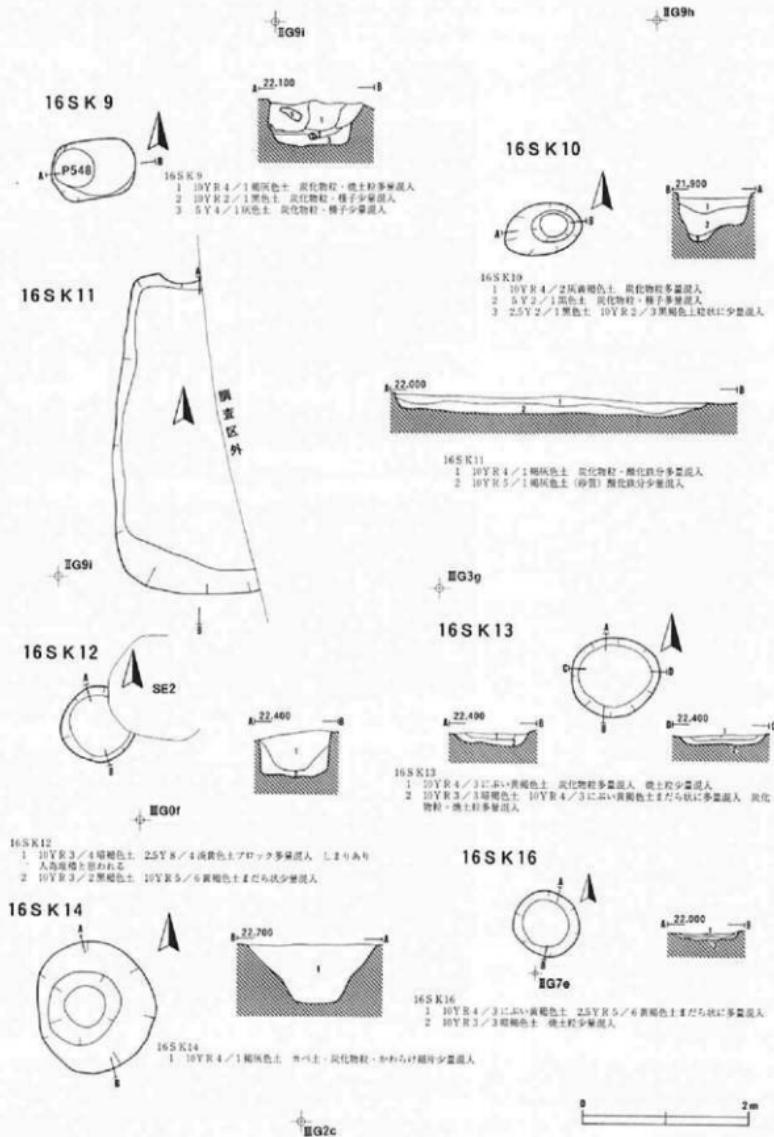
〔重複〕 16S B67のプラン内に位置するが前後関係は不明である。

〔形態〕 開口部は隅丸の長方形である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは22cmである。底面の標高は21.69mである。

〔埋土〕 2層に分けられる。自然堆積人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 墓土から大柄相馬產陶器碗(5093、5094)が出土した。

〔性格〕 プランが16S B67の内部にちょうど納まり、建物に伴う施設の可能性がある。用途は疑のくほみな



第43図 土坑②

どが考えられる。

〔年代〕出土遺物から近世以降のものである。

16S K 12 (第43図、写真同版17)

〔位置〕Ⅲ G 0 fに位置する。

〔重複〕16S B32、16S E 2と重複するが、本土坑が古い。

〔形態〕開口部は梢円形である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは56cmである。底面の標高は21.76mである。

〔埋土〕2層に分けられる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土から土師器内黒坏(19)が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀の可能性が高いが確証はない。

16S K 13 (第43図、写真同版18)

〔位置〕Ⅲ G 2 gに位置する。

〔重複〕16S K 19と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕開口部は梢円形である。断面形は皿型である。確認面からの深さは13cmである。底面の標高は22.14mである。

〔埋土〕2層に分けられる。1層は炭化物粒が多く混じり、2層は焼土粒が多く混じる。底面は明瞭に焼けていない。

〔出土遺物〕埋土から大腹相馬産仏瓶器(5110)、肥前産磁器瓶(5052)が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕重複する16S K 19の年代観から、本土坑は近代以降のものである。

16S K 14 (第43図、写真同版18)

〔位置〕Ⅲ G 2 bに位置する。

〔重複〕16S I 2と重複するが、本土坑が新しい。また16S D 19と重複するが本土坑が古い。また16S B 26とプランが重複するが切り合う部分が無く前後関係を把握できない。

〔形態〕開口部は梢円形である。底面はほぼ平坦である。断面形は下に行くにつれ径が小さくなる。確認面からの深さは70cmである。底面の標高は21.95mである。

〔埋土〕1層に分けられる。人為堆積と推測される。

〔出土遺物〕埋土からかわらけ細片(炭化不能)、焼けた壁土片が少量出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高い。

16S K 15 欠番

16S K 16 (第43図、写真図版18)

【位置】Ⅲ G 7 d、7 eに位置する。

【重複】なし。

【形態】開口部は円形である。断面形は皿型である。確認面からの深さは9cmである。底面の標高は21.82mである。

【埋土】2層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

【出土遺物】埋土から常滑産三筋瓶(2006)が出土した。

【性格】不明である。

【年代】不明である。

16S K 17 (第44図、写真図版19)

【位置】Ⅲ G 3 b、4 bに位置する。

【重複】16S D 12と重複するが本土坑が新しい。また16S B 17と重複するが本土坑が古い。また16S B 19とプランが重複するが切り合う部分が無く前後関係を把握できない。

【形態】開口部は円形である。底面はほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは52cmである。底面の標高は22.00mである。

【埋土】2層に分けられる。2層は有機質分の多い土で種子、ちゅう木が多量に混入する。

【出土遺物】埋土から手づくねかわらけ(1059)、渥美産甕(2074)、ちゅう木(固化不能)が出土した。

【性格】トイレ状土坑である。

【年代】12世紀に属する可能性が高い。

16S K 18 (第44図、写真図版19)

【位置】Ⅲ G 3 d、4 dに位置する。

【重複】16S D 12と重複するが本土坑が新しい。

【形態】開口部は方形である。底面はほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは115cmである。底面の標高は21.18mである。

【埋土】3層に分けられる。全体的に人為堆積と推測される。

【出土遺物】埋土から古代の須恵器大甕(72)、曲物底? (6004)が出土した。

【性格】不明である。

【年代】12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16S K 19 (第44図、写真図版19)

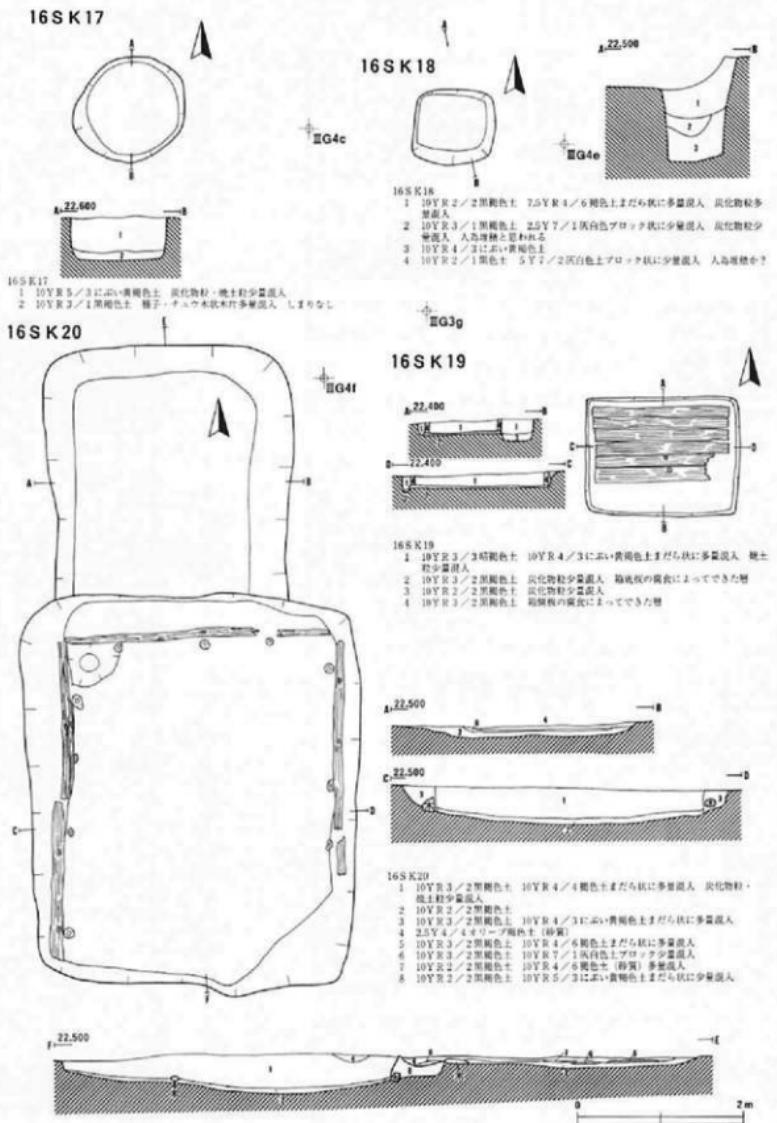
【位置】Ⅲ G 2 gに位置する。

【重複】16S K 13と重複するが本土坑が古い。

【形態】箱を埋設したものである。開口部は方形である。底面はほぼ平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは14cmである。底面の標高は22.14mである。

【埋土】4層に分けられる。4層は箱の板が腐食した層である。

【出土遺物】埋設箱の内部から肥前産磁器皿(5035、5043)、砥石(7008)、硯(7019)、鉄洋(8041)が出土



第44図 土坑③

した。

〔性格〕 碓石民家内に設置された収納用の施設と推測される。

〔年代〕 近世後半～近代に属すると推測される。

16S K20 (第44図、写真図版19、20)

〔位置〕 III G 2 e、3 e、4 e に位置する。

〔重複〕 16S K25、16S K26、16S B21と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕 南側の深い方形のプランと北側の浅い方形プランからなる。南側の方形プランの壁際には土留めがある。

〔埋土〕 8層に分けられる。3層は土留めの表込めの土である。

〔出土遺物〕 埋土から古代の須恵器大甕 (75)、ロクロかわらけ (1108)、常滑窯広口盃 (2011)、常滑窯壺 (2029)、瀬戸窯壺 (2055)、中国窯白磁碗 (3007)、肥前窯磁器碗 (5020)、肥前窯磁器皿 (5047)、肥前窯青磁花生 (5054)、肥前窯青磁瓶 (5055)、大畠相馬窯陶器碗 (5095)、瀬戸美濃窯陶器香炉 (5104)、在地窯陶器鉢 (5112)、在地窯陶器行平 (5115)、在地窯陶器切立 (5118)、18世紀の常滑窯壺 (5126)、素焼きの焼炉 (5148)、砥石 (7002、7003、7007、7016.)、鉈 (8031)、釘 (8034) が出土した。

〔性格〕 碓石民家に伴う既のくぼみである。上層は痕跡が残っていないが磚石建物と推測される。

〔年代〕 近世後半～近代に属すると推測される。

16S K21 (第45図、写真図版20)

〔位置〕 II G 9 b に位置する。

〔重複〕 16S B52とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕 開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは86cm、底面の標高は21.35mである。

〔埋土〕 2層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 埋土からロクロかわらけ (1102)、不明木製品 (6001) が出土した。また2層中にちゅう木状の木片があった。

〔性格〕 トイレ状土坑の可能性がある。

〔年代〕 12世紀に属する可能性が高い。

16S K22 (第45図、写真図版20)

〔位置〕 III G 4 e に位置する。

〔重複〕 16S D13と重複するが本土坑が新しい。

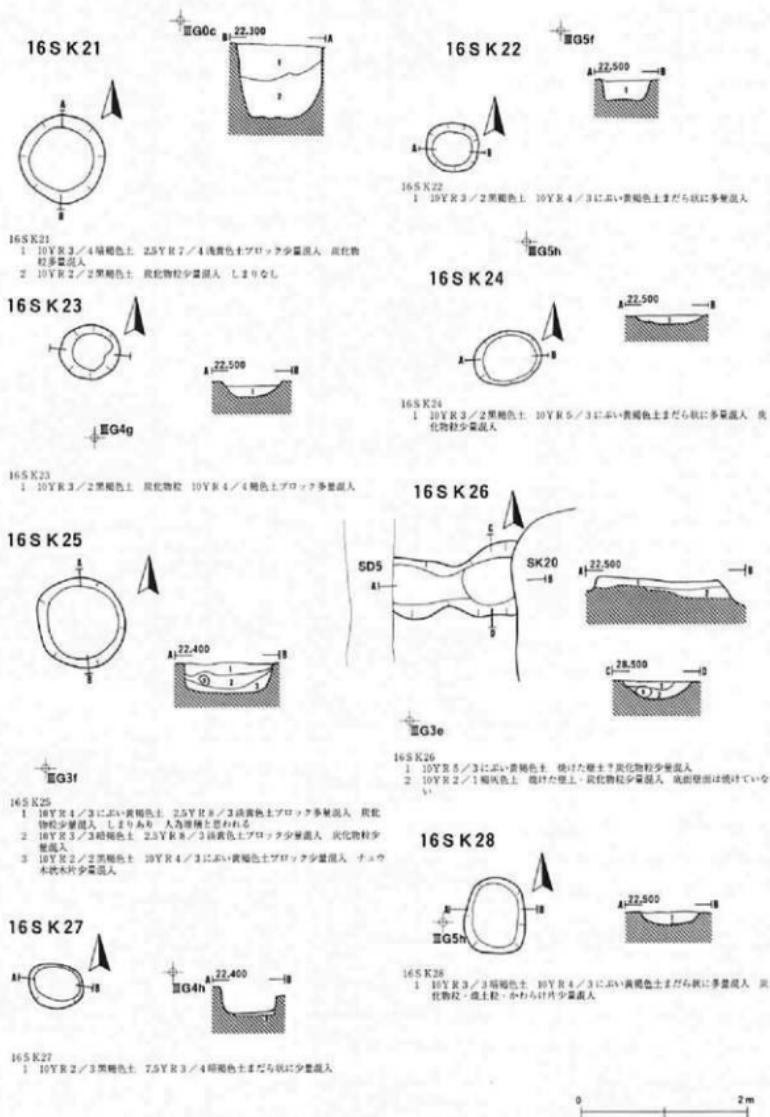
〔形態〕 開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは21cm、底面の標高は22.18mである。

〔埋土〕 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 埋土から素焼きの焜炉 (5147) が出土した。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 近代以降と推測される。



第45図 土坑④

16S K23 (第45図、写真図版20)

〔位置〕 III G 4 f、4 g に位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは18cm、底面の標高は22.18mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S K24 (第45図、写真図版21)

〔位置〕 III G 4 g、4 h に位置する。

〔重複〕16S D12と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは10cm、底面の標高は22.30mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S K25 (第45図、写真図版21)

〔位置〕 III G 3 f に位置する。

〔重複〕16S K20と重複するが本土坑が古い。また16S B21とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。横はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは36cm、底面の標高は21.92mである。

〔埋土〕3層に分けられる。3層は有機質分の多い土で、ちゅう木状の木片を含む。

〔出土遺物〕3層からちゅう木状（固化不能）の木片が出土した。

〔性格〕トイレ状土坑である。

〔年代〕12世紀のものと推測される。

16S K26 (第45図、写真図版21)

〔位置〕 III G 3 f に位置する。

〔重複〕16S K20、16S D 5と重複するが本土坑が古い。

〔形態〕東と西側を切られており平面形は不明である。確認面からの深さは20cm、底面の標高は28.18mである。

〔埋土〕2層に分けられる。人為堆積、自然堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S K27 (第45図、写真図版21)

〔位置〕Ⅲ G 3 g に位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。横はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは36cm、底面の標高は21.94mである。

〔埋土〕調査のミスで堆土の大部分を断面を残さず掘り下げてしまった。残った堆土は1層に分けられる。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S K28 (第45図、写真図版22)

〔位置〕Ⅲ G 4 h、5 h に位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は梢円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは15cm、底面の標高は22.26mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕手づくねかわらけ(1010、1011、1055)、湖美鹿甕(2054、2072)が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16S K29 (第46図、写真図版22)

〔位置〕Ⅲ G 5 h に位置する。

〔重複〕16S B65と重複するが本土坑が古い。また16S B64とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は梢円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは10cm、底面の標高は22.38mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

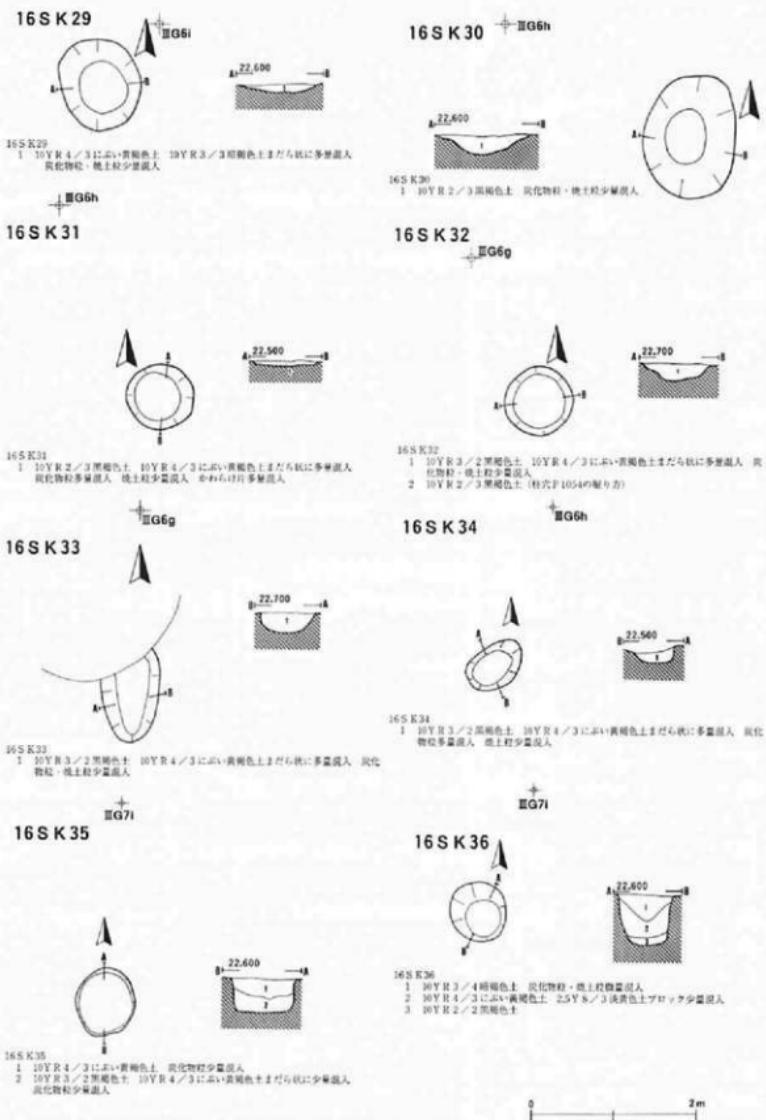
〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S K30 (第46図、写真図版22)

〔位置〕Ⅲ G 5 h に位置する。

〔重複〕16S K29と重複するが本土坑が新しい。また16S B63と重複するが本土坑が古い。また16S B64、16S B65とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。



第46図 土坑(5)

〔形態〕開口部は梢円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは22cm、底面の標高は22.22mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から瀬戸美濃産志野皿（5071）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕出土遺物から近世以降の土坑と推測される。

16S K31 (第46図、写真図版22)

〔位置〕Ⅲ G 5 h に位置する。

〔重複〕16S B64、16S K39と重複するが本土坑が新しい。また16S B65とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは6cm、底面の標高は22.40mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ（1061、1070、1083）常滑産甕（2027）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16S K32 (第46図、写真図版23)

〔位置〕Ⅲ G 5 g に位置する。

〔重複〕16S B7、16S B8と重複するが本土坑が古い。また16S B5とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは18cm、底面の標高は22.44mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から中国産青白磁皿（3033）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16S K33 (第46図、写真図版23)

〔位置〕Ⅲ G 5 f、5 g に位置する。

〔重複〕16S B19、16S E7と重複するが本土坑が古い。また16S B5、16S B7、16S B8とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は梢円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは24cm、底面の標高は22.38mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ（1015、1030、1074）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16S K34 (第46図、写真図版23)

〔位置〕Ⅲ G 5 g に位置する。

〔重複〕16S D16と重複するが前後関係は明らかではない。また16S B64とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は梢円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは14cm、底面の標高は22.32mである。

〔埴土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埴土中から手づくねかわらけ(1006、1028)が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16S K35 (第46図、写真図版23)

〔位置〕Ⅲ G 6 i に位置する。

〔重複〕16S B62、16S B63とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は梢円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは40cm、底面の標高は22.06mである。

〔埴土〕2層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埴土中から古代の須恵器火堀(40)が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S K36 (第46図、写真図版24)

〔位置〕Ⅱ G 6 i に位置する。

〔重複〕16S B63と重複するが本土坑が古い。また16S B62とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは60cm、底面の標高は21.95mである。

〔埴土〕3層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

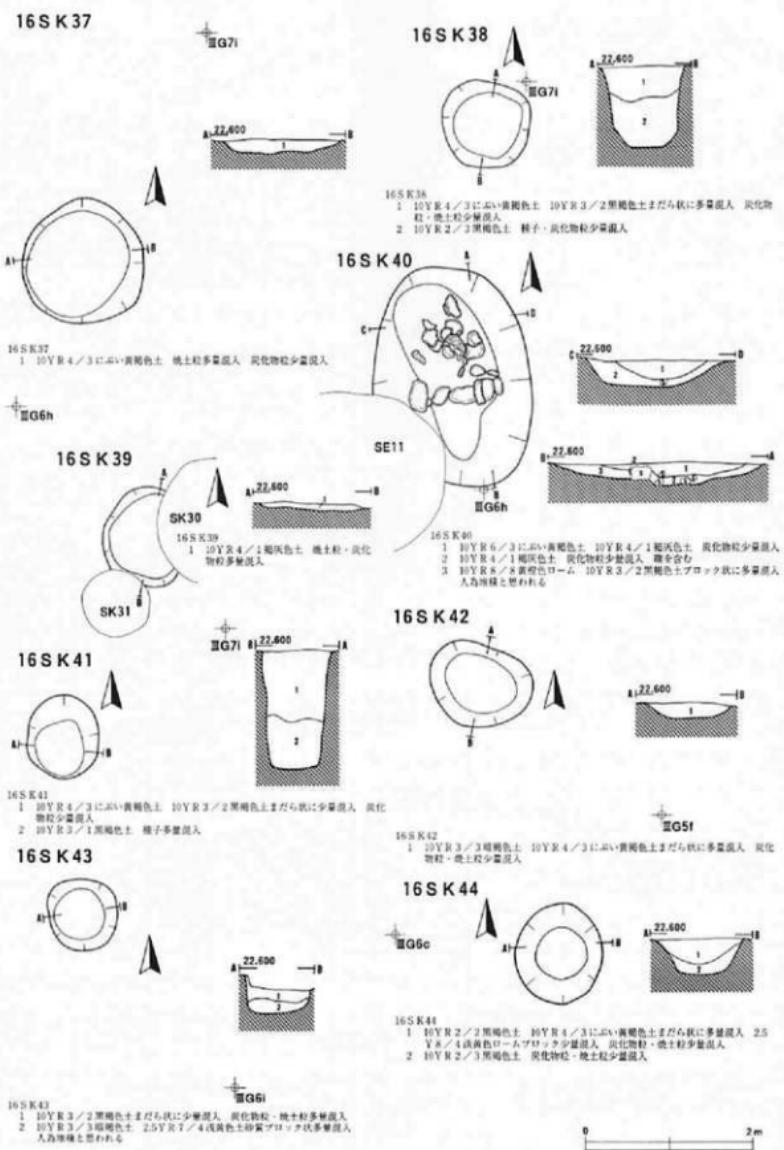
〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S K37 (第47図、写真図版24)

〔位置〕Ⅲ G 6 h に位置する。

〔重複〕16S K43と重複するが本土坑が新しい。また16S B64と重複するが本土坑が古い。また16S B62、16S B63とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。



第47図 土坑⑥

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは18cm、底面の標高は22.38mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から古代の須恵器大甕(52)、手づくねかわらけ(1080)が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S K38 (第47図、写真図版24)

〔位置〕Ⅲ G 6 hに位置する。

〔重複〕16S B62とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは98cm、底面の標高は21.60mである。

〔埋土〕2層に分けられる。2層は有機質分の多い土で種子が混じる。

〔出土遺物〕埋土から手づくねかわらけ(1047)、須恵器系陶器甕(2088)、不明木製品(6002)が出土した。

〔性格〕トイレ状土坑である。

〔年代〕12世紀後半に属すると思われる。

16S K39 (第47図、写真図版24)

〔位置〕Ⅲ G 5 hに位置する。

〔重複〕16S K30、16S K31と重複するが本土坑が古い。また16S B64、16S B65とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは8cm、底面の標高は22.38mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ(1002)が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S K40 (第47図、写真図版25)

〔位置〕Ⅲ G 6 g、6 hに位置する。

〔重複〕16S E11と重複するが本土坑が古い。また16S B6、16S K48と重複するが本土坑が新しい。また16S B4、16S B64とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。また16S D16と重複するが同時存在と推測される。

〔形態〕開口部は梢円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは32cm、底面の標高は22.16mである。

〔埋土〕3層に分けられる。人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕埋土中から瀬美産甕(2073)、中国産青磁碗(3039)、挽臼(7021)、鉄型?(8043)が出土した。

〔性格〕溝である16S D16と一緒にもので、水貯め、洗い場といった用途が推測される。

〔年代〕近世以降のものである。

16S K41 (第47図、写真図版25)

〔位置〕Ⅲ G 6 hに位置する。

〔重複〕16S B62とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは142cm、底面の標高は21.12mである。

〔埋土〕2層に分けられる。2層は有機質分の多い土で種子が混じる。

〔出土遺物〕埋土から手づくねかわらけ(1023、1029、1073)、遼英産陶器甕(2077)が出土した。

〔性格〕トイレ状土坑である。

〔年代〕12世紀後半に属すると思われる。

16S K42 (第47図、写真図版25)

〔位置〕Ⅲ G 5 eに位置する。

〔重複〕16S D17と重複するが本土坑が新しい。

〔形態〕開口部は梢円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは18cm、底面の標高は22.30mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ(1088)、常滑産盃(2005)が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16S K43 (第47図、写真図版25)

〔位置〕Ⅲ G 6 hに位置する。

〔重複〕16S K37と重複するが本土坑が古い。また16S B62、16S B63、16S B64とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは46cm、底面の標高は22.26mである。

〔埋土〕2層に分けられる。2層は人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕埋土から手づくねかわらけ(1036)が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16S K44 (第47図、写真図版26)

〔位置〕Ⅲ G 5 c、6 cに位置する。

〔重複〕16S B13、16S B15とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕開口部は梢円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは44cm、底面の標高は22.11mである。

る。

〔埋土〕 2層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S K45 欠番

16S K46 欠番

16S K47 欠番

16S K48 (第48図、写真図版26)

〔位置〕 III G 6 h に位置する。

〔重複〕 16S K40と重複するが本土坑が古い。また16S B 4、16S B 64とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕 開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは16cm、底面の標高は22.44mである。

〔埋土〕 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S K49 欠番

16S K50 (第48図、写真図版26)

〔位置〕 III G 6 g に位置する。

〔重複〕 16S B 6 の柱穴P1050と重複するが本土坑が古い。また16S B 3、16S B 4、16S B 7、16S B 8とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕 開口部は不整な形状である。断面形は皿状である。確認面からの深さは28cm、底面の標高は22.30mである。

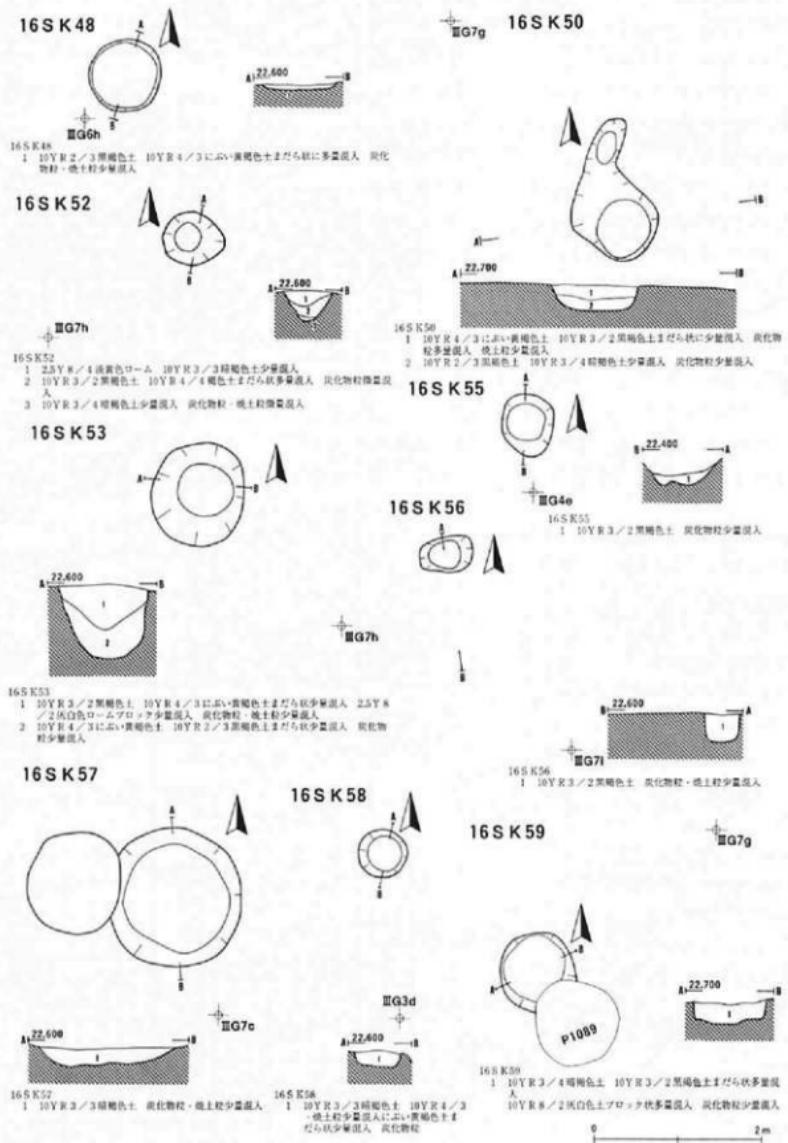
〔埋土〕 2層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 墓土中から手づくねかわらけ(1014、1062)が出土した。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 12世紀後半の建物16S B 6よりも古いくことと、出土遺物から12世紀後半に属すると推測される。

16S K51 欠番



第48図 土坑⑦

16S K52 (第48図、写真図版26)

【位置】 III G 7 h に位置する。

【重複】 16S B 2、16S B 6 とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

【形態】 開口部は円形である。断面形は深い皿状である。確認面からの深さは36cm、底面の標高は22.40mである。

【埋土】 3層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

【出土遺物】 墓土中から手づくねかわらけ (1048) が出土した。

【性格】 不明である。

【年代】 12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16S K53 (第48図、写真図版26)

【位置】 III G 7 h に位置する。

【重複】 16S K57と重複するが本土坑が新しい。また16S K56と接するが前後関係を判断できなかった。

【形態】 開口部は円形である。断面形は深い皿状である。確認面からの深さは88cm、底面の標高は21.64mである。

【埋土】 2層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

【出土遺物】 墓上中から石製の硯 (7020) が出土した。

【性格】 不明である。

【年代】 不明である。

16S K54 欠番

16S K55 (第48図、写真図版27)

【位置】 III G 4 d、4 e に位置する。

【重複】 16S D 5 と重複するが本土坑が古い。また16S D 12と重複するが前後関係を明らかにできなかった。

【形態】 開口部は梢円形である。断面形は不整な形状である。確認面からの深さは15cm、底面の標高は21.98mである。

【埋土】 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

【出土遺物】 なし

【性格】 不明である。

【年代】 不明である。

16S K56 (第48図、写真図版27)

【位置】 III G 7 h に位置する。

【重複】 16S K53と接するが前後関係を判断できなかった。

【形態】 開口部は梢円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは38cm、底面の標高は22.18mである。

〔埋土〕 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S K57 (第48図、写真図版27)

〔位置〕 III G 7 h に位置する。

〔重複〕 16S K53と重複するが本土坑が古い。

〔形態〕 開口部は円形である。断面形は皿状である。確認面からの深さは20cm、底面の標高は22.32mである。

〔埋土〕 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S K58 (第49図、写真図版27)

〔位置〕 III G 3 c に位置する。

〔重複〕 16S D11重複するが本土坑が古い。

〔形態〕 開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは20cm、底面の標高は22.32mである。

〔埋土〕 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S K59 (第50図、写真図版28)

〔位置〕 III G 6 f に位置する。

〔重複〕 16S B 6 の柱穴 P 1089、16S B 7 の柱穴 P 1068と重複するが本土坑が古い。

〔形態〕 開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁はほぼ垂直に立つ。確認面からの深さは25cm、底面の標高は22.30mである。

〔埋土〕 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 12世紀に属する可能性が高いが確証はない。

16S K101 (第49図、写真図版28)

〔位置〕 III G 3 h に位置する。

〔重複〕 なし。

〔形態〕開口部は円形である。底面は概ね平坦である。壁は斜めに立つ。確認面からの深さは32cm、底面の標高は21.90mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から縄文時代後期後葉～晚期初頭の深鉢（9016）が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16S K 102 (第49図、写真図版28)

〔位置〕Ⅲ G 2 h に位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は梢円形である。底面には凹凸がある。確認面からの深さは5cm、底面の標高は21.82mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16S K 103 (第49図、写真図版28)

〔位置〕Ⅲ G 5 c に位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は梢円形である。底面には凹凸がある。確認面からの深さは10cm、底面の標高は22.12mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。人為的な造形ではない可能性も高い。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16S K 104 (第49図、写真図版29)

〔位置〕Ⅲ G 6 e に位置する。

〔重複〕なし。

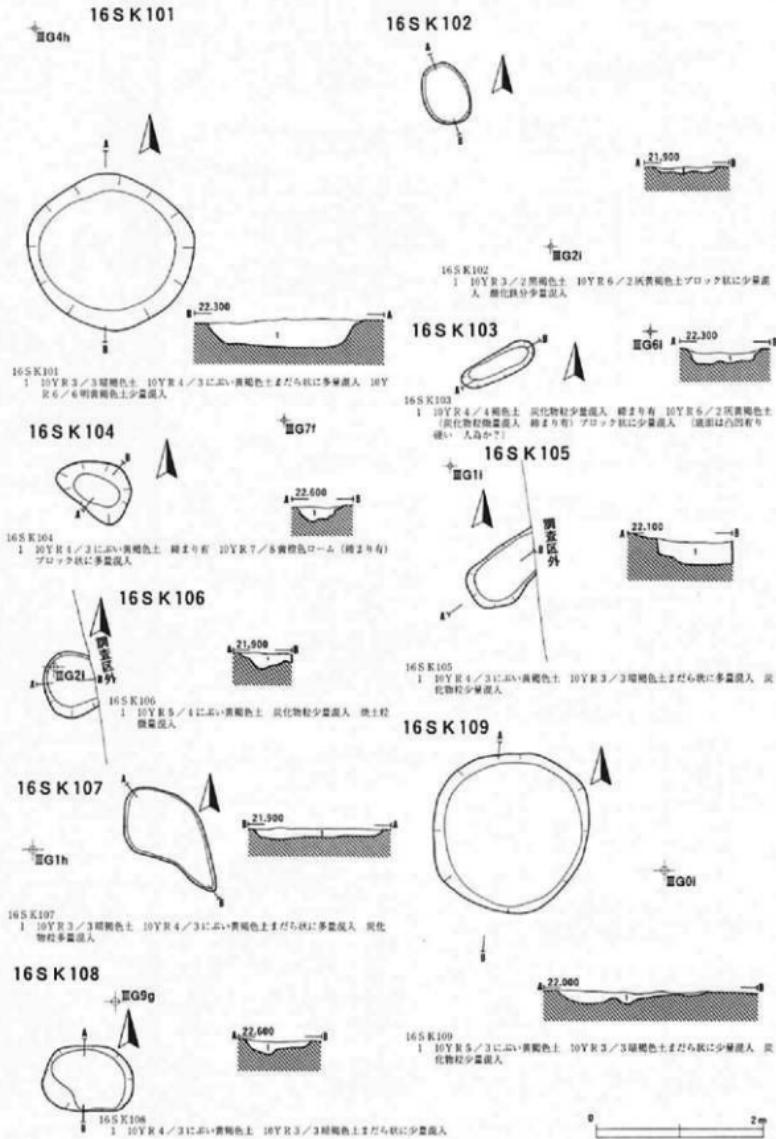
〔形態〕開口部は不整形である。底面には凹凸がある。確認面からの深さは16cm、底面の標高は22.34mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。人為的な造形ではない可能性も高い。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。



第49図 土坑(8)

16S K 105 (第49図、写真図版29)

〔位置〕 III G 0 i に位置する。東側は16次調査区に延びる。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は梢円形と思われる。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは26cm、底面の標高は21.72mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16S K 106 (第49図、写真図版29)

〔位置〕 III G 1 h、1 i、2 h、2 i に位置する。東側は16次調査区に延びる。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は不整な円形である。底面には凹凸がある。確認面からの深さは20cm、底面の標高は21.65mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。人為的な造形ではない可能性も高い。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16S K 107 (第49図、写真図版29)

〔位置〕 III G 0 h、0 i に位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は不整な形状である。底面は概ね平坦である。確認面からの深さは8cm、底面の標高は21.72mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。人為的な造形ではない可能性も高い。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16S K 108 (第49図、写真図版30)

〔位置〕 II G 8 f、8 e に位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は梢円形である。底面には凹凸がある。確認面からの深さは12cm、底面の標高は21.80mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。人為的な造形ではない可能性も高い。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

16S K 109 (第49図、写真図版30)

〔位置〕Ⅱ G 9 h、Ⅲ G 0 hに位置する。

〔重複〕なし。

〔形態〕開口部は円形である。底面には凹凸がある。確認面からの深さは15cm、底面の標高は21.82mである。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から縄文時代後期後業～晩期初頭の深鉢(9009、9012)、往口土器(9079)が出土した。

〔性格〕不明である。人為的な造構ではない可能性も多い。

〔年代〕縄文時代に属する可能性が高いが確証はない。

5 溝

溝は21条検出した。16S D 12、16S D 13は19次調査区にのびるが、19次調査次でもそれぞれに造構の名前を付している。16S D 12=19S D 3、16S D 13=19S D 2である。ここでは16次調査区で検出した部分だけについて報告する。

16S D 1 (第50図、写真図版30)

〔位置〕Ⅲ G 5 b、5 cに位置する。

〔重複〕16S E 10、16S E 12、16S E 14、16S D 15と重複するが本溝が新しい。また16S B 13、16S B 15とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕平面形はほぼ直角である。溝の中に砾を入れている。排水目的の暗渠である。水の流れる方向は検出した分では不明瞭である。

〔埋土〕1層に分けられる。砾が詰められている。

〔出土遺物〕詰める砾として、挽臼(7021、7022)、板碑(7026)が使用されていた。

〔性格〕排水のための暗渠である。

〔年代〕詰めこまれた挽臼は近世のものである。よって本溝は近世以降の構築である。

16S D 2 (第50図、写真図版30)

〔位置〕Ⅱ G 8 c、8 dに位置する。

〔重複〕16S D 3、16S D 4、16S B 52、16S B 56、16S B 58と重複するが本溝が新しい。また16S B 55、16S B 61とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕平面形はほぼ直角である。調査区外西側にさらに延びていく。溝の傾斜は著しくないが、西から東に水が流れる。

〔埋土〕2層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。

〔出土遺物〕埋土から古代の須恵器大甕(54)、手づくねかわらけ(1005)、ロクロかわらけ(1097)が出土した。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S D 3 (第50図、写真図版31)

〔位置〕 II G 8 d、9 d に位置する。

〔重複〕 16S B54、柱列4と重複するが本溝が新しい。また16S D 2、16S B55と重複するが本溝が古い。また16S B53、16S B47とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。また16S B 46と重複するが前後関係をはっきり把握できなかった。

〔形態〕 平面形はほぼ真直ぐである。長さ約8.5mで完結する。溝の傾斜方向は明瞭ではない。

〔埋土〕 1層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。

〔出土遺物〕 埋土から鐵治津 (8038) が出土した。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S D 4 (第50図、写真図版31)

〔位置〕 II G 9 c に位置する。

〔重複〕 16S B47、16S D 2と重複するが本溝が古い。また16S B61と重複するが本溝が新しい。また16S B49、16S B50、16S B52、16S B53、16S B56とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕 平面形はほぼ真直ぐである。北側は完結し、南側は16S D 2に切られるがその南に続かないので長さ約3mと推測される。溝の傾斜方向は明瞭ではない。

〔埋土〕 1層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S D 5 (第55図、写真図版31、32)

〔位置〕 II G 8 e、9 e、0 d、0 e、1 d、1 e、2 d、3 d、4 d、5 e、6 e に位置する。

〔重複〕 16S D12、16S D13、16S K26、16S K55、16S B 6、16S B28、16S B29、16S B30と重複するが本溝が新しい。また16S B61と重複するが本溝が新しい。

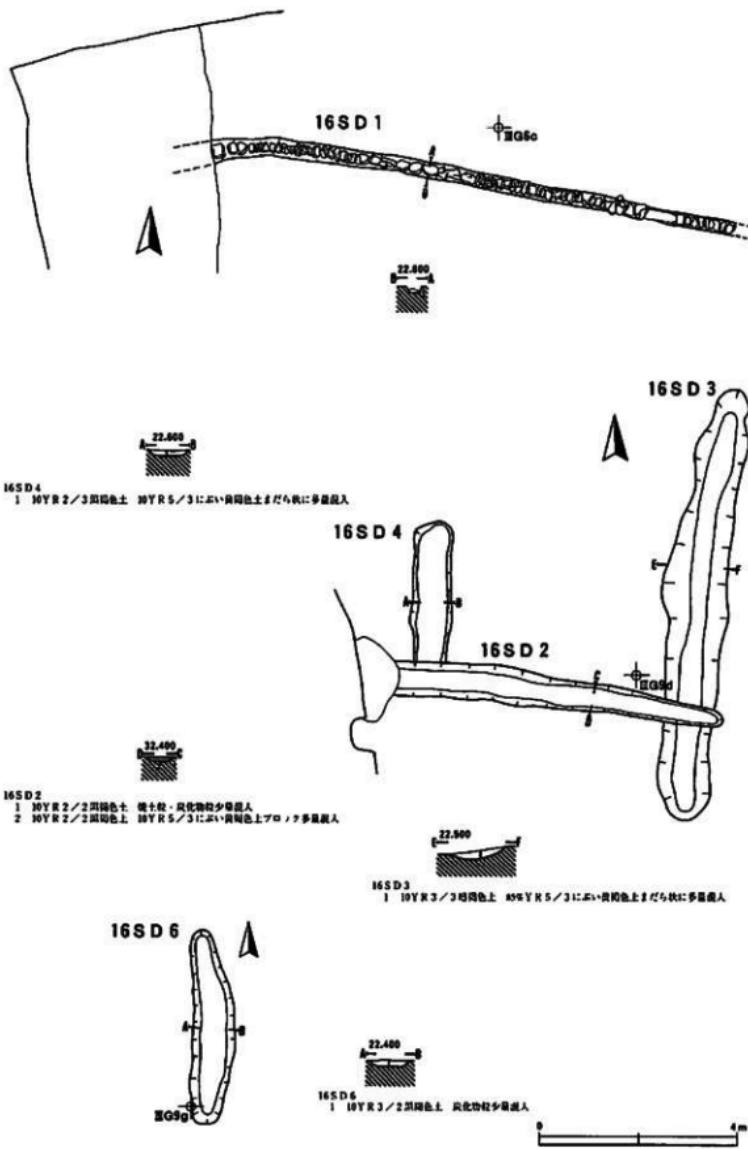
〔形態〕 平面形は検出部分の真中あたりが西側に凸型に出っ張る。北側はなお調査区外に続く。溝の傾斜方向は北から南に水が流れる。

〔埋土〕 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 埋土中から肥前磁器皿 (5037)、在地座陶器行平 (5132)、砥石 (7001)、寛永通寶 (8018) が出土した。

〔性格〕 近世～近代の屋敷の区画、排水の用途の溝と推測される。

〔年代〕 出土遺物と近世掘立柱民家との重複関係から、19世紀～近代にかけての年代と推測される。



第50図 溝①

16S D 6 (第50図、写真図版32)

〔位置〕 II G 9 g に位置する。

〔重複〕 16S B28、16S B30、16S B36と重複するが本溝が古い。

〔形態〕 平面形はほぼ真直ぐである。長さ3.9mで完結する。溝の傾斜方向は明瞭ではない。

〔埋土〕 1層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。

〔出土遺物〕 墓土から渥美産壺（2046）が出土した。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 墓土の質感から12世紀の可能性が高い。しかし確証はない。

16S D 7 (第51図、写真図版32)

〔位置〕 II G 7 h、8 h に位置する。

〔重複〕 16S B28、16S B67と重複するが本溝が新しい。

〔形態〕 平面形はL字形である。南端が膨脹し調査区外に続く。溝の傾斜方向は西から東、そして南側に水が流れるようになっている。

〔埋土〕 1層に分けられる。

〔出土遺物〕 墓土から平瓦（4004）肥前産磁器皿（5039）、肥前（唐津）窯陶器皿（5082）、大隅相馬窯陶器碗（5089）、肥前窯陶胎染付香炉（5101）、在地窯陶器おはぐろ壺（5116）、在地窯陶器擂鉢（5128、5133）が出土した。

〔性格〕 排水のための溝と推測される。

〔年代〕 建物の切り合い関係と出土遺物から19世紀代の溝と推測される。

16S D 8 (第51図、写真図版32)

〔位置〕 III G 1 b、1 c に位置する。

〔重複〕 16S B38、16S B49と重複するが本溝が古い。

〔形態〕 平面形はほぼ真直ぐである。溝の中に砾を並べた暗渠である。西側では溝の掘方が失われ、砾の並びだけが検出された部分もある。溝の傾斜方向は検出された分では明瞭でない。

〔埋土〕 1層に分けられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 排水用の暗渠である。

〔年代〕 近世～近代の溝である。

16S D 9 (第51図、写真図版33)

〔位置〕 II G 7 g に位置する。

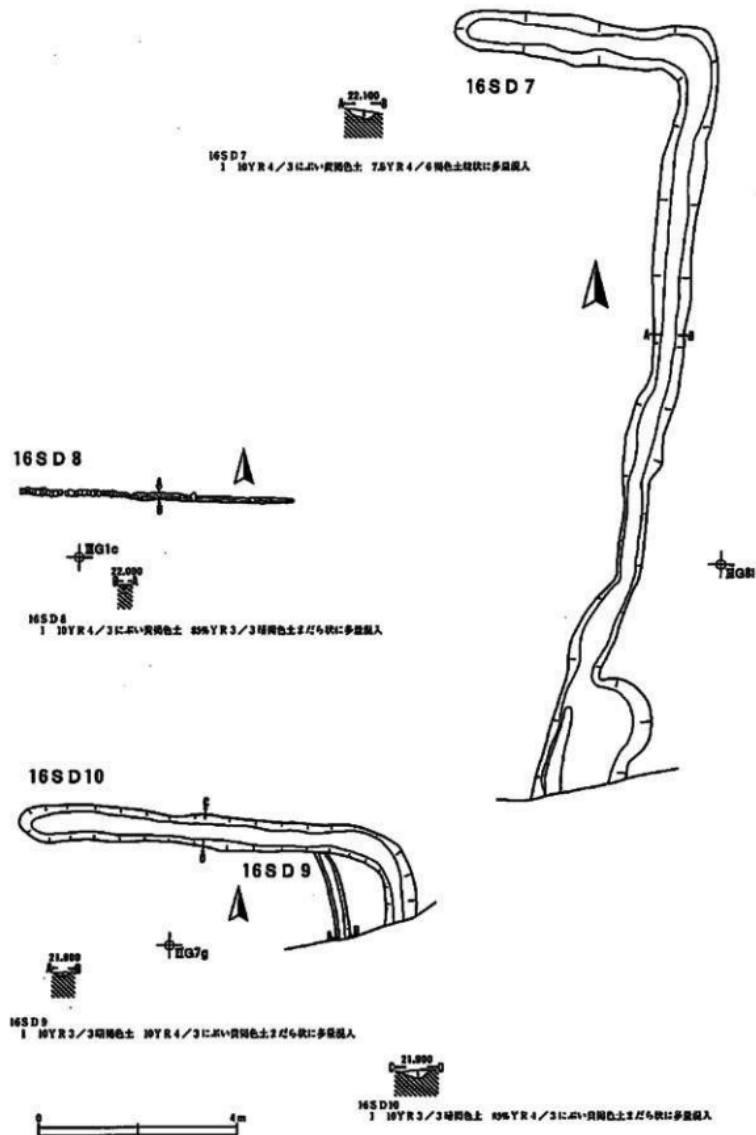
〔重複〕 16S D10と重複するが本溝が古い。

〔形態〕 部分的な検出であるが、検出された分では平面形はほぼ真直ぐである。溝の傾斜方向は明瞭でない。

〔埋土〕 1層に分けられる。明瞭な流水の痕跡はない。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。



第51図 溝②

〔年代〕不明である。

16S D 10 (第51図、写真図版33)

〔位置〕 II G 7 f、7 g に位置する。

〔重複〕 16S D 9 と重複するが本溝が新しい。

〔形態〕 平面形は L 字形である。南端は調査区外に続く。溝の傾斜方向は西から東、そして南側に水が流れようになっている。

〔埋土〕 1 層に分けられる。

〔出土遺物〕 墓土から肥前蓋磁器皿 (5030) が出土した。

〔性格〕 排水のための溝と推測される。

〔年代〕 出土遺物から18世紀以降の溝と推測される。

16S D 11 (第52図、写真図版33)

〔位置〕 III G 3 b、3 c、3 d に位置する。

〔重複〕 16S B19、16S D 5 と重複するが本溝が古い。また16S B26と重複するが前後関係を把握できない。

〔形態〕 平面形はほぼ真直ぐである。東端は16S D 5 に切られるが、本末は東側にまだ延びていたと推測される。溝の傾斜方向は西から東に水が流れる。

〔埋土〕 2 層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S D 12 (第55図、写真図版34)

〔位置〕 III G 3 b、4 b、3 c、4 c、3 d、4 d、4 e、4 f、4 g、4 h に位置する。

〔重複〕 16S D17 と重複するが本溝が新しい。16S B17、16S B19、16S E13、16S D 5、16S D13、16S K17、16S K18、16S K24、16S K55 と重複するが本溝が古い。また16S B18とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

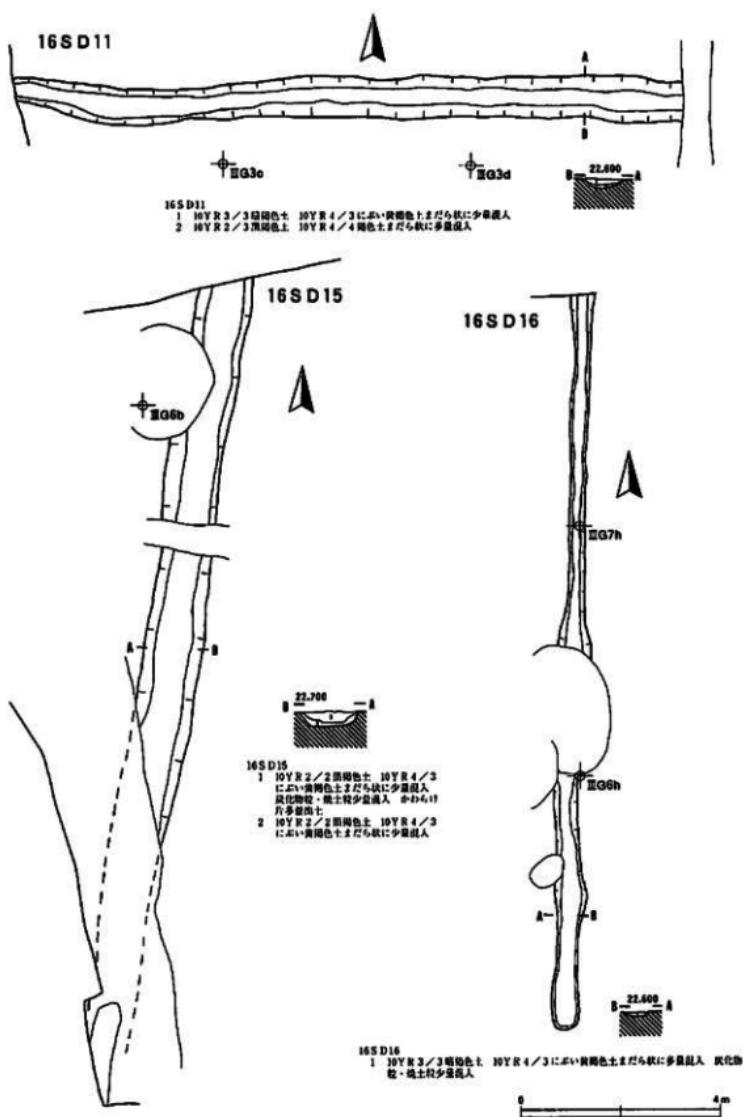
〔形態〕 平面形は概ね真直ぐである。東側は19次調査区 (19S D 3) に続く。溝の傾斜方向は明瞭ではないが、全体的には西から東に水が流れる。

〔埋土〕 2 層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 墓土中から古代の須恵器大甕 (35、53、57、64、65、73)、手づくねかわらけ (1090)、ロクロかわらけ (1095、1110)、柱状高台かわらけ (1122)、軒平瓦 (4003)、銀治津 (8037)、石獣 (9114) が出土した。

〔性格〕 12世紀の都市を区画する溝と推測される。道路側溝の16S D15と接する部分は検出されていないが同時存在と推測される。

〔年代〕 12世紀後半の年代と推測される。



第52図 溝③

16S D 13 (第55図、写真図版34)

〔位置〕 III G 5 b、5 c、4 d、5 d、4 e、5 e、4 f、4 g、4 hに位置する。

〔重複〕 16S D12、16S D15、16S D17、16S D20と重複するが本溝が新しい。また16S B13、16S D5と重複するが本溝が古い。また16柱列2とプランが重複するが直接切り合う部分がなく前後関係は不明である。

〔形態〕 平面形は概ね直ぐである。西側は調査区外、東側は19次調査区(19S D 2)に続く。溝の傾斜方向は明瞭ではないが、全体的には西から東に水が流れる。

〔埋土〕 2層に分けられる。明瞭な流水の痕跡は認められない。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 墓土中から古代の土師器ロクロ内黒坏(15)、須恵器大甕(76、79)、手づくねかわらけ(1012、1034、1051、1075)、ロクロかわらけ(1109)、柱状高台かわらけ(1121)、常滑産陶器甕(2028)、中国原磁水注(3017)、绳文時代の石皿(9190)が出土した。

〔性格〕 不明であるが、区画のための溝の可能性が高い。

〔年代〕 12世紀後半の区画溝、道路側溝を切っており、13世紀～14世紀の所属の可能性が高い。

16S D 14 (第53図、写真図版35)

〔位置〕 III G 3 g、3 h、4 g、4 hに位置する。

〔重複〕 16S K27と重複するが本溝が古い。

〔形態〕 平面形はほぼ直ぐである。溝の傾斜方向は不明瞭である。

〔埋土〕 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S D 15 (第52図、写真図版35)

〔位置〕 III G 5 b、6 bに位置する。

〔重複〕 16S B19、16S E12、16S E14、16S D 1、16S D13と重複するが本溝が古い。

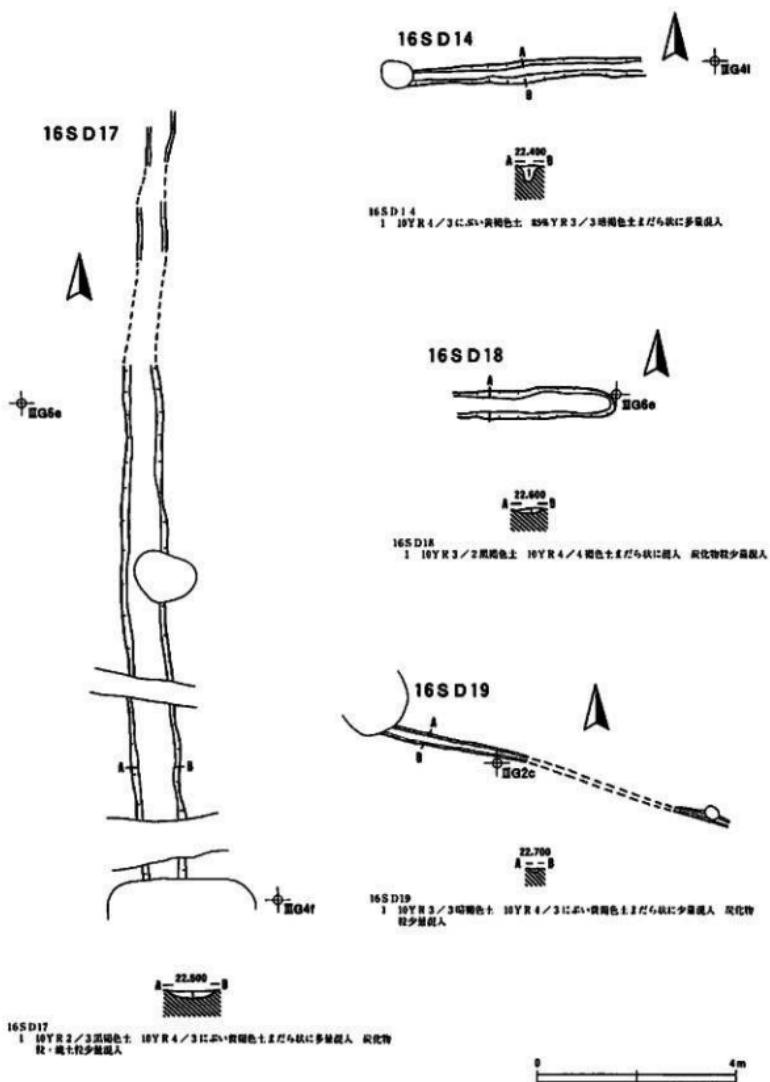
〔形態〕 平面形はほぼ直ぐである。南側は擾乱によって失われているが、調査区際では溝の底面近くが生き残っている部分がある。そしてさらに溝は調査区外南に続く。北側も調査区外に続く。溝の傾斜方向は明瞭ではないが、北から南に水が流れるようである。

〔埋土〕 2層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 墓土中から土師器ロクロ内黒坏(16、18)、土師器ロクロ坏(21)、土師器小型長胴甕(27)、古代の須恵器大甕(41、46、47、48、56)、手づくねかわらけ(1019、1035、1045、1076)、内折れかわらけ(1118)、常滑産陶器片口鉢(2004)、常滑産陶器広口壺(2010)、常滑産陶器甕(2013、2014、2015)、渥美産陶器山茶碗(2037)、渥美産陶器片口鉢(2038)、渥美産陶器甕(2047、2051、2053、2065、2068)、須恵器系陶器片口鉢(2085)、須恵器系陶器甕(2091)、砥石(7011)、鐵治津(8040)が出土した。

〔性格〕 12世紀の道路の側溝である。対になる溝(13S D 1)は泉屋遺跡13次調査(東北本線西側)で検出されている。

〔年代〕 12世紀後半に属すると推測される。廃絶時期は藤原氏滅亡直後と思われる。



第53図 溝④

16S D 16 (第52図、写真図版35)

〔位置〕 III G 5 g、6 g、7 g に位置する。

〔重複〕 16S B 6 と重複するが本溝が新しい。また16S E 11と重複するが本溝が古い。また16S B 1、16S B 2、16S B 3、16S B 4、16S B 64とプランが重複するが直接切りあう部分がなく前後関係を判断できない、16S K 40とは同時存在の可能性が高い。

〔形態〕 平面形はほぼ真直ぐである。北側は調查区外に統く。溝の傾斜方向は北から南に水が流れるようになっている。

〔埋土〕 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 16S K 40に導水し、排水する溝と推測される。

〔年代〕 16S K 40と一体のものであれば近世以降に属する。

16S D 17 (第53図、写真図版35、36)

〔位置〕 III G 4 f、5 f、6 f に位置する。

〔重複〕 16S B 6、16S K 20、16S K 42、16S D 12、16S D 13と重複するが本溝が古い。

〔形態〕 平面形はほぼ真直ぐである。北側は切れ切れの状態になる。溝の傾斜は顕著でないが、北から南に水が流れるようになっている。

〔埋土〕 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 墓土から手づくねかわらけ(1072)が出土した。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 出土遺物と遺構の重複関係から12世紀代と推測される。

16S D 18 (第53図、写真図版35、36)

〔位置〕 III G 5 d、5 e に位置する。

〔重複〕 16S B 13、16S B 15と重複するが本溝が古い。

〔形態〕 平面形はほぼ真直ぐである。溝の傾斜方向は顕著でない。

〔埋土〕 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔性格〕 不明である。

〔年代〕 不明である。

16S D 19 (第53図、写真図版35、36)

〔位置〕 III G 1 c、2 b、2 c に位置する。

〔重複〕 16S B 26と重複するが本溝が古い。また16S I 1と重複するが本溝が新しい。また16S K 14と重複するが前後関係を判断できなかった。また16S B 37とプランが重複するが直接切りあう部分がなく前後関係を判断できない。

〔形態〕 平面形はほぼ真直ぐである。途中途切れる部分がある。溝の傾斜方向は明瞭でない。

〔埋土〕 1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。

16S D20 (第54図、写真図版36)

〔位置〕III G 4 c、5 cに位置する。

〔重複〕16S B17、16S D13と重複するが本溝が古い。また16S B19、16柱列2、16柱列3とプランが重複するが直接切りあう部分がなく前後関係を判断できない。

〔形態〕平面形はほぼ真直ぐである。南側でプランが不明瞭になり途切れる。溝の傾斜方向は明瞭でない。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕埋土中から手づくねかわらけ(1068)が出土している。

〔性格〕不明である。

〔年代〕出土遺物から、12世紀後半の可能性が高い。

16S D21 (第54図、写真図版36)

〔位置〕III G 8 h、8 iに位置する。

〔重複〕なし。

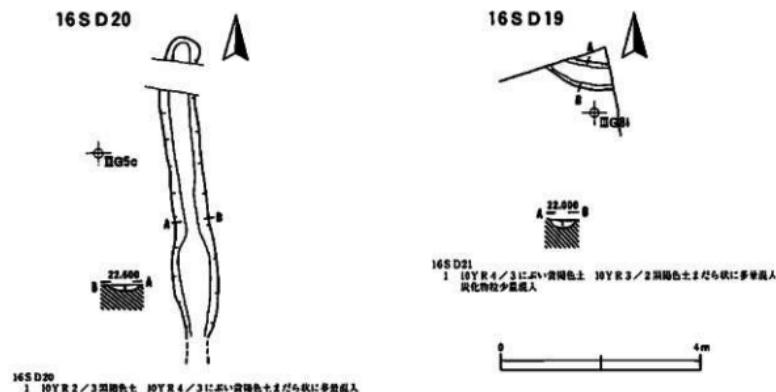
〔形態〕検出された部分はわずかで全体形は明瞭でない。

〔埋土〕1層に分けられる。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

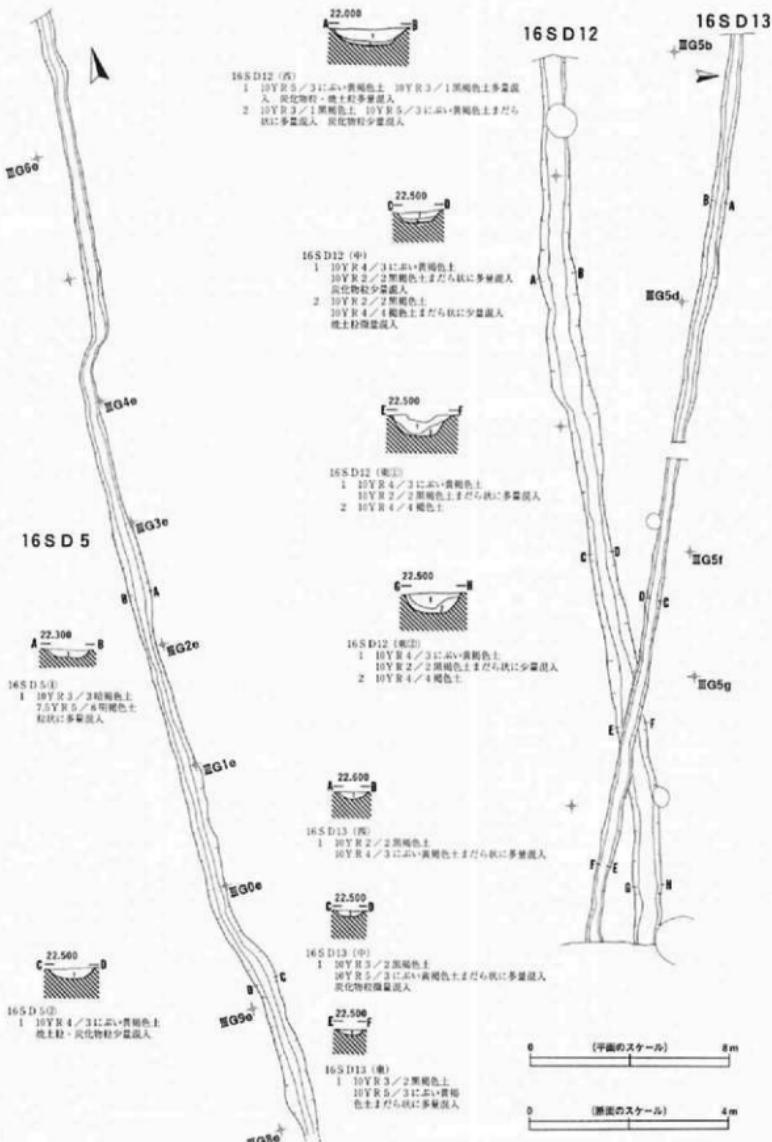
〔出土遺物〕なし。

〔性格〕不明である。

〔年代〕不明である。



第54図 溝⑤



第55図 溝⑥

6 壁穴建物

9～10世紀の壁穴建物が2棟検出された。カマドを有していないものもあり壁穴建物とする。

16S I 1 (第56図、写真図版37)

〔位置〕 III G 0 h、1 h に位置する。

〔重複〕 16S B 2、16S B 3、16S E 1、16S E 3と重複するが本壁穴が古い。

〔形態〕 3.4m×4.0mほどの方形の掘り込みを呈していたと推測されるが、検出されたのは壁溝のみである。西辺の壁溝は検出されなかった。

〔カマド〕 南壁東寄りにカマドの火焼面の一部が検出された。煙道、ソテなどは16S E 1によって破壊されている。

〔埋土〕 壁溝の埋土は1層に分けられる。また、壁溝上を僅かに覆う埋土の残存が存在する。自然堆積、人為堆積の別は不明である。

〔出土遺物〕 壁溝の埋土中から土師器ロクロ内黒坏（1、2、3）、土師器ロクロ坏（4、5）、土師器ロクロ小型長胴壺（6）、須恵器長頸壺（8）、埋土の残存から須恵器壺（7）が出土した。

〔性格〕 古代の壁穴住居である。

〔年代〕 出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と推測される。

16S I 2 (第56図、写真図版37)

〔位置〕 III G 2 b、2 c に位置する。

〔重複〕 16S B 26、16S K 14、16S D 19と重複するが本壁穴が古い。また16S B 27、16S B 37とプランが重複するが、直接切り合う部分が無く前後関係は不明である。

〔形態〕 2.75m×3.1mほどの方形の掘り込みを呈する。壁溝は存在しない。また床面は概ね平坦である。

〔カマド〕 カマドらしい施設は検出されなかった。16S K 14に破壊された部分に存在した可能性もあるが、周辺にそれらしい痕跡は全くない。

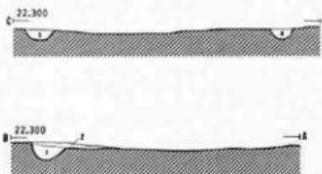
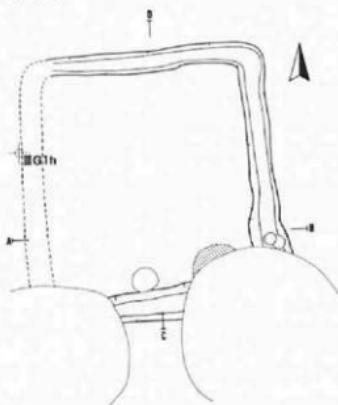
〔埋土〕 壁溝の埋土は1層に分けられる。人為堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕 埋土中から土師器ロクロ内黒坏（9）、土師器ロクロ坏（10、11）、土師器長胴壺（12）が出土した。

〔性格〕 古代の壁穴建物である。

〔年代〕 出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と推測される。

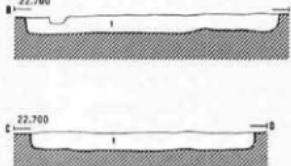
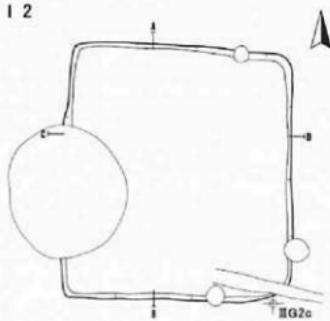
16S I 1



16S I 1

- 1 10YR 3/3 黄褐色土、10YR 5/3 に近い黄褐色土まだら状に多量混入、炭化物粒・地主材少額混入、2. 5Y 8/4 黄色土泥部に少量混入
- 2 10YR 3/3 黄褐色土、10YR 5/3 に近い黄褐色土まだら状に多量混入
- 3 10YR 3/3 黄褐色土、10YR 5/3 に近い黄褐色土まだら状に多量混入、地主材多量混入、炭化物粒少量混入
- 4 10YR 3/3 黄褐色土、10YR 5/3 に近い黄褐色土まだら状に多量混入、炭化物粒少量混入

16S I 2



- 16S I 2
1 10YR 4/3 に近い黄褐色土、10YR 3/3 黄褐色土まだら状に多量混入、炭化物粒・地主材少額混入、土器碎片混入

第56図 古代の竪穴建物

第2節 出土遺物

泉屋跡跡16次調査で出土した遺物は以下の通りである。

1 古代の土師器、須恵器

- (1) 9~10世紀の土師器（壺、長胴甕）
- (2) 9~10世紀の須恵器（長頸甕、甕、大甕）

2 かわらけ

- (1) 12世紀の手づくねかわらけ
- (2) 12世紀のロクロかわらけ
- (3) 12世紀の内折れ、柱状高台かわらけ
- (4) 13~14世紀のロクロかわらけ

3 国産陶器

- (1) 12世紀の常滑産陶器（片口鉢、三筋甕、広口甕、甕）
- (2) 12世紀の渥美産陶器（山茶碗、片口鉢、甕、甕）
- (3) 12世紀の須恵器系陶器（片口鉢、波状文四耳甕、甕）
- (4) 13~14世紀の壺器系陶器（在地產鉢、甕、東海產鉢）

4 中国産磁器

- (1) 12世紀の中国産磁器（白磁碗、白磁壺、白磁水注、青磁碗、青白磁皿、青白磁合子、青白磁梅瓶）
- (2) 中世の中国産磁器（青磁碗、白磁碗）

5 12世紀の瓦（軒平瓦、軒丸瓦、平瓦。）

6 近世の陶磁器

- (1) 近世の磁器（碗、皿、小杯、香炉、瓶、花生、水滴）
- (2) 近世の陶器（皿、碗、香炉、土瓶、仏飯器、鉢、切立、おはぐろ甕、甕、行平、擂鉢、焜炉）

7 木製品（織機の部品？、曲物、漆器皿、桶、釣瓶、漆器椀、横箱）

8 石製品（砥石、硯、挽き臼、板碑）

9 金属製品

- (1) 銀貨（北宋銭、寛永通寶）
- (2) その他の金属製品（金具、煙管、刀、鉈、釘、鉄斧、かんざし）

10 その他の遺物（鉄滓、漆紙、鋳型、土玉）

11 繩文時代の遺物

- (1) 繩文時代の土器（後期前～中葉、後期後葉～晚期初頭）
- (2) 繩文時代の石器（石巒、石錐、石匙、石鏟、スクレイパー、異形石器、打製石斧、石棒、磨石、凹石、石皿）

各々の遺物については、実測図版の下に観察表を付した。出土地点、法量などは表を参照していただきたい。文章中では必ずしも個々の遺物について説明していない。

1 古代の土師器、須恵器（第57～63図 写真団版38～43）

9～10世紀の土師器、須恵器は16S I 1と16S I 2の堅穴埴物の埋土中からまとめて出土した。他にも12世紀以降の遺構の中からも破片が出土している。調査区の北半部からの出土が多い。土師器は報告書掲載が2.0kg、不掲載が5.1kg、合計7.1kgが出土した。須恵器は報告書掲載が2.8kg、不掲載が1.1kg、合計3.7kg出土している。

16S I 1は横溝中から土師器、須恵器（1～7）がまとめて出土している。これらは一括性の高い遺物と判断できる。1～5は土師器ロクロ坏である。1～3は内面にミガキ、黒色処理が施される。外底面に再調整は無い。4～5は内外面ロクロ調整のみである。6はロクロ調整の小型長胴壺である。底面に回転糸切痕がある。8は須恵器の長頸壺である。橙～純い褐色の色調を呈している。頸部に凸筋が巡る。この16S I 1出土の土師器、須恵器の年代ははっきり示せないが9世紀後半～10世紀前半頃、十和田a火山灰降下前後と推測される。

9～12は16S I 2からの出土遺物である。12の長胴壺は体部外面の調整が頭部にまで及んでいない。この特徴は本次調査出土の他の非ロクロ土師器長胴壺に共通してみられる特徴である。16S I 2の出土遺物の年代も16S I 1に近い年代と推定される。

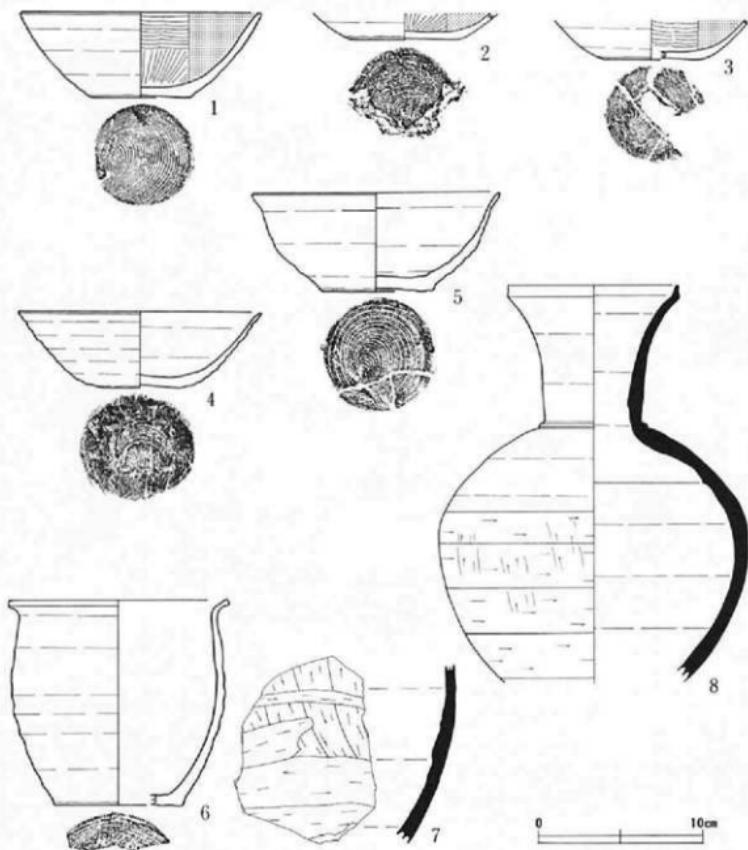
13～79は遺構外及び12世紀以降の遺構中から出土した土師器、須恵器である。13～21は土師器坏である。13は内外面、底面全体にミガキ、黒色処理が施されている。14は外底底辺部にヘラケズリ再調整が施される。15は外底面にヘラケズリが施され切り離し方法が確認できない。16～18は内面の磨耗が著しくヘラミガキの方向、単位を判別し難い。21は内外面ロクロ調整のみの坏である。12世紀の遺構からの出土であるが、器形から9～10世紀のものと判断した。

22～32は土師器長胴壺である。28はロクロ長胴壺で22～27はロクロ不使用の長胴壺である。ロクロ不使用長胴壺の口縁部は短く「く」の字に外反している。体部外面の調整が頭部にまで達せず、頭部に無調整の部分が生じている。28はロクロ長胴壺で口縁部が「く」の字に外反する。ロクロ調整の下地にタタキの痕跡は認められない。29～31は長胴壺の底部の破片であるが、ロクロ使用か不使用のものか判別がつかない。32はロクロ不使用の底部である。

33、34は須恵器長頸壺の口縁部破片である。34は赤褐色の色調を呈する。35～38は平底の須恵器壺と推測される。37はヘラケズリの下地にタタキ目がみられる。

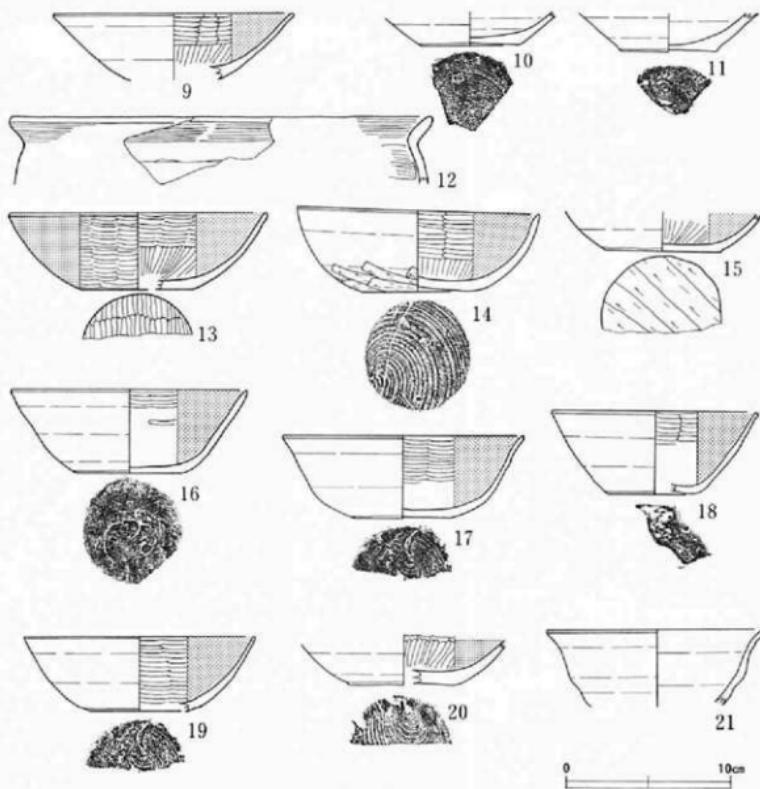
39～79は須恵器の大甕である。12世紀以降の須恵器系陶器を含む可能性もある。39は口縁部破片で口径を求めることが可能であった。41～50はタタキ目、質感から同一個体と判断した。薄手の造りで内面の当て具痕は不明瞭である。

51～63の須恵器大甕片は内面の当て具痕が不明瞭なものである。外面のタタキ目は平行タタキ目が多い。64～79の須恵器大甕片は内面に当て具痕が存在するものである。タタキ目と類似する平行または格子目状の当て具痕が多い。須恵器の実年代については詳しく示せないが、土師器と同様に9世紀後半～10世紀前半に属する可能性が高い。



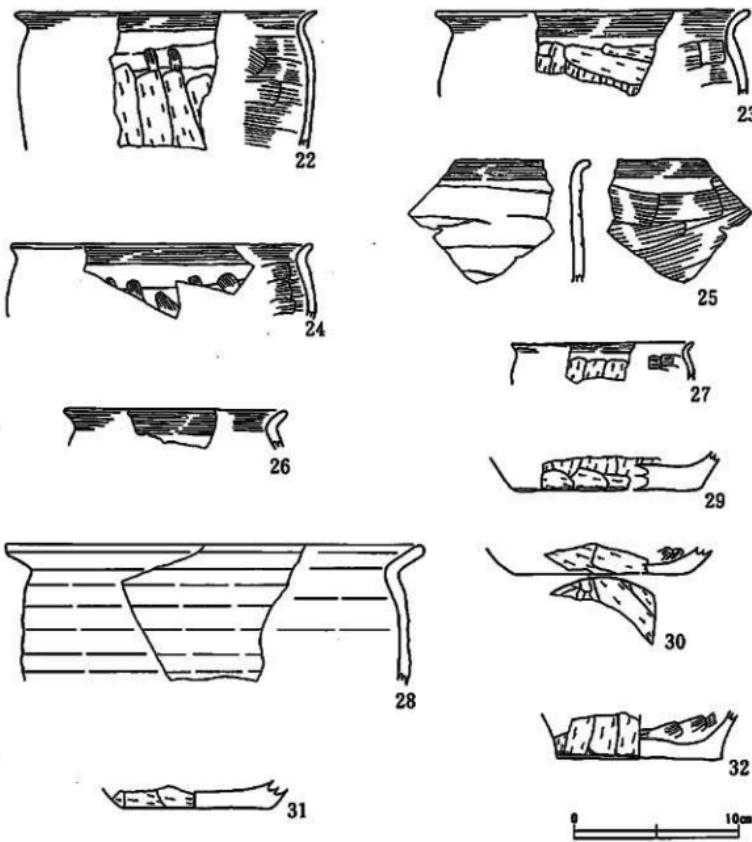
番号	種類	器種	出土位置	寸法 (cm)			外面調整	内面調整	色調	その他
				高さ	口径	底径				
1	土師器	杯	16S I 1 墓溝中	5.1	14.4	5.9	ロクロ	ハラミガキ	淡黄	内面黑色處理
2	土師器	杯	16S I 1 墓溝中	(1.6)	—	6.4	ロクロ	ハラミガキ	にぶい黄褐色	内面黑色處理
3	土師器	杯	16S I 1 墓溝中	(2.4)	—	5.2	ロクロ	ハラミガキ	にぶい黄褐色	内面黑色處理
4	土師器	杯	16S I 1 墓溝中	4.6	14.6	4.8	ロクロ	ロクロ	にぶい黄褐色	
5	土師器	杯	16S I 1 墓溝中	6.0	14.8	6.5	ロクロ	ロクロ	浅黄褐色	口縁部外反
6	土師器	甕	16S I 1 墓溝中	12.3	13.0	7.6	ロクロ	ロクロ	灰黄褐色	底面周縁系切
7	土師器	甕?	16S I 1 墓土中	(10.8)	—	—	ハラケズリ	ロクロ	黒	長颈部内窓が不明
8	土師器	長颈甕	16S I 1 墓溝中	(24.0)	10.2	—	ロクロ, ハラケズリ	ロクロ	にぶい黄	頸部に凸巻がある

第57図 古代の土師器、須恵器①



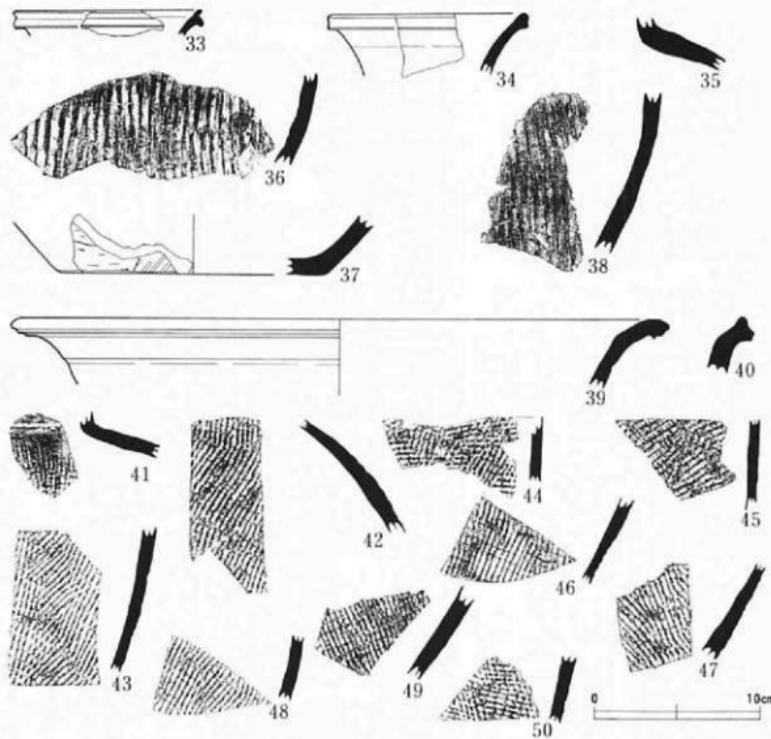
番号	種類	基盤	出土位置	法量 (cm)			外側調整	内側調整	色調	その他
				高さ	口径	底径				
9	土師器	环	16S 1 2 埋土上部	(4.0)	14.4	—	ロクロ	ヘラミガキ	にぶい黄橙	内面黒色処理
10	土師器	环	16S 1 2 埋土上部	(2.0)	—	5.8	ロクロ	ロクロ	灰白	内面黒色処理
11	土師器	环	16S 1 2 埋土上部	(2.3)	—	5.7	ロクロ	ロクロ	浅黄橙	内面黒色処理
12	土師器	良朋奥	16S 1 2 埋土上部	(4.0)	25.4	—	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラミガキ	にぶい黄橙	外側、体部上部に調整がない
13	土師器	环	16大糸柵区内	4.6	15.4	6.8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	黒	無調整
14	土師器	环	III G 5 a I層	4.9	14.6	6.6	ヨコナデ、ヘラミガキ	ヘラミガキ	にぶい黄橙	内面黒色、足部ハサツテで内面黒
15	土師器	环	16SD 13 埋土 (III G 5 b)	(2.4)	—	7.0	ロクロ	ヘラミガキ	浅黄橙	内面黒色処理、足部ヘラミガキ
16	土師器	环	16SD 15 埋土 (III G 4 b)	5.0	14.2	6.3	ロクロ	ヘラミガキ	にぶい黒	内面黒色のみ調整しない
17	土師器	环	III G 5 c I層	5.0	14.5	5.8	ロクロ	ヘラミガキ	灰白	内面黒色のみ調整しない
18	土師器	环	16SD 15 埋土 (III G 4 b)	5.0	12.2	5.2	ロクロ	ヘラミガキ	浅黄橙	内面黒色のみ調整しない
19	土師器	环	16SK 12 埋土 (III G 4 c)	(4.5)	13.8	5.8	ロクロ	ヘラミガキ	灰白	内面黒色処理
20	土師器	环	16SE 1 埋土	(2.7)	—	6.5	ロクロ	ヘラミガキ	にぶい黄橙	内面黒色処理
21	土師器	环	16SD 15 埋土	(4.7)	12.2	—	ロクロ	ロクロ	褐灰	口縁外反

第58図 古代の土師器、須恵器②



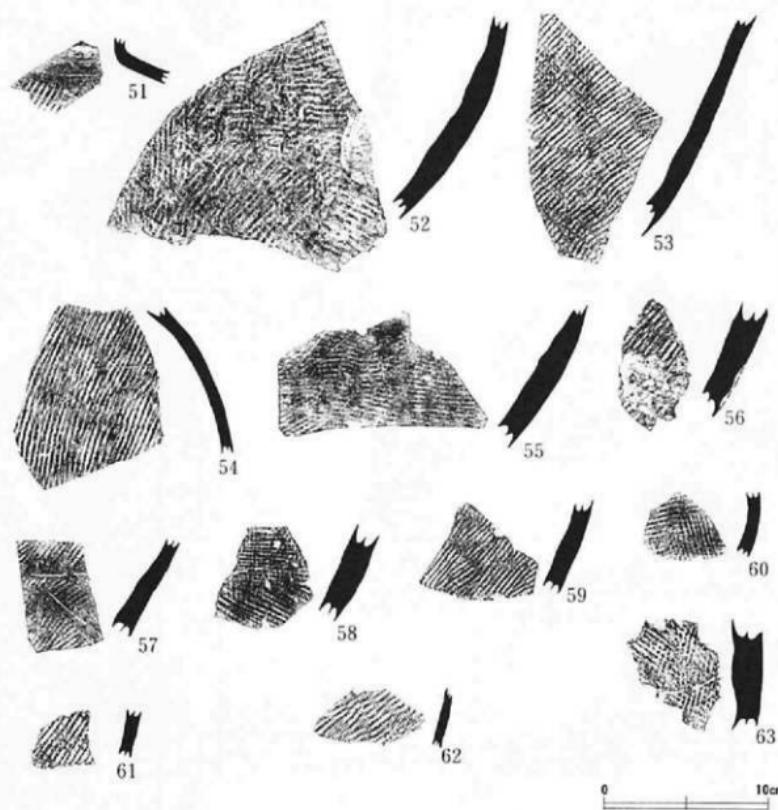
番号	目録	器種	出土位置	法寸 (cm)			外側調整	内側調整	色調	その他
				高さ	口径	底径				
22	土師器	長角瓶	16次調査区内	(8.2)	18.0	-	ヨコナデ、ヘリカズ	ヨコナデ、ヘリカズ	灰	側上に縦のいれ跡がある
23	土師器	長角瓶	16SK6 2層	(5.1)	13.8	-	ヨコナデ、ヘリカズ	ヨコナデ、ヘリカズ	褐	
24	土師器	長角瓶	Ⅲ G 4 b 1層	(4.5)	18.0	-	ヨコナデ、ヘリカズ	ヨコナデ、ヘリカズ	浅黄緑	側上に縦のいれ跡がある
25	土師器	長角瓶	Ⅲ G 3 e 1層	(7.4)	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘリカズ	浅黄緑	作成外側に調整がない
26	土師器	長角瓶	16SE14 素土	(2.3)	13.2	-	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘリカズ	灰白	
27	土師器	長角瓶	16SD15 素土 (Ⅲ G 4 b)	(2.3)	10.9	-	ヨコナデ、ヘリカズ	ヘラナデ	にぶい緑	
28	土師器	長角瓶	16次調査区内	(8.4)	25.1	-	ロクロ	ロクロ	浅黄	
29	土師器	長角瓶	Ⅲ G 1 b 1層	(2.4)	-	10.5	ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい黄緑	
30	土師器	長角瓶	Ⅲ G 5 b 1層	(1.8)	-	10.4	ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい黄緑	外底部ヘラケズリ
31	土師器	長角瓶	Ⅲ G 5 b 1層	(1.8)	-	8.8	ヘラケズリ	ヘラナデ	黄灰	
32	土師器	長角瓶	Ⅲ G 2 c 1層	(2.9)	-	10.0	ヘラケズリ	ヘラナデ	にぶい黄	

第59図 古代の土師器、須恵器③



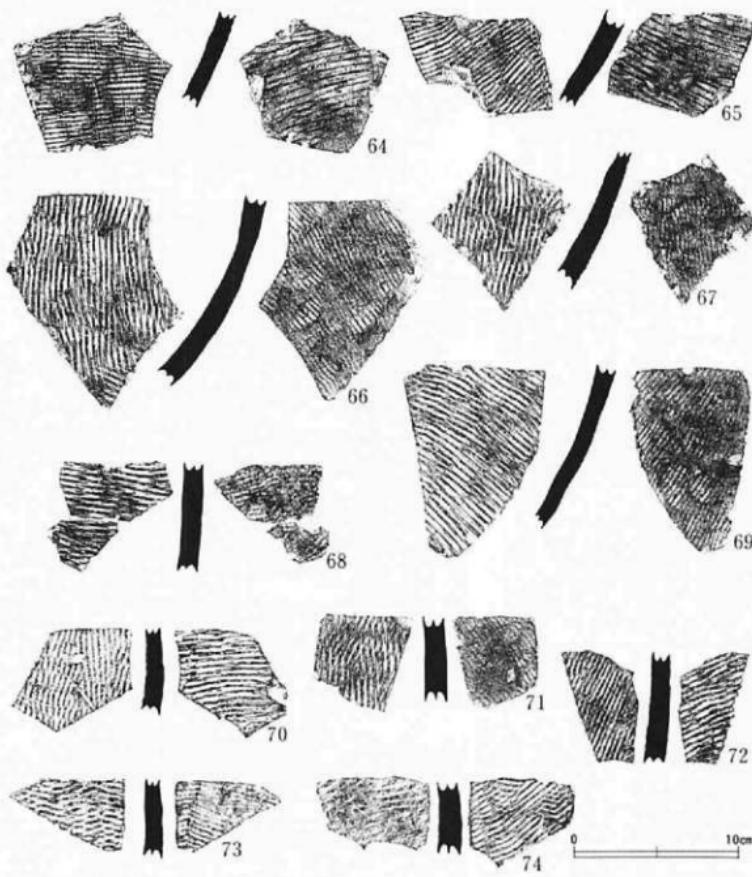
番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)	外側調整	内面調整	色調	その他
33	須恵器	長筒壺	P889 理土	高さ (1.6) 口径 (11.4) 底径 (—)	ロクロ	ロクロ	褐灰	
34	須恵器	長筒壺	16 S E 14 理土	高さ (3.6) 口径 (12.2) 底径 (—)	ロクロ	ロクロ	にふり赤褐色	
35	須恵器	壺	16 S D 12 理土	高さ (3.0) 口径 (—) 底径 (—)	ロクロ	ロクロ	褐灰	
36	須恵器	甕	III G 2 d 1層	高さ (5.6) 口径 (—) 底径 (—)	タタキ目	ナデ	灰	III G 3 e 1層からも出土
37	須恵器	甕	III G 4 d 1層	高さ (3.6) 口径 (—) 底径 (—)	(16.2) タタキ目	ナデ	褐灰	ヘラケズギの下部にタタキ目
38	須恵器	甕	III G 2 d 1層	高さ (9.6) 口径 (—) 底径 (—)	タタキ目	ナデ	褐灰	III G 3 b 1層からも出土
39	須恵器	大甕	16 S E 9 5層西頭	高さ (4.2) 口径 (40.0) 底径 (—)	ロクロ?	ロクロ?	黒褐	
40	須恵器	大甕	16 S K 35 理土	高さ (3.3) 口径 (—) 底径 (—)	ロクロ?	ロクロ?	灰	
41	須恵器	大甕	16 S D 15 理土 (III G 4 b)	高さ (3.2) 口径 (—) 底径 (—)	タタキ目	ナデ	灰	42~50同一個体
42	須恵器	大甕	III G 4 b 1層	高さ (6.6) 口径 (—) 底径 (—)	タタキ目	ナデ	褐灰	
43	須恵器	大甕	III G 4 b 1層	高さ (8.6) 口径 (—) 底径 (—)	タタキ目	ナデ	褐灰	
44	須恵器	大甕	16 S E 9 1~2層	高さ (3.9) 口径 (—) 底径 (—)	タタキ目	ナデ	灰白	
45	須恵器	大甕	16 S E 9 5層西頭	高さ (5.4) 口径 (—) 底径 (—)	タタキ目	ナデ	灰白	
46	須恵器	大甕	16 S D 15 理土 (III G 4 b)	高さ (5.2) 口径 (—) 底径 (—)	タタキ目	ナデ	褐灰	
47	須恵器	大甕	16 S D 15 理土 (III G 4 b)	高さ (5.7) 口径 (—) 底径 (—)	タタキ目	ナデ	灰白	
48	須恵器	大甕	16 S D 15 理土 (III G 4 b)	高さ (3.9) 口径 (—) 底径 (—)	タタキ目	ナデ	褐灰	
49	須恵器	大甕	III G 3 e 1層	高さ (5.6) 口径 (—) 底径 (—)	タタキ目	ナデ	黑褐	
50	須恵器	大甕	16 S E 6 理土	高さ (4.0) 口径 (—) 底径 (—)	タタキ目	ナデ	褐灰	

第60図 古代の土師器、須恵器④



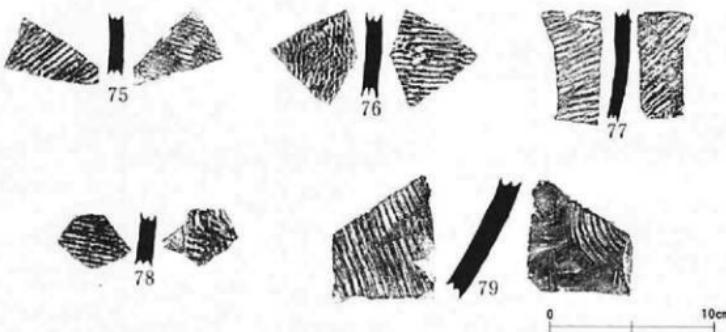
番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			外側調整	内側調整	色調	その他
				高さ	口径	底径				
51	須恵器	大甕	16 S E 9 1～4層東側	(2.8)	—	—	タタキ目	ナゲ	灰	
52	須恵器	大甕	16 S K 37 埋土	(12.0)	—	—	タタキ目	ナゲ	灰	
53	須恵器	大甕	16 S D 12 埋土 (■G 4 c)	(13.1)	—	—	タタキ目	ナゲ	黄灰	
54	須恵器	大甕	16 S D 2 埋土	(8.8)	—	—	タタキ目	ナゲ	褐灰	
55	須恵器	大甕	■G 3 c 1層	(8.6)	—	—	タタキ目	ナゲ	灰	
56	須恵器	大甕	16 S D 15 埋土	(6.9)	—	—	タタキ目	ナゲ	灰	
57	須恵器	大甕	16 S D 12 埋土 (■G 4 g)	(5.8)	—	—	タタキ目	ナゲ	灰	
58	須恵器	大甕	16 S E 10 2層西側	(5.8)	—	—	タタキ目	ナゲ	灰	
59	須恵器	大甕	■G 5 c 1層	(5.6)	—	—	タタキ目	ナゲ	灰黄褐色	
60	須恵器	大甕	16 S K 26 埋土	(3.9)	—	—	タタキ目	ナゲ	灰黄褐色	
61	須恵器	大甕	16 S E 10 埋土	(2.9)	—	—	タタキ目	ナゲ	灰	
62	須恵器	大甕	16 S E 9 1～4層東側	(3.6)	—	—	タタキ目	ナゲ	青灰	
63	須恵器	大甕	■G 4 b 1層	(6.7)	—	—	タタキ目	ナゲ	黑綠灰	

第61図 古代の土師器、須恵器⑤



番号	種類	器種	出土位置	法量(cm)	外面調整	内面調整	色調	その他
64	須恵器	大甕	16SD12 理土(ⅢG4c)	(5.8)	—	—	タタキ目	アテ具痕
65	須恵器	大甕	16SD12 理土(ⅢG4h)	(5.8)	—	—	タタキ目	アテ具痕
66	須恵器	大甕	ⅢG2c 1層	(11.6)	—	—	タタキ目	アテ具痕
67	須恵器	大甕	16SE13 理土	(8.4)	—	—	タタキ目	アテ具痕
68	須恵器	大甕	16SE9 1~2層西側	(6.6)	—	—	タタキ目	アテ具痕
69	須恵器	大甕	P1034 浪方	(10.0)	—	—	タタキ目	アテ具痕
70	須恵器	大甕	16SE9 5層東側	(5.3)	—	—	タタキ目	アテ具痕
71	須恵器	大甕	16SK18 2層	(5.2)	—	—	タタキ目	アテ具痕
72	須恵器	大甕	ⅢG5c 1層	(6.7)	—	—	タタキ目	アテ具痕
73	須恵器	大甕	16SD12 理土(ⅢG4b)	(4.8)	—	—	タタキ目	アテ具痕
74	須恵器	大甕	ⅢG3c 1層	(4.4)	—	—	タタキ目	アテ具痕

第62図 古代の土器類、須恵器⑥



番号	種類	器種	出土位置	法量(cm)			外面調査	内面調査	色調	その他
				高さ	口径	底径				
75	須恵器	大甕	16S K20 墓土	(3.7)	—	—	タタキ目	アテ具痕	黒	
76	須恵器	大甕	16S D13 (Ⅲ G 5 c)	(5.2)	—	—	タタキ目	アテ具痕	褐灰	
77	須恵器	大甕	16S E 6 墓土上部東	(6.8)	—	—	タタキ目	アテ具痕	灰	
78	須恵器	大甕	Ⅲ G 6 d 1層	(3.2)	—	—	タタキ目	アテ具痕	灰	
79	須恵器	大甕	16S D13 墓土 (Ⅲ G 4 g)	(7.2)	—	—	タタキ目	アテ具痕	灰黄褐色	

第63図 古代の土師器、須恵器⑦

2 かわらけ (第64~69図 写真図版44~49)

12世紀のかわらけは手づくねかわらけとロクロかわらけが出土した。図示したのは手づくねかわらけ92点(1001~1092)、ロクロかわらけ24点(1093~1118)、内折れかわらけ4点(1117~1120)、柱状高台かわらけ2点である。図示したかわらけの重量の合計は6.4kg、報告書不掲載のかわらけは43.7kgである。合計すると泉屋遺跡16次調査全体で12世紀のかわらけは50.1kg出土している。

(1) 手づくねかわらけ (第64~67図 写真図版44~48)

手づくねかわらけは以下の通り分類した。

C 3 類 2段ナデ口唇部面取りなし

C 4 類 2段ナデ口縁部つまみ上げ

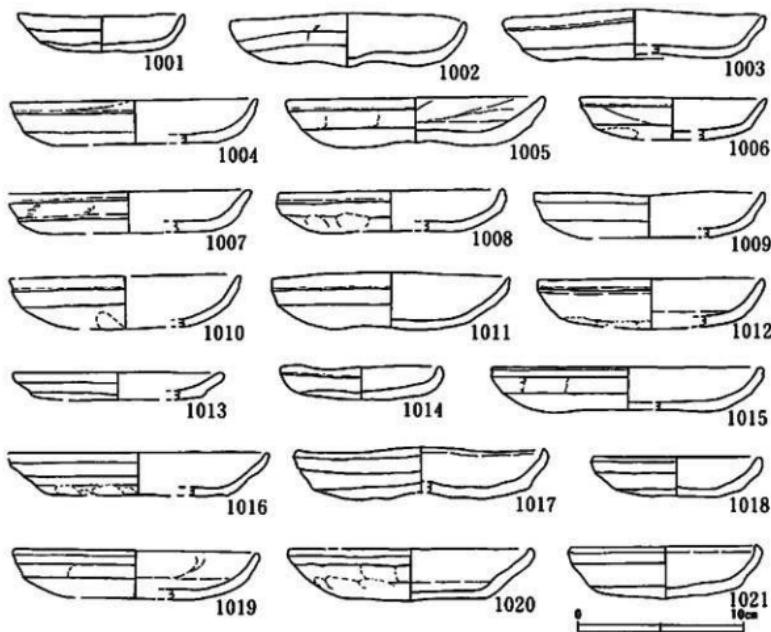
C 5 類 2段ナデ口唇部面取り

D 2 類 1段ナデ口縁部外反

D 3 類 1段ナデ口唇部面取りなし

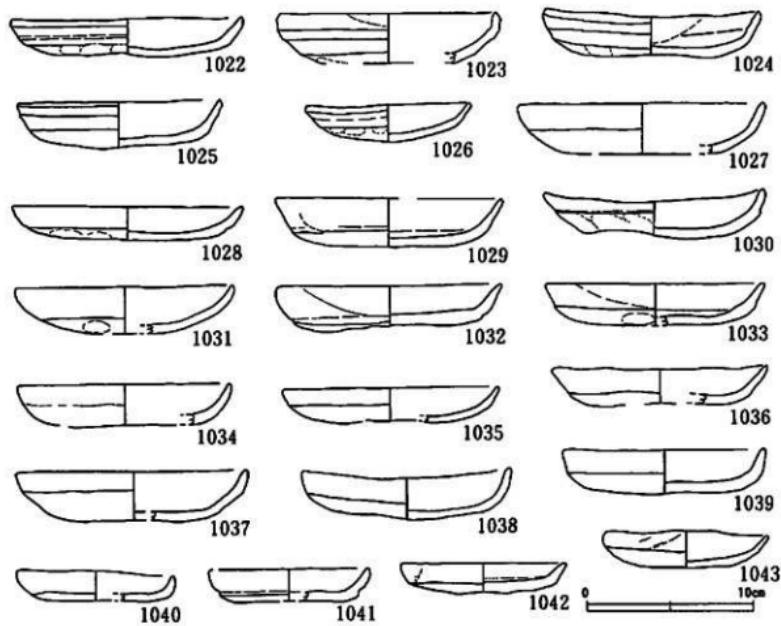
D 4 類 1段ナデ口唇部面取り

手づくねかわらけはいずれも12世紀後半に属する。手づくねかわらけが多量に出土した遺構は16S E 6である。16S E 6の図示した手づくねかわらけは35点ある。大型かわらけの口径の平均値は13.9cmである。1069は特異な器形である。口縁部に焼成前の空孔がある。



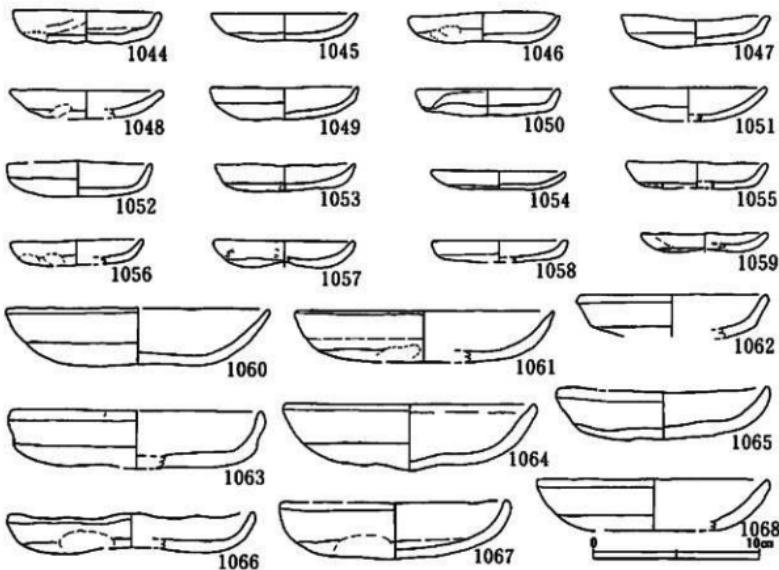
番号	出土状況	分類	法縦(cm)			内面 ナメ	外底 (寸のこ痕)	遺存度 (%)	胎土	備考
			W	H	D					
1001	16S E 6 2層	C ₁	10.2	—	2.3			70		
1002	16S K39 墓上	C ₂	14.4	—	3.2	木	寸のこ痕	90	細砂少	駆ぎ目
1003	16S E 6 1層	C ₁	16.0	—	2.5	木		40	細砂少	
1004	16S E 6 墓土上部	C ₁	14.8	—	(2.6)		寸のこ痕	20	細砂少	
1005	16S D 2 墓土	C ₁	15.8	—	2.9	木	寸のこ痕	50		
1006	16S K34 墓土	C ₁	11.3	—	2.5		寸のこ痕	20	細砂少	
1007	16S E 6 1~3層	C ₁	14.8	—	2.5		寸のこ痕	20	細砂少	
1008	16S E 6 3層	C ₁	13.8	—	(2.5)			25	細砂少	駆ぎ目
1009	16S E 6 1~3層	C ₁	14.0	—	(2.6)			20	細砂少	
1010	16S K28 墓上	C ₁	14.0	—	(3.0)			15	細砂多	
1011	16S K28 墓土	C ₁	14.5	—	3.3	木		95	細砂多	
1012	16S D13 墓土	C ₁	13.8	—	(3.0)			20	細・粗砂多	駆ぎ目・口縁部など不明瞭
1013	16S K12 墓土	C ₁	12.8	—	(1.65)			15	細砂多	
1014	16S K50 墓土	C ₁	10.0	—	2.0	木		90	細砂多	
1015	16S K33 墓土	C ₁	16.4	—	(2.8)			25	細砂多	
1016	16G 4 b 1層	C ₁	15.7	—	(2.5)			20	細砂少	塗付有
1017	16S E 6 墓土上部	C ₁	15.2	—	3.1			70	細砂少	
1018	16G 9 g 1樹	C ₁	10.2	—	2.4			75		中央掘込み
1019	16S D15 墓土(16G 5 g)	C ₁	15.0	—	(2.9)			30	細砂多	
1020	16S E 14 墓土	C ₁	15.0	—	3.1			75	細砂少	
1021	16S E 6 4層	C ₁	11.7	—	3.1	寸のこ痕		70	細砂少	

第64図 12世紀のかわらけ①



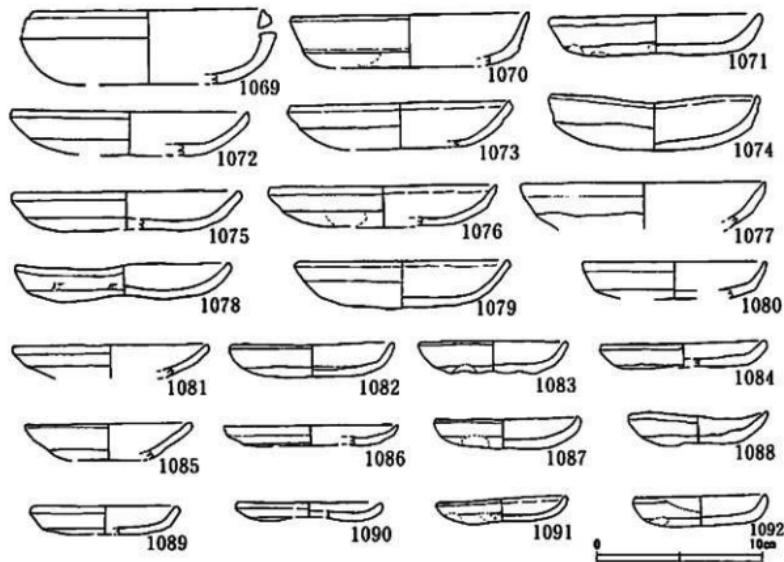
番号	出土位置	分類	法量 (cm)			内底 ナデ	外底 (すのこ板)	遺存度 (%)	胎土	備 考
			口径	底径	高さ					
1022	16S E 6 墳土上部	C ₁	14.1	—	2.3		すのこ板	80	細砂多	根ざ目
1023	16SK41 墳土	C ₁	13.0	—	3.0			15		
1024	16SE 6 1層	C ₁	13.2	—	2.8	木	すのこ板	65		
1025	16G 5 b 1層	C ₁	12.2	—	2.8	木		40	細砂多	
1026	16SE 9 墳土	C ₁	10.0	—	2.3			50		口部内外にテール状付着物
1027	16SE 6 1～3層	D ₁	15.0	—	3.0		すのこ板	25	細砂少	
1028	16SK34 墳土	D ₁	14.0	—	2.0			20	細砂少	
1029	16SK41 墳土	D ₁	13.0	—	3.1		すのこ板	80	細砂少	根ざ目
1030	16SK33 墳土	D ₁	13.4	—	3.1		すのこ板	50	細砂少	外底膨らみ
1031	16SE 6 1～3層	D ₁	13.2	—	(2.6)		すのこ板	45	細砂多	
1032	16SE 6 4層	D ₁	14.8	—	2.7		すのこ板	100	細砂少	
1033	16SE 6 1層	D ₁	13.2	—	(2.5)			30	細砂多	
1034	16SD13 墳土 (16G 5 d)	D ₁	13.0	—	(3.0)			20	細・粗砂少	根ざ目、口縁部などで不明瞭
1035	16SD15 墳土 (16G 4 b)	D ₂	13.1	—	2.1			30	細砂多	
1036	16SK43 墳土	D ₂	13.0	—	(2.4)			20	細砂少	
1037	16SE 6 1～3層	D ₂	14.0	—	3.0		すのこ板	40	細砂多	
1038	16SE 6 3層	D ₂	12.7	—	3.0		すのこ板	80		
1039	16SE 6 1～3層	D ₂	12.2	—	2.7		すのこ板	60	細砂少	根ざ目
1040	16SE 6 墳土上部	D ₂	9.6	—	1.8			80		テール状付着物 (内・外延)
1041	16SE 7 墳土	D ₂	9.6	—	1.9			10	細砂少	
1042	16SE 6 1～3層	D ₃	10.0	—	1.9			20	細砂少	
1043	16SE 6 4層	D ₃	10.0	—	2.2			95	細砂多	根ざ目

第65図 12世紀のかわらけ②



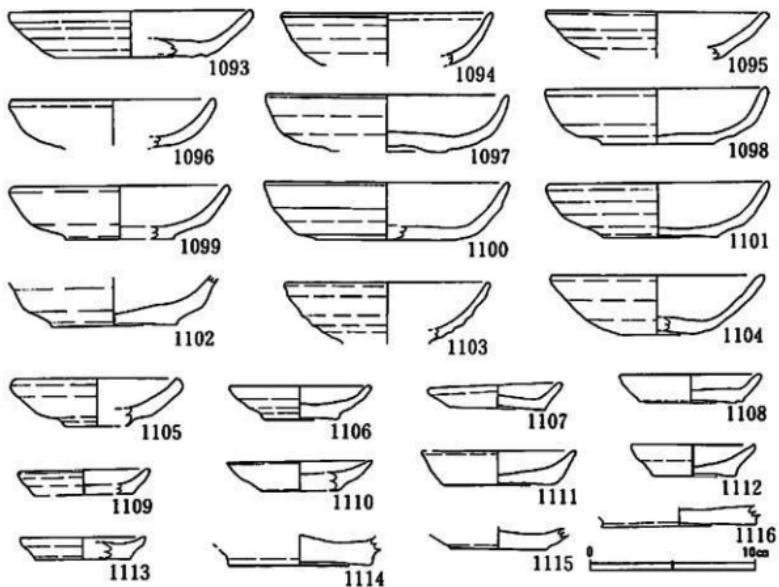
番号	出土状況	分類	法量 (cm)			内面 ナメ	外底 (寸の二倍)	造作度 (%)	胎土	備考
			口径	底径	高さ					
1044	16S E 6 1～3層	D ₃	8.8	—	1.9			45	粗妙少	
1045	16SD 15 横上 (B G 5 b)	D ₃	8.9	—	(1.7)			35	粗妙少	
1046	16S E 6 1層	D ₃	9.2	—	1.9	すのこ底	100	粗妙多		
1047	16S K 38 墓土	D ₃	9.0	—	1.9			85	粗妙多	粗目
1048	16S K 52 墓土	D ₃	9.4	—	(1.7)			15	粗妙多	内面に擦付着
1049	16S E 6 2層	D ₃	9.0	—	2.0			100	粗妙多	
1050	B G 2 c 1層	D ₃	8.6	—	1.6			30	粗妙多	粗目
1051	16SD 13 墓土 (B G 5 b)	D ₃	(8.5)	—	(2.05)			20	粗妙多	粗目
1052	16S E 6 3層	D ₃	8.8	—	2.1	本	すのこ底	95	粗妙少	滑らか
1053	16S E 6 1層	D ₃	8.4	—	1.6			60	粗妙少	粗目
1054	16SD 15 墓土	D ₃	8.2	—	1.1			50	粗妙多	
1055	16S K 28 墓土	D ₃	(8.6)	—	(1.6)			20	粗妙多	外底擦凹み、粗目
1056	16S E 14 墓土	D ₂	8.0	—	1.5			20	粗妙少	
1057	16S E 14 墓土	D ₃	8.4	—	1.6			80	粗妙少	口縁に擦付着
1058	16S K 34 墓土	D ₃	8.2	—	(1.5)			25	粗妙少	外底に指紋？
1059	16SK 17 1層	D ₃	7.6	—	1.1			15	粗妙多	
1060	B G 9 g 1層	D ₄	16.0	—	4.0			20	粗妙多	指紋
1061	16SK 31 墓土	D ₄	15.6	—	(3.1)	すのこ底	25	粗妙多		
1062	16SK 50 墓土	D ₄	11.5	—	(2.5)			15	粗・粗妙少	擦付着
1063	B G 1 c 1層	D ₄	15.6	—	(3.5)	すのこ底	25	粗妙多	中央滑凹み	
1064	B G 1 i 1層	D ₄	15.0	—	4.0			30	粗妙少	滑らか
1065	16S E 14 墓土	D ₄	13.0	—	3.2	木?	すのこ底	90	粗妙少	
1066	16S E 6 1層	D ₄	15.0	—	(2.4)			25	粗妙少	粗目、内底に擦付着
1067	16S E 14 墓土	D ₄	(14.0)	—	(3.4)	木?	すのこ底	65	粗妙少	
1068	16SK 20 墓土	D ₄	13.8	—	(3.1)			20	粗妙少	

第66図 12世紀のかわらけ③



番号	出土位置	分類	法量 (cm)			内面 ナメ	外底 (寸のこ)	遺存度 (%)	胎土	備 考
			口径	底径	高さ					
1069	16S E 6 1～3層	D+	(14.0)	—	4.2			15	細砂少	焼成前に穿孔、底み苦しい
1070	16S K31 壁土	D+	14.4	—	(3.1)			15	細砂多	
1071	16S E 6 1層	D+	13.0	—	2.3	すのこ痕		35	細砂多	底ざ日
1072	16S D17 壁土 (B G 5 e)	D+	14.4	—	(3.0)			20	細砂少	
1073	16S K41 壁土	D+	13.6	—	(2.7)			15	細砂少	
1074	16S K33 壁土	D+	12.8	—	3.4	すのこ痕		20	細砂少	
1075	16S D13 壁土	D+	14.9	—	2.2			25	細砂少	
1076	16S D15 壁土	D+	13.9	—	(2.5)			25	細砂多	
1077	16S E12 壁土	D+	15.0	—	(2.8)			10	細砂多	
1078	16S E 6 壁土上部	D+	12.8	—	2.1	すのこ痕		45	細砂少	中央指凹み
1079	16S E 6 壁土上部	D+	13.2	—	2.9	すのこ痕		25	細砂少	
1080	16S K37 壁土	D+	11.2	—	(2.2)			15	細砂少	底ざ日
1081	16S E12 壁土	D+	12.0	—	(2.0)			10	細砂多	
1082	16S E 6 壁土上部	D+か	10.0	—	2.0			80	細砂多	底ざ日
1083	16S K31 壁土	D+	8.8	—	1.9			15	細砂多	外底指凹み
1084	16S E 6 1～3層	D+	10.0	—	(1.5)	すのこ痕		25	細砂少	
1085	16S E 6 1層	D+	10.2	—	(1.8)			15	細砂少	
1086	16S K 9 壁土	D+	10.5	—	1.3			10		
1087	16S E 6 4層	D+	8.9	—	2.0	すのこ痕	90	細砂多	底ざ日	
1088	16S K42 壁土	D+	8.4	—	2.0			60	細砂多	底み苦しい
1089	16S E12 壁土	D+	9.0	—	1.7			15	細砂多	
1090	16S D12 壁土 (B G 4 c)	D+	8.8	—	(1.1)			15	細砂多	
1091	16S E14 壁土	D+	8.0	—	1.5			25		
1092	16S E 6 壁土上部	D+	8.2	—	1.8	すのこ痕	50			

第67図 12世紀のかわらけ④



番号	出土位置	分類	法量(cm)			内面 ナデ	外底 (すのこ板)	遺存度 (%)	船七	備考
			口径	底径	高さ					
1093	16S E 9 5層	ロクロ	14.8	9.2	2.8	すのこ板	25	粗砂少		
1094	16S E 6 裏上	ロクロ	12.6	—	3.1			20	粗砂少	
1095	16S D12 裏土(重G c)	ロクロ	13.5	—	2.5			15	粗砂多	
1096	16S E 6 1~3層	ロクロ	12.4	—	(2.8)			25	粗砂多	
1097	16S D 2 裏土	ロクロ (14.8)	—	(3.4)		すのこ板	45	粗砂少	右回り	
1098	16S E 6 3層	ロクロ	13.6	6.8	3.3			95	粗砂少	右回り
1099	G G 4 b 1層	ロクロ	13.0	6.6	3.2			20	粗砂多	
1100	16S E 9 1~2層	ロクロ (15.0)	(6.4)	(3.5)				40	右回り	
1101	16S E 6 1層	ロクロ	13.6	7.1	3.3			85	粗砂少	右回り
1102	16S K21 裏土	ロクロ	—	7.6	(2.7)			40	粗砂多	
1103	16S E 9 5層	ロクロ (12.4)	—	3.5				20	粗砂多	右回り
1104	16S E 9 裏土	ロクロ	12.8	4.8	3.6			25	粗砂多	右回り
1105	16S E 1 1層	ロクロ	10.5	4.0	2.7			20	粗砂少	右回り
1106	16S E 9 5層	ロクロ (12.4)	—	3.5				20	粗砂多	
1107	16S E 14 裏土	ロクロ	8.0	5.8	1.5			90	粗砂少	
1108	16S K20 裏土	ロクロ	8.2	6.4	1.7			70	粗砂多	
1109	16S D13 裏土(重G 5 b)	ロクロ (8.0)	—	(1.5)				15	粗砂少	
1110	16S D12 裏土(重G 4 f)	ロクロ	8.8	5.7	1.8	すのこ板	20	粗砂少	右回り蒸み苦しい	
1111	16S E 9 5層	ロクロ	9.4	6.6	2.1			60		
1112	16S K40 裏土	ロクロ	7.2	5.2	1.9			40	粗砂多	風化により回転不明
1113	16S E 6 1層	ロクロ	7.6	5.8	1.3			15	粗砂多	
1114	16S E 9 5層	ロクロ	—	8.8	1.7			45	粗砂少	右回り
1115	16S K4 裏土	ロクロ	—	5.8	(0.9)	すのこ板	40		右回り	
1116	16S E 9 5層	ロクロ	—	9.4	1.2			35	粗砂少	内底ナデ?

第68図 12世紀のかわらけ⑤

(2) ロクロかわらけ (第68図 写真図版48、49)

ロクロかわらけは手づくねかわらけに比較すると出土点数が少ない。ある程度まとまった量出土しているのは16S E 6である。図示したのは5点である。点数が少ないと確実なことは言えないが、その器形から12世紀後半に属すると推測される。1103は器形が古代の土師器に似るが一応かわらけと考えた。1106はその器形から12世紀前半に属する可能性もある。

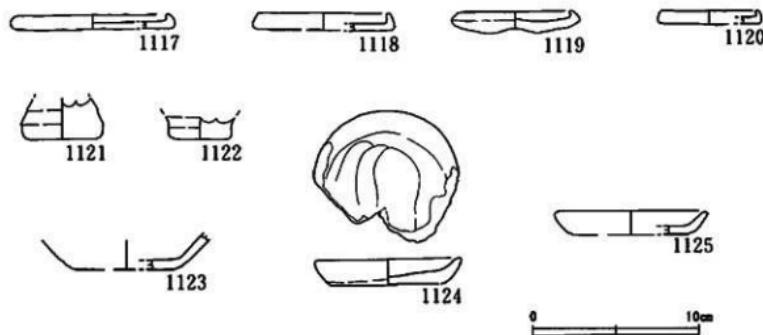
(3) 内折れ、柱状高台かわらけ (第69図 写真図版49)

1119～1120は内折れかわらけである。胎土は手づくねかわらけと共通する。

1121、1122は柱状高台かわらけの高台部の破片である。ロクロ調整である。

(4) 13～14世紀のかわらけ (第69図 写真図版49)

藤原氏滅亡後の13～14世紀に属するかわらけが少量出土した。当概期のかわらけと判断できたのは3点である。いずれもロクロ調整で小型のものである。胎土は砂が多く混入している。1124は内底面にナデ調整が施される。1123、1125は内底面の大部分を欠損しているためナデの有無は判別できない。八重樫忠郎氏の分類・編年では3b類に相当し、13世紀後半～14世紀前半の年代になる。当該期のかわらけは16次調査区の東北本線を挟んだ西側の13次調査区でも出土している。



番号	出土位置	分類	法量(cm)			内面 ナデ	外底 (寸のこじ)	遺存度 (%)	胎土	備 考
			口径	底径	高さ					
1117	Ⅲ G 4 c Ⅰ層	内折れ	10.0	9.2	0.9			10	粗砂少	小破片
1118	16S D 15 墓土 (Ⅲ G 5 b)	内折れ	(8.0)	(8.6)	(1.0)			25	粗砂少	外底凹凸み
1119	16S E 9 1～2層	内折れ	7.8	—	1.2			20		外底凹凸み
1120	Ⅲ G 3 h Ⅰ層	内折れ	5.8	6.4	1.3			10		小破片
1121	16S D 13 墓土 (Ⅲ G 4 c)	柱状高台	—	—	2.4			20	粗砂少	柱状高台
1122	16S D 12 墓土 (Ⅲ G 4 b)	柱状高台	—	—	2.2			20	粗砂多	
1123	16S E 10 墓土	ロクロ	—	(6.0)	(2.2)			5	粗砂多	13C後半～14C前半のもの
1124	16S E 12 墓土	ロクロ	8.9	6.6	1.5	粗ナデ		60	粗砂多	13C後半～14C前半のもの
1125	16S E 10 墓土	ロクロ	8.8	(7.0)	1.4			5	粗砂多	13C後半～14C前半のもの

第69図 12Cのかわらけ⑥ 13、14世紀のかわらけ

3 国産陶器（第70～77図 写真図版49～56）

国産陶器には12世紀の常滑産陶器、渥美産陶器、須恵器系陶器、13～14世紀の東北地方在地産陶器陶器、13世紀～14世紀の東海産陶器がある。

（1）常滑産陶器（第70～72図 写真図版49～51）

常滑産陶器は片口鉢4点、壺1点、三筋壺4点、広口壺2点、壺25点を図示した。図示した常滑産陶器の重量は合計3.7kgである。他に報告書不掲載の常滑産陶器は65片（1.5kg）がある。合計すると泉屋遺跡16次調査全体で常滑産陶器は101片（5.2kg）になる。

2001はほぼ光形の片口鉢である。高台の出っ張りが小さい。2002は片口部の破片である。2005は三筋壺に似る器形であるが、沈線部分が存在せず、三筋壺とすべき確認がない。底辺部にヘラケズリが施される。2006、2007は細い2本線の沈線がほどこされる三筋壺片である。2010、2011は底径と体部の立上がりの角度から広口壺と判断した。体部破片の場合、広口壺と壺の判別は難しい場合が多い。2012～2036は壺の破片である。口縁～頸部の部位以外の破片は形式の判別が難しい。2012は2型式（赤羽根・中野生原地縫年）に属する。

（2）渥美産陶器（第73～75図 写真図版51～55）

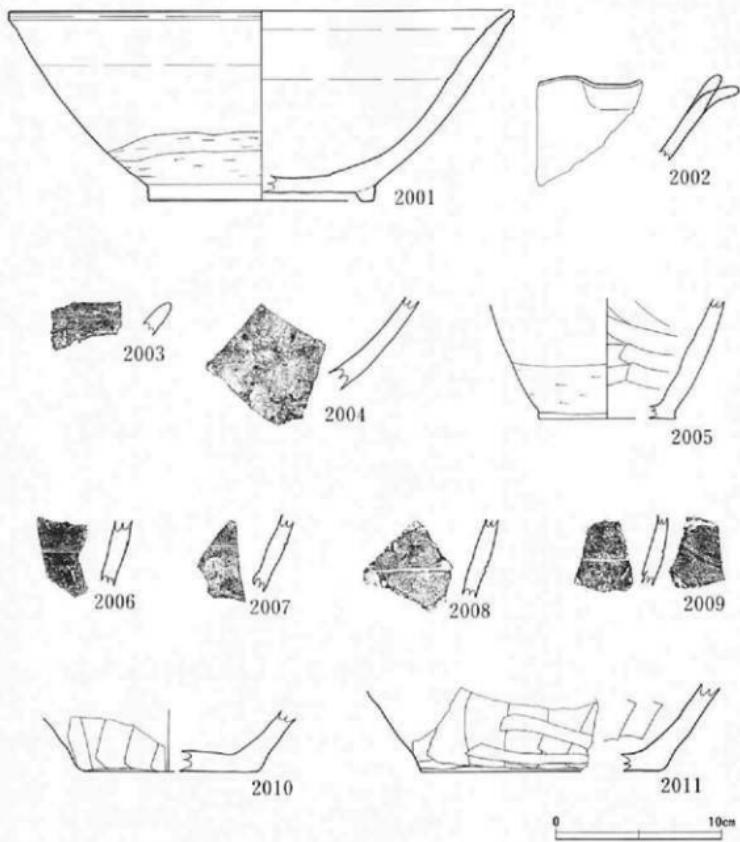
渥美産陶器は山茶碗1点、片口鉢4点、壺1点、壺39点を図示した。図示した渥美産陶器の重量は合計5.2kgである。他に報告書不掲載の渥美産陶器は35片（0.9kg）がある。合計すると泉屋遺跡16次調査全体で渥美産陶器は80片（6.1kg）になる。

2037は山茶碗の口縁部破片である。口縁部がくびれ、外反する。2039の片口鉢は底辺部に回転ヘラケズリが施されるが、胎土から渥美産と判断した。2042は小型の壺片である。2043は壺の口縁部破片である。口縁部が頸部から立ち上った後で外反している。2044は頸部から口縁部がそのまま外反する。2045は口縁部の長さが割合に短い。2046は頸部の破片である。内面の継ぎ目痕が顕著である。壺の体部破片2060は外側に垂下する沈線状のものがある。意図的な文様の可能性もある。

（3）須恵器系陶器（第76図 写真図版55）

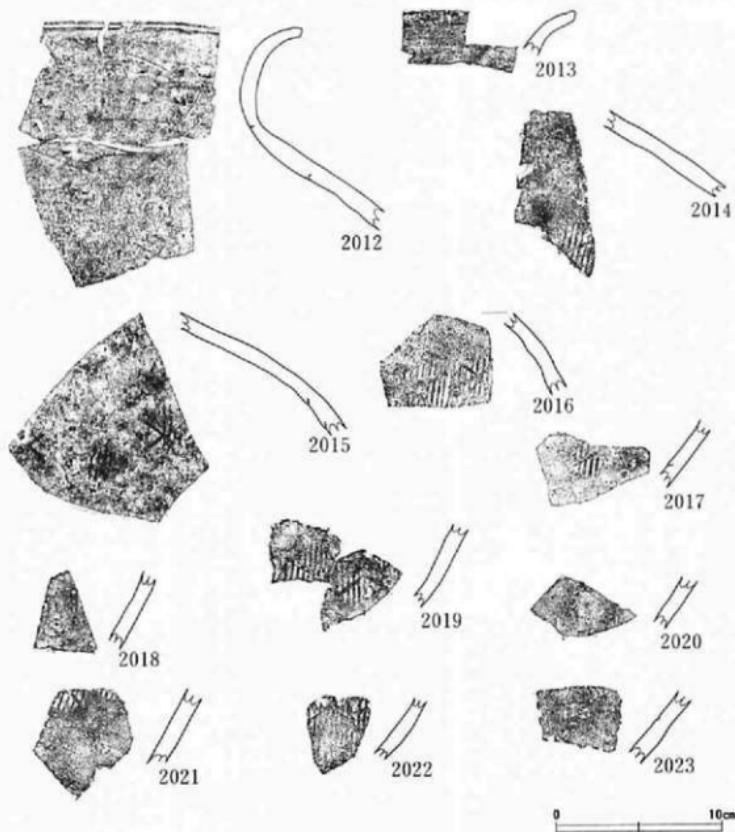
12世紀の須恵器系陶器は片口鉢4点、波状文四耳壺1点、壺5点を図示した。図示した須恵器系陶器の重量は合計0.8kgである。他に報告書不掲載の須恵器系陶器は7片（0.1kg）がある。合計すると泉屋遺跡16次調査全体で須恵器系陶器は17片（0.9kg）になる。

2082～2085は同一個体の片口鉢の可能性が高い。いずれも褐色で砂が少量混じる共通した胎土である。2083は片口部の破片である。2085の内面は磨耗しておりツルツルしている。2086は波状文四耳壺の底辺部の破片である。沈線による波状文の一部が確認できる。底面には静止、または回転速度の違い糸切痕が存在する。2087と2088は胎土、色調が共通しており同一個体と思われる。肩部破片の2087にはタタキ目が存在せず、また2088の上半部にもタタキ目が存在せず、体部の上半にはタタキ目が施されない壺と判断される。2089～2091も2087、2088と胎土、タタキ目が共通し同一個体の可能性が高いが確認はない。2091は底部近くの破片である。これら壺破片の内面の当具痕は明瞭ではない。



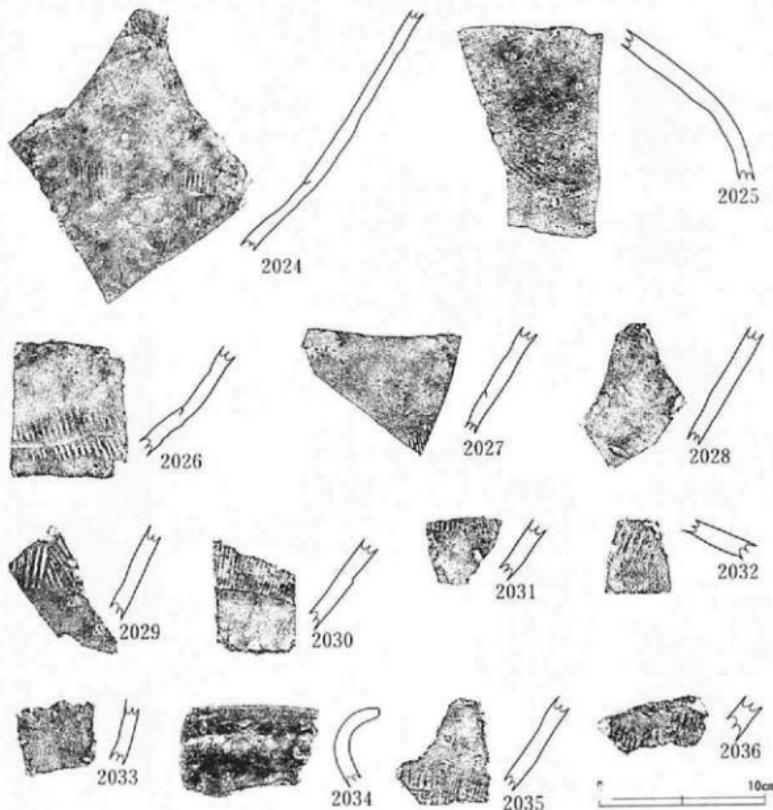
番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	その他の
2001	常滑	片口体	定形	P1031 理土 (Ⅲ G 5 d)	2型式	灰白	II特部取り
2002	常滑	片口体	口縁	16S E 6 1~3層西側	2型式	にぶい赤褐	III E 6 1層から土 肩部付近
2003	常滑	片口体	口縁	Ⅲ G 6 d I層	2~3型式	褐灰	
2004	常滑	片口体	体部	16S D15 理土 (Ⅲ G 5 b)	2~3型式	灰褐	
2005	常滑	盤	下手~底	16S K42 理土	2~3型式	にぶい赤褐	Ⅲ G 5 1層から5b 三脚付近
2006	常滑	三筋壺	体部	16S K16 理土	2~3型式	灰褐	
2007	常滑	三筋壺	体部	P260 涂方	2型式	にぶい赤褐	沈線2本線
2008	常滑	三筋壺	体部	Ⅲ G 9 h I層	2型式	褐灰	沈線2本線
2009	常滑	三筋壺	体部	Ⅲ G 1 d I層	2~3型式	灰褐	
2010	常滑	広口壺	底部	16S D15 理土 (Ⅲ G 4 b)	2型式	にぶい黄褐	Ⅲ G 4 b 1層からも出土
2011	常滑	広口壺	底部	16S K20 理土	2~3型式	黒褐	

第70図 常滑産陶器①



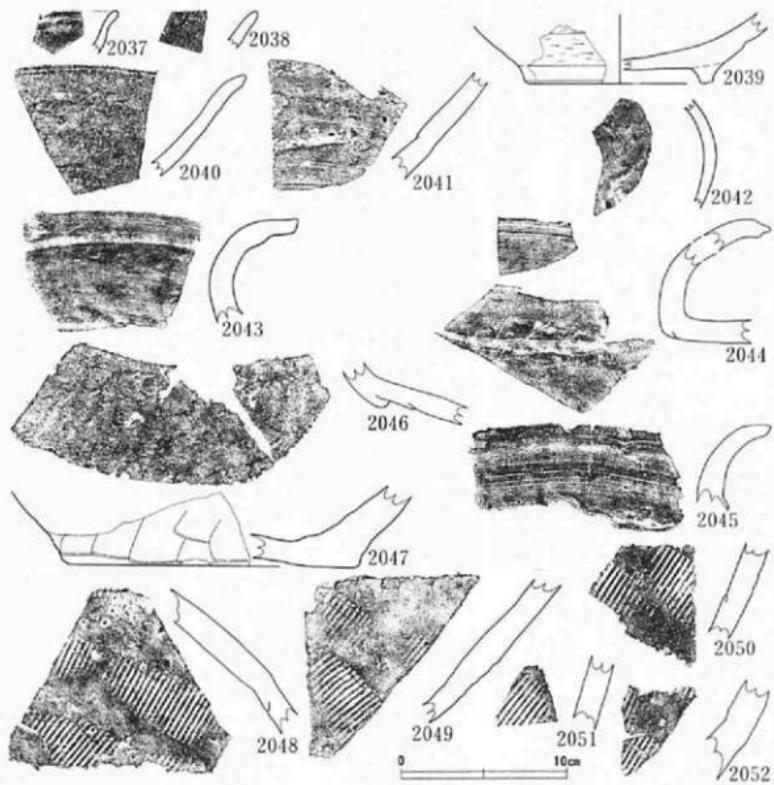
番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	その他の
2012	常滑	壺	口縁部	16S E11 1層	2型式	オリーブ灰	Ⅲ G 5 b I層からも出土
2013	常滑	壺	口縁部	16S D15 理土 (Ⅲ G 5 b)	2~3型式	暗緑	
2014	常滑	壺	体部上半	16S D15 理土 (Ⅲ G 7 b)	2~3型式	オリーブ灰	
2015	常滑	壺	体部上半	16S D15 理土 (Ⅲ G 5 b)	2~3型式	オリーブ灰	
2016	常滑	壺	体部上半	16S E14 理土	2~3型式	暗赤褐	
2017	常滑	壺	体部下半	16S E14 理土	2~3型式	にぶい赤褐	
2018	常滑	壺	体部下半	Ⅲ G 2 d I層	2~3型式	にぶい赤褐	
2019	常滑	壺	体部下半	Ⅲ G 4 c I層	2~3型式	にぶい赤褐	Ⅲ G 5 c I層からも出土
2020	常滑	壺	体部下半	16S E 6 1層	2~3型式	暗赤褐	
2021	常滑	壺	体部下半	16S E11 1層	2~3型式	灰褐	
2022	常滑	壺	体部下半	Ⅲ G 4 b I層	2~3型式	暗赤褐	
2023	常滑	壺	体部下半	Ⅲ G 3 b I層	2~3型式	にぶい赤褐	

第71図 常滑産陶器②



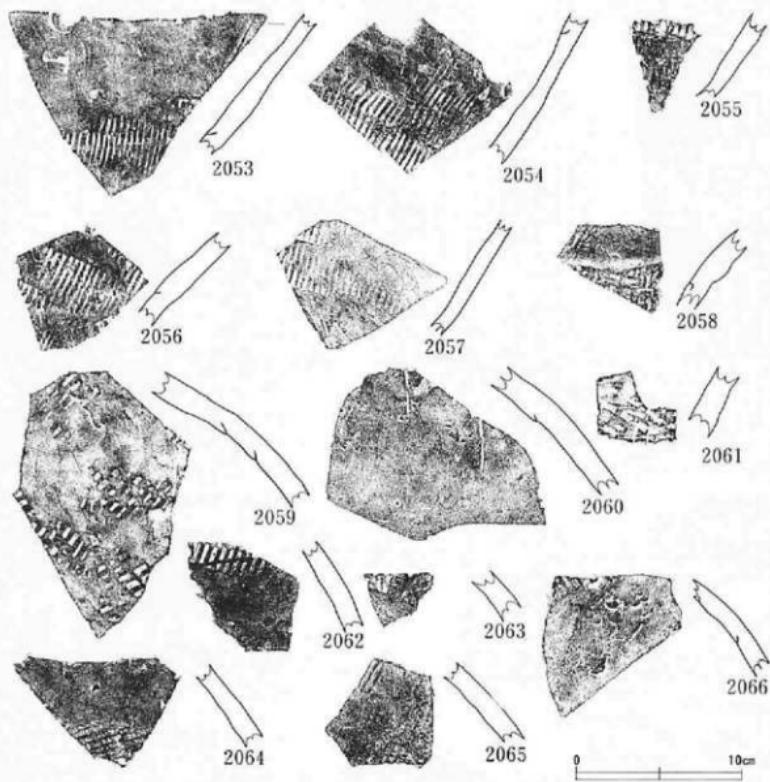
番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	その他の
2024	常滑	壺	体部下半	16S E 6 上部裏側 墓土	2~3型式	にほい赤褐	
2025	常滑	壺	体部上半	P114 握方	2~3型式	灰オリーブ	
2026	常滑	壺	体部下半	16S E 9 5層西側	2~3型式	灰黄褐	
2027	常滑	壺	体部下半	16S K21 墓土	2~3型式	褐色	
2028	常滑	壺	体部下半	16S D13 墓土 (II G 4 g)	2~3型式	暗赤褐	
2029	常滑	壺	体部下半	16S K20 墓土	2~3型式	灰褐	
2030	常滑	壺	体部下半	II G 6 g 1層	2~3型式	褐色	
2031	常滑	壺	体部下半	II G 6 d 1層	2~3型式	褐色	
2032	常滑	壺	体部下半	16S E 8 墓土	2~3型式	オリーブ黄	
2033	常滑	壺	体部下半	16S E 8 墓土	2~3型式	灰褐	
2034	常滑	口縁部		16S E 11 1層	2~3型式	オリーブ灰	
2035	常滑	壺	体部下半	II G 8 g 1層	2~3型式	黒褐	
2036	常滑	壺	体部下半	16S E 11 1層	2~3型式	にほい赤褐	

第72図 常滑産陶器③



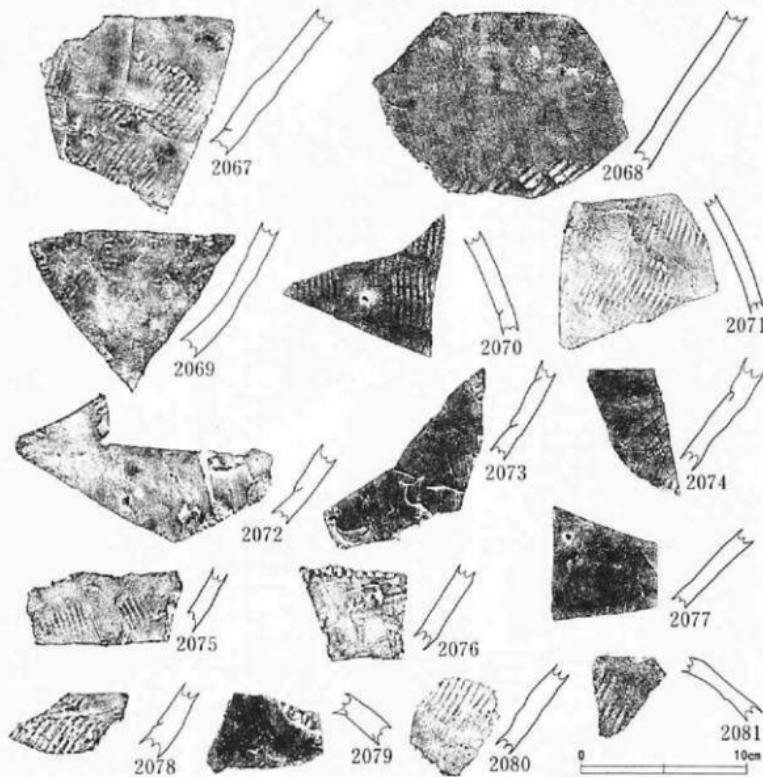
番号	種類	部種	部位	出土位置	年代など	色調	その他の
2037	涙美	山形瓶	口縁部	16SD15 理土 (ⅢG 5 b)	12C	褐色	
2038	涙美	片口鉢	口縁部	16SD15 理土 (ⅢG 5 b)	12C	黒褐	
2039	涙美	片口鉢	口縁部	ⅢG 5 e 1層	12C	灰	
2040	涙美	片口鉢	体部	P473 濟方	12C	灰白	
2041	涙美	片口鉢	底部	ⅢG 6 d 1層	12C	灰黄	
2042	涙美	壺	体部	ⅢG 4 g 1層	12C	灰オリーブ	
2043	涙美	壺	口縁部	ⅢG 4 g 1層	12C 前半	黒褐	
2044	涙美	壺	口縁部	16SE6 1~3層西側	12C	黒褐	
2045	涙美	壺	頭部	P834 濟方	12C	褐色	
2046	涙美	壺	口縁部	16SD6 理土	12C	オリーブ黒	P527, P538 浄方からも出土
2047	涙美	壺	底部	16SD15 理土 (ⅢG 5 b)	12C	灰	ⅢG 5 b 1層からも出土
2048	涙美	壺	体部上半	16SE13 理土	12C	オリーブ	
2049	涙美	壺	体部下半	ⅢG 5 b 1層	12C	に赤い褐	
2050	涙美	壺	体部下半	ⅢG 4 b 1層	12C	黒褐	
2051	涙美	壺	体部下半	16SD15 理土	12C	黒褐	
2052	涙美	壺	体部下半	ⅢG 0 h 1層	12C	褐色	

第73図 涙美産陶器①



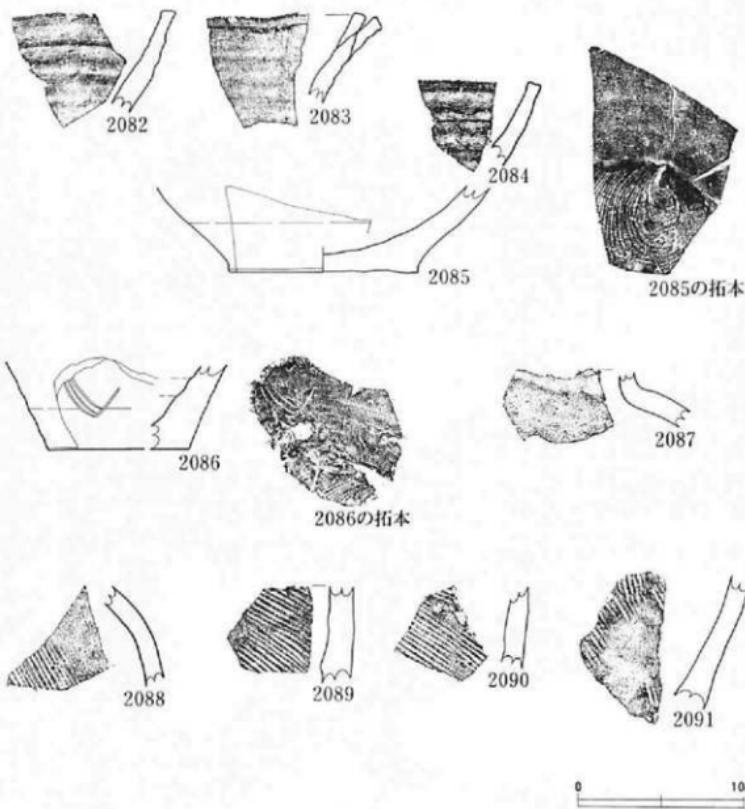
番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	その他の
2053	渥美	甕	体部下半	16SD15 理土 (III G 5 b)	12C	褐灰	III G 5 b I層からも出土
2054	渥美	甕	体部下半	16SK28 理土	12C	褐灰	
2055	渥美	甕	体部下半	16SK20 理土	12C	褐灰	
2056	渥美	甕	体部下半	III G 5 b 1層	12C	褐灰	
2057	渥美	甕	体部下半	16SE6 3層	12C	灰	
2058	渥美	甕	体部下半	III G 7 g 1層	12C	褐灰	
2059	渥美	甕	体部上半	16SE9 5層東側	12C	褐灰	
2060	渥美	甕	体部上半	16SE6 3層	12C	黄灰	外面の沈線状のもの模様が
2061	渥美	甕	体部下半	III G 4 b 1層	12C	褐灰	
2062	渥美	甕	体部上半	16SE13 理土	12C	黄灰	
2063	渥美	甕	体部上半	III G 5 g 1層	12C	黄灰	
2064	渥美	甕	体部上半	16SE13 理土	12C	褐灰	
2065	渥美	甕	体部上半	16SD15 理土 (III G 5 b)	12C	オリーブ灰	
2066	渥美	甕	体部上半	16SE14 理土	12C	灰褐	

第74図 渥美産陶器②



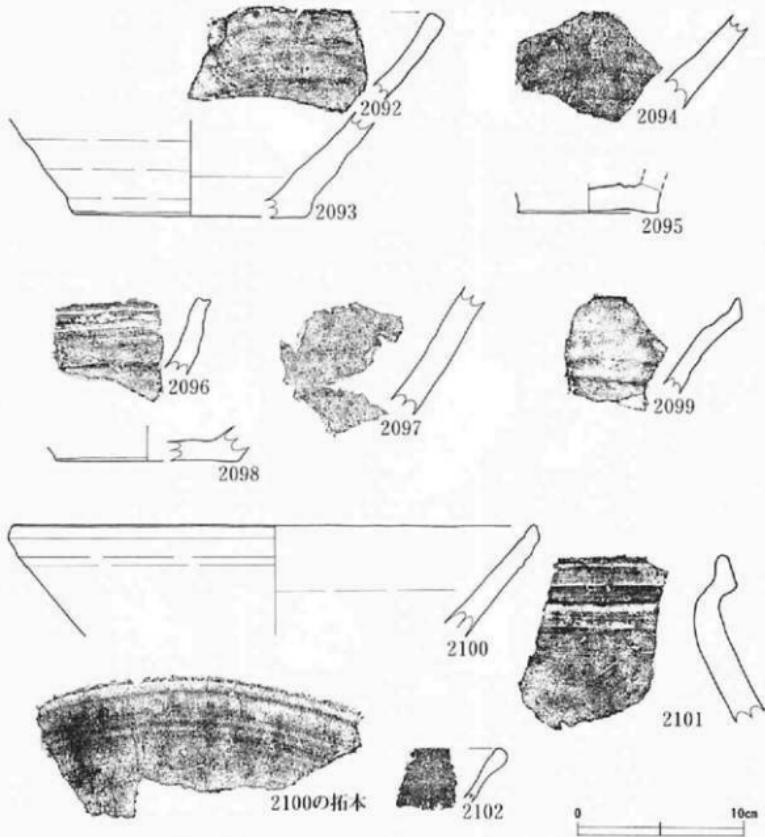
番号	種類	部種	部位	出土位置	年代など	色調	その他の
2067	渥美	甕	体部下半	Ⅲ G 6 b 1層	12C	褐灰	
2068	渥美	甕	体部下半	16S D15 墓土(Ⅲ G 5 b)	12C	灰褐色	
2069	渥美	甕	体部下半	16S E 6 1~3層東側	12C	灰白	
2070	渥美	甕	体部上半	16S E 6 1層	12C	灰	
2071	渥美	甕	体部上半	16S E 6 3層西側	12C	褐灰	
2072	渥美	甕	体部下半	16S K28 墓土	12C	褐灰	Ⅲ G 4 h 1層からも出土
2073	渥美	甕	体部下半	16S K40 墓土	12C	灰黃褐色	
2074	渥美	甕	体部下半	16S K17 1層	12C	褐灰	
2075	渥美	甕	体部下半	16S K11 1層	12C	黃褐色	
2076	渥美	甕	体部下半	Ⅲ G 7 e 1層	12C	に黒い斑	
2077	渥美	甕	体部下半	16S K41 墓土	12C	褐灰	
2078	渥美	甕	体部下半	Ⅲ G 6 g 1層	12C	褐灰	
2079	渥美	甕	体部上半	16S E 9 1~2層西	12C	オリーブ黒	
2080	渥美	甕	体部下半	P494 開方	12C	灰黃褐色	
2081	渥美	甕	体部上半	16S E 5 墓土上部	12C	灰白	

第75図 渥美産陶器③



番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	色調	その他の
2082	須恵器系	片口鉢	口縁部	16S E14 理土	12C後半	褐色	82~85同一個体か
2083	須恵器系	片口鉢	口縁部	16S E14 理土	12C後半	褐色	
2084	須恵器系	片口鉢	口縁部	16S E12 理土	12C後半	褐色	
2085	須恵器系	片口鉢	体部～底	16S D15 理土	12C後半	褐色	底面回転糸切
2086	須恵器系	壺	底部	Ⅲ G 2 b 1層	12C後半	灰青	波状文四耳壺 底面回転糸切
2087	須恵器系	壺	肩部	16S E10 2層西	12C後半少	灰	
2088	須恵器系	壺	体部	16S D38 理土	12C後半少	褐色	
2089	須恵器系	壺	体部	Ⅲ G 5 a 1層	12C後半少	灰	
2090	須恵器系	壺	体部	16S E11 1層	12C後半少	褐色	
2091	須恵器系	壺	体部	16S D15 理土 (Ⅲ G 5 b)	12C後半少	灰	

第76図 須恵器系陶器



番号	種類	部材	部位	出土状態	年代など	色調	その他の特徴
2092	盃器系	片口鉢	口縁部	16S E 13 墓土	13C後半～14C前半	暗赤褐色～赤褐色	片口部分のひねり有り
2093	盃器系	片口鉢	体部～底	16S E 13 墓土	13C後半～14C前半	暗赤褐色	92と同一個体 内面摩耗
2094	盃器系	鉢	口縁部	16S E 13 墓土	13C後半～14C前半	赤褐色～暗赤褐色	92と同一個体 内面摩耗
2095	盃器系	鉢	底部	16S E 13 墓土	13C後半～14C前半	暗赤褐色	小型の窓の破片有り
2096	盃器系	鉢	口縁部	III G 4 b I層	13C後半～14C前半	灰赤褐色～褐色	破断面は褐色を呈する
2097	盃器系	鉢	体部	III G 4 b I層	13C後半～14C前半	褐色	92と同一個体 内面や摩耗
2098	盃器系	鉢	底部	III G 6 b I層	13C後半～14C前半	橙～赤褐色	当たるは裏の底盤破片か
2099	盃器系	鉢	口縁部	III G 4 b I層	13C後半～14C前半	赤褐色～暗い赤褐色	片口部分のひねり有り
2100	盃器系	鉢	口縁部	16S E 10 墓土	13C後半～14C前半	赤褐色	破断面は灰褐色で硬い
2101	盃器系	鉢	口縁部	16S E 13 墓土	13C後半～14C前半	赤褐色～赤灰色	破断面赤褐色
2102	常滑窯	鉢	口縁部	III G 5 b (複数)	13C後半～14C前半	灰褐色	底邊はっきりせず

第77図 中世の瓷器系陶器

(4) 中世の瓷器系陶器（第77図 写真図版56）

13世紀後半～14世紀前半と推測される東北地方在地産の瓷器系陶器が出土している。2092～2094、2096、2097、2100は片口鉢、2095、2098は壺？、2101は壺である。図示したものが出土した全点である。具体的な窯は不明であるが、宮城県北付近の窯が想定される。これらの胎土は一樣ではなく、複数以上の窯の製品の可能性もある。2092～2095、2099は砂粒が多くザラザラした感じの胎土、2094、2096～2098、2100、2101は砂粒が多く緻密な感じの胎土である。2092、2093は同一個体の片口鉢である。2093の内面はかなり磨耗している。2093の底面は砂粒が付着している。切り離し痕は確認できない。2095、2098は底部の破片である。器種は確定できないが壺と推測される。2099は片口鉢の破片である。口縁部が壺んでおり片口部付近の破片である。2096と2097は胎土が非常に類似しており同一個体の破片と推測される。2097の下半部はやや磨耗している。2101は壺の口縁部破片である。かなり大型の壺と推測される。

2102は產地を確定できないが、東海産の片口鉢片と推測される。常滑窯の可能性が高い。時期を特定できないが13世紀中葉頃と推測される。

4 中国産磁器（第78～80図 写真図版57、58）

中国産磁器は12世紀に属する物と、13～14世紀に属するものがある。12世紀に属するとした磁器の中には、製作年代が11世紀にさかのばる可能性を有するものがあるが、平泉においてはこれらの使用年代を12世紀と考え、12世紀の磁器に含めて扱っている。また16世紀末～17世紀初頭の中国産染付も出土しているが、それらは近世の磁器として扱っており、ここではふれていない。

(1) 12世紀の中国産磁器（第78、79 図 写真図版57、58）

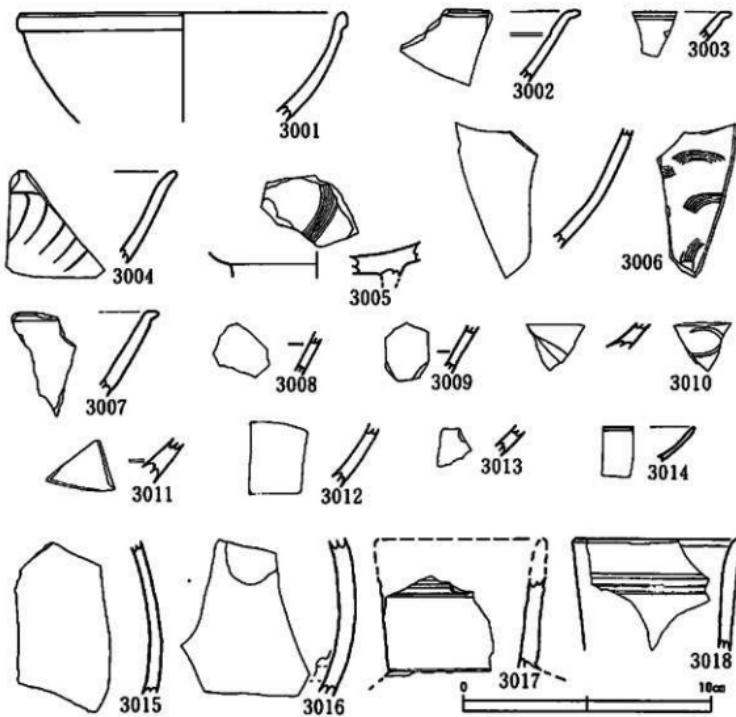
12世紀（11世紀）の中国産磁器は白磁碗15点、白磁皿1点、白磁壺10点、白磁水注2点、青磁碗6点、青白磁皿1点、青白磁合子1点、青白磁梅瓶1点を図示した。これらが出土した全点である。

3001は玉縁の碗で化粧土が施される。碗で化粧土があるのはこの個体だけである。3004は外間に斜位に飾書きが施される。他の白磁と異なり真白な色調を呈する。3005、3006は内間に飾書きが施される。3005の高台部は露胎である。3010は内間に施書きが施される。3014は化粧土が施された皿である。

3015、3016の白磁壺は化粧土の有無を判別し難い。どちらも内面は施釉されている。3017、3018は同一個体の白磁水注である。どちらも2次被釉しており化粧土の有無を判別し難い。3017には把手の付け根の隆起が認められる。また3018の口唇部は無釉で、蓋の存在が想定される。3019～3026は化粧土のない皿系（大寺府分類）の蓋である。3019は内底面にリング状の灰の付着がみられる。3027～3030は龍泉窯の青磁碗である。3027は外間に飾書きが施される。3028は内間に刻花文が施される。3031、3032は同安窯の青磁碗である。3032は厚く黄色がかかった釉がかかる。3033～3035は青白磁である。3033は非常に薄手の造りの皿である。3034は合子の下である口唇部は無釉である。3035の梅瓶は内面に漆に類似する皮膜が付着している。

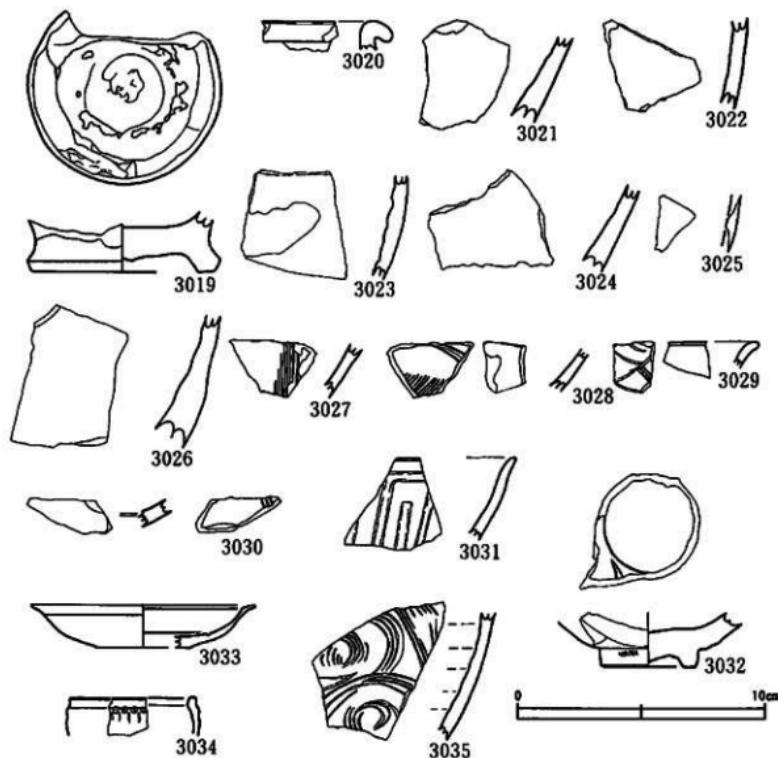
(2) 中世の中国産磁器（第80図 写真図版58）

13世紀後半～14世紀前半に属する中国産磁器が出土している。白磁壺2点、青磁碗2点である。3036は大型の蓋である。透明度の強い釉が掛かっている。3037は白磁壺の下半部の破片である。3038は龍泉窯の錦通弁文の青磁碗である。3039は細片ではっきりしないが、龍泉窯の錦通弁文の碗と推測される。



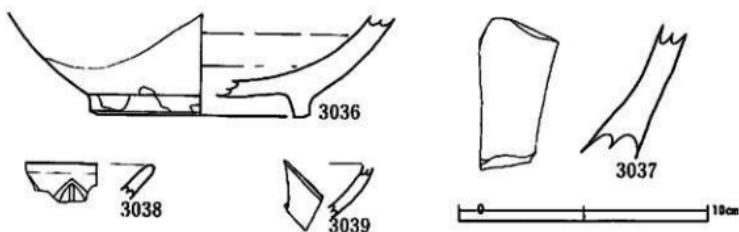
番号	種類	部位	部位	出土位置	大字分類	大字の年代範	その他の
3001	白磁	碗	口縁部	EG 8 g I層	Ⅱ 1	11C後半～12C前	
3002	白磁	碗	口縁部	16S E 6 墓土上部	V	12C	
3003	白磁	碗	口縁部	EG 5 c I層	V	12C	
3004	白磁	碗	口縁部	16S E 12 墓土	Ⅱ 2 b	12C	
3005	白磁	碗	底部	16S E 10 墓土	V 4 b	12C	
3006	白磁	碗	体部	EG 9 d I層	V 4 bか	12C	
3007	白磁	碗	口縁部	16S K 20 墓土	Ⅳ	12C	
3008	白磁	碗	体部	EG 6 c I層	ⅣかVかⅤ	12C	
3009	白磁	碗	体部	P 512 方面	ⅣかVかⅤ	12C	
3010	白磁	碗	体部	EG 5 b 表土	Ⅳか	12C	
3011	白磁	碗	体部	16S E 6 墓土	ⅣかVかⅤ	12C	
3012	白磁	碗	体部	16S E 6 I層	ⅣかVかⅤ	12C	蓋の可能性もあり
3013	白磁	碗	体部	EG 2 d I層	ⅣかVかⅤ	12C	
3014	白磁	皿	口縁部	紳士中	Ⅳ小箱	11C後半～12C前	化粧土あり
3015	白磁	蓋	体部	16S E 15 墓土(EG 5 b)	Ⅱ系	11C後半～12C前	化粧土あり
3016	白磁	蓋	体部	P 548 方面	Ⅱ系	11C後半～12C前	化粧土あり
3017	白磁	水注	口縁部	16S D 13 墓土	Ⅱ系	11C後半～12C前	化粧土あり18と同一個体
3018	白磁	水注	口縁部	16S K 9 墓土	Ⅱ系	11C後半～12C前	化粧土あり二重焼成している

第78図 中国産磁器①



番号	種類	器種	部位	出土位置	大字有分類	大字の年代観	その他の
3019	白磁	盞	底盤	P385 剣方	田系	12C	
3020	白磁	盞	口縁部	16SE3 1号	田系	12C	
3021	白磁	盞	体部	ⅢG 6 c 1号	田系	12C	
3022	白磁	盞	体部	P1049 剣方	田系	12C	
3023	白磁	盞	体部	ⅢG 5 b 1号	田系	12C	
3024	白磁	盞	体部	P804 剣方	田系	12C	
3025	白磁	盞	体部	P137 剣方	田系	12C	
3026	白磁	盞	体部	16SE13 塚土	田系	12C	
3027	青磁	碗	体部	16SE10 2号	鹿泉I 6	12C	
3028	青磁	碗	体部	ⅢG 4 a 1号	鹿泉I	12C	
3029	青磁	碗	口縁部	ⅢG 5 b 1号	鹿泉I	12C	
3030	青磁	碗	体部	ⅢG 5 a 1号	鹿泉I	12C	
3031	青磁	碗	口縁部	16SE12 1号	同上IかII	12C	
3032	青磁	碗	底盤	P284 剣方	同上I	12C	
3033	青白磁	皿	完形	16SK32 塚土	青白磁	12C	
3034	青白磁	合子	口縁部	P376 剣方	青白磁	12C	
3035	青白磁	梅瓶	作部	P385 剑方	青白磁	12C末~13C	

第79図 中国産磁器②



番号	後期	器種	部位	出土位置	大半分類	大半の年代	その他の
3036	白磁	碗?	底部	16S E11 稲土	?	?	13C~14Cのものか
3037	白磁	壺	全体	16S E13 稲土	?	?	13C~14Cのものか
3038	青磁	碗	口周部	16S E10 1層	磁象 I 5	13C後半~14C前	
3039	青磁	碗	全体	16S E40 稲土	磁象 I 5	13C後半~14C前	

第80図 中國産磁器③

5 瓦 (第81図)

瓦は軒丸瓦2点、軒平瓦1点、平瓦3点が出土した。出土した全点を図示した。いずれも12世紀に属するものである。出土点数が非常に少なく、当調査区付近に瓦葺き建物が存在していた可能性は低い。4001は陽刻劍頭連珠文、4002は陰刻劍頭文の軒丸瓦である。どちらも12世紀後半に属する。4003は陽刻の唐草文の軒平瓦である。12世紀中葉以前に属する可能性が高い。

6 近世の陶磁器 (第82~90図 写真図版59~67)

近世の陶磁器は、中国産、朝鮮産、肥前産、瀬戸美濃産、大垣相馬産、東北地方在地産などがある。ここでは16世紀代の陶磁器も便宜的に近世に含めて報告する。

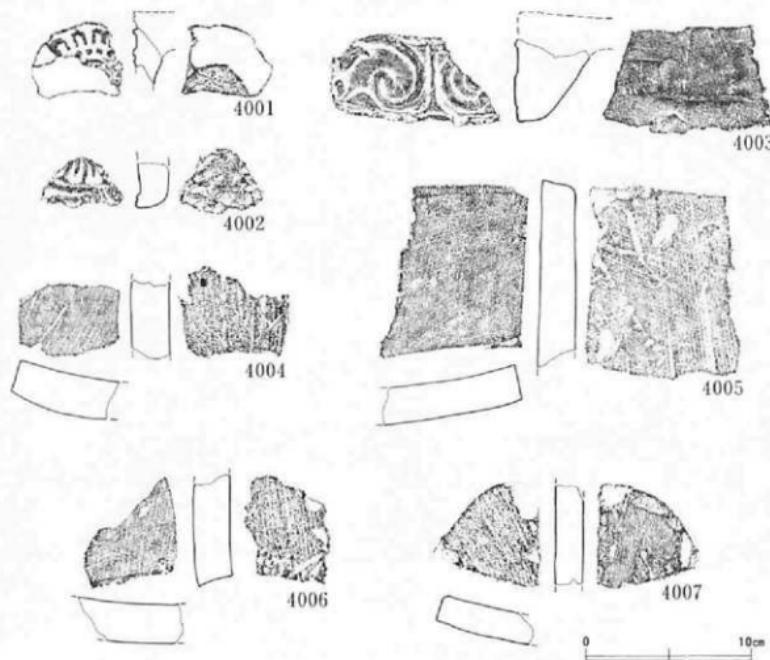
(1) 近世の磁器 (第82~84図 写真図版59~60)

近世の磁器は碗24点、皿24点、小杯1点、香炉1点、瓶3点、花生1点、水滴1点を図示した。

5001~5005は中国産の染付磁器碗である。5点とも染付の文様構成が共通する碗である。5001と5002、5003~5005がそれぞれ同一個体と推測される。輪が厚く掛かり漳州窯系の碗と推測される。5006~5009は中國産の染付磁器皿である。5006、5008は端反りの皿である。5009は染付けの色調から景德鎮産と推測される。

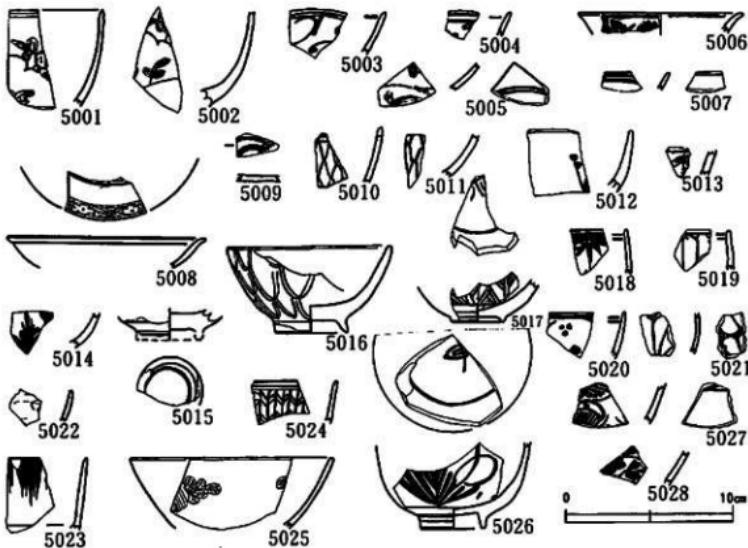
5010、5011は肥前産の碗である。一重綱目文が施される。17世紀後半のものである。5012~5016は肥前産の1690~1780年代の碗である。5015は染付の色調が青灰色を呈している。5017~5024は18世紀後半~19世紀前半の肥前産の碗である。5021は内面にも染付が施されている。5025は19世紀前半の肥前産の碗と推測される。5026、5027は平清水窯の碗である。染付は工業コバルトの色を呈する。5028は瀬戸産の碗と推測される。染付が盛り上がっている。

5029は17世紀前半の肥前産の皿である。底辺部に砂が付着する。5045、5046は細片のためはっきりしないが17世紀前半(大正年間)の肥前産皿と推測される。5030~5044は1690~1780年の肥前産の皿である。



番号	種別	出土位置	文様
4001	軒丸瓦	P290 楼方	陽刻 刺繡連珠文
4002	軒丸瓦	P433 楼方	陽刻 刺頭文
4003	軒平瓦	16 S D 12 墓土	陽刻 唐草文
4004	平瓦	16 S D 7 墓土	
4005	平瓦	16 S E 5 墓土上部	
4006	平瓦	16 S E 6 5層	
4007	平瓦	16 S E 6 5層	

第81図 12世紀の瓦



番号	器種	出土位置	寸法 (cm)			胎上	胎表面	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5001	碗	P425 棚方	-	-	(5.2)	白色 黒い紋	兔付	中国	16C末~17C初	
5002	碗	P963 棚方	-	-	(4.9)	白色 黒い紋	兔付	中国	16C末~17C初	1と同一個体か
5003	碗	P326 棚方	-	-	(2.5)	白色 黒い紋	兔付	中国	16C末~17C初	胎が厚い 津州窯系
5004	碗	Ⅲ C 5 b 1層	-	-	(1.4)	白色 黒い紋	兔付	中国	16C末~17C初	3. 3対一組 津州窯系
5005	碗	16S E 5 墓土上部	-	-	(1.6)	白色 黒い紋	兔付	中国	16C末~17C初	3. 3対一組 津州窯系
5006	皿	Ⅲ C 4 f 1層	10.0	-	(1.2)	白色 黒い紋	兔付	中国	16C?	端反りの皿
5007	皿	P772 棚方	-	-	(1.0)	白色 黒い紋	兔付	中国	16C末~17C初?	
5008	皿	P425 棚方	12.0	-	(1.8)	白色 黒い紋	兔付	中国	16C末~17C初?	
5009	皿	P425 棚方	-	-	(2.5)	白色 黒い紋	兔付	中国	16C末~17C初?	飛鶴焼
5010	碗	P1037 棚方	-	-	(2.7)	白色	兔付	肥前	17C後半	一笠南日文
5011	碗	P1037 棚方	-	-	(2.5)	白色	兔付	肥前	17C後半	一笠南日文
5012	碗	Ⅲ C 7 e 1層	-	-	(3.6)	白色	兔付	肥前	1690~1780	
5013	碗	P555 棚方	-	-	(1.5)	白色	兔付	肥前	1690~1780	
5014	碗	16S E 12 墓土	-	-	(2.0)	白色	兔付	肥前	1690~1780	
5015	碗	16S E 2 墓土	-	-	(4.0) (11.7)	灰色	兔付	肥前	1690~1780	兔付の色青灰色を呈する
5016	碗	16S E 4 墓土	9.8	4.9	5.2	白色 黒い紋	兔付	肥前	1690~1780	
5017	碗	Ⅲ G 7 g 1層	-	-	3.2 (2.6)	白色	兔付	肥前	18C末~19C初	
5018	碗	Ⅲ G 1 e 1層	-	-	(2.6)	白色	兔付	肥前	18C末~19C初	
5019	碗	Ⅲ G 6 a 1層	-	-	(2.4)	白色	兔付	肥前	18C末~19C初	
5020	碗	16S K 20 墓土	-	-	(2.8)	白色	兔付	肥前	18C末~19C初	
5021	碗	Ⅲ C 2 d 1層	-	-	(2.4)	白色	兔付	肥前	18C末~19C初	内面にも文様あり
5022	碗	16S B 10 墓土	-	-	(1.9)	白色	兔付	肥前	18C末~19C初	
5023	杯	Ⅲ G 7 g 1層	-	-	(4.3)	白色	兔付	肥前	18C末~19C初	筒形碗
5024	杯	Ⅲ G 9 h 1層	-	-	(2.6)	白色	兔付	肥前	18C末~19C初	筒形碗
5025	杯	16S E 4 墓土	12.0	-	(4.2)	白色	兔付	肥前	19C前半	
5026	碗	Ⅲ G 9 g 1層	-	4.0	(5.1)	白色 ガラス質	兔付	平清水	19C中葉	兔付コバルト
5027	碗	16S E 11 1層	-	-	(2.4)	白色 ガラス質	兔付	平清水	19C中葉	兔付コバルト
5028	碗	Ⅲ G 9 i 1層	-	-	(2.0)	白色 ガラス質	兔付	濃口	19C前半	兔付が盛り上がりがっている

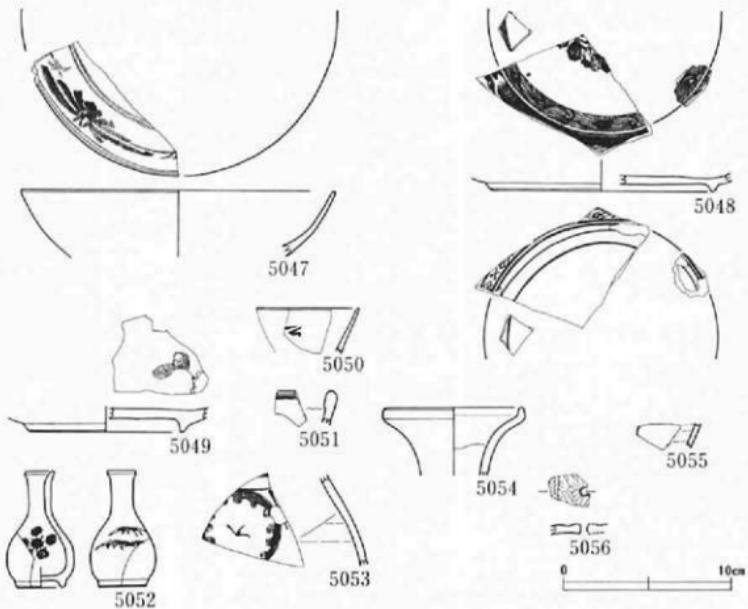
第32図 近世の磁器①



番号	器種	出土位置	法量(cm)			胎土	釉薬 染付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5029	皿	P512 植物	—	3.6	(1.5)	白色	染付	肥前	17C前半	見込み絵目釉薬剥ぎ
5030	皿	16SD10 球土	—	3.6	(1.5)	白色	染付	肥前	1690~1780	見込み絵目釉薬剥ぎ
5031	皿	II G 9 i 1層	—	—	(1.1)	白角	染付	肥前	1690~1780	見込み絵目釉薬剥ぎ
5032	皿	III G 1 i	—	—	(1.3)	白色	染付	肥前	1690~1780	見込み絵目釉薬剥ぎ
5033	皿	II G 9 i 1層	—	—	(1.6)	白色	染付	肥前	1690~1780	見込み絵目釉薬剥ぎ
5034	皿	16SE11 球土	—	4.4	(2.0)	白色	染付	肥前	1690~1780	見込み絵目釉薬剥ぎ
5035	皿	16SE5 球土上部 16SK19 潜設箱内	13.4	7.6	3.8	白色 黒・較	染付	肥前	1690~1780	2破片に分かれる 潜接ぎ
5036	皿	II G 7 h 表土	—	7.6	3.2	白色	染付	肥前	1690~1780	底板の裏面 外底に施
5037	皿	16SD5 球土	—	—	(3.0)	白色	染付	肥前	1690~1780	口唇部に口紅
5038	皿	III G 0 h 1層	12.8	—	3.0	白色	染付	肥前	1690~1780	墨剥き、跡(大明年製)
5039	皿	16SD7 肉薄球土	—	7.6	(2.3)	白色	染付	肥前	1690~1780	墨剥き、跡(大明年製)
5040	皿	16SK4 球土	—	7.6	(2.1)	白色	染付	肥前	1690~1780	墨剥き
5041	皿	III G 7 e 1層	—	7.8	(2.3)	白色	染付	肥前	1690~1780	墨剥き
5042	皿	西側 魔瓦	—	—	(1.9)	白色	染付	肥前	1690~1780	墨剥き
5043	皿	16SK19 潜設箱内	—	—	(2.2)	白色	染付	肥前	1690~1780	墨剥き
5044	皿	II G 8 g 1層	—	—	(1.7)	白色	染付	肥前	1690~1780	大田の穀片か
5045	皿	P475 植物	—	—	(1.4)	灰色	染付	肥前	17C前半?	肥前二期の皿か
5046	皿	P484 植物	—	—	(1.6)	灰色	染付か	肥前	17C前半?	肥前二期の皿か

第83図 近世の磁器②

5035は破断面に漆が付着しており、漆巻ぎがおこなわれている。5044は大皿の破片と推測される。5047～5049は19世紀前半の肥前産皿と推測される。5047は身の深い皿である。染付は青灰色を呈する。5048は大皿である。5050は肥前産の小杯である。5051は肥前産の香炉である。内面は口縁部以外無釉である。5054は肥前産の青磁花生である。内面は口縁部以外無釉である。5052～5053、5055は肥前産の瓶である。いずれも内面は口縁部以外無釉である。5056は肥前産の水滴である。型おこしの製品である。



番号	器種	出土位置	法量(cm)		胎土	釉薬 焼付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径					
5047	皿	16S K20 理土	19.0	— (4.0)	白色	染付	肥前	19C前半	染付の色、青灰色
5048	皿	16S E 5 理土上部	—	13.2 (1.2)	白色	染付	肥前	19C前半	3破片からなる
5049	皿	16S E 7 理土上部	—	9.4 (1.5)	白色 黒い粒	染付	肥前	19C前半	
5050	小杯	16S E 1 理土	6.2	— (2.7)	白色	染付	肥前	1690～1780	
5051	香炉	II G 4 d 1層	—	— (2.0)	白色	染付	肥前	1690～1780	内面口縁部のみ施釉
5052	瓶	16S K13 理土	1.7	2.7	白色	染付	肥前	1690～1780	
5053	瓶	II G 7 g 1層	—	— (5.5)	白色	染付	肥前	1690～1780	内面下半無地
5054	花生	16S K20 理土	8.4	— (4.0)	白色	青磁	肥前	1690～1780	内面口縁部のみ施釉
5055	瓶	16S K21 理土	—	— (1.4)	白色	青磁	肥前	1690～1780 ?	内面無釉
5056	水滴	II G 7 g 1層	—	— (1.8)	白色	染付?	肥前	1690～1780	型おこし

第34図 近世の磁器③

(2) 近世の陶器（第85～90図 写真図版61～67）

近世（便宜的に16世紀代の陶器も含む）の陶器は皿25点、碗16点、碗蓋1点、瓶1点、香炉5点、土瓶4点、仏飯器2点、鉢2点、切立3点、行平2点、おはぐろ盃2点、植木鉢1点、壺6点、擂鉢18点、土人形1点、焜炉3点を図示した。

5057～5060、5063～5080は瀬戸美濃産陶器で大窯期（一部、登窯初期のものを含む可能性もある。）の陶器である。5064と5065は大窯期の前半に属する皿である。5063は時期がはっきりしない。他は大窯期の後半に属する。

5064は縁反皿である。5065は丸皿で見込みに菊花文がある。5057は丸皿である。5068～5080は志野皿である。5068は鉄絵が施されている。5074～5080は菊皿である。5063は天目茶碗である。外面下半には鉄化粧（鉛釉）が施される、内面と外面上半は鉄釉が施される。胎土は緻密な灰色である。全体の器形が明らかでないため詳細な時期は不明である。5067は筒型の香炉と推測される。灰釉が施される。内面は口縁部より下は無釉である。

5061、5081～5083は肥前（吉津）産の皿である。5061は内面に胎土目がある。釉は黄色がかった白濁した釉が施されている。5081は16S B31の柱穴から出土した。深緑色の釉が施される。胎土は褐色土を呈する。5082は口縁部の細片である。口唇部に鉄釉が施される。5083は失透性の灰色の釉が施される。胎土は褐色土を呈する。

5063は朝鮮産の瓶である。胎土は緻密なにぶい褐色である。外面には深緑色の釉が施される。内面には当て具痕がみられる。

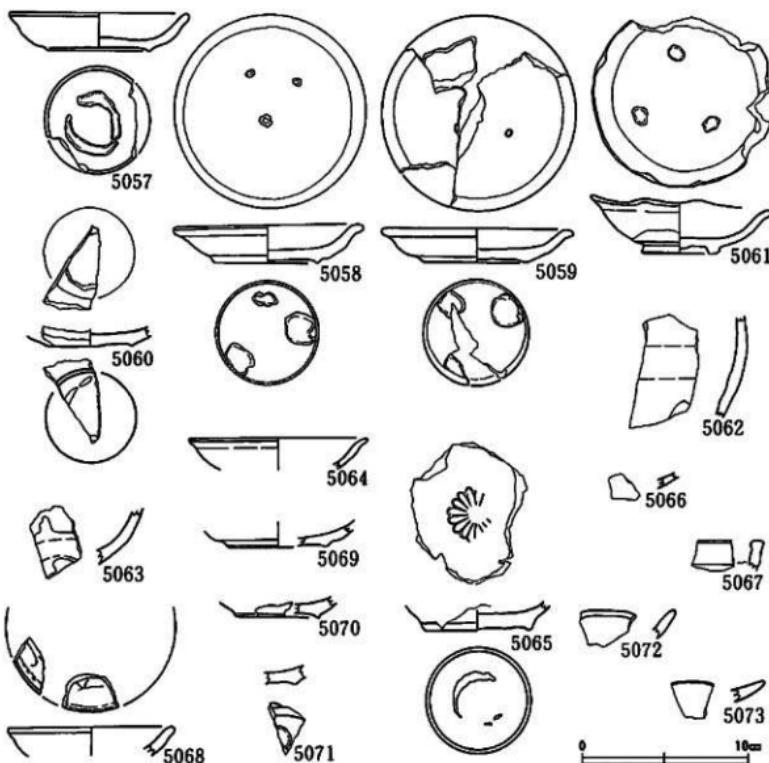
5084～5086は18世紀前半の肥前産の碗である。5085は刷毛目が施される。5087～5097は大堀相馬産の碗である。5087～5089は透明性のある灰釉が施される。18世紀代の碗である。5090は体部下半に鉄釉が施される。18世紀代の碗である。5091、5092は小型の碗である。透明性のある灰釉が施される。5093は腰折碗である。透明性のある灰釉が施される。5094～5097は失透性の薺灰釉が施される碗である。5097は上半部に褐色が流し掛けられる。5098は失透性の薺灰釉が施される碗である。内面に一条銅線釉が施される。5097は产地、時期不明の碗である。東北地方在地産の可能性がある。内外面には黒色の釉が施される。釉は生焼け状態で光沢がない。高台内部は施釉されていない。胎土は粗く褐色を呈する。

5100は肥前産の皿である。見込み蛇の目釉剥ぎで銅線釉が施される。5101～5104は香炉である。5101は肥前産の陶胎染付の香炉である。内面は口縁部以外無釉である。5102は产地不明の香炉である。京・信楽系の可能性がある。鉄絵の上に透明釉が施される。内面は口縁部以外無釉である。5103、5104は瀬戸・美濃産香炉である。5103の内面は施釉、5104は無釉である。5105～5108は土瓶である。5105、5106は同一個体の可能性が高い。大堀相馬産と推測される。5107は東北地方在地産である。外面には褐釉が施され、内面は無釉である。5108は20世紀代の汽車土瓶の類と推測される。外面に薺灰釉薺が施される。5109、5110は仏飯器である。どちらも大堀相馬産と推測される。5110は底面に育孔がある。

5111～5124は東北地方在地産の陶器である。5116、5117は体部に凸帯があり、いわゆる「おはぐろ盃」である。どちらも内外面鉄釉である。5118は内面が口縁部以外無釉である。5119は器種不明であるが植木鉢の可能性が高い。5125、5126は常滑産の大壺である。18世紀後半のものである。

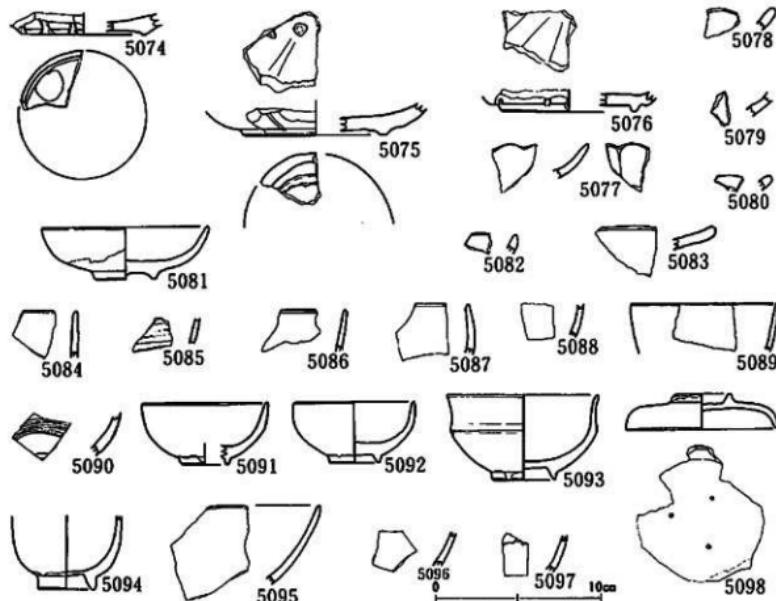
5128～5144は擂鉢である。5127～5129は焼締陶器である。東北地方在地産で18世紀後半と推測される。5130～5144は東北地方在地産の擂鉢で19世紀以降のものと判断される。

5145は素焼きの型おこしの人物と推測される。5146～5148は素焼きの焜炉の類である。



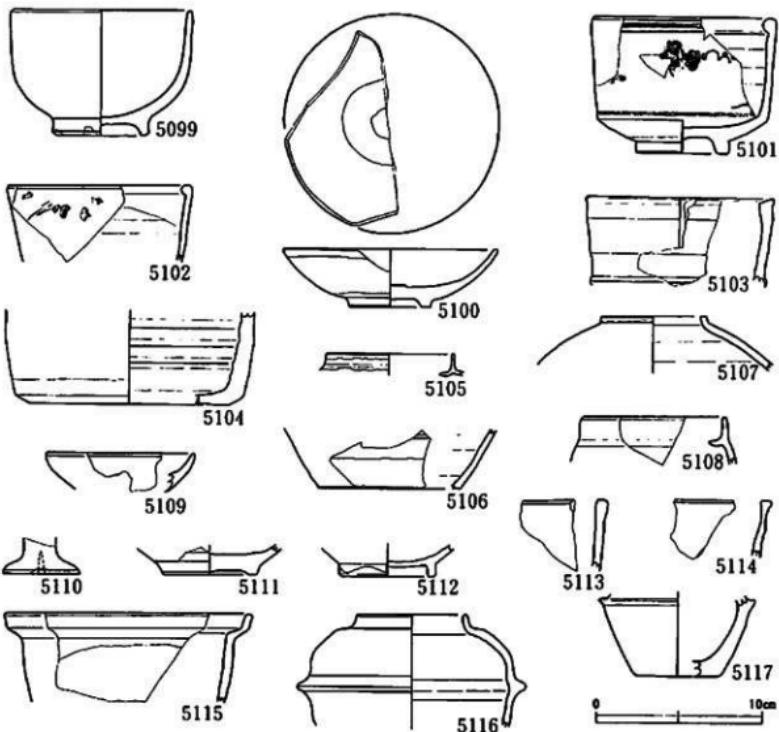
番号	器種	出土位置	法量 (cm)		胎上	胎姿 絞付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径					
5057	皿	16S E 3 1層	10.8	5.2	2.3	淡黃色	灰胎	鹿戸・美濃	16C前半
5058	皿	16S E 3 稲土	11.2	6.2	2.4	淡黄色	長石胎	鹿戸・美濃	16C末~17C初
5059	皿	16S E 3 1層	11.2	6.4	2.0	淡黄色	長石胎	鹿戸・美濃	16C末~17C初
5060	皿	16S E 3 稲土	-	5.2	(1.2)	灰白色	鐵胎	鹿戸・美濃	16C 外底部に鉄物
5061	皿	16S E 3 1層	10.8	4.6	3.5	にぼい青色	高灰胎	吉津(足利)	16C末
5062	皿	16S E 3 1層	-	-	(6.0)	にぼい褐色	滑胎	朝野	16C 内面にタキ西
5063	皿	16 G 3 ~ 5 b 1層	-	-	(3.3)	灰色	鐵胎	鹿戸・美濃	16C 外表面部下平鉢化傾
5064	皿	P669 鋏方	10.8	-	(1.8)	灰色	灰胎	鹿戸・美濃	16C前半
5065	皿	16 S E 1 1層	-	6.2	(1.7)	灰白色	灰胎	鹿戸・美濃	16C前半
5066	皿	P530 鋏方	-	-	(0.9)	淡黄色	灰胎	鹿戸・美濃	16C 細片のため詳細不明
5067	香炉?	16 G 0 i 1層	-	-	(1.8)	灰白色	灰胎	鹿戸・美濃	16Cか
5068	皿	P953 鋏方	10.0	-	(1.7)	灰白色	灰胎	長石胎	17C初
5069	皿	16 G 2 d 1層	-	6.0	(1.6)	にぼい黄褐色	長石胎	鹿戸・美濃	16C末~17C初
5070	皿	P483 鋏方	-	5.0	(1.3)	灰色	長石胎	鹿戸・美濃	16C末~17C初
5071	皿	16 S K 3 稲土	-	-	(2.5)	にぼい黄褐色	長石胎	鹿戸・美濃	16C末~17C初
5072	皿	16 S E 7 稲土	-	-	(1.7)	にぼい黄褐色	長石胎	鹿戸・美濃	16C末~17C初
5073	皿	P132 鋏方	-	-	(1.2)	にぼい黄褐色	長石胎	鹿戸・美濃	16C末~17C初

第85図 近世の陶器①



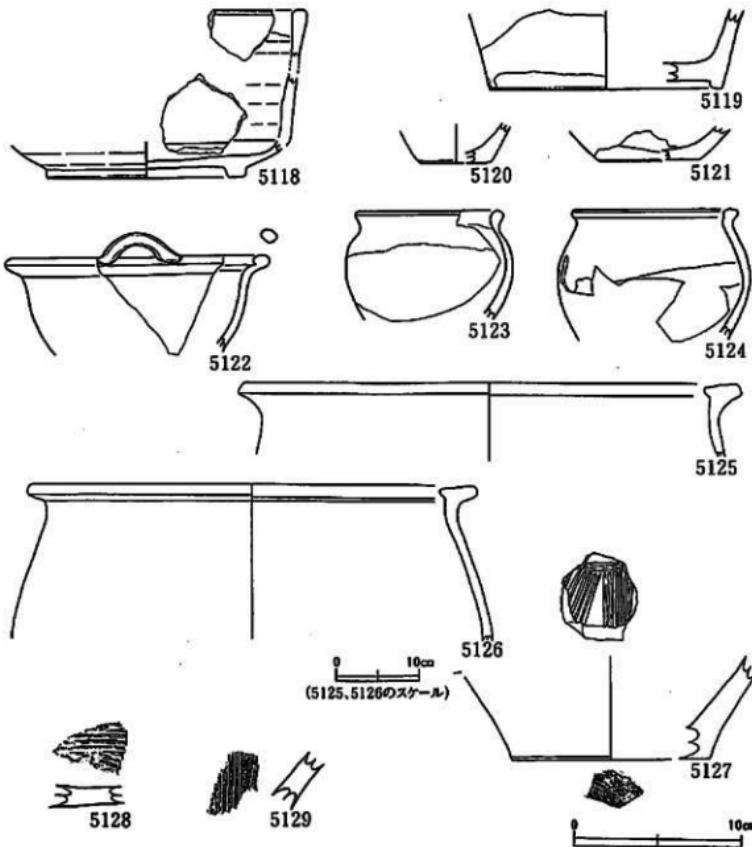
番号	器種	出土位置	法規(cm)			胎土	釉薬 絵文	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5074	瓶	Ⅲ G 0 i 1層	-	7.4	(1.3)	灰白色	瓦石物	御内・美濃	16C末～17C初	志野皿
5075	瓶	16SE11 1層	-	8.6	(1.8)	にぶい黄褐色	瓦石物	御内・美濃	16C末～17C初	志野皿
5076	瓶	16E 5 地上部	-	8.0	(1.3)	にぶい黄褐色	瓦石物	御内・美濃	16C末～17C初	志野皿
5077	瓶	Ⅲ G 1 h 1層	-	-	(2.1)	灰褐色	瓦石物	御内・美濃	16C末～17C初	志野皿
5078	瓶	Ⅲ G 8 a 1層	-	-	(1.3)	にぶい黄褐色	瓦石物	御内・美濃	16C末～17C初	志野皿
5079	瓶	P 502 振方	-	-	(1.3)	にぶい黄褐色	瓦石物	御内・美濃	16C末～17C初	志野皿
5080	瓶	Ⅲ G 7 d 1層	-	-	(0.9)	にぶい黄褐色	瓦石物	御内・美濃	16C末～17C初	志野皿
5081	瓶	P 454 振方	10.0	3.6	3.2	褐灰色	深緑の絵	吉津(足利)	17C初	
5082	瓶	16SD 7 磁土	-	-	(1.2)	赤褐色	透明釉	香山(足利)	16C末か	鉄绘あり
5083	瓶	P 475 振方	-	-	(1.4)	褐灰色	灰色の絵	吉津(足利)	16C末～17C初	
5084	瓶	Ⅲ G 1 i 1層	-	-	(2.8)	にぶい黄褐色	透明釉	肥前	18C前半	
5085	瓶	Ⅲ G 5 a 1層	-	-	(1.5)	にぶい黄褐色	透明釉	肥前	18C前半	刷毛目の文様がある
5086	瓶	Ⅲ G 9 i 1層	-	-	(2.5)	にぶい黄褐色	透明釉	肥前	18C前半	
5087	瓶	16SD 9 磁土	-	-	(3.1)	灰白色	灰物	大膳相馬	18C	
5088	瓶	16SD 11 磁土 (Ⅲ G 3 c)	-	-	(2.0)	灰白色	灰物	大膳相馬	18C	
5089	瓶	16SD 7 南端部磁土上部	8.8	-	(3.0)	灰白色	灰物	大膳相馬	18C	
5090	瓶	Ⅲ G 8 f 1層	-	-	(2.5)	灰白色	灰物 灰物	大膳相馬	18C	外腹 鉄物
5091	瓶	P 289 振方	7.6	2.8	3.7	にぶい黄褐色	灰物	大膳相馬	18C後半	
5092	瓶	Ⅲ G 9 d 1層	7.4	3.0	3.6	灰白色	灰物	大膳相馬	18C後半	
5093	瓶	16SK11 磁土	9.2	3.8	5.1	灰白色	灰物	大膳相馬	18C後半	縦折隕
5094	瓶	16SK11 磁土	-	3.4	(4.4)	にぶい黄褐色	草原物	大膳相馬	19C前半	
5095	瓶	16SK20 磁土	-	-	(4.7)	灰白色	高砂物	大膳相馬	19C前半	
5096	瓶	16SE 4 磁土	-	-	(2.0)	灰白色	南灰物	大膳相馬	19C前半	
5097	瓶	P 808 振方	-	-	(2.1)	灰白色	高砂物	大膳相馬	19C前半	
5098	瓶	Ⅲ G 9 e 1層	9.2	3.4	2.1	灰白色	南灰物	大膳相馬	19C前半	

第86図 近世の陶器②



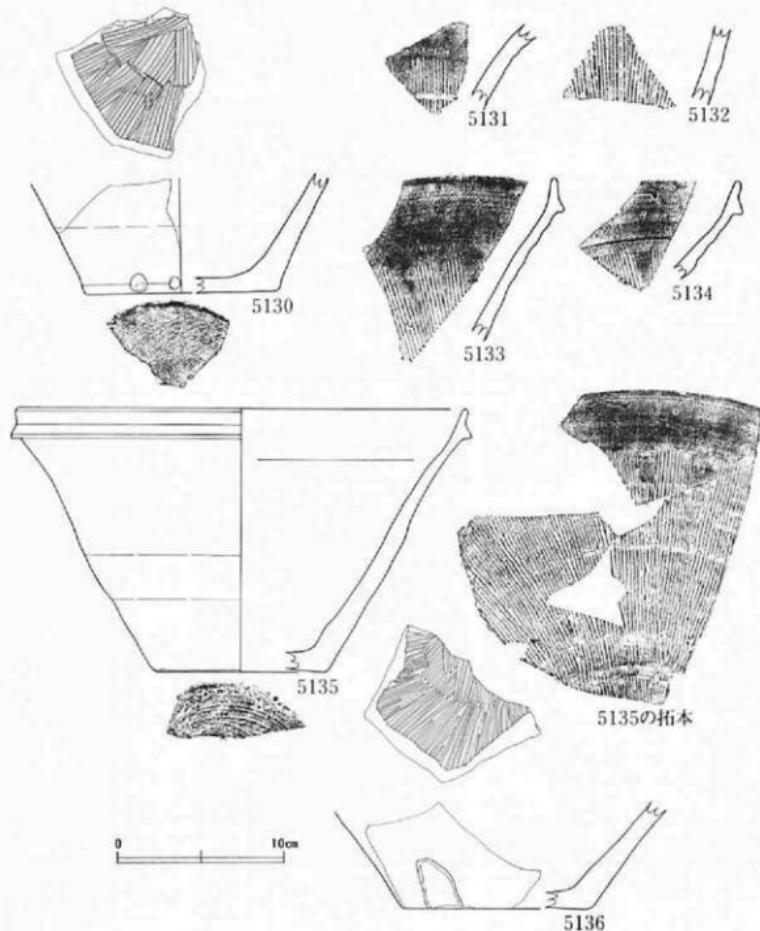
番号	西様	出土位置	法量(cm)		施土	輪ぬき 付	製作地	制作年代	その他
			口径	底径					
5099	碗	P941 離方	10.8	5.2	7.6	褐色	黒色の釉	不明	19C以降?
5100	皿	P400 離方	12.8	5.0	3.5	にぼい黄褐色	透明 輪ぬき	肥前	1690~1780 日込焼?白釉焼?
5101	香炉	SD 7 地上	11.0	5.6	8.2	灰褐色	黒付	肥前	1690~1780 内面無釉 轮ぬき
5102	香炉?	EG 9 d I層	10.8	-	4.6	浅黄褐色	透明	空・台風系	18C~19C 鉄粒は釉面の下
5103	香炉?	P761 離方	11.2	-	5.3	灰白色	輪物	窯口・空造	18C
5104	香炉	SK 20 地土	-	12.0	5.5	灰白色	黒粒	窯口・空造	18C 内面無釉
5105	土瓶	EG 6 d I層	7.8	-	1.3	褐灰色	透明	大輪相間?	19C中葉
5106	土瓶	SE 11 I層	-	8.6	3.6	褐灰色	透明	大輪相間?	19C中葉 5105と同一個体か
5107	土瓶	SK 4 地上	-	6.2	3.3	黑褐色	輪物	在地産	19C以降 内面無釉
5108	土瓶	EG 5 ~ 3 b	8.6	-	2.8	赤褐色	黒灰粒	不明	20C?
5109	瓦器?	P761 離方	8.8	-	2.4	灰褐色	黒灰粒	大輪相間?	19C 汽車上塗か?
5110	瓦器?	SK 13 地土	-	4.6	2.2	灰褐色	黒灰粒	大輪相間	19C 外底面に孔がある
5111	鉢?	SE 5 地上上部	-	5.6	1.8	暗灰褐色	白付黒付?	在地産	19C以降
5112	鉢?	SK 20 地土	-	5.6	1.9	灰褐色	綠色の釉	在地産	19C以降 釉には珪藻分が多い
5113	切立?	SE 5 地上上部	-	-	4.3	にぼい褐色	黒粒	在地産	19C以降 内面にも黒粒
5114	切立?	OG 9 g I層	-	-	3.5	褐灰色	黒粒	在地産	19C以降 内面にも黒粒
5115	行手?	SK 20 地土	14.8	-	5.3	灰赤褐色	黒灰粒	在地産	19C以降 黒粒:空筒の輪ぬきしがけ
5116	お盆?	SD 7 地土	6.6	-	6.7	暗褐色	黒粒	在地産	19C以降
5117	お盆?	SE 4 地土	-	5.0	4.8	褐灰色	黒粒	在地産	19C以降

第87図 近世の陶器③



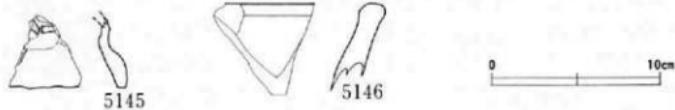
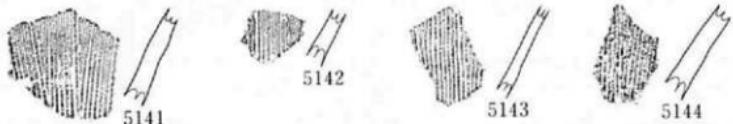
番号	器種	出土位置	法量(cm)			胎土	釉薬 粘付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径	高さ					
5118	切立7	16S X20 稲土	-	12.0	(10.0)	灰色	空色の釉	在地窯	19C	
5119	盆井7	16S E11 稲土	-	14.0	(4.7)	赤褐色	鉄釉	在地窯	19~20C	内底無釉
5120	瓶	16S E 7 稲土上部	-	4.2	(2.4)	暗褐色	鉄釉	在地窯	19C	外底面にも施釉
5121	瓶	16S E 7 稲土上部	-	6.2	(2.0)	灰色	鉄釉	在地窯	19C	外底面無釉
5122	行平	16S D 5 北側稲土	15.0	-	(7.3)	暗褐色	鉄釉	在地窯	19C	
5123	瓶	16S K 5 稲土	8.4	-	(6.5)	赤褐色	空色 空の釉	在地窯	19C	
5124	瓶	16S E 7 稲土上部	9.8	-	(7.7)	暗褐色	鉄釉 空の釉	在地窯	19C	
5125	大瓶	16S E 7 稲土上部	59.4	-	(8.7)	灰色	無釉	常滑	18C後半	図のスケールは1/6
5126	大瓶	16S K 20 稲土	52.5	-	(8.4)	赤褐色	無釉	常滑	18C後半	図のスケールは1/6
5127	瓶井	16S K 5 北側稲土	-	11.8	(6.0)	暗褐色	焼物め	在地窯	18C後半	底面留印未切底
5128	瓶井	16S D 7 稲土	-	-	(4.5)	灰色	焼物め	在地窯	18C後半	底面の破片
5129	瓶井	H G 7 d I層	-	-	(3.5)	灰色	焼物め	在地窯	18C後半	5128と同一個体か

第88図 近世の陶器④

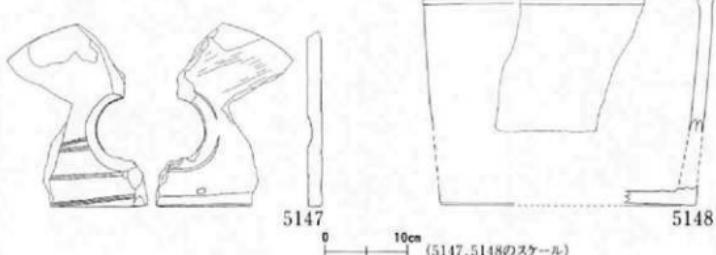


番号	器種	出土位置	法量 (cm)		断土	釉面 繪付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径					
5130	瓶	16S E 11 1層	—	11.6	(7.0)	赤褐色～褐青色	鉄釉	在地窯	19C 前半 底面回転舟切痕
5131	瓶	16S E 11 理土	—	—	(15.5)	赤褐色	鉄釉	在地窯	19C
5132	瓶	16S E 11 1層	—	—	(4.7)	赤褐色	鉄釉	在地窯	19C 5131と同一個体
5133	瓶	16S D 7 墓土	—	—	(9.8)	暗赤褐色	鉄釉	在地窯	19C 前半 5134, 5135と同一個体
5134	瓶	II G 9 g 1層	—	—	(6.5)	暗灰～褐色	鉄釉	在地窯	19C 前半
5135	瓶	III G 9 b 1層	27.0	10.2	15.7	暗灰～褐色	鉄釉	在地窯	19C 前半 外側に「しんこ」款
5136	瓶	16S E 11 1層	—	11.4	(11.4)	暗紺色	鉄釉	在地窯	19C 後半 「しんこ」款、毛羽のある鋸歯

第89図 近世の陶器⑤



0 10cm



0 10cm (5147, 5148のスケール)

番号	器種	出土位置	法量(cm)		胎土	釉薬 給付	製作地	製作年代	その他
			口径	底径					
5137	瓶鉢	Ⅲ G 5 b (機乱)	—	—	(3.5)	暗灰色	鉄輪	在地産	19C
5138	瓶鉢	16S E 7 理土上部	—	—	(3.5)	赤褐色	鉄輪	在地産	19C
5139	瓶鉢	16S E 7 理土上部	—	—	(3.0)	暗灰色	鉄輪	在地産	19C
5140	瓶鉢	Ⅲ G 7 h 1等	—	—	(5.2)	褐色	鉄輪	在地産	19C
5141	瓶鉢	16S E 11 1等	—	—	(5.9)	褐色	鉄輪	在地産	19C
5142	瓶鉢	Ⅲ G 5 b (機乱)	—	—	(3.5)	にぶい赤褐色	鉄輪	在地産	19C
5143	瓶鉢	16S E 11 1等	—	—	(5.9)	暗灰色	鉄輪	在地産	19C
5144	瓶鉢	16S E 7 理土上部	—	—	(6.1)	暗灰色	鉄輪	在地産	19C
5145	土人形?	16S E 11 1等	—	—	(4.3)	褐色	素焼	在地産	19C以降
5146	埴炉	16S E 11 1等	—	—	(5.3)	灰白色	素焼	在地産	19C以降
5147	埴炉	16S K 22 理土	—	—	(20.8)	灰白色	素焼	在地産	19C以降
5148	埴炉	16S K 22 理土	34.8	—	(16.0)	灰白色	素焼	在地産	19C以降

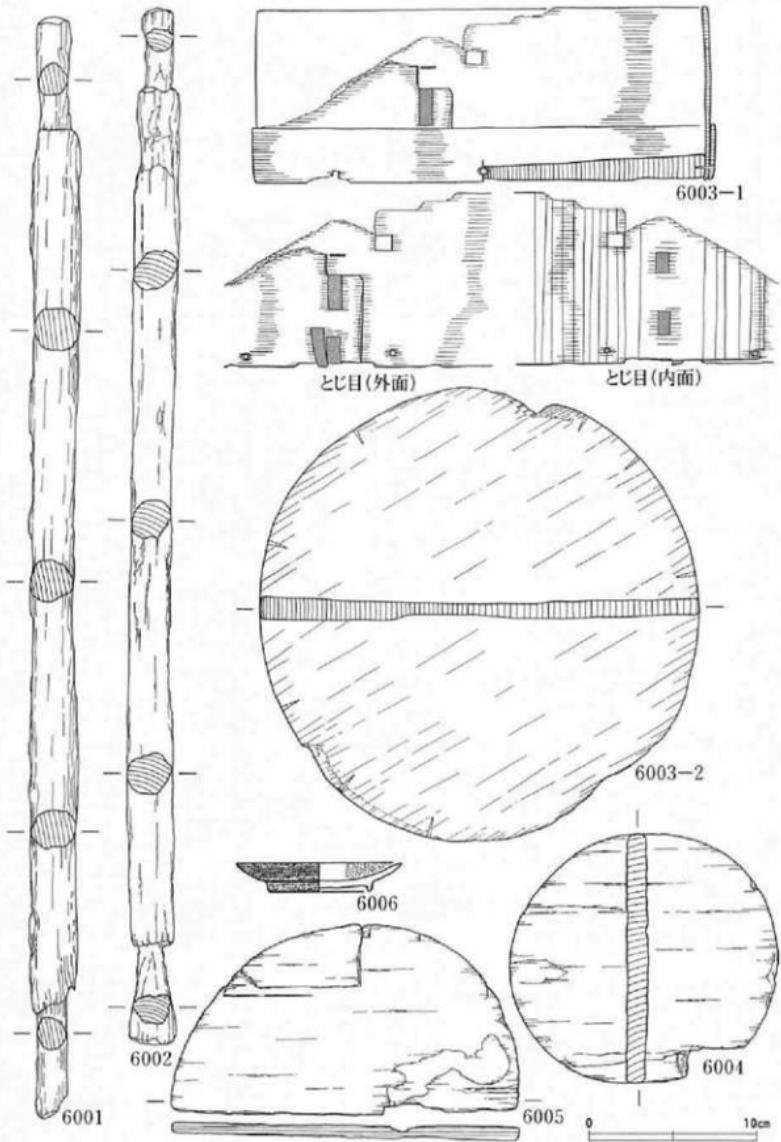
第90図 近世の陶器⑥

7 木製品（第91～95図 写真図版68）

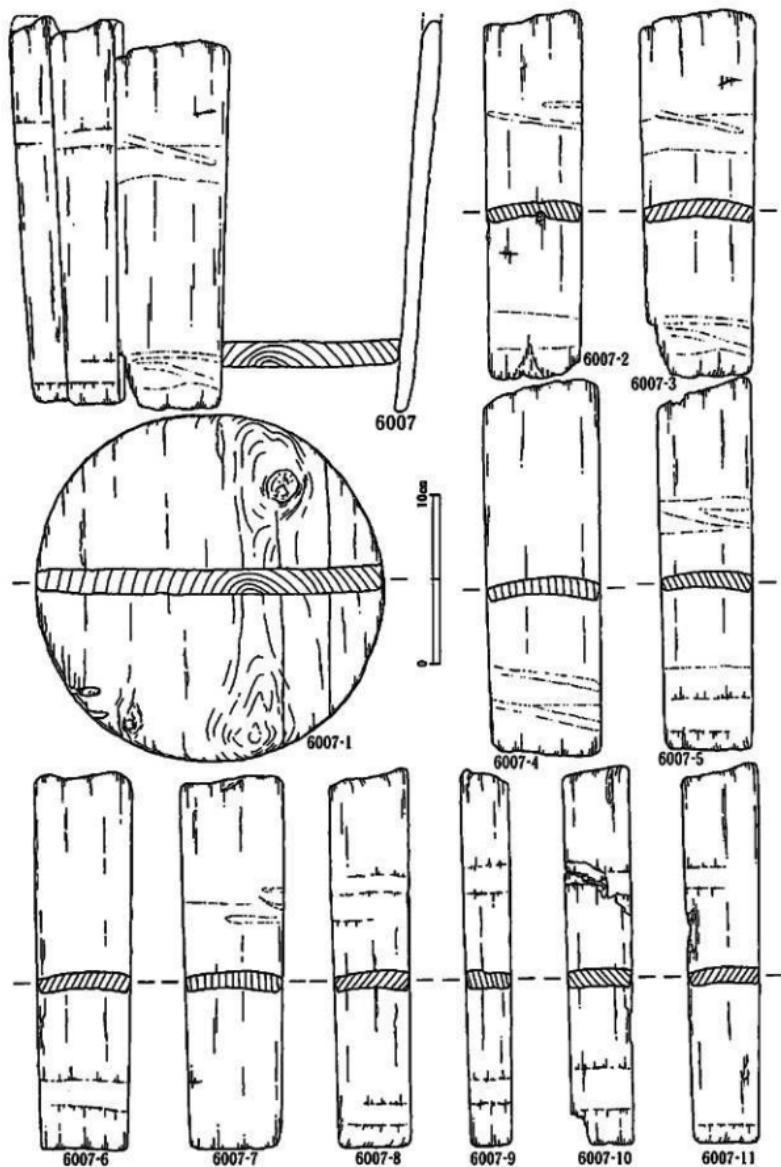
木製品は12世紀に属するものと近世に属するものがある。12世紀の木製品は6001～6006、近世の木製品は6007～6011である。

6001、6002は棒状の製品で両端部が細くなっている。器種ははっきり特定できないが、織機の部品と推測される。樹種は6001がスギ、6002はヒノキ科類似種であり異なる樹種である。6003は曲物である。16S E 6の底面付近から正位の状態で出土した。底板と側板は木釘で固定されている。6004、6005は曲物の底板と推測される。6006は漆器皿である。腐食が著しい状態で出土した。

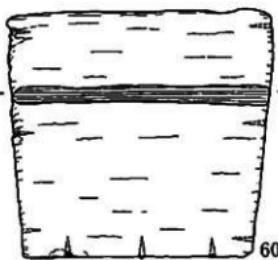
6007は桶である。16S E 4の底面からばらばらの状態で出土した。釣瓶が井戸底に落ちたものと推測される。図示していないが竹製のたがも存在した。供伴した陶磁器から19世紀代の桶と推測される。6008～6010は16S E 3から出土した。供伴した陶磁器から16世紀末～17世紀初頭の木製品と判断できる。6008は箱型の釣瓶である。土圧で歪んだ状態で出土した。鉄釘で板を接合している。把手部分は残存しないが、接合した釘の痕跡が箱の上面にみられる。6009は漆器椀である。黒漆が施される。高台内面は漆塗りが施されていない。6010は横槌である。樹種はクリである。6011は16S E 11の底面からばらばらの状態で出土した。図示していないが竹製のたがも存在した。釣瓶が井戸底に落ちたものと推測される。側板どうしの接合に木釘を使用している。16S E 11の出土陶器から19世紀代の桶と推測される。



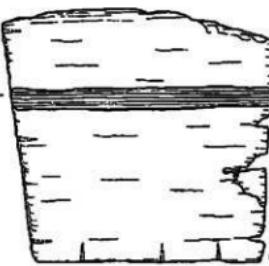
第91図 木製品①



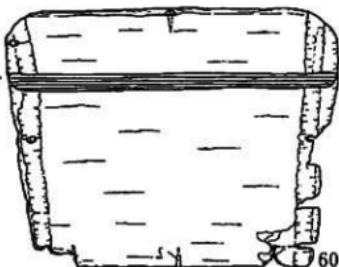
第92図 木製品②



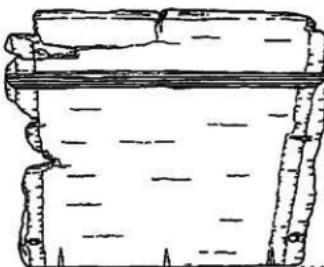
6008-1



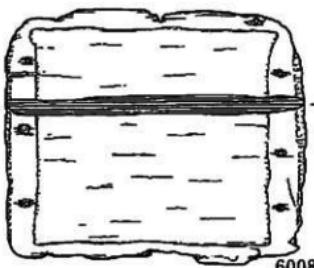
6008-2



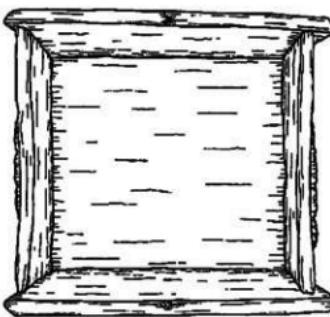
6008-3



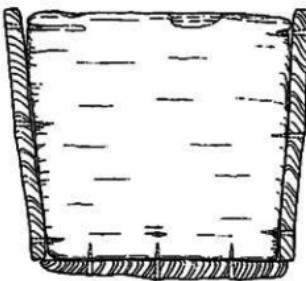
6008-4



6008-5



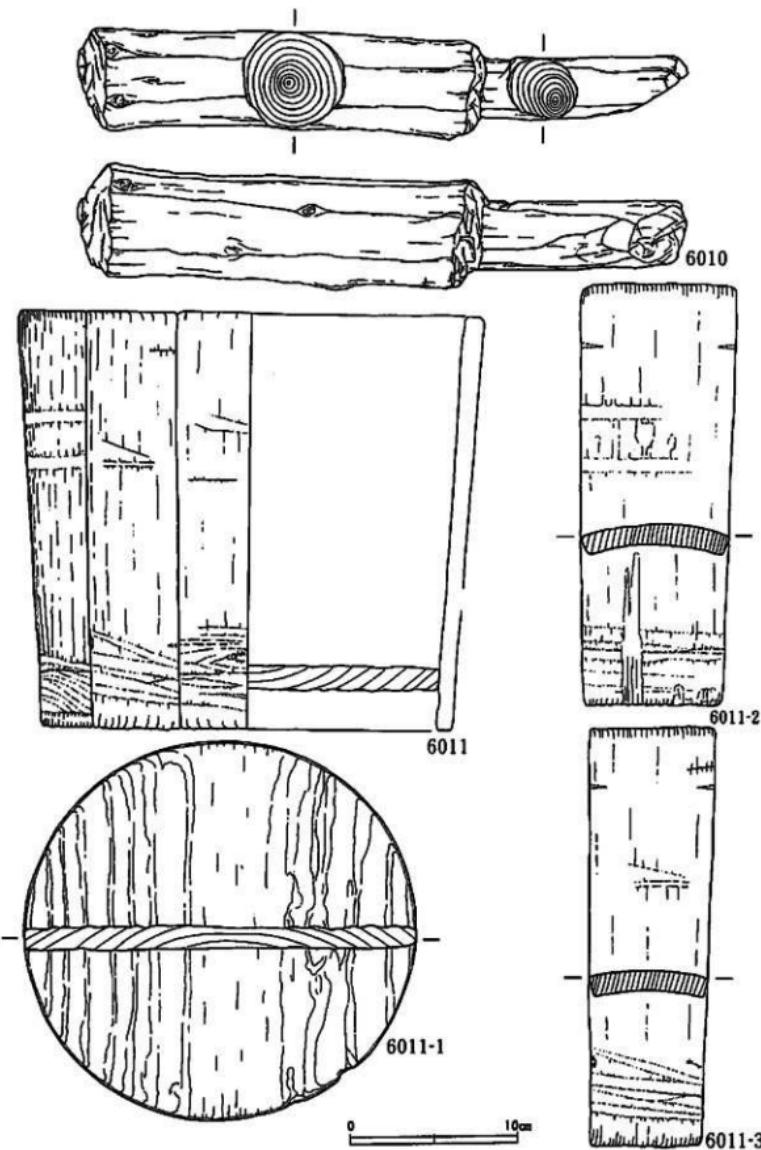
6008



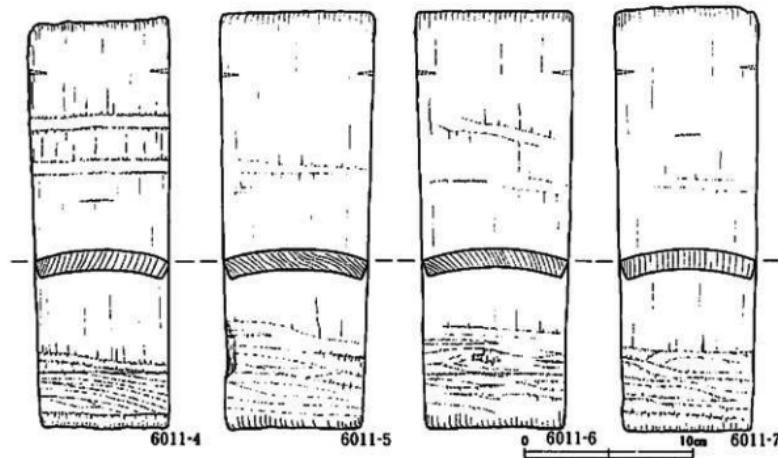
6009



第93図 木製品③



第94図 木製品④



番号	器種	出土位置	個性	その他
6001	不明	16S K21 砂土	スギ	個性不明、2と同一の器種か
6002	不明	16S K38 砂土	ヒノキ科類似種	
6003	曲物	16S E 6 砂土	ヒノキ直筋似様(側板)	底板の樹種はスギ、木釘はヒノキ風の一様
6004	曲物底	16S K18 砂土	スギ	
6005	曲物底	16S E 6 砂土	ヒノキ風の一様	
6006	漆器底	16S K 6 砂土	ケヤキ	遺存度が悪い
6007	箱	16S E 4 底面	スギ(側板)	底板の樹種はヒノキ風の一様
6008	舟釦	16S E 3 1層	クリ	舟釦を使用、把手部分欠損
6009	漆器胸	16S E 3 1層	ブナ風の一様	
6010	舟釦	16S E 3 1層	クリ	
6011	箱	16S E 11 底面	スギ(側板、底板)	木釘を使用

第95図 木製品⑤

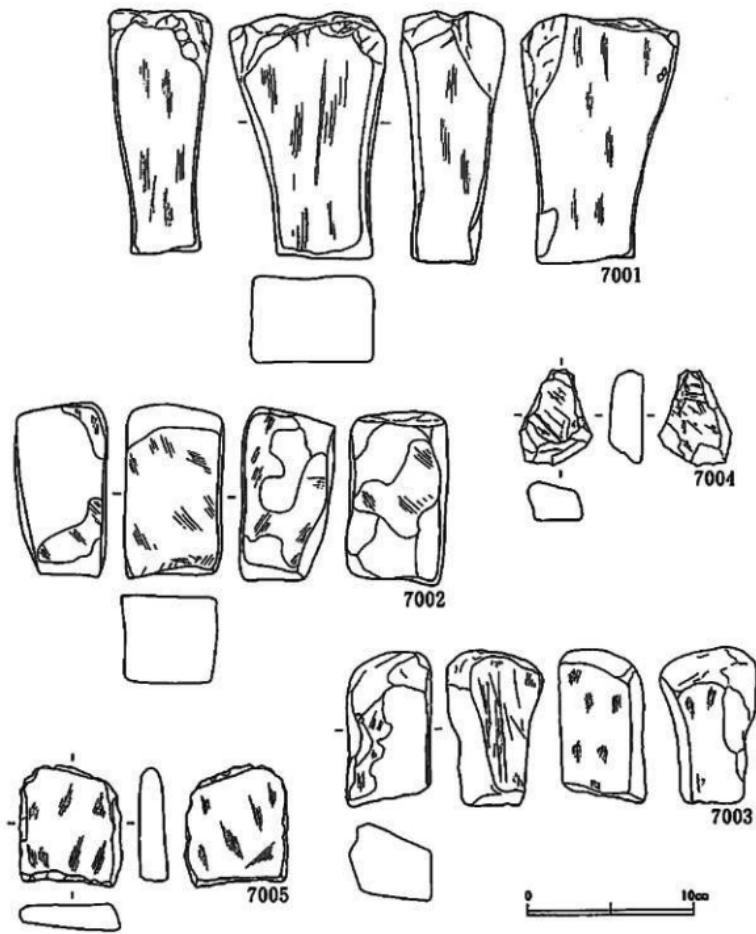
8 石製品 (第96~102図 写真図版69~72)

石製品は砥石18点 (7001~7018)、硯2点 (7019、7020)、挽き臼5点 (7021~7025)、板碑1点 (7026) が出土した。

砥石はその形状からでは時期判別が困難である。出土した造構の年代観から判断すると7011は12世紀の造物と考えられる。他の造構内から出土した砥石は近世以降の可能性が高い。造構外出土の砥石は時期を判断する材料がない。

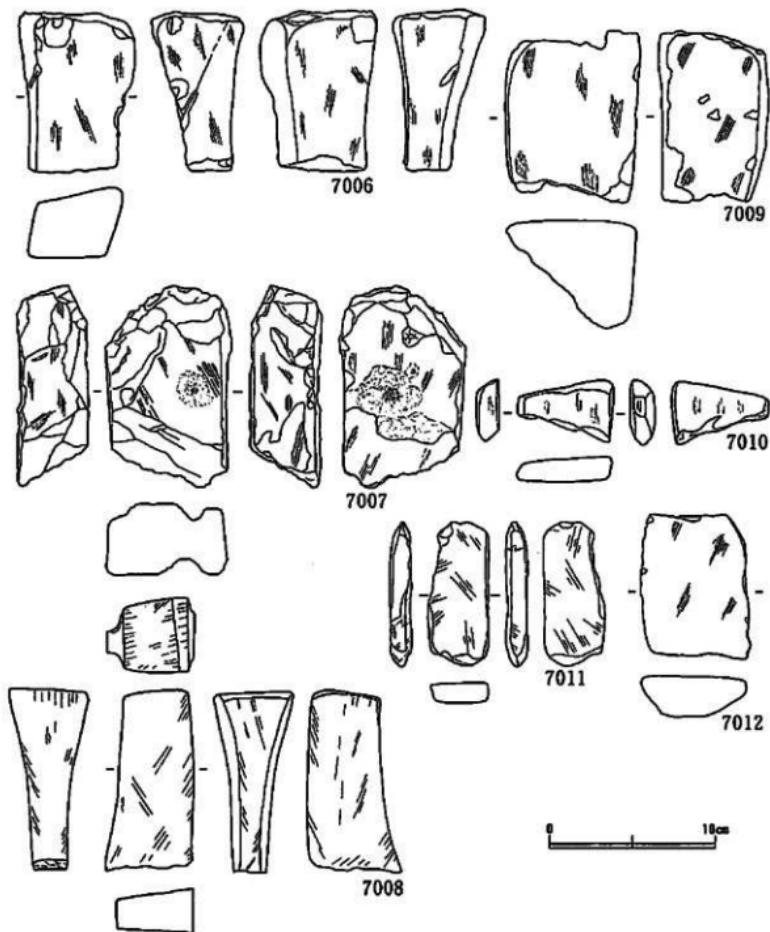
7019の硯は粘板岩製で硬面に墨が付着している。出土した16S K19の年代観から19世紀以降の硯の可能性が高い。7020も粘板岩製の硯である。硯面の一部が残っている。出土した造構16S K53の年代が明らかではなく、7020の年代も明らかにできない。

7021は挽き臼の上臼である。2つに割れ別々の造構から出土した。一方は略県溝の16S D 1に他の砾とと



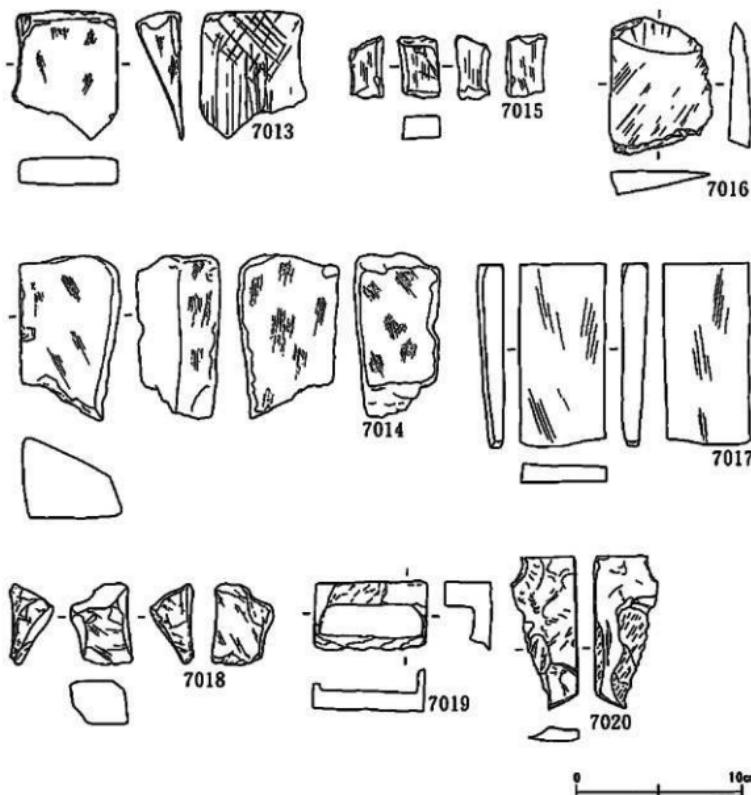
番号	器種	出土位置	石質	その他	重さ (g)
7001	鉋石	16S D 5 北側地土	凝灰質砂岩	底面4 鋸き紙	1080.0
7002	鉋石	16S K20 地土	凝灰質砂岩	底面4 鋸き紙	560.0
7003	鉋石	16S K20 地土	斜長石流紋岩	底面4 仕上げ紙	250.0
7004	鉋石	16S E 2 地土	斜長石流紋岩	底面2 中紙	51.0
7005	鉋石	16S E 11 1層	斜長石流紋岩	底面2 仕上げ紙	110.0

第96図 石製品①



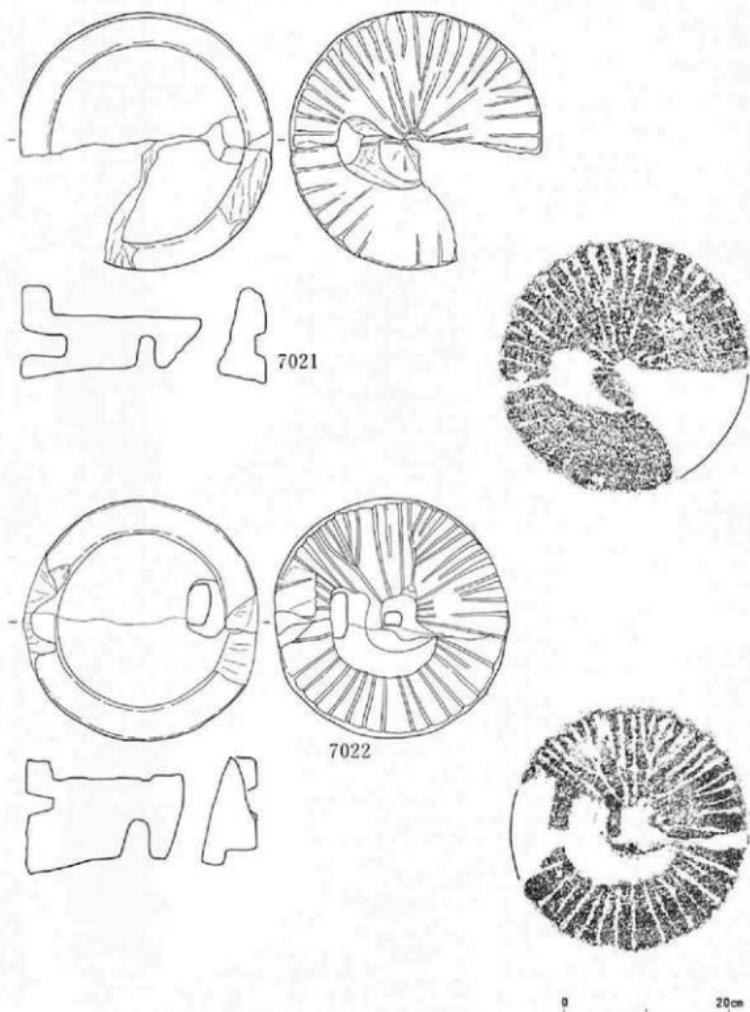
番号	器種	出土位置	石質	その他	重さ(g)
7006	砾石	16S E 2 稲土	斜長石斑状岩	紙面4 亂き紙 仕上げ	320.0
7007	砾石	16S K 20 稲土	斜長石斑状岩	紙面4 中研	480.0
7008	砾石	16S K 19 稲穀箱内	斜長石斑状岩	紙面5 亂き紙 中研	265.0
7009	砾石	16S E 11 1号	斜長石斑状岩	紙面4 亂き紙 仕上げ	622.0
7010	砾石	16S K 7 稲土	斜長石斑状岩	紙面4 中研	40.0
7011	砾石	16S D 15 稲土	砂質熱板岩	紙面4 仕上げ紙	67.0
7012	砾石	P 926 挖方	斜長石斑状岩	紙面2 仕上げ紙	250.0

第97図 石製品②



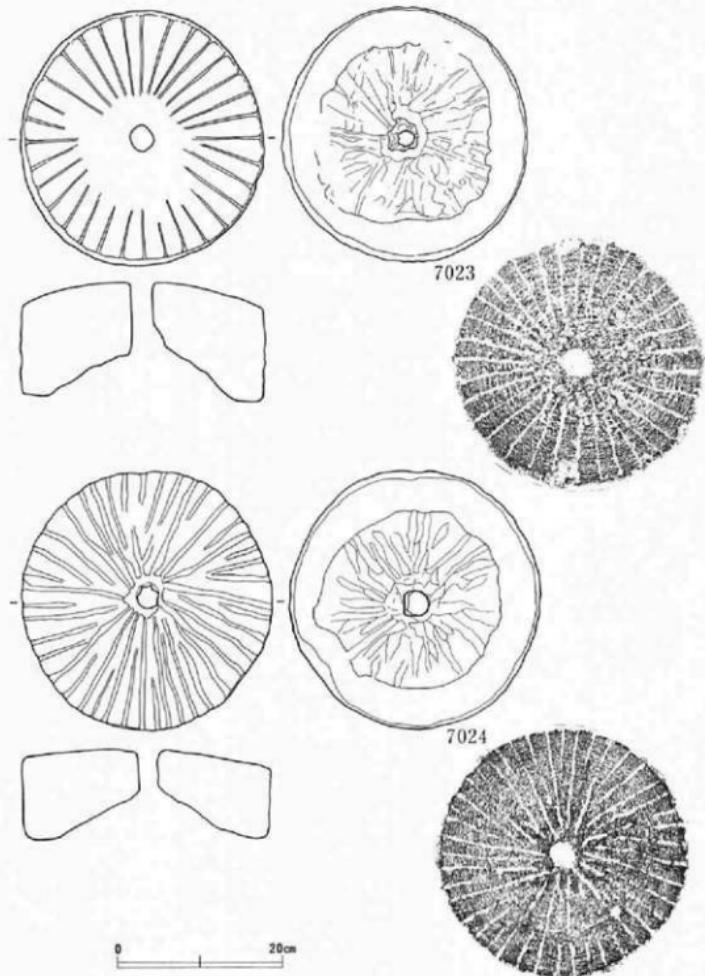
番号	部種	出土位置	石質	その他	重さ (g)
7013	鉢石	16S E 7 地上	斜長石斑状岩	側面3 岩面の一つに線状の張痕あり 仕上げ砥	120.0
7014	鉢石	16S E 7 地上	斜長石斑状岩	側面4 仕上げ砥	356.0
7015	鉢石	■G 0 d 1層	斜長石斑状岩	側面4 仕上げ砥	23.0
7016	鉢石	16S K20 地上	斜長石斑状岩	側面1 中砥	79.0
7017	鉢石	■G 5 b 1層	砂質板岩	側面5 錐化鉄分少量付着 磨砥	92.0
7018	鉢石	■G 0 d 1層	斜長石斑状岩	側面4 仕上げ砥	39.0
7019	鉢	16S K19 地段物	軽板岩	側面に墨が少量付着	60.5
7020	鉢	16S K63 板上	軽板岩	側面の一部が焼る	32.0

第98図 石製品③



第99図 石製品④

番号	部種	出土位置	石質	その他	重さ (g)
7021	抜き臼	16SD1 16SK40 墓上	ダイサイト	上臼 表面に火熱をうけた後、分割されている	9,000
7022	抜き臼	16SD1 墓土	ダイサイト	上臼 2分割されている	13,000

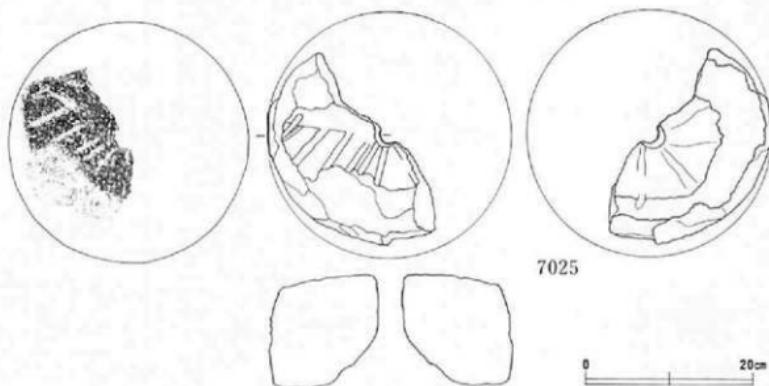


番号	器種	出土位置	石質	その他	重さ(g)
7023	挽き臼	P355 底面	ダイサイト	下臼 柱の鍛盤として転用	16,000
7024	挽き臼	P361 底面	ダイサイト	上臼 柱の鍛盤として転用 裏面は火熱をうけている	11,000

第100図 石製品⑤

もに詰め込まれていた。鉢し目は放射状である。出土遺構の年代観から近世以降のものと判断される。7022は挽き臼の上臼である。7021と同様に、16S D 1に他の礫と2分割の状態で詰め込まれていた。鉢し目は放射状である。年代は近世以降と判断される。7023、7024は挽き臼の下臼である。どちらも近世掘立柱民家である16S B29の柱穴の底面に裏面を上にした状態で礫盤として置かれていた。16S B29の建築年代は18世紀中頃と推測され、7023、7024はそれ以前の製品ということになる。鉢し目はいずれも放射状である。7024の裏面は火熱を受けた痕跡がある。7025は挽き臼の下臼である。鉢し目は6分割と推測されるが欠損のためはっきりしない。7021～7024と鉢し目のパターンが異なるのが注目される。出土した16S E 11は19世紀以降と推測され、7025の年代も19世紀頃の可能性が高い。

7026は板碑である。暗渠溝16S D 1に背面を上にした状態で他の礫とともに詰め込まれていた。石質は粘板岩である。種子はキリーク（阿弥陀如来）が刻まれている。紀年、願文等は刻まれていない。種子の下に斜線のような縦の線が認められるが、人為的なものか、自然のものか判別できない。16次調査区の中世遺物の年代と19次調査出土の板碑の年代（元亨4年 1324年）を考え合わせると、7026は14世紀前半に属する可能性が高い。



番号	器種	出土位置	石質	その他	重さ(g)
25	挽き臼	16S E 11 1層	ディサイト	下臼 日は6分割か	5,800

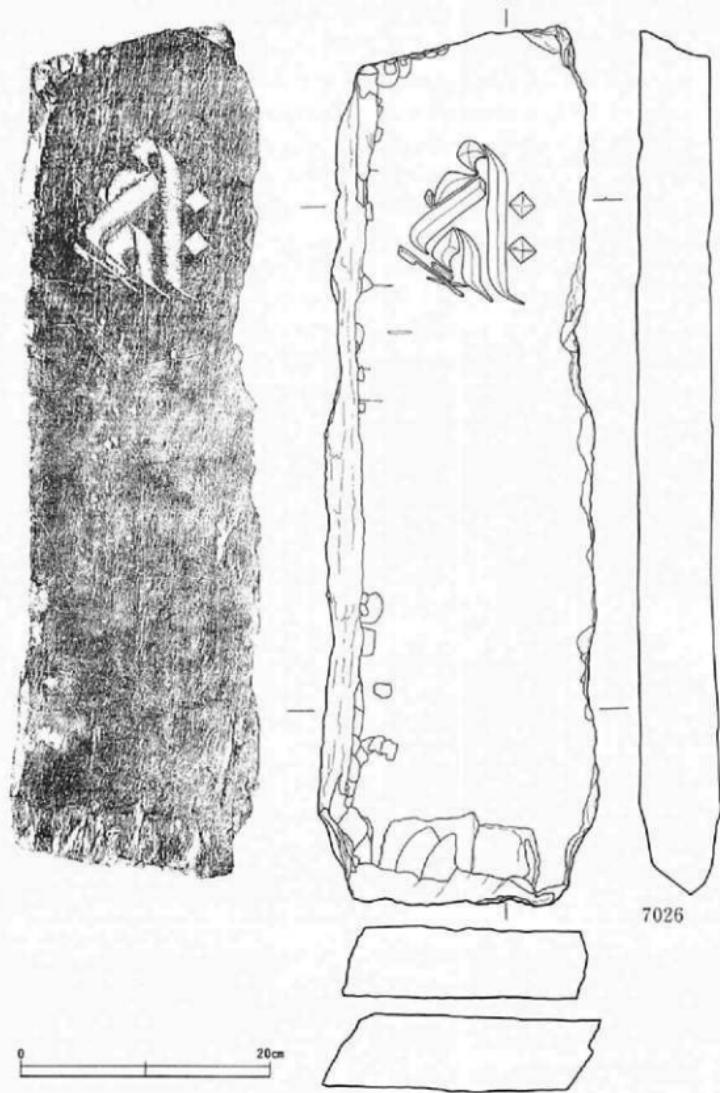
第101図 石製品⑥

9 金属製品（第103～106図 写真図版73、74）

金属製品は錢貨とそれ以外の製品がある。

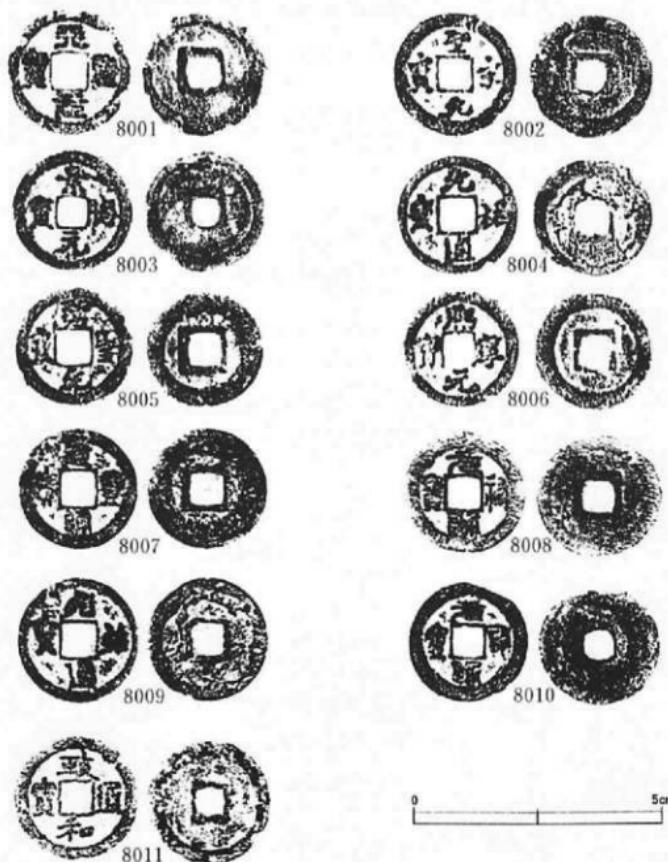
（1）錢貨（第103～105図 写真図版73、74）

錢貨は北宋錢11点（8601～8011）、永樂通寶3点（8012～8014）、寛永通寶11点（8015～8025）、半錢銅貨1



番号	器種	出土位置	石質	その他	重さ (g)
7026	板碑	16S D 1 墓土	粘板岩	梵字(キリーグ)を刻む 跡文なし 下端に削った痕あり	20,000

第102図 石製品⑦



番号	種類	出土位置	直径(cm)	重さ(g)	金属の種類	铸造年代	備考
8001	天聖元宝	16S E10 墓土?	2.50	2.52	銅	北宋 1023年	篆書
8002	聖宋元宝	P468 地方	2.50	3.25	銅	北宋 1001年	行書
8003	景德元宝	III G 0 b 西側襖孔部	2.40	3.44	銅	北宋 1004年	
8004	元祐通宝	III G 0 b 西側襖孔部	2.40	3.72	銅	北宋 1086年	行書
8005	紹聖元宝	III G 0 b 西側襖孔部	2.30	2.79	銅	北宋 1094年	行書
8006	熙寧元宝	II G 9 d I 帯	2.40	2.01	銅	北宋 1068年	
8007	元豐通宝	II G 5 d I 帶	2.40	3.22	銅	北宋 1078年	篆書
8008	元祐通宝	II G 5 d I 帶	2.50	2.61	銅	北宋 1086年	篆書
8009	元祐通宝	II G 5 d I 帶	2.50	4.00	銅	北宋 1086年	行書
8010	元祐通宝	II G 5 d I 帶	2.40	3.55	銅	北宋 1086年	篆書
8011	政和通宝	II G 5 d I 帶	2.50	2.85	銅	北宋 1111年	

第103図 錢貨①

点(8026)が出土した。

8001は天皇元寶である。鎌倉時代の井戸16S E 10の検出面から出土した。16S E 10に伴う可能性が高い。8002の聖宋元寶は近世掘立柱民家の16S B 28の柱穴P 498から出土した。8003~8004の3枚は被着した状態で出土した。また8007~8011の5枚も被着した状態で出土した。これらの北宋銭は12世紀に伴うものではなく、鎌倉時代に使用された可能性が高い。

永楽通寶8012~8014は非常に薄く、また重量も軽く模鋳銭と判断できる。8012、8014は近世掘立柱民家16S B 33の柱穴、8013は16S B 31の柱穴から出土した。16S B 31の建築年代は17世紀前半、16S B 33の建築年代は17世紀後半と推測され、これらの永楽銭の使用年代を推測できる。

8015~8018は1636年初鋲の古寛永、8019~8022は背文の1668年初鋲のものである。8022の背には「佐」の字がある。1717年初鋲の佐渡相川所鋲銭である。

8016は16S B 28の柱穴、8017は16S B 33の柱穴、8019は16S B 29の柱穴、8020は16S B 32の柱穴から出土した。柱穴内出土の寛永通寶が、古寛永と背文に限定される点が注目される。

8026は明治13年鋲造の半錢銅貨である。調査区内で表採された。

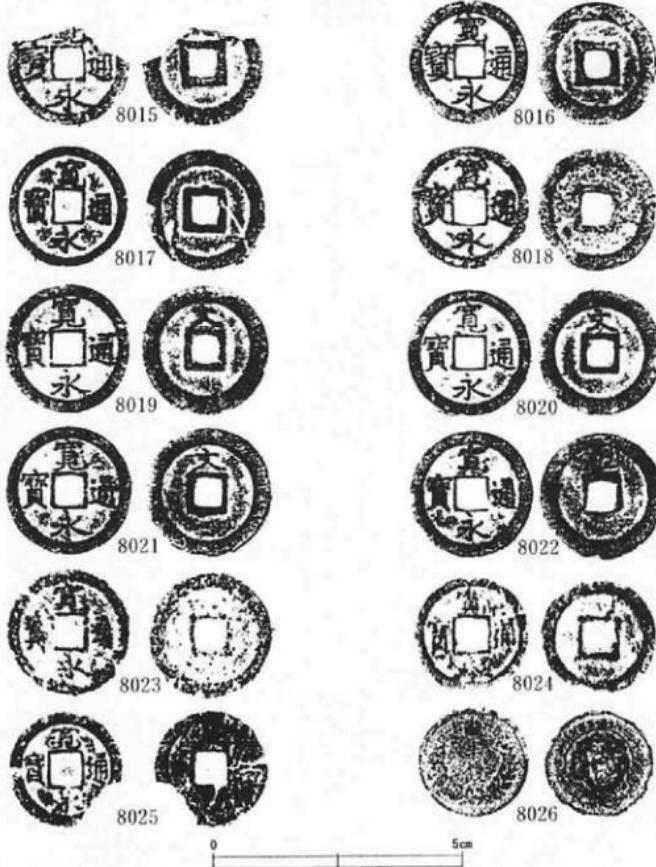
(2) その他の金属製品（第106図）

8027は銅製のリング状の金具である。裏表に唐草の文様が施される。調査区西隅の攪乱部からの出土である。時期は全く不明である。また用途も不詳である。8028は銅製の金具である。用途時期は不明である。8037~8040は煙管の雁首、8029、8041~8043は煙管の吸口である。近世のものである。8030は刀である。出土した16S E 13の年代観から13世紀後半~14世紀前半のものと推測される。8031は鉈である。出土した16S K 20の年代観から19世紀代のものと推測される。8032は掛け金具を受ける金具、8033、8034は釘である。いずれも出土遺構の年代観から19世紀以降の製品と推測される。8035は鉄斧は時期不詳である。



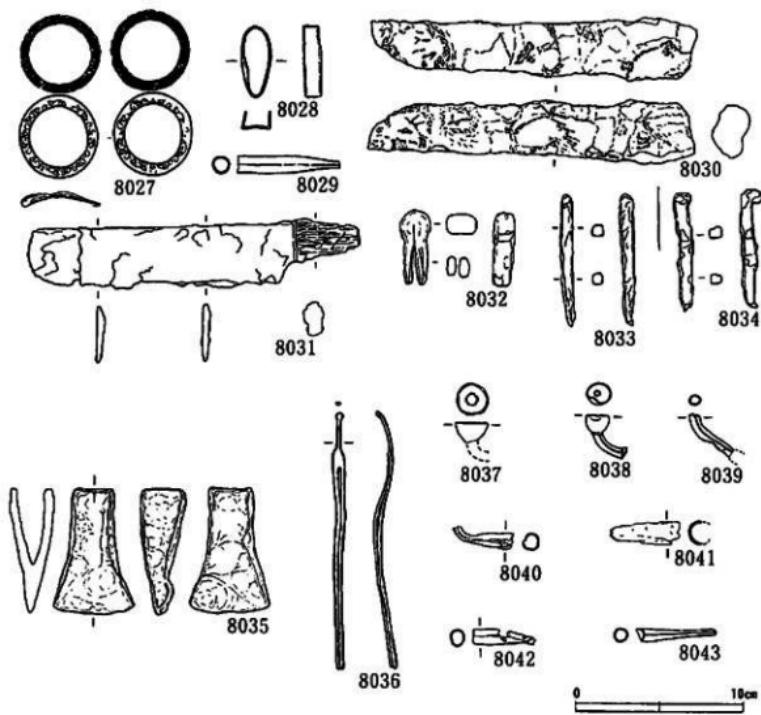
番号	種類	出土位置	直径(cm)	重さ(g)	金属の種類	鋲造年代	備考
8012	永楽通寶	P 304 挖方	2.20	0.83	銅	1408年以降	模鋲銭
8013	永楽通寶	P 372 挖方	2.30	1.01	銅	*	模鋲銭
8014	永楽通寶	P 528 挖方	2.20	0.76	銅	*	模鋲銭

第104図 銭貨②



番号	種類	出土位置	直徑(cm)	重さ(g)	銅銭の種類	鋳造年代	備考
8015	寛永通宝	P285 堀方	2.50	1.50	銅	寛永13年(1636)	古寛永通宝
8016	寛永通宝	P385 堀方	2.40	2.99	銅	寛永13年(1636)	古寛永通宝
8017	寛永通宝	P935 堀方	2.40	2.62	銅	寛永13年(1636)	古寛永通宝
8018	寛永通宝	16 S D 5 埋土	2.40	1.76	銅	寛永13年(1636)	古寛永通宝
8019	寛永通宝	P361 堀方	2.60	3.26	銅	寛文8年(1668)	江戸亀戸所鑄
8020	寛永通宝	P291 堀方	2.50	3.37	銅	寛文8年(1668)	江戸亀戸所鑄
8021	寛永通宝	16 S K 7 埋土	2.50	3.10	銅	寛文8年(1668)	江戸亀戸所鑄
8022	寛永通宝	II G 8 h I層	2.50	2.69	銅	享保2年(1717)	佐渡相田所鑄
8023	寛永通宝	II G 8 g I層	2.30	1.57	銅	元文元年(1736)	山城橋大路所鑄
8024	寛永通宝	III G 5 g I層	2.50	2.80	銅	享保11年(1726)	江戸十萬坪所鑄
8025	寛永通宝	排土中	2.30	1.44	銅	元文元年(1736)	江戸十萬坪所鑄
8026	半錢銅貨	II G 7 g 表採	2.20	3.22	銅他	明治13年(1880)	

第105図 錢貨③



番号	種類	出土位置	その他
8027	不明金具	BG 4 b 錫瓦	削製品 表裏面に文様がある 時期不詳
8028	不明金具	BG 4 b 錫瓦	削製品
8029	環管	II G 9 h I層	削製品と吸口
8030	刀	16SE13 墓土	刀子とするには大きい
8031	なた	16SK20 墓土	本質部わずかに残存
8032	不明	16SD 7 墓土	
8033	針	16SD 7 墓土	
8034	針	16SK20 墓土	
8035	鉛斧	II G 9 h I層	時期不詳
8036	かんざし	BG 4 c I層	削製品
8037	環管	EG 8 e I層	
8038	環管	P386 錫方	
8039	環管	P391 錫方	
8040	環管	P476 錫方	
8041	環管	P313 錫方	
8042	環管	BG 9 h I層	
8043	環管	P919 錫方	

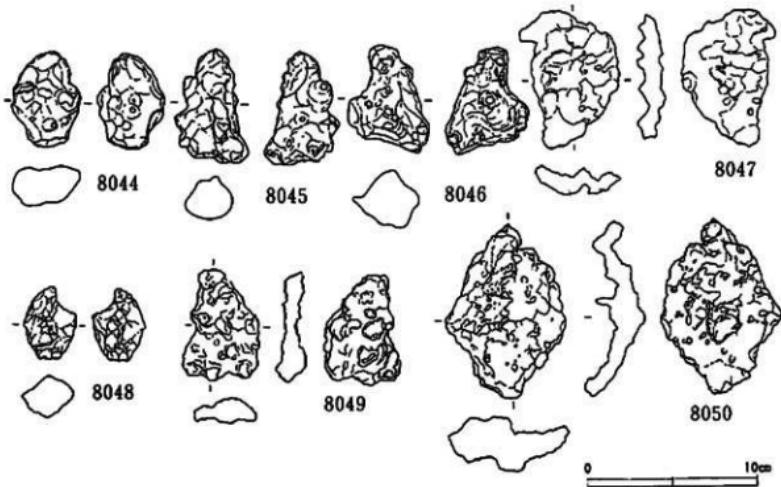
第106図 金属製品

10 その他の遺物 (第107、108図 写真図版74)

8044～8050は鉄滓と推測される。8050はやや大型で碗形滓の形状を呈する。8046、8048は12世紀の溝からの出土であり、12世紀に属する鉄滓である。他は近世以降のものと推測される。

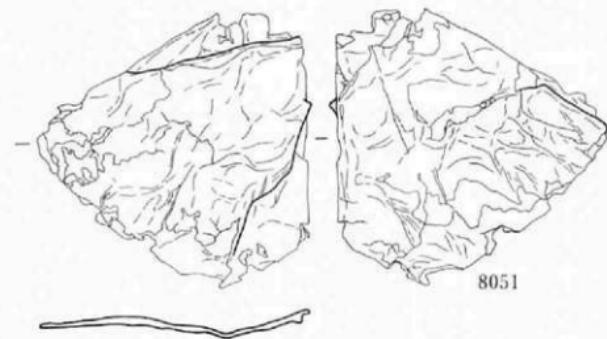
8051は漆紙である。漆の染みた紙を折りたたんだものである。赤外線カメラで観察したが墨書きは確認できなかった。16S E 6からの出土で12世紀後半のものと推測できる。8052は鉄型と推測される。還元色を呈する粘土製のものである。表面が摩滅しているが、表面に沈線が格子状に施されているのを確認できる。この上に真土を施し鉄型としたと推測される。具体的に何の製品の鉄型かは判断できない。出土した遺構16SK 40は近世以降に属する遺構であるが、8052の年代については不明である。

8053は素焼きの土製の玉である。貫通する孔がある。時期は不明である。

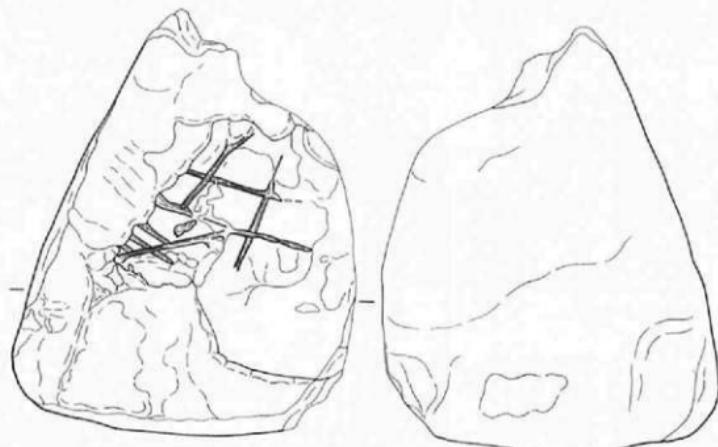


番号	伝緒	出土位置	その他
8044	鉄滓	16S E11 1層	鐵治滓
8045	鉄滓	16S E11 1層	鐵治滓
8046	鉄滓	16S D12 磁土	鐵治滓
8047	鉄滓	16SD3 磁土	鐵治滓
8048	鉄滓	16SD15 磁土 (16G5 b)	鐵治滓
8049	鉄滓	16G0 g 1層	鐵治滓
8050	鉄滓	16SK19 埋設箇内	鐵治滓

第107図 鉄滓



8051



8052



8053

10cm

番号	種類	出土位置	その他
8051	漆瓶	16S E 6 墓土	折りたたんでいる 文字は確認できず
8052	漆盤	16S K40 墓土	環状色を呈する 時期不詳
8053	土玉	III G 4 c 1層	時期不詳

第108図 その他の遺物

11 縄文時代の遺物（第109～130図 写真図版75～87）

縄文時代の遺物は主に基本層序のⅣ層から出土した。調査区の南側に縄文時代の遺物が分布する傾向があるが、明確な集中域が存在するわけではない。

（1）縄文時代の土器（第109～115図 写真図版75～78）

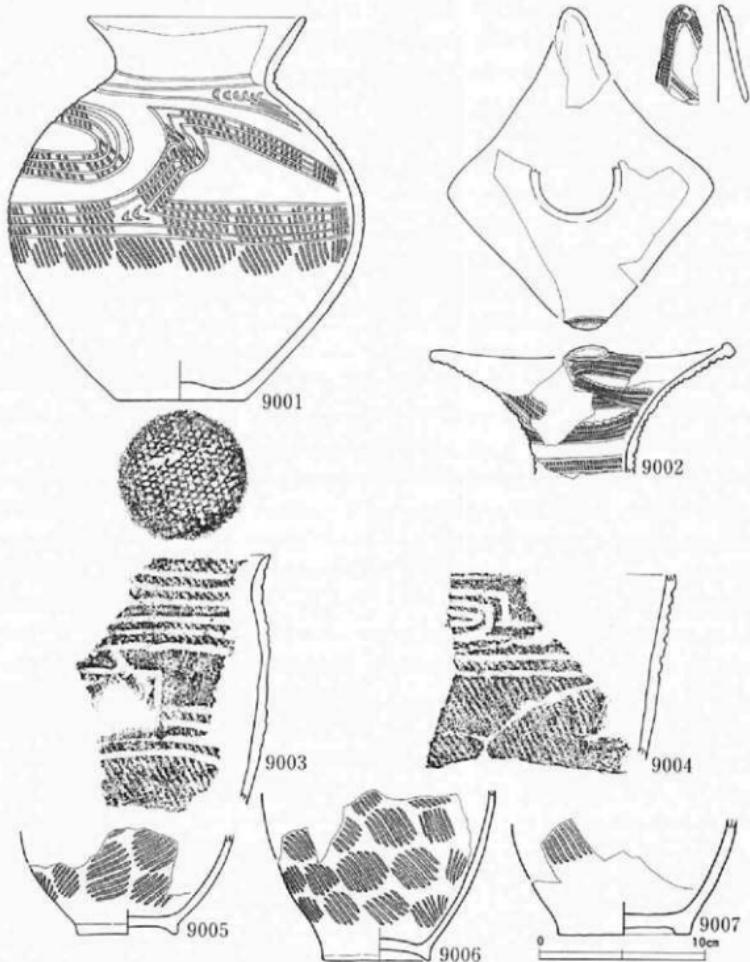
縄文時代の土器の出土総量は32.9kgある。図示した縄文時代の土器は85点（計7.3kg）である。時期的には後期前～中葉の「大湯式」に相当するものと、後期後葉～晚期初頭のものに2大別される。これらの時期差は出土範囲、層位で鑑別できる状態ではなかった。よって時期を示す特徴的な文様がない場合は詳細な時期区分ができなかった。

9001～9004は後期前～中葉の土器である。9001は口縁部が一部欠損するがほぼ完形の壺である。底面に綱代の圧痕がある。9002は片口壺の頸部～口縁部の破片である。片口部は接合しないが同一個体と判断した。9003、9004は同一個体の深鉢である。沈線によるクランク文が施される。

9005～9085は後期後葉～晚期初頭の土器と推定される。文様の特長の少ない土器は、上述の後期前～中葉に含まれる可能性も否定できない。9005～9007の深鉢の底は上げ底になっている。9009は口縁部に突起が4単位ある。9010は羽状縄文が施される。9012～9018は無文の土器の体部下半である。深鉢と推測される。9022は口縁部が波状になっている。9023～9029は縄文のみ施文の大型の深鉢である。口唇部が平坦なものが多い。9025、9026は羽状縄文が施される。9052～9056は台付きの鉢である。台部分は無文である。9057は把手の破片である。晚期初頭の土器と推測される。9059は陸帯が巡る浅鉢である。陸帯の一部分が剥落している。9060の浅鉢は口縁部が波状になっている。9063～9065の浅鉢には三叉文が施される。晚期初頭の土器である。9066は体部に突起がある。壺か注口土器と推測される。9067～9073は注口土器である。9067～9069は注口部の形態から後期後葉の注口土器と推測される。9070～9072の注口土器には三叉文が施されており晚期初頭の土器と判断される。9074～9081は注口土器と推測される。9077～9079、9081の底面にはリング状の突起がある。

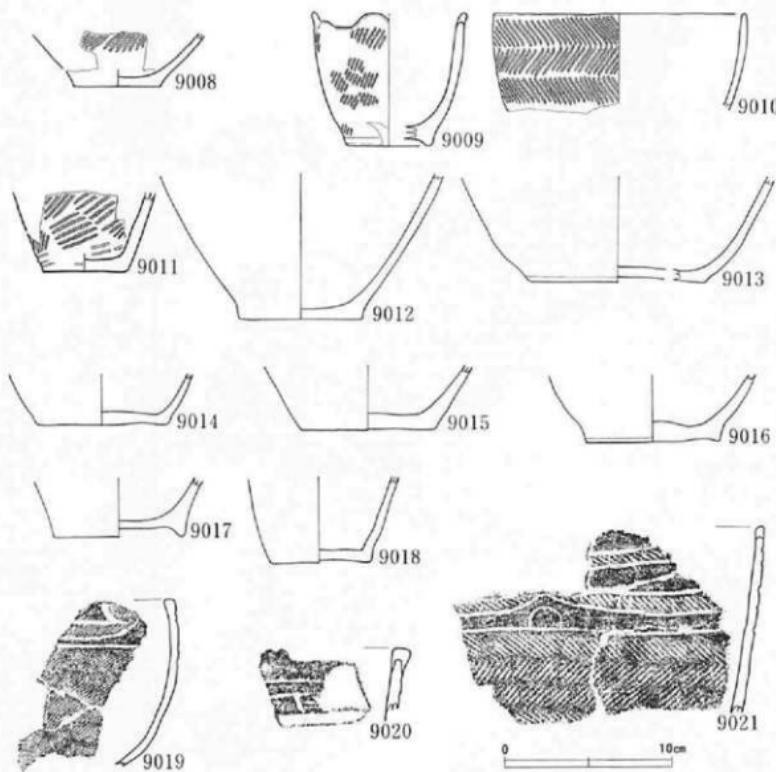
9082は人面付きの注口土器である。Ⅲ G 2 c グリッドから破片がまとまって出土したが、土圧でつぶれた状態ではなくばらばらの状態であった。注口部分の破片はみつかっていない。底面にはリング状の突起があり、体部下半は無文、体部上半には三叉文、円形文が施される。注口部は基部から剥離した状態である。人面は土器正面の口縁に斜め上を見る形で付いている。鼻と顎部分が剥落している。

9083、9084は小型の無文土器である。胎土から縄文時代のものと判断した。9085は土製品か土器の把手と推測されるものである。上端、下端ともに欠損している。



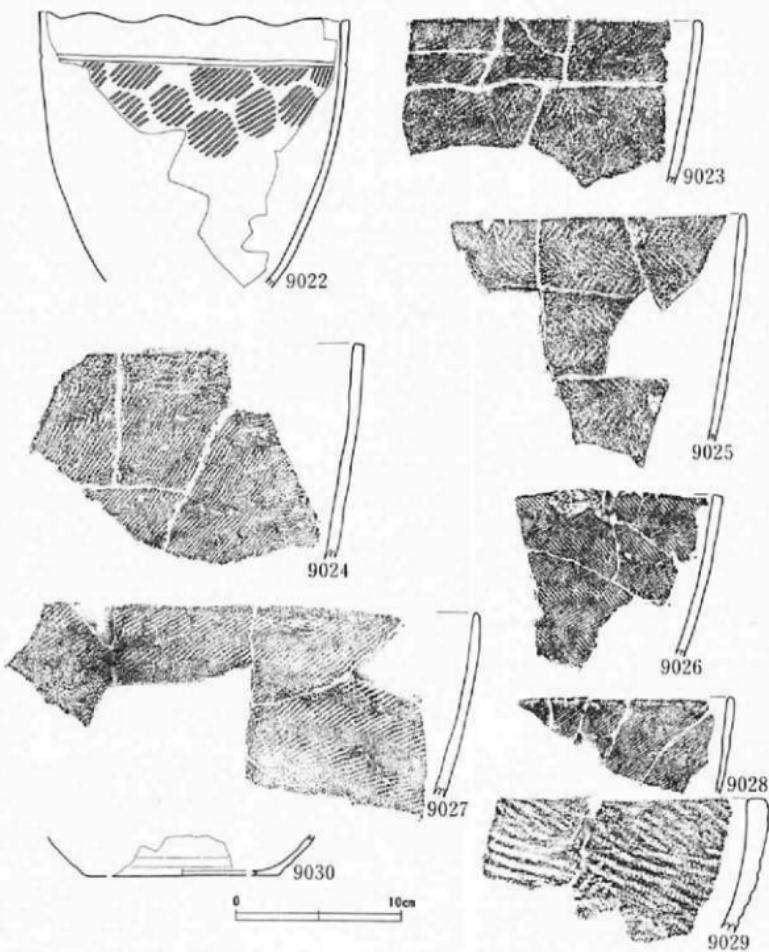
番号	器種	出土位置	法量 (cm)			その他
			口径	高さ	底径	
9001	壺	III G 5 e 茅層	13.2	20.3	7.8	後期前～中頃 底面削り痕 R.L.縦文
9002	片口壺	III G 5 f 茅層	18.2	(8.0)	—	後期前～中頃 R.L.縦文
9003	深鉢	III G 5 d 茅層	—	(14.8)	—	後期前～中頃 クランク文 R.L.縦文
9004	深鉢	III G 5 d 茅層	—	(10.9)	—	後期前～中頃 9003と同一個体 R.L.縦文
9005	深鉢	III G 9 i 茅層	—	(6.3)	6.0	後期末～晩期初頭 上げ底 L.R.縦文
9006	深鉢	III G 5 e 茅層	—	(10.2)	6.6	後期末～晩期初頭 上げ底 L.R.縦文
9007	深鉢	III G 1 h 茅層	—	(6.9)	7.9	後期末～晩期初頭 上げ底 L.R.縦文

第109図 縄文時代の土器①



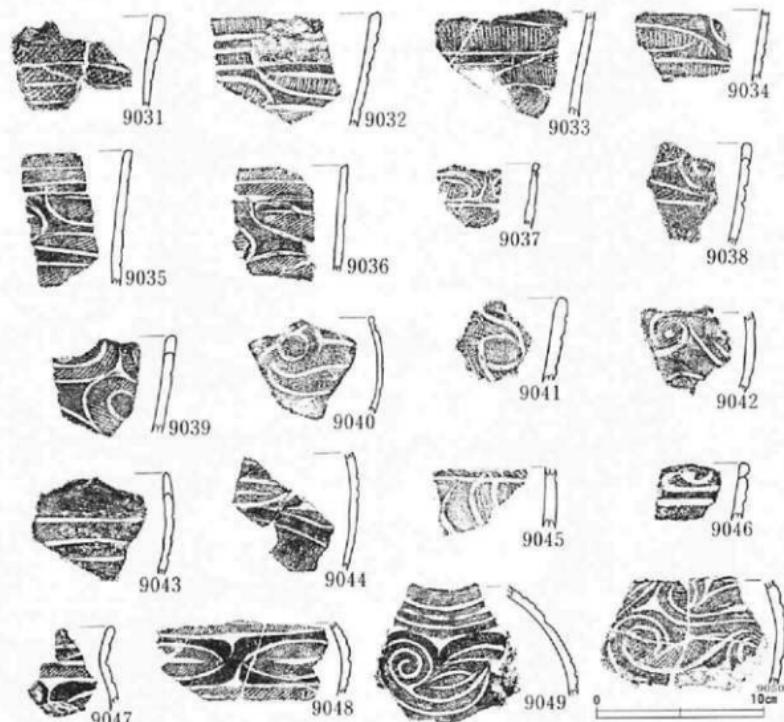
番号	器種	出土位置	法量 (cm)			その他
			口径	高さ	底径	
9008	深鉢	Ⅲ G 3 d 西層	—	(3.1)	5.1	後期後葉～晩期初頭か LR縦文
9009	深鉢	Ⅲ G 2 d 西層	9.4	(7.9)	5.2	後期後葉～晩期初頭か LR縦文
9010	深鉢	16SK109 球土	10.2	(5.9)	—	後期後葉～晩期初頭か LR・RL縦文
9011	深鉢	Ⅲ G 2 d 西層	—	(4.8)	5.0	後期後葉～晩期初頭か KL縦文
9012	深鉢	16SK109 球土	—	(8.8)	7.4	後期後葉～晩期初頭か
9013	深鉢	Ⅲ G 8 g 西層	—	(6.4)	10.4	後期後葉～晩期初頭か
9014	深鉢	Ⅲ G 4 g 西層	—	(3.1)	7.7	後期後葉～晩期初頭か
9015	深鉢	Ⅲ G 2 h 西層	—	(3.9)	7.9	後期後葉～晩期初頭か
9016	深鉢	16SK101 球土	—	(3.9)	8.0	後期後葉～晩期初頭か
9017	深鉢	Ⅱ G 9 g 西層	—	(3.6)	7.8	後期後葉～晩期初頭か
9018	深鉢	Ⅲ G 3 g 西層	—	(4.9)	6.0	後期後葉～晩期初頭か
9019	深鉢	Ⅲ G 2 h 西層	—	(9.4)	—	後期末～晩期初頭 LR縦文
9020	深鉢	Ⅲ G 1 h 西層	—	(4.0)	—	後期末～晩期初頭
9021	深鉢	Ⅲ G 0 f 西層	—	(11.2)	—	後期末～晩期初頭 LR・RL縦文

第110図 縄文時代の土器②



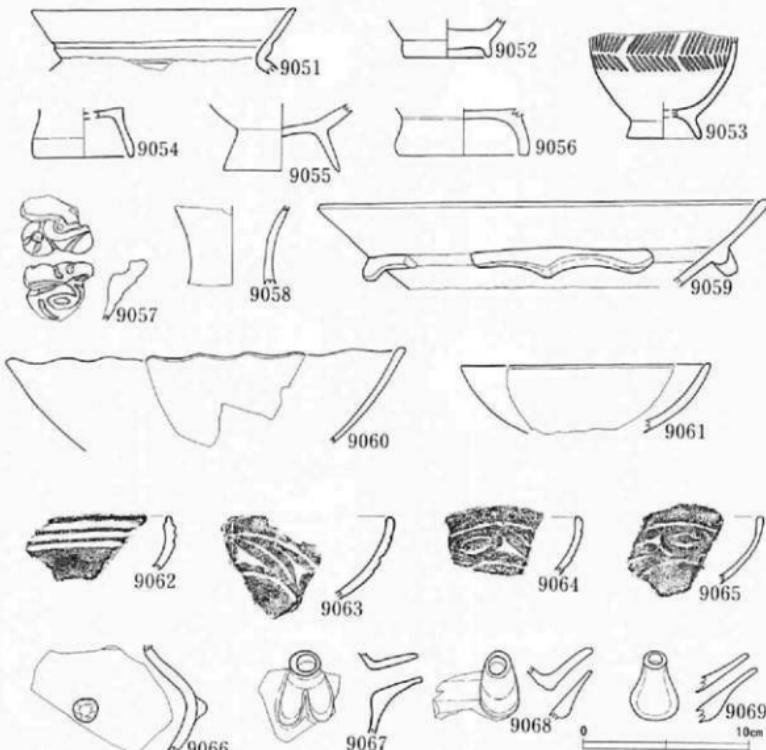
番号	器種	出土位置	法量 (cm)			その他の
			口径	高さ	底径	
9022	深鉢	III G 0 g IV層	18.7	(16.2)	—	後期後葉～晩期初頭か RL縄文
9023	深鉢	III G 1 h IV層	—	(9.6)	—	後期後葉～晩期初頭か RL縄文か
9024	深鉢	III G 2 g IV層	—	(12.5)	—	後期後葉～晩期初頭か LR縄文
9025	深鉢	III G 2 b IV層	—	(13.6)	—	後期後葉～晩期初頭か LR・RL縄文
9026	深鉢	III G 0 b IV層	—	(9.6)	—	後期後葉～晩期初頭か LR・RL縄文
9027	深鉢	II G 8 f IV層	—	(10.9)	—	後期後葉～晩期初頭か RL縄文
9028	深鉢	III G 3 d IV層	—	(5.6)	—	後期後葉～晩期初頭か RL縄文
9029	深鉢	III G 6 b IV層	—	(8.4)	—	後期後葉～晩期初頭か RL縄文
9030	深鉢	III G 4 d IV層	—	(2.4)	10.6	後期後葉～晩期初頭か

第111図 縄文時代の土器③



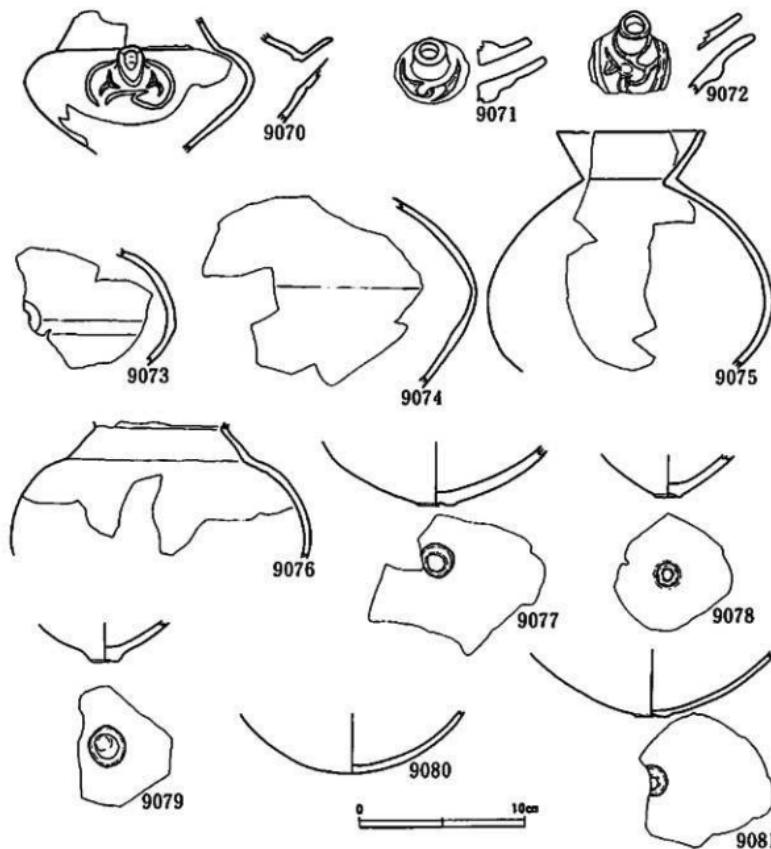
番号	器種	出土状態	法量 (cm)			その他
			口径	高さ	底径	
9031	深鉢	Ⅲ G 1 i N層	—	(5.4)	—	後期後葉～晩期初頭
9032	深鉢	Ⅲ G 9 g N層	—	(6.7)	—	後期後葉～晩期初頭
9033	深鉢	Ⅲ G 8 c N層	—	(6.1)	—	後期後葉～晩期初頭
9034	深鉢	Ⅲ G 8 c N層	—	(4.1)	—	後期後葉～晩期初頭
9035	深鉢	Ⅲ G 1 g N層	—	(7.9)	—	後期後葉～晩期初頭 9036と同一個体か
9036	深鉢	Ⅲ G 2 e N層	—	(6.1)	—	後期後葉～晩期初頭
9037	深鉢	Ⅲ G 0 e N層	—	(3.9)	—	後期後葉～晩期初頭
9038	深鉢	Ⅲ G 0 h N層	—	(5.9)	—	後期後葉～晩期初頭
9039	深鉢	Ⅲ G 0 h N層	—	(5.6)	—	後期後葉～晩期初頭
9040	深鉢	Ⅲ G 9 h N層	—	(5.7)	—	後期後葉～晩期初頭
9041	深鉢	Ⅲ G 1 i N層	—	(5.0)	—	後期後葉～晩期初頭
9042	深鉢	Ⅲ G 0 e N層	—	(4.9)	—	後期後葉～晩期初頭
9043	深鉢	Ⅲ G 0 h N層	—	(6.0)	—	後期後葉～晩期初頭
9044	深鉢	Ⅲ G 2 g N層	—	(6.6)	—	後期後葉～晩期初頭
9045	深鉢	Ⅲ G 8 h N層	—	(3.6)	—	後期後葉～晩期初頭
9046	深鉢	Ⅲ G 9 h N層	—	(3.1)	—	後期後葉～晩期初頭
9047	壺	Ⅲ G 4 d N層	—	(4.2)	—	後期後葉～晩期初頭 9048と同一個体か LR縞文
9048	壺	Ⅲ G 4 d N層	—	(4.0)	—	後期後葉～晩期初頭 LR縞文
9049	壺	Ⅲ G 1 h N層	—	(6.6)	—	後期後葉～晩期初頭
9050	壺	Ⅲ G 1 d N層	—	(6.1)	—	後期後葉～晩期初頭

第112図 縄文時代の土器④



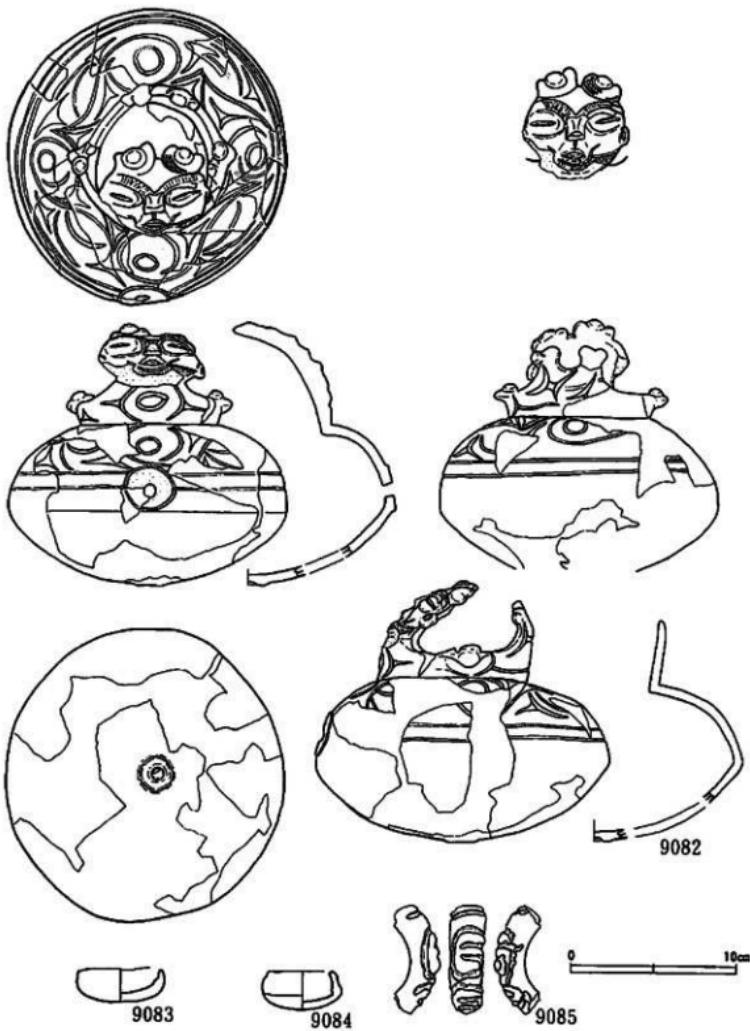
番号	器種	出土位置	法量 (cm)			その他
			口径	高さ	底径	
9051	壺	II G 9 h N層	15.9	(3.6)	—	後期後業～晩期初頭
9052	台付鉢	II G 9 f N層	—	(2.6)	5.2	後期後業～晩期初頭
9053	台付鉢	III G 5 d N層	—	(6.3)	4.7	後期後業～晩期初頭
9054	台付鉢	III G 5 d N層	—	(3.1)	5.9	後期後業～晩期初頭
9055	台付鉢	II G 7 c N層	—	(4.2)	7.0	後期後業～晩期初頭
9056	台付鉢	III G 1 c I層	—	(3.0)	7.8	後期後業～晩期初頭
9057	鉢？	III G 0 h N層	—	(3.6)	—	後期摺型 把手部分の破片
9058	鉢？	III G 2 b N層	—	(4.8)	—	後期後業～晩期初頭
9059	浅鉢	III G 5 f N層	27.0	(5.1)	—	後期後業～晩期初頭 隆起が一部脱落
9060	浅鉢	III G 4 d N層	24.2	(5.2)	—	後期後業～晩期初頭
9061	浅鉢	II G 9 g N層	15.0	(4.0)	—	後期後業～晩期初頭
9062	浅鉢	III G 4 i N層	—	(3.1)	—	後期後業～晩期初頭
9063	浅鉢	III G 1 e N層	—	(5.0)	—	後期後業～晩期初頭 三叉文
9064	浅鉢	III G 2 f N層	—	(3.5)	—	晩期初期 9065と同一個体か 三叉文
9065	浅鉢	III G 1 g N層	—	(4.0)	—	晩期初期 三叉文
9066	壺？	II G 2 h N層	—	(6.5)	—	後期後業
9067	注口土器	P330 推定 (II G 9 e)	—	(4.9)	—	後期後業 こぶがある
9068	注口土器	II G 8 h N層	—	(4.4)	—	後期後業か
9069	注口土器	III G 2 g N層	—	(4.2)	—	後期後業か

第113図 縄文時代の土器⑤



番号	器種	出土位置	法量(cm)			その他
			LJ径	高さ	底径	
9070	住戸土器	E G 9 g N層	-	8.4	-	晩期初頭 三文文
9071	住戸土器	E G 9 i N層	-	3.5	-	晩期初頭 三文文
9072	住戸土器	E G 5 e I期	-	5.0	-	晩期初頭 三文文
9073	住戸土器	E G 9 h N層	-	6.7	-	後期後葉~晩期初頭
9074	住戸土器	E G 9 h N層	-	11.0	-	後期後葉~晩期初頭
9075	住戸土器か	E G 4 d N層	8.5	14.2	-	後期後葉~晩期初頭
9076	住戸土器か	E G 9 h N層	-	8.6	-	後期後葉~晩期初頭
9077	住戸土器か	E G 2 g N層	-	3.8	2.4	後期後葉~晩期初頭
9078	住戸土器か	E G 4 d N層	-	2.6	1.4	後期後葉~晩期初頭
9079	住戸上器か	16S K109 現上	-	2.3	1.6	後期後葉~晩期初頭
9080	住戸上器か	E G 0 h N層	-	3.5	-	後期後葉~晩期初頭
9081	住戸上器か	E G 0 g N層	-	4.2	2.0	後期後葉~晩期初頭

第114図 繩文時代の土器⑤



第115図 繩文時代の土器⑦

番号	器種	出土位置	法量(cm)			その他
			口径	高さ	底径	
9082	住口土器	■G 2 c II層	10.1	14.8	2.3	晩期初頭 人面が付く
9083	小口土器	■G 1 b I層	4.2	2.3	—	後期後半～晩期初頭か
9084	小口土器	■G 1 b I層	5.1	1.9	—	後期後半～晩期初頭か
9085	土製品？	■G 9 h II層	—	6.4	—	後期後半～晩期初頭か 土製品か土器把手か不明

(2) 純文時代の石器 (第116~130図 写真図版79~87)

純文時代の石器は石鎧26点 (9101~9126)、石錐1点 (9127)、石匙7点 (9128~9134)、石範5点 (9135~9139)、スクレイパー15点 (9140~9154)、異形石器1点 (9155)、打製石斧5点 (9156~9160)、磨製石斧4点 (9161~9164)、石棒3点 (9165~9167)、磨石5点 (9168~9172)、くぼみ石9点 (9173~9181)、石皿?11点 (9182、9183、9185~9193)、擦痕のある石1点 (9184) が出土した。これらの石器の所属時期は個々の形態からは判断できないが、本調査区から出土した純文土器は、後期前半と後期末~晚期初頭に2大別され、石器もどちらかの時期に属すると推測される。

石鎧は無茎で基部に抉入があるもの (9101~9103)、無茎で抉入がないもの (9104~9106)、有茎のもの (9107~9120)、柳葉状のもの (9121)、欠損するもの (9122、9123) がある。9124~9126は石鎧とするには疑問があるが、一応石鎧とした。9117、9120は基部にアスファルトが付着する。

9127はつまみがあり錐部が長い石錐である。

石匙は縦型のもの (9128~9130)、横型のもの (9132~9134) がある。9130と9132のつまみ部分にはアスファルトが付着している。

9135~9139は石範である。刃部が下端にあるものを石範とした。9138は片面のみの加工である。

刃部が側縁にある剥片石器をスクレイパーとして一括した (9140~9154)。細分類が可能であろうが、ここではその作業をおこなっていない。

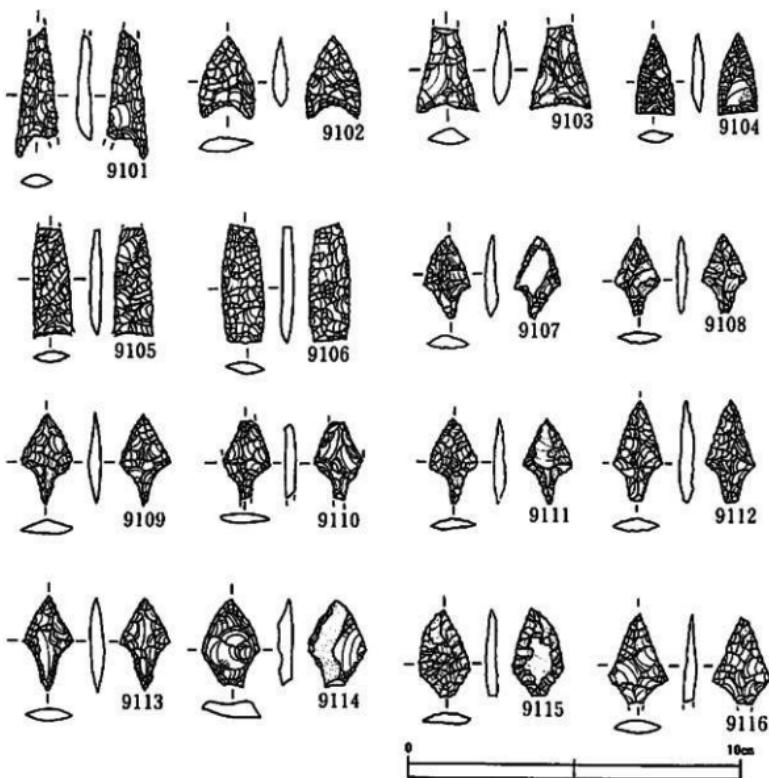
9155は異形石器とした。鋸齒状の突起がみられる。図の下側は欠損している。

9156~9160は打製石斧である。9159、9160は基部が茎状になっている。9161~9164は磨製石斧である。9162、9164は刃部が欠損している。

9165~9167は石棒または石刀の破片と推測される。石質は共通しており同一個体の可能性もある。

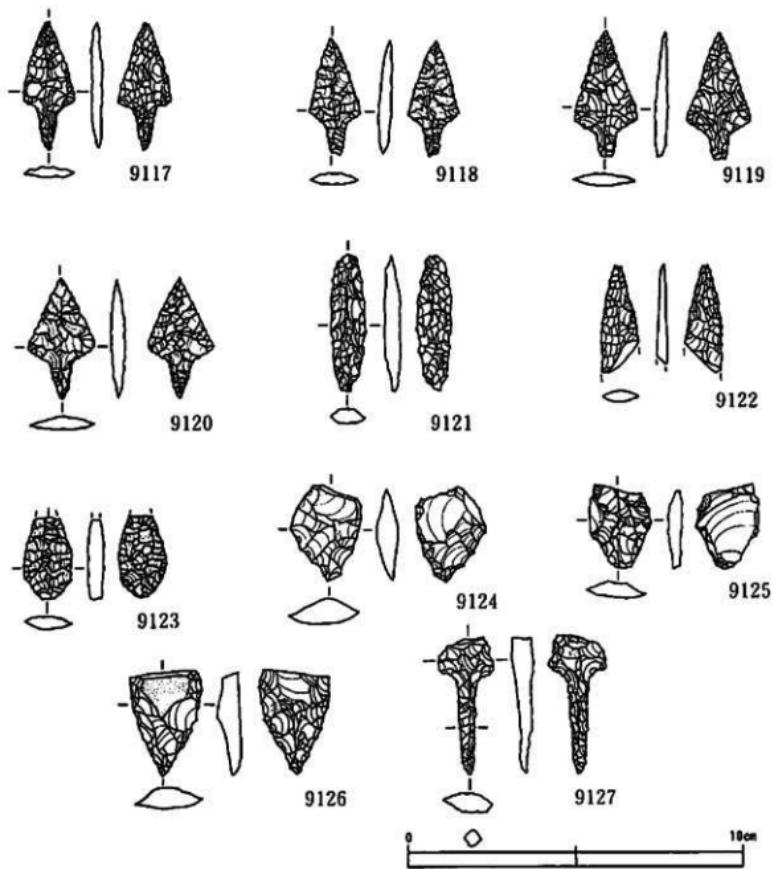
9168~9172は磨り面がある砾で、磨石とした。9172は凹部分もある。9173~9182は凹石である。9173はたたき石が妥当かもしれない。9184は擦痕のある石である。人為は加えられているが製品名は不明である。

9182、9183、9185~9193は石皿とした。9182は真中がくぼみ、石皿状の形態であるが人為的な造形でない可能性もある。9183、9185~9193は板状の石である。擦痕があり石皿とした。



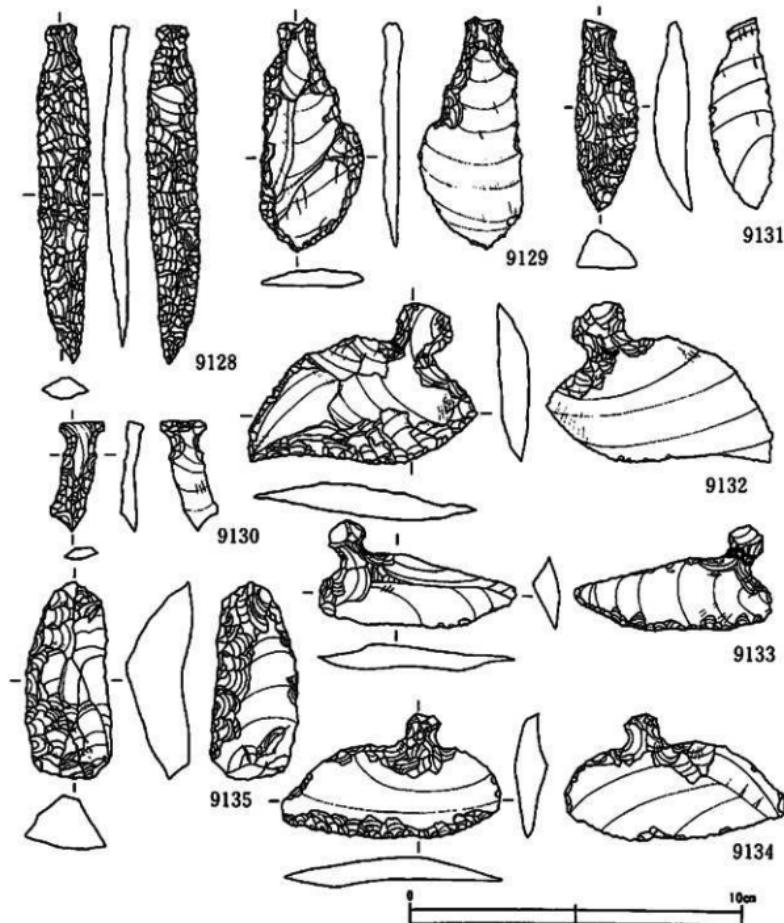
番号	器種	出土位置	法長(cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9101	石鏃	ⅢG 9 e N層	3.9	1.2	0.5	1.76	流紋岩生硬泥岩	
9102	石鏃	16SK11 埋土	2.4	0.4	1.7	1.38	チャート	
9103	石鏃	ⅢG 3 b N層	2.6	1.9	0.5	1.83	禿硬質泥岩	
9104	石鏃	ⅢG 6 d N層	2.4	1.1	0.3	0.96	チャート	
9105	石鏃	ⅢG 0 c N層	3.1	1.1	0.3	1.74	禿硬質泥岩	
9106	石鏃	ⅢG 4 b I層	3.5	1.2	0.4	1.58	禿硬質泥岩	
9107	石鏃	ⅢG 0 h I層	2.4	1.4	3.5	1.05	チャート	
9108	石鏃	16SK10e 南側斜土	2.3	1.3	0.3	0.69	チャート質粘板岩	
9109	石鏃	ⅢG 1 h N層	2.7	1.5	0.4	1.02	チャート質粘板岩	
9110	石鏃	ⅢG 0 d N層	2.3	1.4	0.3	0.98	チャート	
9111	石鏃	ⅢG 0 h I層	2.5	1.4	3.5	0.86	チャート	
9112	石鏃	ⅢG 1 b I層	3.0	1.5	0.4	1.32	チャート質粘板岩	
9113	石鏃	16SD12 埋土(ⅢG 4 b)	2.8	1.4	0.4	1.01	流紋岩生硬泥岩	
9114	石鏃	ⅢG 9 h N層	2.6	1.7	0.4	1.68	禿硬質泥岩	
9115	石鏃	16S11 埋土中	2.6	1.5	0.3	1.43	チャート	
9116	石鏃	16S11 埋土中	2.7	1.7	0.4	1.34	流紋岩生硬泥岩	

第116図 繩文時代の石器①



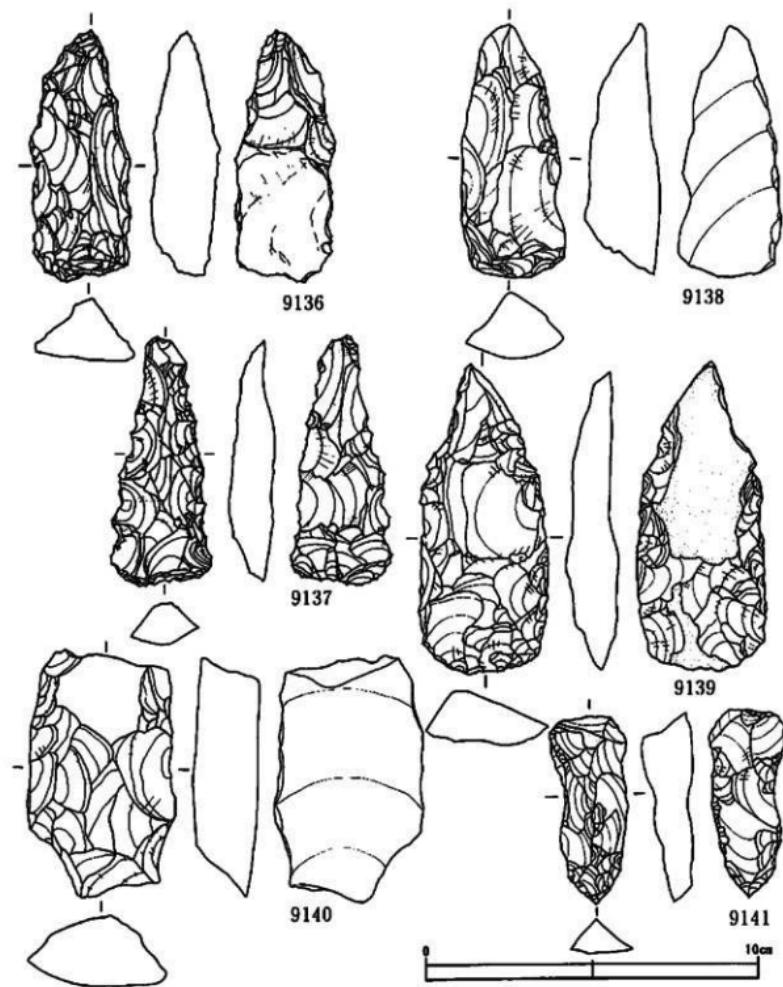
番号	器種	出土位置	直量(cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9117	石頭	Ⅲ G 0 h N層	3.8	1.5	0.3	1.17	凝灰質泥岩	基部にアスファルト付着
9118	石頭	P 607 複方	3.4	1.5	3.5	1.29	凝灰質泥岩	
9119	石頭	Ⅲ G 5 f 1層	3.7	1.9	0.4	1.84	チャート	
9120	石頭	Ⅲ G 9 g N層	3.6	2.0	4.0	1.83	チャート	
9121	石頭	Ⅲ G 0 c N層	4.0	1.0	0.5	1.96	流紋岩質凝灰岩	
9122	石頭	Ⅲ D 8 d N層	3.2	1.1	0.3	1.05	粘板岩	
9123	石頭	Ⅲ G 9 h N層	2.4	1.4	0.4	1.66	チャート	
9124	石頭	Ⅲ G 2 g N層	2.3	2.1	0.7	3.37	流紋岩質凝灰岩	
9125	石頭	Ⅲ G 0 i N層	2.3	1.8	0.4	2.11	チャート質粘板岩	
9126	石頭	Ⅲ G 0 i N層	3.0	2.1	0.7	3.88	チャート質粘板岩	
9127	石頭	Ⅲ G 0 h N層	4.0	0.6	1.7	2.35	斑霞質凝灰岩	

第117図 繩文時代の石器②



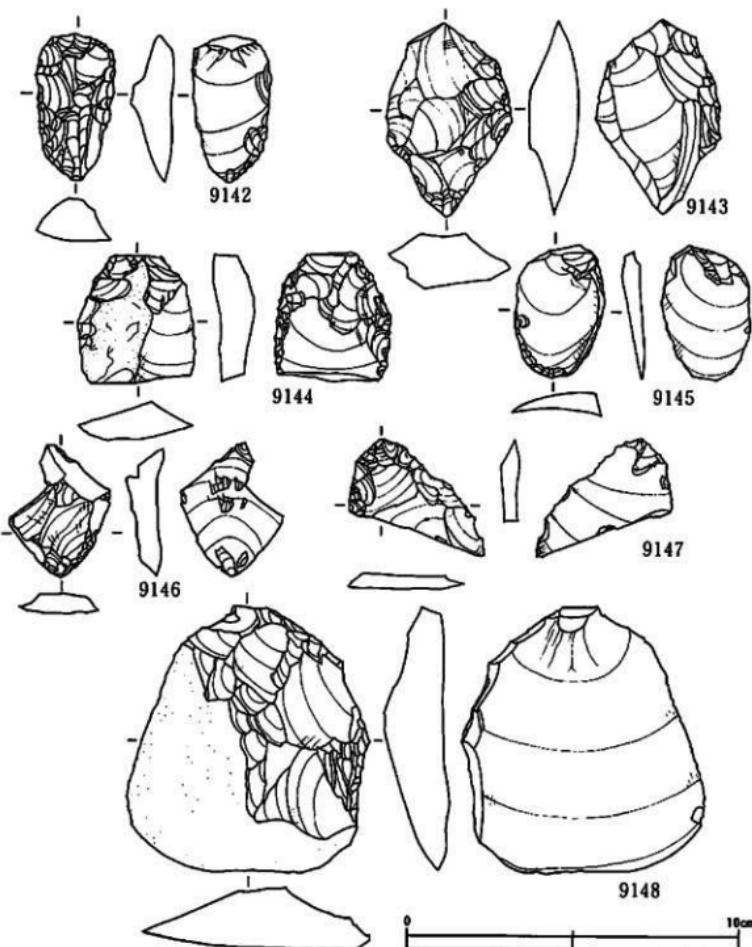
番号	器種	出土位置	法量(cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9128	石芯	IIG8 g N層	10.1	1.5	0.7	10.80	泥質褐灰岩	
9129	石芯	IIG8 g N層	6.8	3.1	0.6	10.71	泥質灰岩	
9130	石芯	IIG4 b N層	3.3	1.6	0.7	1.86	チャート質粘板岩	つま部分にアスファルト付着
9131	石芯	IIG8 c N層	5.1	1.8	1.0	10.45	泥質褐灰岩	
9132	石芯	IIG9 h N層	4.7	6.8	1.0	25.05	船板岩	つま部分にアスファルト付着
9133	石芯	IIG8 c N層	5.9	3.1	0.8	8.85	チャート質粘板岩	
9134	石芯	IIG8 c N層	3.6	6.5	0.9	17.29	泥質粘板岩	
9135	石芯	IIG6 d N層	6.0	2.6	1.7	24.99	チャート	

第118図 縄文時代の石器③



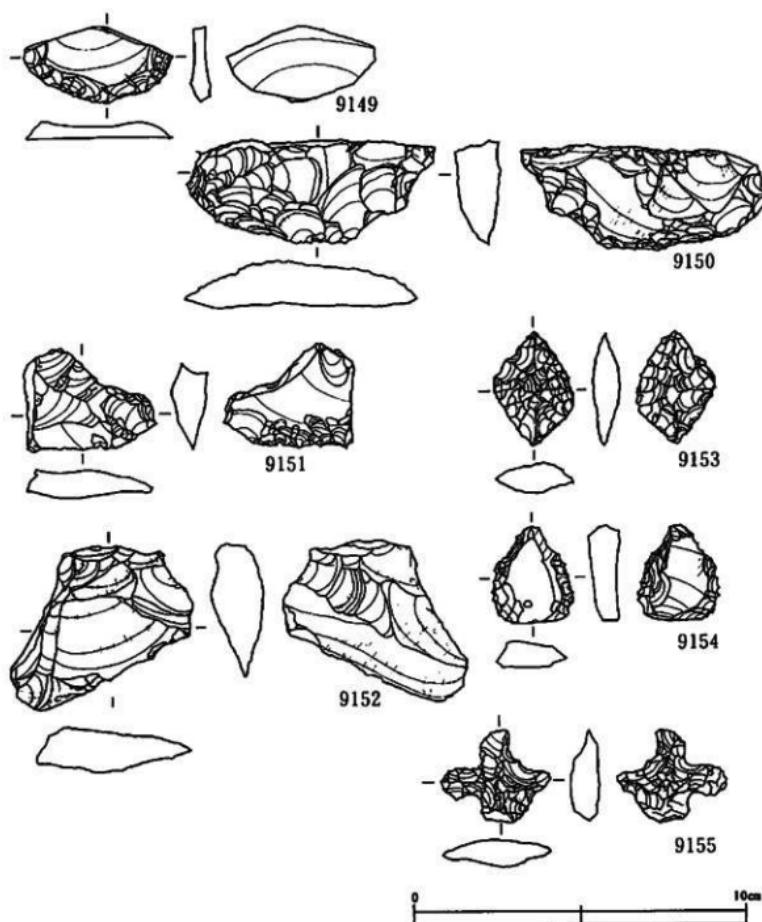
番号	器種	出土状況	法量(cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9136	石劍	IG 2 b IV層	7.3	2.9	2.0	41.68	凝灰質隕石	
9137	石劍	IG 1 f IV層	7.4	1.3	3.0	24.02	凝灰質隕石	
9138	石劍	IG 2 b IV層	7.5	3.2	2.3	48.03	凝灰岩質砂岩	
9139	石劍	IG 0 g IV層	9.3	3.9	1.6	58.55	粘板岩	
9140	エクレバ	IG 6 d IV層	18.5	4.5	2.1	93.08	凝灰岩質砂岩	
9141	エクレバ	16SK10 周土	5.6	2.3	1.5	14.53	チャート質砂岩?	

第119図 縄文時代の石器④



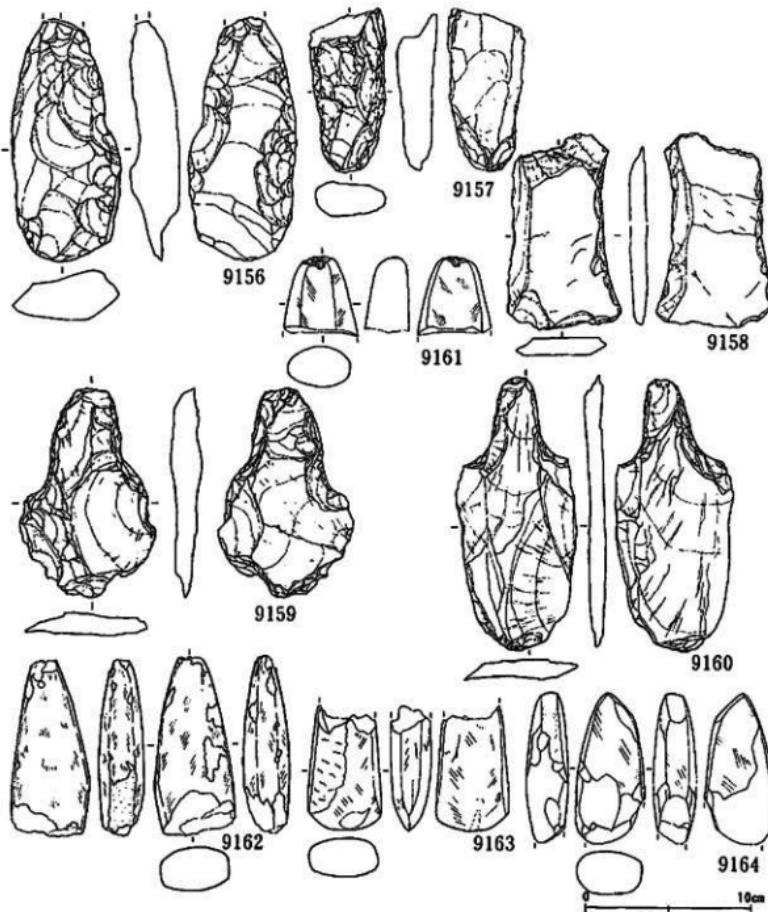
番号	器種	出土位置	法量(cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9142	アラレバ-	EG2 g N層	4.4	2.4	1.3	12.27	波紋岩生長床岩	
9143	アラレバ-	EG4 d N層	5.8	3.8	1.5	26.52	粘板岩	
9144	アラレバ-	EG9 h N層	3.8	3.45	1.0	16.80	緑色細粒長床岩	
9145	アラレバ-	EG1 g N層	4.0	2.7	0.7	7.58	泥質板岩	
9146	アラレバ-	EG0 h N層	4.4	3.1	1.2	7.72	チャート質粘板岩	
9147	アラレバ-	EG2 b N層	2.5	3.5	0.5	5.36	墨灰質泥岩	
9148	アラレバ-	EG6 h N層	7.9	6.8	1.8	109.47	ホルンフェルス	

第120図 縄文時代の石器⑤



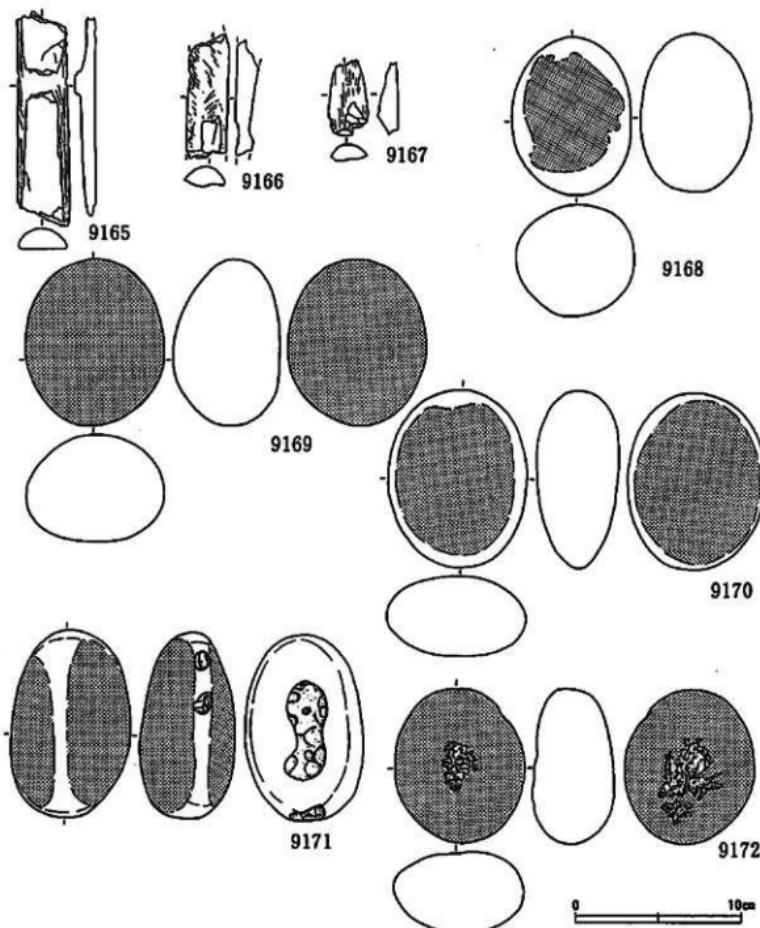
番号	器種	出土状況	法量(cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9149	ステレオバー	II G 8 d N層	4.4	2.2	0.6	6.3	純質燧灰岩	
9150	ステレオバー	II G 8 g N層	3.1	7.1	1.4	33.31	純質燧灰岩	
9151	ステレオバー	II G 3 f N層	3.1	3.9	1.1	11.50	純質燧灰岩	
9152	ステレオバー	II G 9 h N層	4.4	4.6	1.1	30.35	高灰分	
9153	ステレオバー	II G 9 h N層	3.4	2.4	0.9	4.49	純質燧灰岩	
9154	ステレオバー	II G 2 c N層	2.9	0.9	2.4	6.50	流紋岩生産灰岩	
9155	異形石器	II G 1 i N層	2.8	3.3	0.9	4.83	チャート質粘板岩	

第121図 繩文時代の石器⑥



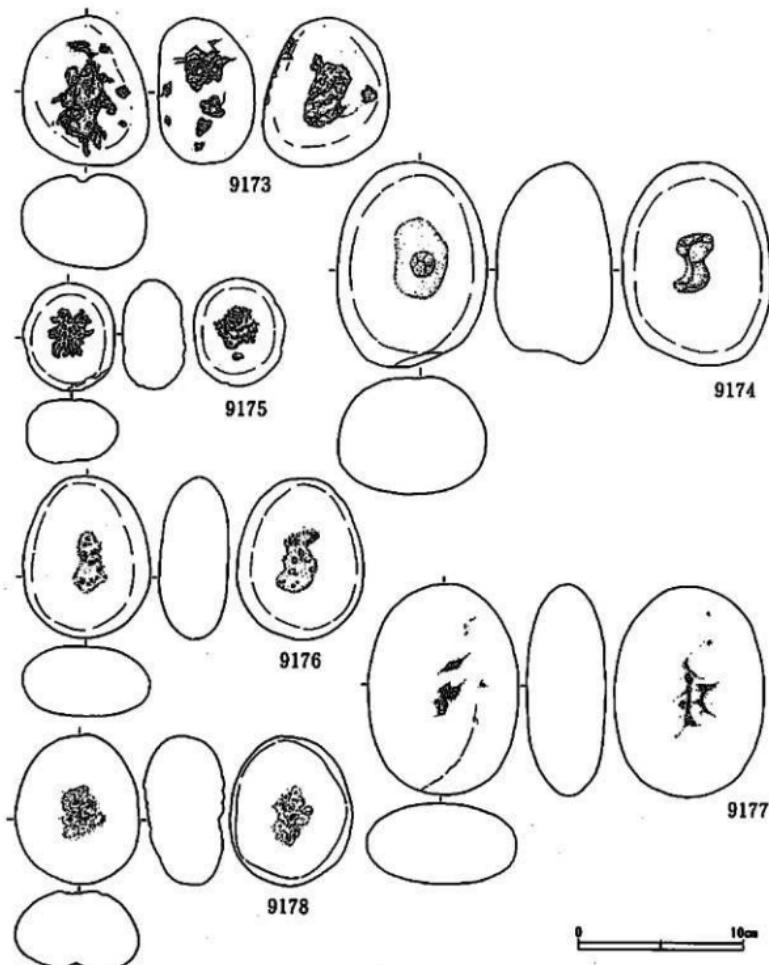
番号	器種	出土位置	計量 (cm)			重さ (g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9156	打製石斧	E G 2 h N層	14.7	6.6	3.0	3.54	透灰岩質粗砂岩	
9157	打製石斧	E G 1 c N層	9.3	2.3	4.7	118.31	赤褐色透灰岩	
9158	打製石斧	I G S K 20 稲土	11.6	6.8	1.0	110.55	粘板岩	
9159	打製石斧	P 1342 稲土	12.6	8.0	1.9	159.93	粘板岩	
9160	打製石斧	E G 2 d N層	16.3	7.1	1.1	172.86	粘板岩	
9161	磨製石斧	E G 7 h I層	4.7	4.5	2.8	66.43	透灰岩	
9162	磨製石斧	E G 9 i N層	10.7	4.9	2.6	202.29	透灰岩	
9163	磨製石斧	E G 8 g I層	7.5	4.5	2.3	117.99	透灰岩	
9164	磨製石斧	E G 1 g N層	9.0	2.5	2.5	145.11	透灰岩	

第122図 縄文時代の石器⑦



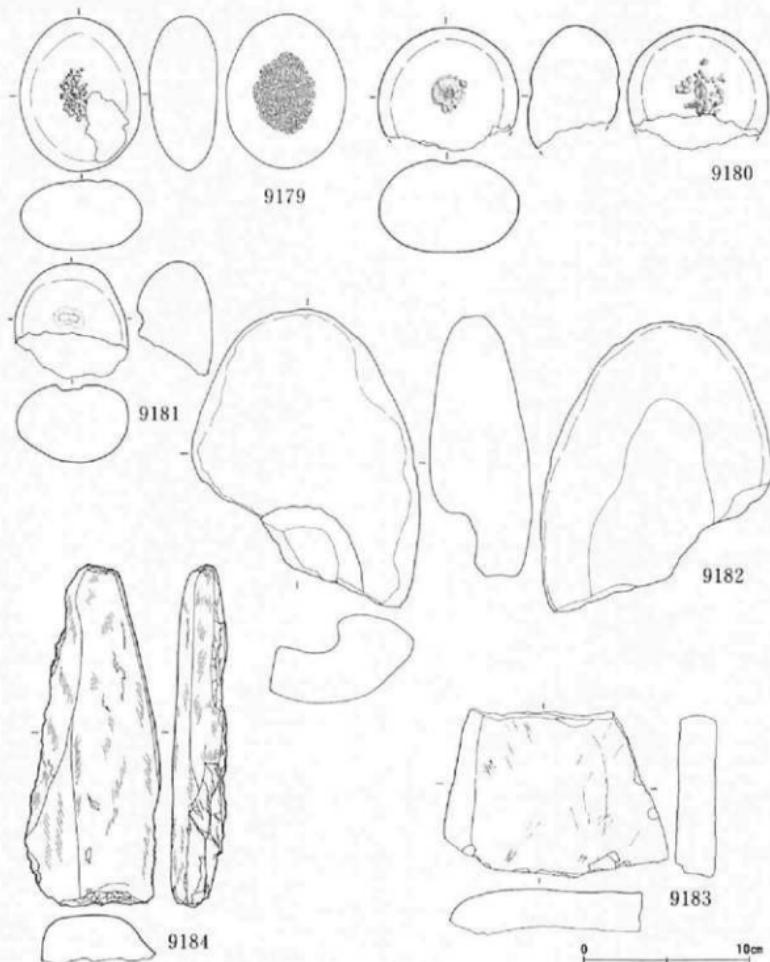
番号	器種	出土位置	法量 (cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9165	石棒	II G 9 b N層	12.0	1.2	3.1	67.49	粘板岩	
9166	石棒	III G 5 a I層	7.5	2.5	1.3	30.74	粘板岩	
9167	石棒	III G 1 h IV層	4.6	2.4	1.3	13.25	粘板岩	
9168	磨石	III G 2 e IV層	9.5	6.7	7.2	610.92	岡原石鞍山岩	
9169	磨石	III G 4 g N層	6.0	6.45	8.3	791.86	凝灰質砂岩	
9170	磨石	P473 地方	10.7	8.4	5.0	615.99	岡原石鞍山岩	
9171	磨石	II G 9 c N層	16.3	12.3	5.6	620.44	岡原石鞍山岩	
9172	磨石	II G 0 c N層	9.3	7.8	5.0	497.85	岡原石鞍山岩	

第123図 繩文時代の石器④



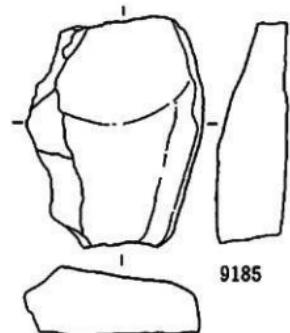
番号	器種	出土位置	径量(cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9173	四石	E G 1 c N層	8.9	7.5	5.8	488.97	岡崎石安山岩	
9174	四石	E G 0 h N層	12.3	9.0	7.0	1180.68	岡崎石安山岩	
9175	四石	E G 2 h N層	6.5	5.6	3.8	178.84	ディサイト	
9176	四石	E G 1 c N層	9.7	4.15	7.6	456.11	岡崎石安山岩	
9177	四石	E G 2 f N層	12.8	9.1	4.9	826.82	霧浜質硬砂岩	
9178	四石	E G 2 g N層	8.9	4.2	7.45	409.30	岡崎石安山岩	

第124図 縄文時代の石器⑨

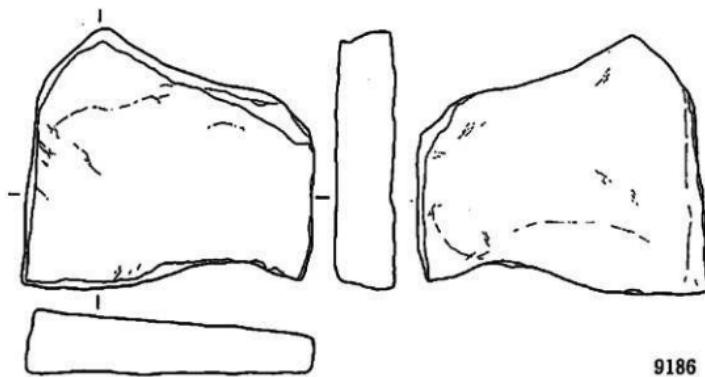


第125図 繩文時代の石器⑩

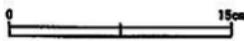
番号	器種	出土位置	法量(cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9179	凹石	Ⅲ G 0 c N層	9.2	7.3	4.2	395.58	両輝石安山岩	
9180	凹石	Ⅲ G 3 c N層	7.5	8.5	5.7	451.21	両輝石安山岩	
9181	凹石	Ⅲ G 2 h N層	6.9	6.8	4.4	256.18	両輝石安山岩	
9182	石皿	Ⅲ G 5 g N層	17.7	14.0	6.3	1682.22	デイサイト	
9183	石皿	Ⅲ G 1 c N層	10.1	13.6	2.6	545.56	両輝石安山岩	
9184	石皿?	Ⅲ G 9 c N層	20.5	8.2	3.0	646.9	ホルンフェルス	



9185

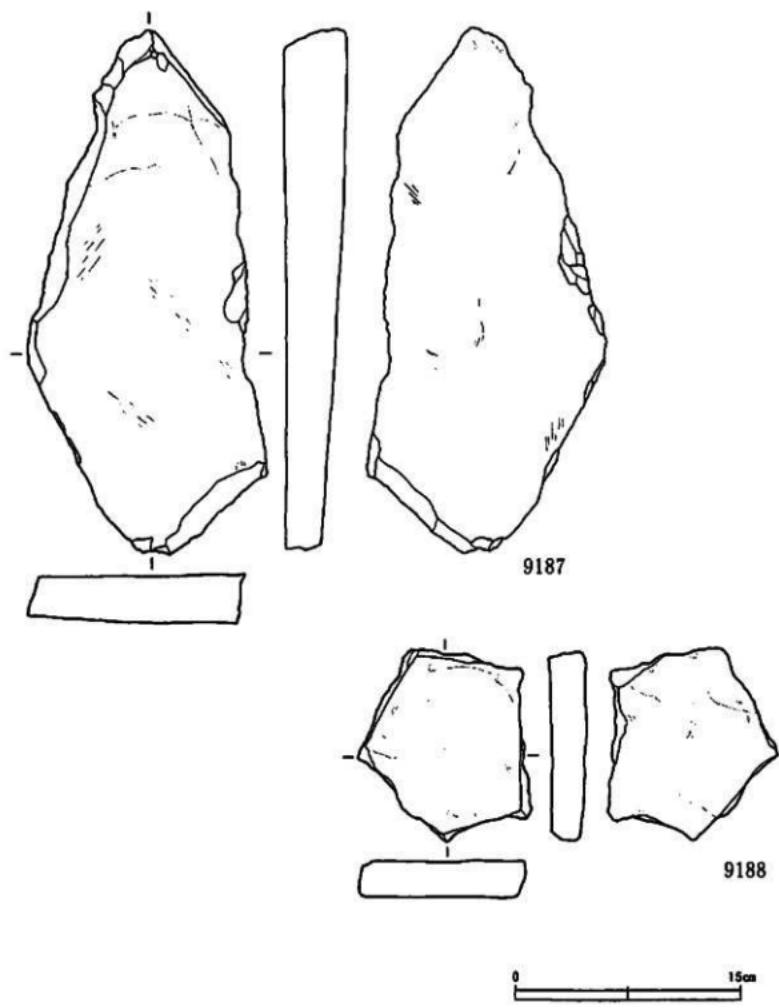


9186



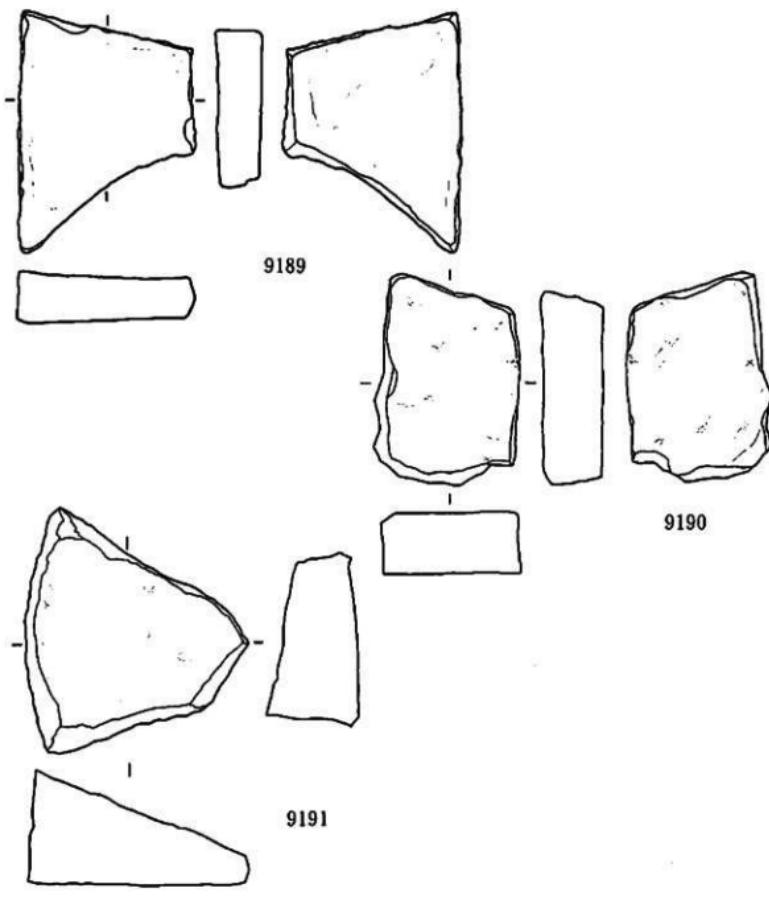
番号	器種	出土位置	法量(cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9185	石皿?	Ⅲ G 1 g N層	14.0	10.6	4.1	399.55	デイサイト	
9186	石皿?	Ⅲ G 8 g N層	15.6	17.2	3.8	1561.26	デイサイト	

第126図 縄文時代の石器①



番号	器種	出土状況	法量(cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9187	石鎌？	Ⅲ G 2 f 玄層	39.4	14.2	3.7	205.14	粘板岩	
9188	石鎌？	Ⅲ G 9 c 玄層	11.2	10.2	2.1	494.2	ディサイト	

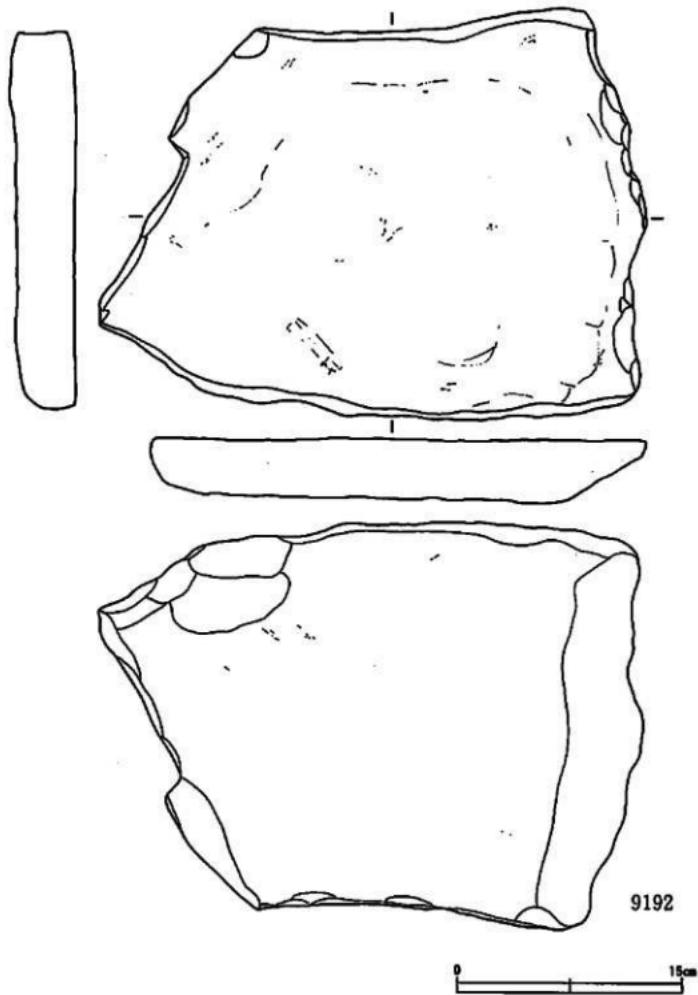
第127図 縄文時代の石器②



0 15cm

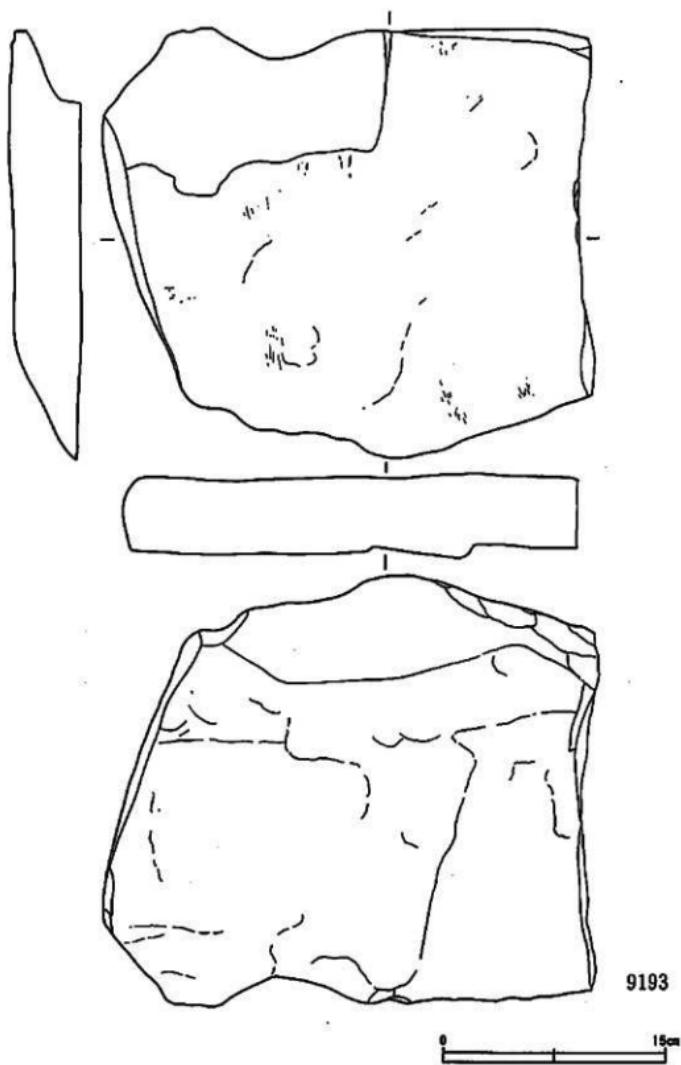
番号	器種	出土状況	寸法(cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9189	石刀?	E G 0 h N層	14.1	2.9	10.6	644.27	ダイサイト	
9190	石刀?	16S D13 収留W上	12.3	4.7	3.7	762.45	ダイサイト	
9191	石刀?	E G 1 g N層	14.5	13.3	5.6	1303.28	ダイサイト	

第128図 繩文時代の石器⑬



番号	形種	出土位置	法寸(cm)			重さ(g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9192	石器?	E G 4 f 西側	32.4	23.9	3.6	5,060	ダイサイト	

第129図 繩文時代の石器④



番号	器種	出土位置	法面 (cm)			重さ (g)	石質	その他
			長さ	幅	厚さ			
9193	石器?	E G 5 h N標	29.2	25.5	5.0	5,520	ダイサイト	

第130図 繩文時代の石器⑮

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P 1	12.0	22.48	
P 2	39.3	22.27	
P 3	30.4	22.35	
P 4	28.2	22.34	
P 5	56.1	22.07	16S B19
P 6	28.7	22.38	
P 7	43.2	22.24	16S B37
P 8	20.2	22.35	
P 9	22.5	22.40	
P 10	45.1	22.18	16S B37
P 11	21.8	22.36	
P 12	25.3	22.39	
P 13	16.1	22.43	16S B27
P 14	35.3	22.29	
P 15	24.7	22.33	16S B27
P 16	26.8	22.32	
P 17	25.5	22.29	16S B26
P 18	27.9	22.28	
P 19	17.4	22.41	16S B39
P 20	43.2	22.15	16S B37
P 21	11.4	22.46	
P 22	8.7	22.47	
P 23	23.1	22.35	
P 24	47.1	22.12	16S B38
P 25	32.5	22.26	
P 26	15.6	22.43	
P 27	13.8	22.45	16S B39
P 28	33.7	22.25	16S B37
P 29	31.3	22.28	
P 30	41.4	22.18	16S B38
P 31	10.7	22.47	
P 32	13.8	22.43	
P 33	25.7	22.30	16S B43
P 34	33.5	22.20	16S B43
P 35	17.7	22.32	16S B42
P 36	不明	不明	
P 37	29.0	22.17	16S B46
P 38	45.0	22.05	16S B46
P 39	22.6	22.23	
P 40	23.4	22.25	16S B50
P 41	9.4	22.41	16S B52
P 42	30.2	22.21	柱列4
P 43	17.4	22.27	16S B48
P 44	37.4	22.06	16S B53
P 45	39.7	22.11	16S B49
P 46	39.4	22.11	16S B43
P 47	23.6	22.29	16S B46
P 48	29.4	22.25	16S B53
P 49	38.5	22.16	16S B39
P 50	37.5	22.13	16S B56
P 51	35.7	22.20	16S B52
P 52	33.3	22.22	16S B50
P 53	44.6	22.08	16S B55
P 54	47.1	22.08	16S B45
P 55	41.0	22.14	16S B46
P 56	31.0	22.24	16S B58
P 57	20.5	22.24	16S B48
P 58	29.3	22.21	
P 59	16.0	22.40	
P 60	25.7	22.28	16S B52
P 61	33.0	22.22	
P 62	32.5	22.19	16S B52
P 63	35.2	22.21	16S B46
P 64	29.9	22.25	16S B42
P 65	48.2	22.09	16S B43
P 66	30.9	22.29	16S B56
P 67	45.3	22.16	16S B50
P 68 ¹	35.2	22.21	16S B52
P 68 ²	27.3	22.30	16S B53
P 69	37.2	22.17	16S B42
P 70	47.8	22.11	16S B45
P 71	39.7	22.19	16S B55
P 72	29.4	22.28	16S B56
P 73	32.4	22.23	16S B50
P 74	31.0	22.23	16S B56
P 75	45.5	22.08	16S B58
P 76	40.3	22.13	16S B47
P 77	31.0	22.20	16S B50
P 78	13.0	22.33	
P 79	41.4	22.16	16S B46
P 80	33.0	22.23	
P 81	16.7	22.42	柱列4
P 82	23.3	22.34	
P 83	47.0	22.10	
P 84	33.0	22.24	
P 85	39.0	22.18	16S B55
P 86	26.5	22.24	16S B52
P 87	18.1	22.30	
P 88	22.9	22.18	
P 89	23.5	22.21	16S B53
P 90	34.9	22.09	16S B47
P 91	47.0	22.12	16S B57
P 92	33.9	22.21	
P 93	10.1	22.43	
P 94	38.0	22.12	16S B57
P 95	18.5	22.36	16S B47
P 96	28.9	22.26	16S B38
P 97	38.6	22.14	16S B41
P 98	26.6	22.28	16S B40
P 99	31.6	22.20	16S B39
P 100	16.3	22.34	16S B46
P 101	36.9	22.13	16S B38
P 102	20.7	22.32	16S B58
P 103	28.0	22.19	
P 104	33.9	22.15	16S B38
P 105	30.0	22.17	16S B45
P 106	15.6	22.31	16S B46
P 107	39.2	22.08	16S B39
P 108	34.6	22.11	16S B49
P 109	27.0	22.20	16S B43
P 110	34.2	22.14	16S B46
P 111	39.6	22.13	16S B43
P 112	32.7	22.17	16S B44
P 113	32.2	22.19	16S B46
P 114	29.1	22.20	16S B40
P 115	28.2	22.22	16S B45
P 116	25.9	22.23	16S B38
P 117	34.3	22.17	
P 118	29.3	22.20	16S B38
P 119	40.9	22.09	16S B45
P 120	26.6	22.22	
P 121	25.3	22.26	
P 122	33.0	22.18	
P 123	35.7	22.23	16S B44
P 124	32.3	22.26	
P 125	39.0	22.10	16S B42
P 126	47.3	21.85	
P 127	15.5	22.20	
P 128	26.7	22.05	16S B59
P 129	10.6	22.39	16S B55
P 130	25.6	22.21	
P 131	24.5	22.25	16S B59
P 132	38.2	22.05	16S B59
P 133	12.5	22.23	16S B61
P 134	11.0	22.33	
P 135	12.0	22.22	
P 136	21.1	22.15	
P 137	26.8	22.01	
P 138	35.3	21.96	16S B61
P 139	22.0	22.04	16S B20
P 140	12.3	22.09	
P 141	8.1	22.09	16S B61
P 142	23.0	21.98	16S B60
P 143	15.2	22.30	
P 144	13.4	22.05	
P 145	18.4	21.94	16S B59
P 146	20.0	21.90	
P 147	10.6	22.08	
P 148	6.2	22.10	16S B59
P 149	14.4	22.02	
P 150	11.6	22.02	16S B59

柱穴計測表①

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	造物番号
P151	9.4	22.40	
P152	15.5	22.36	
P153	76.0	21.67	16S B61
P154	46.6	21.67	
P155	16.0	22.08	
P156	11.6	22.10	
P157	10.7	22.13	16S B60
P158	22.9	21.99	
P159	23.1	21.98	
P160	9.5	22.17	
P161	40.0	21.79	
P162	28.5	21.93	
P163	25.7	21.87	
P164	22.8	21.98	
P165	19.8	22.03	16S B30
P166	19.5	22.02	16S B28
P167	23.6	21.96	16S B28
P168	21.3	22.01	16S B54
P169	32.0	21.93	16S B28
P170	20.2	22.02	
P171	10.4	22.17	16S B51
P172	27.4	22.02	16S B59
P173	24.0	22.04	16S B47
P174	8.3	22.21	
P175	18.6	22.13	16S B48
P176	33.6	21.98	16S B28
P177	20.4	22.10	16S B55
P178	25.1	22.06	16S B54
P179	26.1	22.05	16S B46
P180	21.4	22.10	16S B48
P181	28.8	21.94	16S B55
P182	26.8	22.09	16S B53
P183	11.1	22.23	16S B55
P184	19.7	22.25	16S B44
P185	22.9	22.08	16S B46
P186	17.8	22.17	16S B48
P187	29.8	22.03	16S B46
P188	17.9	22.16	16S B28
P189	15.7	22.16	16S B43
P190	29.5	22.02	16S B49
P191	20.4	22.11	16S B46
P192	16.1	22.18	
P193	9.6	22.24	16S B38
P194	不明	不明	16S B47
P195	13.3	22.20	16S B48
P196	19.6	22.12	16S B28
P197	17.5	22.15	
P198	23.3	22.14	16S B48
P199	14.8	22.22	
P200	24.0	22.11	16S B51
柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	造物番号
P201	32.2	22.09	16S B49
P202	21.4	22.21	16S B50
P203	31.6	22.10	16S B43
P204	37.6	22.03	16S B42
P205	26.2	22.13	16S B38
P206	27.9	22.12	16S B47
P207	10.5	22.31	16S B51
P208	29.9	22.12	16S B48
P209	39.6	22.08	16S B38
P210	24.3	22.22	
P211	22.2	22.27	16S B41
P212	14.2	22.32	16S B40
P213	11.8	22.28	16S B40
P214	7.5	22.44	16S B42
P215	20.5	22.27	16S B46
P216	9.6	22.36	16S B44
P217	21.2	22.26	
P218	6.0	22.29	16S B40
P219	14.4	22.31	16S B46
P220	15.5	22.21	
P221	23.5	22.12	16S B38
P222	31.2	21.95	16S B29
P223	39.5	21.87	
P224	29.0	21.99	16S B29
P225	17.0	22.14	
P226	32.3	21.90	16S B28
P227	24.8	22.02	16S B24
P228	15.8	22.15	
P229	21.9	22.10	16S B34
P230	17.0	22.13	16S B28
P231	32.3	22.02	16S B32
P232	22.7	22.12	
P233	久希		
1	32.4	21.91	16S B29
2	21.0	22.08	16S B38
3	17.1	22.05	16S B25
P234	20.8	22.11	16S B37
P235	24.9	22.12	16S B46
P236	17.0	22.23	16S B43
P237	9.6	22.30	
P238	25.8	22.16	16S B42
P239	14.0	22.29	16S B37
P240	14.1	22.16	16S B46
P241	18.1	22.26	
P242	21.3	22.24	16S B41
P243	38.7	22.08	16S B37
P244	27.1	22.1	16S B38
P245	10.3	22.26	16S B38
P246	14.0	22.81	
P247	24.0	22.05	16S B25
P248	14.2	22.09	16S B38
P249	13.3	22.04	16S B24
P250	16.9	22.00	

柱穴計測表②

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P301	25.8	21.79	16S B36	P351	34.1	22.04		P401	11.2	22.03	
P302	11.6	22.05	16S B29	P352	48.8	21.81	16S B29	P402	14.9	21.87	
P303	60.2	21.57	16S B28	P353	23.1	22.04	16S B30	P403	36.0	21.71	16S B31
P304	62.9	21.74	16S B33	P354	18.4	22.07		P404	14.5	21.97	16S B30
P305	9.7	22.04		P355	21.2	21.98	16S B29	P405	20.0	21.72	16S B32
P306 ¹	24.0	21.93	16S B29	P356	19.8	22.09		P406	7.9	21.81	16S B33
P306 ²	15.2	22.01		P357	33.9	21.93	16S B35	P407	欠番		
P307	13.9	22.00	16S B34	P358	45.4	21.82	16S B33	P408 ¹	22.4	21.69	16S B28
P308	8.4	22.05		P359	33.5	21.95	16S B32	P408 ²	54.3	21.59	
P309	9.3	22.03	16S B35	P360	14.4	22.15		P409	7.7	22.06	16S B34
P310	47.0	21.69	16S B28	P361	16.5	22.10	16S B29	P410	17.6	22.01	16S B32
P311	18.9	21.97	16S B35	P362	10.9	22.20	16S B30	P411	51.6	21.61	16S B28
P312	20.7	21.92		P363	30.8	21.95	16S B30	P412	13.2	22.12	
P313	42.1	21.74	16S B32	P364	3.8	22.15		P413	8.2	22.20	
P314	18.2	22.00	16S B28	P365	6.0	22.13		P414	29.9	21.96	16S B22
P315	28.5	21.88	16S B32	P366	36.0	21.99	16S B24	P415	39.3	21.85	16S B23
P316	13.6	22.04	16S B24	P367	6.3	22.00		P416	31.7	21.94	16S B22
P317	33.9	21.86	16S B30	P368	不明	不明		P417	不明	不明	
P318	42.6	21.76	16S B29	P369	不明	不明	16S B24	P418	29.0	22.20	16S B23
P319	18.4	22.02	16S B29	P370	24.7	21.98	16S B24	P419	23.8	21.92	
P320	32.9	21.80	16S B31	P371	46.8	21.81	16S B29	P420	24.8	21.93	16S B22
P321	16.8	21.98		P372	37.9	21.80	16S B31	P421	欠番		
P322	21.3	21.88	16S B29	P373	欠番			P422	不明	不明	
P323	43.9	21.77	16S B32	P374	43.8	21.83	16S B32	P423	18.2	22.03	16S B32
P324	30.2	21.89		P375	欠番			P424	11.8	22.05	
P325	29.6	21.90	16S B24	P376	35.1	21.72	16S B28	P425	65.9	21.86	16S B28
P326	26.7	21.95	16S B32	P377	26.4	21.95	16S B32	P426	不明	不明	16S B22
P327	27.6	21.85	16S B33	P378	28.4	21.93	16S B24	P427	22.8	21.96	16S B23
P328	24.1	22.03	16S B31	P379	15.8	22.12		P428	37.3	21.83	16S B22
P329	30.7	21.97		P380	40.8	21.87	16S B33	P429	6.4	22.15	
P330	28.2	21.95		P381	15.1	22.04	16S B29	P430	42.0	22.16	16S B23
P331	3.6	22.20	16S B34	P382	38.9	21.83	16S B36	P431	9.6	22.13	
P332	25.5	22.01	16S B33	P383	14.4	21.91	16S B29	P432	33.4	21.86	16S B33
P333	10.5	22.13		P384	21.7	22.02		P433	14.2	22.06	
P334	11.2	22.13		P385	15.8	22.05		P434	32.3	21.85	16S B36
P335	32.5	21.94		P386	22.5	21.97	16S B35	P435	15.3	22.03	
P336	44.2	21.81		P387	14.4	21.74	16S B36	P436	43.0	21.84	16S B33
P337	11.5	22.08		P388	20.8	21.67	16S B31	P437	43.2	21.83	16S B30
P338	9.7	22.13		P389	4.6	21.87	16S B29	P438	11.4	22.06	
P339	15.5	21.94		P390	5.6	21.92	16S B30	P439	31.5	21.91	16S B32
P340	13.9	21.96		P391	44.3	21.84	16S B32	P440	40.0	21.80	16S B31
P341	20.4	21.96		P392	32.0	21.78	16S B29	P441	5.3	22.14	
P342	6.7	22.10		P393	20.4	21.89	16S B28	P442	8.3	22.09	
P343	22.5	21.96		P394	11.2	21.96		P443	14.4	22.06	
P344	17.0	22.11		P395 ¹	53.3	21.72	16S B28	P444	15.3	22.02	
P345	12.2	22.01		P395 ²	14.7	21.87	16S B29	P445	14.0	22.03	
P346	13.8	22.11		P396	30.9	21.72	16S B31	P446	9.9	22.16	
P347	20.4	22.04		P397	9.1	22.00	16S B34	P447	15.6	22.09	
P348	19.4	22.06	16S B32	P398	13.8	22.05	16S B32	P448	19.3	22.04	
P349	27.8	22.00	16S B34	P399	29.6	21.85	16S B33	P449	10.3	22.03	16S B29
P350	26.5	22.00		P400	16.5	21.99	16S B32	P450	15.2	22.05	

柱穴計測表③

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P451	17.8	22.08	16S B30	P501	18.8	22.06	16S B22
P452	19.5	22.00	16S B30	P502	18.6	22.11	
P453	42.4	21.85	16S B28	P503	18.3	22.07	16S B23
	17.1	22.05	16S B33	P504	15.0	22.17	
P454	不明	不明	16S B31	P505	12.5	22.14	16S B23
P455	不明	不明		P506	不明	不明	16S B22
P456	20.3	32.00	16S B35	P507	不明	不明	
P457	13.4	22.05		P508	不明	16S B69	
P458	32.5	21.83	16S B33	P509	13.3	22.12	16S B28
P459	8.9	22.05		P510	43.8	21.74	16S B28
P460	3.4	21.85	16S B31	P511	36.0	21.88	16S B28
P461	12.5	21.79		P512	30.6	21.89	16S B29
P462	8.2	21.79	16S B36	P513	36.0	21.79	16S B32
P463	12.2	21.86		P514	30.3	21.86	16S B29
P464	9.0	21.89	16S B30	P515	46.0	21.75	16S B31
P465	8.0	21.84		P516	10.5	22.05	16S B29
P466	24.3	21.72		P517	44.9	21.76	16S B30
P467	7.3	21.88	16S B36	P518	10.4	22.06	
P468	10.4	21.98	16S B29	P519	21.2	21.97	
P469	19.0	21.90		P520	27.3	21.88	16S B28
P470	61.0	21.53	16S B33	P521	10.2	22.07	
P471	16.7	21.98		P522	不明	不明	
P472	36.9	21.80			31.0	21.93	16S B30
P473	36.0	21.80		P523	11.6	22.03	16S B35
P474	32.5	21.90	16S B35	P524	27.2	21.88	
P475	不明	不明		P525	27.2	21.87	16S B32
P476	不明	不明	16S B32	P526	欠番		
P477	64.9	21.62	16S B29	P527	42.5	21.73	16S B29
P478	51.2	21.76	16S B34	P528	不明	不明	16S B33
P479	9.2	22.12	16S B28	P529	47.6	21.67	
P480	31.2	21.89	16S B32	P530	20.2	22.04	16S B30
P481	74.4	21.51	16S B28	P531	36.9	21.86	16S B32
P482	13.6	22.06	16S B35	P532	51.0	21.74	16S B29
P483	22.0	22.01		P533	49.5	21.73	16S B33
P484	18.0	22.05		P534	不明	不明	
P485	57.2	21.64	16S B29	P535	30.8	21.94	16S B31
P486	29.3	21.86		P536	14.9	21.80	16S B32
P487	26.0	21.88		P537	12.5	21.98	
P488	50.6	21.85	16S B22	P538	17.2	21.93	
P489	47.4	21.86	16S B23	P539	22.4	21.86	16S B28
P490	38.8	21.95	16S B68	P540	9.1	22.03	
P491	30.9	21.98	16S B22	P541	55.4	21.61	16S B28
P492	15.7	22.09		P542	不明	不明	
P493	34.9	21.91	16S B23	P543	33.7	21.70	16S B33
P494	64.8	21.49	16S B28	P544	29.5	21.71	16S B29
P495	65.5	21.48	16S B34	P545	9.8	21.87	16S B28
P496	45.0	21.68	16S B29	P546	15.6	21.89	
P497	欠番			P547	20.4	21.75	16S B29
P498	57.6	21.59	16S B28	P548	不明	不明	16S B32
P499	18.4	22.06		P549	不明	不明	
P500	13.6	22.14		P550	57.5	21.35	16S B33

柱穴計測表④

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P601	34.8	22.22		P651	15.0	22.15	16S B21	P701	28.1	22.28	
P602	30.3	22.19		P652	14.2	22.14	16S B21	P702	15.1	22.35	16S B15
P603	28.5	22.29		P653	10.3	22.17		P703	18.1	22.35	柱列2
P604	38.0	22.22	16S B37	P654	16.8	22.11		P704	19.3	22.30	16S B16
P605	27.5	22.31		P655	16.7	22.13		P705	24.9	22.21	
P606	24.7	22.35		P656	24.5	22.93		P706	不明	不明	
P607	28.1	22.31		P657	33.3	22.00		P707	20.1	22.25	柱列19
P608	20.4	22.07		P658	欠番			P708	17.9	22.30	16S B 9
P609	23.9	22.14		P659	15.4	22.17		P709	15.7	22.33	柱列1
P610	5.5	22.27		P660	32.0	21.00		P710	28.5	22.21	
P611	欠番			P661	25.7	22.31	16S B17	P711	18.0	22.25	柱列1
P612	32.2	21.96	16S B68	P662	18.1	22.36		P712	欠番		
P613	50.3	21.85	16S B69	P663	12.5	22.43	16S B17	P713	不明	不明	16S B15
P614	34.1	22.17	16S B19	P664	25.5	22.29		P714	17.1	22.32	
P615	32.5	22.25		P665	32.1	22.22	16S B19	P715	38.1	22.12	16S B 8
P616	53.1	22.07	16S B19	P666	18.2	22.38	16S B20	P716	41.3	22.10	16S B 7
P617	24.4	22.38		P667	24.5	22.31		P717	18.4	22.32	16S B 4
P618	13.9	22.38		P668	14.0	22.40		P718	32.8	22.24	
P619	8.5	22.46		P669	48.3	22.08	16S B19	P719	46.9	22.12	16S B 8
P620	8.2	22.47		P670	31.7	22.23		P720	24.5	22.29	
P621	26.3	55.56		P671	19.6	22.34	16S B18	P721	4.4	22.55	16S B 5
P622	13.0	22.47		P672	20.0	22.37	16S B17	P722	16.4	22.42	
P623	19.8	22.34	16S B18	P673	20.2	22.32		P723	7.4	22.53	
P624	20.0	22.32	16S B17	P674	37.9	22.16	16S B19	P724	30.9	22.26	
P625	36.5	22.18		P675	19.3	22.34	16S B18	P725	32.1	22.29	
P626	21.8	22.31		P676	不明	不明		P726	29.6	22.31	
P627	15.1	22.39		P677	不明	不明	柱列3	P727	48.8	22.11	16S B 7
P628	23.8	22.30	16S B18	P678	31.0	22.26	16S B17	P728	38.8	22.16	16S B 8
P629	38.4	22.14	16S B17	P679	30.1	22.24	16S B19	P729	26.1	22.27	16S B 5
P630	27.7	22.33	16S B27	P680	24.1	122.31		P730	19.5	22.34	
P631	33.6	22.27	16S B37	P681	20.0	22.36	16S B18	P731	46.5	21.99	
P632	50.1	22.10	16S B19	P682	23.3	22.34	16S B17	P732	35.9	22.24	
P633	21.2	22.32		P683	18.6	22.33		P733	38.3	22.22	16S B 3
P634	20.9	22.32	16S B18	P684	15.4	22.35	16S B18	P734	26.5	22.29	
P635	19.7	22.34	16S B18	P685	13.7	22.25		P735	26.7	22.27	16S B 2
P636	31.0	22.19		P686	29.6	22.08		P736	17.9	122.39	16S B 7
P637	21.9	22.32		P687	18.2	22.19		P737	欠番		
P638	23.9	22.25		P688	2.4	22.35		P738	1 36.9	22.17	16S B 3
P639	15.0	22.15	16S B21	P689	23.9	22.16		2 41.6	22.13	16S B 7	
P640	36.5	22.15	16S B21	P690	26.4	22.11		P739	23.1	22.29	
P641	33.8	22.01	16S B17	P691	7.2	22.30		P740	31.8	22.23	16S B 8
P642	22.1	22.31		P692	6.5	22.31		P741	7.8	22.46	16S B 4
P643	27.8	22.06		P693	31.5	22.05		P742	23.6	22.29	16S B 2
P644	10.5	22.24		P694	11.9	22.22		P743	33.5	22.24	16S B 5
P645	19.2	22.17		P695	20.0	22.19	16S B10	P744	21.8	22.31	16S B 2
P646	15.0	22.14	16S B21	P696	21.0	22.16		P745	13.7	22.38	16S B 4
P647	17.1	22.15	16S B21	P697	28.8	22.01	16S B66	P746	19.4	22.32	
P648	9.6	22.16	16S B21	P698	6.6	22.40	柱列5	P747	13.4	22.39	
P649	16.9	22.09		P699	17.9	22.31	16S B16	P748	9.0	22.41	
P650	14.0	22.16		P700	21.6	22.33	柱列2	P749	17.0	22.36	
								P750	12.9	22.41	

柱穴計測表⑤

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号	柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P751	21.9	21.31	16S B64	P801	12.3	22.26	16S B65	P851	8.8	22.39	
P752	45.6	22.04	16S B64	P802	25.4	22.12	16S B65	P852	10.2	22.38	16S B16
P753	21.9	22.30	16S B62	P803	34.1	22.12		P853	14.9	22.32	
P754	42.7	22.09		P804	21.1	22.32	16S B13	P854	9.4	22.36	16S B14
P755	33.1	22.17	16S B62	P805	28.7	22.17		P855	7.6	22.37	
P756	15.1	22.32		P806	19.4	22.26		P856	7.6	22.38	
P757	29.2	22.17	16S B65	P807	35.5	22.09		P857	16.0	22.30	16S B16
P758	26.6	22.23	16S B62	P808	48.8	21.99		P858	不明	不明	16S B13
P759	35.2	22.07	16S B64	P809	38.6	22.11	16S B64	P859	17.4	22.28	16S B16
P760	49.7	22.04	16S B63	P810	39.2	22.12	16S B63	P860	15.9	22.31	
P761	38.9	22.13	16S B63	P811	13.6	22.39		P861	15.9	22.31	
P762	31.6	22.24	16S B62	P812	16.8	22.25		P862	10.4	22.32	
P763	45.1	22.13	16S B62	P813	18.5	22.18	16S B66	P863	10.1	22.33	
P764	11.4	22.45		P814	30.5	22.06	16S B65	P864	20.4	22.25	柱列1
P765	11.8	22.43	16S B62	P815	6.5	22.50		P865	11.0	22.32	16S B 9
P766	49.2	22.06	16S B 2	P816	13.3	22.41		P866	20.1	22.21	16S B 8
P767	32.5	22.25	16S B 3	P817	47.8	22.05		P867	28.2	22.15	16S B 7
P768	12.5	22.33	16S B 2	P818	9.0	22.50		P868	不明	22.31	
P769	24.1	22.29	16S B 2	P819	25.7	22.34	16S B12	P869	欠番		
P770	9.3	22.40	16S B 1	P820	21.6	22.38		P870	36.0	22.13	16S B56
P771	23.7	22.28		P821	19.7	22.40	16S B11	P871	26.0	22.17	
P772	51.6	22.04		P822	12.9	22.44		P872	23.6	22.26	16S B51
P773	37.3	22.19	16S B 6	P823	23.5	22.36		P873	16.0	22.36	
P774	28.9	22.27	16S B 2	P824	19.5	22.40	16S B15	P874	40.5	22.17	16S B44
P775	47.3	22.11		P825	18.3	22.42	16S B13	P875	34.8	22.24	
P776	38.6	22.16		P826	21.5	22.34	16S B15	P876	14.0	22.23	16S B48
P777	30.1	22.23	16S B 3	P827	17.0	22.40	16S B13	P877	24.0	22.30	16S B53
P778	不明	不明		P828	10.7	22.43		P878	23.6	22.31	16S B51
P779	不明	不明		P829	7.5	22.45	柱列5	P879	26.0	22.25	16S B46
P780	不明	不明		P830	28.6	22.28	16S B14	P880	36.4	22.21	16S B53
P781	27.6	22.26	16S B 3	P831	19.1	22.37		P881	34.2	22.14	
P782	9.4	22.46	柱列2	P832	14.7	22.42	16S B11	P882	34.9	22.13	16S B44
P783	7.8	22.47	柱列2	P833	24.1	22.30	16S B12	P883	13.0	22.36	16S B47
P784	22.4	22.30	16S B13	P834	17.6	22.36		P884	19.8	22.27	16S B44
P785	10.8	22.41	柱列2	P835	不明	不明	16S B63	P885	3.9	22.17	
P786	11.5	22.54	16S B15	P836	26.5	22.23		P886	17.6	22.52	16S B58
P787	16.4	22.37		P837	14.1	22.32	16S B14	P887	4.7	22.24	16S B56
P788	10.5	22.36	柱列5	P838	18.0	22.31	16S B13	P888	50.0	21.67	16S B28
P789	11.8	22.33	16S B16	P839	11.5	22.36	16S B15	P889	38.4	22.11	16S B55
P790	17.1	22.39		P840	不明	不明		P890	22.9	22.18	柱列4
P791	不明	22.31		P841	11.9	22.35		P891	10.9	22.16	
P792	30.4	22.33		P842	8.4	22.41		P892	18.6	22.06	16S B54
P793	13.0	22.47		P843	13.4	22.44	16S B12	P893	27.6	22.07	
P794 ₁	不明	22.28	16S B 4	P844	16.2	22.28	16S B16	P894	不明	不明	
P794 ₂	不明	22.40		P845	8.9	22.38		P895	8.7	22.08	16S B30
P795	6.9	22.52	16S B 4	P846	20.4	22.27	16S B13	P896	17.5	22.22	16S B61
P796	20.7	22.29		P847	15.5	22.31	16S B15	P897	21.2	21.98	
P797	35.4	22.20	16S B 3	P848	18.5	22.29		P898	17.0	22.02	16S B26
P798	20.9	22.38		P849	8.3	22.39	16S B12	P899	12.3	21.85	16S B30
P799	19.4	22.38		P850	5.5	22.43	16S B11	P900	13.1	21.90	

柱穴計測表⑥

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P901	20.0	21.95	16S B32
P902	7.5	21.99	16S B29
P903	11.2	21.99	16S B28
P904	31.7	21.98	16S B28
P905	25.1	22.02	16S B38
P906	不明	不明	16S B30
P907	25.2	22.01	
P908	29.3	21.97	16S B31
P909	64.7	21.51	16S B33
P910	14.3	22.04	16S B28
P911	9.1	22.07	
P912	欠番		
P913	22.5	21.96	16S B28
P914	17.0	22.02	16S B29
P915	欠番		
P916	5.8	21.89	
P917	32.0	21.68	16S B29
P918	38.3	21.66	16S B36
P919	54.1	21.57	16S B28
P920	47.3	21.78	
P921	47.3	21.77	16S B34
P922	7.3	21.96	16S B28
P923	31.3	21.77	16S B32
P924	34.5	21.74	
P925 ¹	22.0	21.73	16S B31
P925 ²	3.2	21.91	
P926	26.5	21.80	16S B30
P927	22.6	21.73	
P928	不明	不明	
P929	25.7	21.69	16S B31
P930	25.5	21.65	
P931	不明	不明	
P932	29.0	21.91	
P933	11.9	21.87	
P934	不明	不明	16S B30
P935	30.1	21.84	16S B33
P936	17.0	21.99	16S B29
P937	21.4	22.04	
P938	欠番		
P939	欠番		
P940	19.2	21.86	16S B30
P941	6.0	21.92	16S B67
P942	2.2	21.82	
P943	33.2	21.53	
P944	36.2	21.64	
P945	26.8	21.93	
P946	46.7	21.39	
P947	12.3	22.15	
P948	15.7	22.13	
P949	48.3	21.54	
P950	38.8	21.96	16S B23

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P951	欠番		
P952	39.7	21.62	
P953	34.3	21.56	16S B33
P954	46.2	21.48	16S B67
P955	11.7	22.46	
P956	28.9	22.22	16S B40
P957	欠番		
P958	33.5	22.27	16S B41
P959	28.1	22.25	16S B39
P960	22.8	22.31	16S B37
P961	38.1	22.15	16S B42
P962	44.0	22.12	16S B38
P963	30.7	22.25	
P964	15.3	22.39	
P965	21.2	22.36	
P966	29.5	22.26	16S B39
P967	27.3	22.23	16S B41
P968	7.8	22.51	16S B37
P969	31.6	22.27	16S B26
P970	25.8	22.31	
P971	32.1	22.22	16S B28
P972	39.6	22.15	16S B27
P973	23.2	22.29	16S B26
P974	29.0	21.98	16S B24
P975	不明	不明	
P976	6.1	22.16	
P977	21.7	22.05	16S B22
P978	不明	不明	
P979	不明	不明	
P980	8.2	22.11	16S B38
P981	19.1	22.16	16S B25
P982	13.3	21.80	
P983	4.9	21.84	
P984	9.8	21.80	
P985	11.5	21.82	
P986	10.6	21.77	16S B36
P987	31.1	21.64	
P988	25.0	21.66	
P989	不明	不明	
P990	7.0	21.83	
P991	10.3	21.82	16S B61
P992	8.1	21.81	16S B60
P993	7.6	21.83	
P994	25.3	21.64	16S B54
P995	12.9	21.74	
P996	2.0	21.87	
P997	14.4	21.76	
P998	33.7	21.90	16S B35
P999	43.2	21.81	
P1000	16.6	22.01	

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P1001	24.5	21.51	
P1002	15.2	21.61	
P1003	14.6	22.37	
P1004	36.5	22.17	16S B17
P1005	33.9	22.17	
P1006	30.5	22.18	
P1007	26.4	22.25	16S B17
P1008	28.0	22.14	16S B17
P1009	8.9	22.26	
P1010	5.0	22.45	16S B17
P1011	24.3	21.98	
P1012	11.4	22.08	
P1013	13.9	22.16	
P1014	41.7	22.09	
P1015	42.0	22.11	16S B43
P1016	45.6	22.07	16S B49
P1017	9.2	22.26	
P1018	11.6	22.20	
P1019	11.5	22.21	
P1020	12.0	22.16	
P1021	13.0	22.15	
P1022	19.0	22.09	
P1023	13.4	22.13	
P1024	8.4	22.17	
P1025	17.5	22.91	16S B24
P1026	20.0	22.20	
P1027	不明	不明	
P1028	19.1	22.07	16S B21
P1029	3.2	22.26	
P1030	20.5	22.11	
P1031	20.9	22.33	16S B13
P1032	5.8	21.99	
P1033	18.8	22.18	
P1034	32.6	22.20	
P1035	15.8	22.15	
P1036	18.2	22.07	
P1037	不明	不明	
P1038	13.6	22.22	
P1039	不明	不明	
P1040	不明	不明	
P1041	14.1	22.23	16S B10
P1042	19.6	22.34	
P1043	38.3	22.10	16S B65
P1044	38.4	22.05	16S B64
P1045	45.4	22.12	
P1046	45.0	22.06	
P1047	20.1	22.30	
P1048	17.7	22.35	
P1049	39.0	22.19	16S B 6
P1050	不明	不明	16S B 7

柱穴 計測表⑦

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P1051	不明	不明	16S B 7
P1052	21.0	22.25	
P1053	10.4	22.45	16S B 4
P1054	不明	不明	
P1055	24.0	22.26	16S B 9
P1056	29.9	22.21	
P1057	24.0	22.24	
P1058	32.0	22.25	
P1059	39.2	22.19	16S B 9
P1060	45.3	22.18	16S B 7
P1061	12.5	22.28	16S B 8
P1062	9.6	22.35	
P1063	18.0	22.32	
P1064	13.6	22.36	
P1065	21.2	22.26	
P1066	22.4	22.30	16S B 15
P1067	24.8	22.39	
P1068	34.2	22.23	16S B 6
P1069	56.6	22.01	16S B 8
P1070	欠番		
P1071	欠番		
P1072	27.2	22.24	
P1073	32.7	22.24	
P1074	15.4	22.37	
P1075	45.3	22.08	16S B 6
P1076	36.6	22.04	16S B 6
P1077	57.2	21.87	16S B 6
P1078	19.0	22.34	
P1079	19.2	22.34	
P1080	44.5	22.11	16S B 6
P1081	15.4	22.33	
P1082	20.2	22.28	
P1083	12.5	22.41	16S B 1
P1084	欠番		
P1085	53.2	21.97	16S B 6
P1086	欠番		
P1087	48.3	22.05	16S B 6
P1088	47.6	22.07	16S B 6
P1089	58.3	22.00	16S B 6
P1090	47.8	22.07	16S B 6
P1091	41.0	22.11	16S B 6
P1092	不明	不明	
P1093	10.4	22.35	
P1094	欠番		
P1095	55.2	21.90	16S B 6
P1096	22.8	22.20	16S B 6
P1097	20.6	22.39	16S B 8
P1098	16.3	22.34	16S B 1
P1099	25.4	22.32	
P1100	21.7	22.36	16S B 9
P1101	欠番		
P1102	不明	不明	
P1103	35.8	22.00	16S B 6
P1104	不明	不明	
P1105	23.8	22.38	16S B 26
P1106	18.4	22.35	16S B 6
P1107	24.6	22.28	16S B 13
P1108	17.2	22.29	
P1109	44.1	22.08	16S B 38
P1110	14.7	22.38	16S B 16
P1111	24.8	22.27	16S B 13
P1112	39.7	22.05	16S B 6
P1113	20.9	22.21	16S B 9
P1114	10.2	22.48	
P1115	23.5	22.29	
P1116	25.3	22.28	
P1117	5.7	22.56	
P1118	21.0	22.16	
P1119	4.0	22.37	
P1120	31.1	22.30	16S B 27
P1121	27.7	22.32	
P1122	43.0	22.17	16S B 26
P1123	14.9	22.39	
P1124	19.9	22.40	
P1125	不明	不明	
P1126	22.7	22.33	
P1127	21.7	22.33	16S B 40
P1128	20.4	22.25	16S B 41
P1129	23.0	22.30	16S B 49
P1130	20.2	22.33	
P1131	35.4	22.10	
P1132	44.0	22.03	16S B 41
P1133	33.3	22.19	16S B 46
P1134	36.0	22.21	16S B 38
P1135	25.1	22.29	16S B 37
P1136	30.6	22.25	
P1137	28.6	22.28	
P1138	30.6	22.05	
P1139	45.3	22.11	16S B 57
P1140	23.0	22.16	
P1141	11.5	22.06	16S B 60
P1142	15.9	22.26	16S B 26
P1143	50.0	22.14	
P1144	38.0	21.91	16S B 20
P1145	不明	不明	16S B 20
P1146	9.9	22.17	
P1147	25.7	22.02	
P1148	36.5	22.03	16S B 24
P1149	36.0	22.29	16S B 42
P1150	不明	不明	16S B 44
P1151	36.9	22.19	
P1152	37.1	22.16	
P1153	21.0	22.07	16S B 38
P1154	20.8	22.26	16S B 39
P1155	不明	不明	柱列 4
P1156	24.0	22.21	16S B 52
P1157	38.4	22.09	16S B 52
P1158	11.0	22.11	16S B 60
P1159	23.2	21.98	
P1160	不明	不明	
P1161	不明	不明	16S B 28
P1162	67.9	21.80	16S B 61
P1163	12.2	22.07	16S B 46
P1164	不明	不明	
P1165	25.3	22.18	16S B 40
P1166	4.明	不明	
P1167	19.0	21.96	
P1168	42.7	21.82	
P1169	26.9	21.89	16S B 34
P1170	35.3	22.24	
P1171	22.3	22.15	16S B 26
P1172	30.2	22.26	
P1173	11.2	21.848	
P1174	11.0	21.955	
P1175	9.2	22.04	16S B 36
P1176	15.5	22.13	
P1177	6.4	22.17	
P1178	10.4	22.16	
P1179	13.2	22.16	
P1180	21.4	22.07	
P1181	20.1	22.10	
P1182	23.5	21.97	
P1183	32.0	21.82	
P1184	20.8	22.11	
P1185	19.8	22.15	16S B 10
P1186	18.6	22.08	
P1187	28.3	21.84	
P1188	14.1	22.16	
P1189	20.4	22.22	
P1190	不明	不明	16S B 46
P1191	14.3	22.20	
P1192	14.0	22.26	
P1193	16.5	22.27	柱列 3
P1194	12.3	22.32	
P1195	9.2	22.30	
P1196	欠番		
P1197	19.0	22.23	
P1198	7.3	22.30	
P1199	11.1	22.11	
P1200	31.5	22.21	

柱穴計測表⑧

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P1201	15.6	22.14	
P1202	19.2	22.19	16S B26
P1203	25.2	22.18	
P1204	29.2	22.16	
P1205	21.8	22.18	
P1206	6.8	22.28	
P1207	5.7	22.35	
P1208	10.0	22.31	
P1209	40.9	22.12	16S B37
P1210	16.8	22.05	16S B37
P1211	163.2	22.23	16S B 5
P1212	17.5	22.02	
P1213	26.5	21.91	16S B24
P1214	21.1	22.18	16S B10
P1215	17.3	22.18	16S B64
P1216	27.5	22.15	16S B10
P1217	37.7	22.22	16S B 4
P1218	15.3	22.21	16S B 9
P1219	13.2	22.14	16S B10
P1220	9.7	22.15	
P1221	26.4	22.18	16S B 9
P1222	23.6	22.19	
P1223	24.0	22.17	16S B 5
P1224	7.3	22.06	
P1225	21.2	22.11	
P1226	14.4	22.12	
P1227	37.9	21.89	
P1228	欠番		
P1229	17.2	22.21	
P1230	19.4	22.21	16S B 1
P1231	27.6	22.09	
P1232	9.1	21.99	16S B38
P1233	19.9	22.07	
P1234	欠番		
P1235	不明	不明	
P1236	7.9	22.71	
P1237	9.9	22.68	
P1238	11.5	22.65	
P1239	10.2	22.61	
P1240	欠番		
P1241	8.7	22.64	
P1242	欠番		
P1243	7.1	22.56	
P1244	10.0	22.61	
P1245	不明	不明	柱列3
P1246	11.6	22.60	
P1247	10.9	22.57	
P1248	6.1	22.55	柱列3
P1249	12.1	22.49	柱列3
P1250	欠番		

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P1251	5.4	22.61	
P1252	19.7	22.43	
P1253	欠番		
P1254	14.9	22.59	
P1255	4.4	22.55	
P1256	7.7	22.47	
P1257	4.8	22.52	
P1258	7.3	22.46	
P1259	6.8	22.56	
P1260	2.4	22.53	
P1261	不明	不明	
P1262	5.8	22.61	柱列5
P1263	4.2	22.63	16S B14
P1264	欠番		
P1265	欠番		
P1266	9.4	22.43	
P1267	欠番		
P1268	4.6	22.46	
P1269	12.6	22.29	
P1270	16.7	22.42	
P1271	9.7	22.52	
P1272	40.7	22.22	
P1273	9.2	22.61	
P1274	15.5	22.58	
P1275	42.1	22.13	16S B47
P1276	12.2	22.35	
P1277	16.8	22.25	
P1278	14.1	22.33	
P1279	15.5	22.27	
P1280	13.9	22.33	
P1281	12.4	22.31	
P1282	7.3	22.36	
P1283	5.6	22.31	
P1284	2.6	22.26	
P1285	9.2	22.31	
P1286	8.6	22.34	
P1287	7.4	22.49	
P1288	5.1	22.40	
P1289	12.1	22.25	
P1290	8.3	22.29	
P1291	18.5	22.16	
P1292	12.0	22.35	
P1293	9.1	22.36	
P1294	16.5	22.33	
P1295	13.1	22.38	
P1296	10.7	22.42	
P1297	9.9	22.46	
P1298	8.6	22.41	
P1299	60.4	21.78	
P1300	13.5	22.40	

柱穴番号	深さ (cm)	底面の標高 (m)	建物番号
P1301	6.7	22.35	
P1302	24.2	22.18	
P1303	4.2	22.25	
P1304	9.6	22.27	
P1305	14.0	22.14	
P1306	15.7	22.12	
P1307	22.3	22.06	
P1308	14.8	22.14	
P1309	20.1	22.07	
P1310	40.3	22.23	
P1311	9.1	22.37	
P1312	6.9	22.34	
P1313	9.7	22.37	
P1314	7.6	22.37	
P1315	16.4	22.04	
P1316	9.1	22.10	
P1317	10.3	22.39	
P1318	11.9	22.38	
P1319	欠番		
P1320	欠番		
P1321	30.7	22.02	16S B68
P1322	欠番		
P1323	欠番		
P1324	欠番		
P1325	22.6	22.28	
P1326	11.8	21.82	
P1327	16.1	21.83	
P1328	不明	不明	
P1329	8.5	21.64	
P1330	25.1	21.48	
P1331	12.8	21.62	
P1332	欠番		
P1333	35.2	21.39	16S B67
P1334	8.2	21.63	
P1335	15.7	21.99	
P1336	25.8	22.09	16S B57
P1337	33.4	22.06	
P1338	43.6	21.91	
P1339	29.9	21.56	
P1340	1.2	21.49	
P1341	14.5	21.56	
P1342	35.5	21.28	16S B67

柱穴計測表⑤

第3節 まとめ

1 造構

泉屋遺跡16次調査で検出した造構は、掘立柱建物69棟、柱列5条、井戸14基、土坑60基、溝21条、竪穴建物2棟である。これらの所属年代は多岐にわたる。以下その所属年代を列挙すると①縄文時代 ②9～10世紀 ③12世紀 ④13世紀後半～14世紀前半 ⑤16世紀 ⑥16世紀末～19世紀末である。

所轄時期不明の造構もかなりあるが、上記いずれかの年代に属すると推測される。各時期を概観する。

①縄文時代 縄文時代の造構はV層上面で検出された土坑(16S K101～109)9基が該当する。これらの土坑を縄文時代の所属と判断した根拠は、検出面がV層上面という点だけで、明確に遺物が供伴していたわけではない。形状から人為的な造構ではない可能性のものもある。16次調査区の縄文土器は後期前～中業のものと、後期末～晚期初頭のものに2大別される。16S K101～109もこのどちらかの時期に属すると考えられるが、詳細は不明である。また16次調査区では縄文時代の住居跡は全く検出されなかった。出土した縄文土器を使用した人々の集落跡は調査区外に存在すると考えられる。可能性が高いのは16次調査区に近接する北側と推測される。

②9～10世紀 平安時代前半の造構である。竪穴建物16S I 1、16S I 2の2棟が相当する。他に明確に9～10世紀に属する造構は無い。土師器、須恵器の出土量から推察するともう少し造構の量があつても良さそうである。これは12世紀以降の造構により竪穴住居などが破壊されてしまった可能性もある。16S I 1、16S I 2も残存状態は悪くその可能性を示唆している。16S I 1は残存状態が非常に悪く、焼損とカマドの火焼面のみの検出である。カマド火焼面は大半を近世の井戸に破壊されているが、南壁にカマドがあると辛うじて判断できる。16S I 2はおそらくカマドが存在しない。このように造構の残存が悪い状況であるので明白はできないが、16次調査区内には数軒の竪穴住居からなる9世紀後半～10世紀前半にかけての小規模な集落が存在したと推測できる。

③12世紀 奥州藤原氏の時代の造構である。12世紀に属する可能性の高い造構を示す。掘立柱建物では16S B 6、16S B 38、16S B 46、井戸状造構では16S E 6、16S E 9、土坑は16S K 6、16S K 9、16S K 14、16S K 17、16S K 18、16S K 21、16S K 25、16S K 28、16S K 31、16S K 32、16S K 34、16S K 38、16S K 41、16S K 42、16S K 43、16S K 50、16S K 52、16S K 59。溝は16S D 6、16S D 12、16S D 15、16S D 17、16S D 20である。これらの造構はいずれも12世紀代でも後半期に属する造構と推測される。12世紀前半とする積極的な根拠を有する造構は存在しない。

16次調査区を横切る形で16S D 12が存在する。16S D 12は対になる溝が存在せず道路側溝には成り得ないが、都市を区画する溝と推測される。よって16次調査区の12世紀の造構は、16S D 12を境として、それぞれが異なった区画に属すると判断される。また調査区北西隅で検出された溝16S D 15は東北本線の西側、泉屋遺跡13次調査検出の溝13S D 1と対になる道路側溝である。16S D 12とは同時存在と推測される。

16S D 12よりも北側の区画に属する主な造構は、掘立柱建物16S B 6、井戸状造構16S E 9がある。掘立柱建物16S B 6は平泉遺跡群の中でも有数の大規模な造物である。柱間寸法は10尺を標準としており、

柳之御所遺跡の中心建物と比較しても何ら遜色のない規模である。平泉拠点地区においても、中核的な重要な用途の建物であったと推測される。16S E 9は位置関係から大型建物16S B 6に伴う可能性が高い。

16S D 12よりも南側区画に属する主な遺構は掘立柱建物16S B 38、16S B 46、井戸状遺構は16S E 6がある。16S B 38は二面庇、16S B 46は四面庇の建物である。16S B 38と16S B 46は前後関係が不明であるが、プランが重複することから同時存在ではない。井戸状遺構16S E 6は開口部が非常に広い。16S B 38または16S B 46のどちらかに伴う可能性が高い。

④13世紀後半～14世紀前半 概ね鎌倉時代後半の遺構である。この時期に属する可能性の高い遺構を列挙する。掘立柱建物は16S B 37、16S B 24、井戸状遺構16S E 10、16S E 12、16S E 13である。また溝16S D 13もこの時期の可能性が高い。掘立柱建物16S B 37と16S B 24は軸方向が既ね同一で、位置関係も並立状態で、同時存在の可能性が高い。溝16S D 13の軸方向も概ね掘立柱建物と平行関係にある。井戸状遺構16S E 10と16S E 12は非常に近接しており前後関係を有するものと推測される。これら16次調査を含めた鎌倉時代の泉屋遺跡の性格、様相については、「羽柴直人 2002年「鎌倉時代の平泉の様相」 紀要XXI(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター」において考察をおこなっている。

⑤16世紀（前半） 出土遺物、重複関係から16世紀（15世紀末頃の可能性も含む）に属する可能性の高い掘立柱建物がある。16S B 17、16S B 19、16S B 34、16S B 35、16S B 64である。これらの建物は、規模から推測して一般農民レベルの民家の主屋と推測される。後述する16世紀末から展開する近世民家と連続するか否かの判断は難しい。

⑥16世紀末～19世紀末 近世から近代まで連続する民家である。16次調査区南側、字泉屋27番地に展開する。民家の主屋は掘立柱建物16S B 30→16S B 31→16S B 33→16S B 28→16S B 29→16S B 32の順に変遷する。その後、礎石建物の主屋が建てられたと推測されるが、その遺構は残存しない。16S K 20は礎石建物の主屋に伴う既のくぼみと判断される。また16S K 19も礎石の主屋内に設けられた施設と推測される。出土遺物から判断して泉屋27番地の屋敷は19世紀末頃に廃絶したと推測される。おそらく明治22年の東北本線の開通がその原因であろう。

非戸状遺構は16S E 1、16S E 2、16S E 3、16S E 4、16S E 5、16S E 7、16S E 8、16S E 11が近世以降に属する。16S E 1～5、8は字泉屋22番の屋敷に属するが、16S E 7、11は調査区の北側に位置し、27番地の屋敷とは別個の屋敷に属する可能性が高い。16次調査区を含めた泉屋遺跡の近世民家、屋敷についての変遷は「羽柴直人 1997年「岩手県平泉町における近世掘立柱民家について」 紀要XIII(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター」において考察をおこなっている。

2 出土遺物

泉屋遺跡16次調査で出土した遺物を時期別に分けると以下の通りになる。

①绳文時代 ②9～10世紀 ③12世紀 ④13世紀後半～14世紀前半 ⑤16世紀 ⑥16世紀末～19世紀末 各時期の遺物について概観する。

①绳文時代 後期前～中期のものと後期後葉～晩期初頭のものに2大別される。両者の出土位置は層位的

には区分できなかった。土器の総出土量は32.9kgである。特筆される遺物としては人面付きの注口土器(9082)がある。晩期初頭のもので他に類例の乏しいものである。

②9～10世紀 窒穴建物16S I 1からまとった資料(1～8)が得られている。土師器坏はいずれも再調整がないものである。8の須恵器長頸壺は赤みがかったにぶい褐色の色調を呈する。

また造構外や12世紀以降の遺構からも土師器、須恵器が出土している。土師器坏には再調整を施されたものと施されないものが混在している。またロクロ不使用の土師器長颈壺は口縁部のヨコナデ調整と、体部の調整の間に無調整の部分を有するという共通した特長を持つ。須恵器は大甕の破片が多い。

これらの土師器、須恵器の実年代を提示するのは、磐井郡の土師器、須恵器の幅年が確立していない現状では困難である。大まかに十和田a火山灰降下前後の9～10世紀に属するものとしておきたい。

③12世紀 かわらけの出土量は約50kgで、平泉道路群拠点地区内では多い量とはいえない。ほとんどが12世紀後半に属するかわらけで、確実に12世紀前半に属するものは抽出できない。可能性としては柱状高台かわらけ(1121、1122)が前半に属する可能性がある。

国産陶器は常滑産、瀬戸美濃産、須恵器系陶器がある。かわらけ同様出土量は多くはない。中国産磁器は白磁、青磁、青白磁がある。出土した絶破片数37点である。12世紀前半で適り得る可能性を持つ化粧土を有する白磁も含まれる(3001、3015～3018)。瓦は絶破片数7片が出土した。4003は唐草文の軒平瓦で12世紀中葉以前に属する可能性がある。4001、4002は刻頭文で12世紀後半のものである。木製品では漆器皿、曲物、不明製品がある。不明製品6001、6002は織機の部品の可能性が高い。また砥石7011は出土遺構から12世紀に属する可能性が高い。漆紙8051も12世紀に属する遺物である。場所は確認できなかった。

④13世紀後半～14世紀前半 かわらけは3点(1123～1125)出土している。ロクロ製で内面にナデ調整があるものもある。国産陶器は東北地方在地産のもの(2092～2101)、東海産のもの(2102)がある。東北地方在地産の具体的な窯の特定は難しいが、宮城県北部付近の可能性を考えている。中国産磁器は白磁(3036、3037)、青磁碗(3038、3039)がある。また板磚(7026)には紀年銘がないが、この時期に属すると推測される。北宋銭(8601～8011)も確認はないが、この時期に使用されたものと推測される。

⑤16世紀(前半) わずか3点であるが、瀬戸美濃産の灰釉皿5057、5064、5065が出土している。

⑥16世紀末～19世紀末 多量の陶磁器が出土している。窯別にあげると、中国窯、朝鮮窯?、肥前窯、瀬戸美濃窯、大堀相馬窯、常滑窯、京・信楽系?、在地窯のものがある。時期は16世紀末から19世紀末頃までのものがあり、泉屋27番地の屋敷の存続期間を示している。木製品では漆器碗(6009)、横槌(6010)、釣瓶(6008)、桶(6007、6011)がある。漆器碗、横槌、釣瓶は16S E 3からの出土であり、供伴した陶磁器から16世紀末～17世紀初めのものと判断できる。桶はどちらも井戸の底からの出土で、釣瓶として使用されていたものである。石製品は砥石、硯、挽き臼がある。挽き臼は目が放射状のものがほとんどである。柱穴の碇盤として使用されていたもの(7023、7024)もある。金筒製品は錢貨、煙管などがある。錢貨は永樂通寶(8012～8014)、寛永通寶(8015～8025)がある。永樂通寶はいずれも模彷錢である。また明治13年の半錢銅貨は屋敷の下限年代の一端を示す資料である。

第4節 泉屋遺跡16次調査におけるトイレ遺構分析

株式会社 古環境研究所

1 はじめに

トイレ遺構等の堆積物は、寄生虫卵密度、花粉組成、種実組成に特異性が認められる。したがって、これらの分析を総合的に行うことによって、堆積物が糞便であるか否かがわかり、トイレ遺構を示唆することが可能である。また、寄生虫の特異な生活史や食用とされた花粉や種実によって、食物や食生活の検討を行うことが可能である。

ここでは、泉屋遺跡16次調査において検出された土坑について、トイレの可能性を検討する目的でトイレ遺構分析を行った。

2 試料

試料は、16SK6の2層（試料1）、16SK9の2層（試料2）、16SK18の2層（試料3）、SK21の2層（試料4）、16SK38の2層（試料5）の5点であり、いずれも12世紀とされる土坑である。

3 寄生虫卵分析

（1）方法

微化石分析法を基本に以下のように行った。

- 1) サンプルを採取する。
- 2) 脱イオン水を加え振拌する。
- 3) 錠別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈殿法を施す。
- 4) 25% フッ化水素酸を加え30分静置（2・3度混和）。
- 5) 水洗後サンプルを2分する。
- 6) 片方にアセトトリス処理を施す。
- 7) 両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製する。
- 8) 検鏡・計数を行う。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

（2）結果

試料1、2、4は、試料（堆積物）1cc中1000個以上の寄生虫卵が検出され、試料3、5では1000個未満でやや少ない。各試料とも回虫卵、鞭虫卵が検出され、試料2からは肝吸虫卵が検出された。回虫卵が多い傾向にあり、鞭虫卵が続く。

表1 泉屋遺跡16次調査における寄生虫卵分析結果

分類群 学名	(試料0.1cc中) 和名	1 16SK6 2号					2 16SK9 2号					3 16SK18 2号					4 16SK21 2号					5 16SK38 2号				
		16SK6 2号	16SK9 2号	16SK18 2号	16SK21 2号	16SK38 2号	16SK6 2号	16SK9 2号	16SK18 2号	16SK21 2号	16SK38 2号	16SK6 2号	16SK9 2号	16SK18 2号	16SK21 2号	16SK38 2号	16SK6 2号	16SK9 2号	16SK18 2号	16SK21 2号	16SK38 2号					
Helminth eggs	寄生虫卵																									
Ascaris lumbricoides	蛔虫卵		652		160		50		363		3															
Trichuris trichiura	鞭虫卵		60		117		21		314		17															
Clonorchis sinensis	肝吸虫卵		2																							
Total	計	712		279		71		677		20																
	(1cc中に算定)	712		2790		710		6770		200																
	明らかな消化残渣	(-)		(-)		(-)		(-)		(-)																

4 花粉分析

(1) 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村(1973)を参考にし、試料に以下の順で物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの網で砾などの大きな粒子を取り除き、沈殿法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、冰酢酸によって脱水し、アセトトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す。
- 5) 再び冰酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈液に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学的各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨ててという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300~1000倍で行った。花粉の同定は、鳥倉(1973)および中村(1980)をアトラスとし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村(1974, 1977)を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類し、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

(2) 結果

1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉24、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉23、シダ植物胞子2形態の計52である。これらの学名と和名および粒数を表1に示す。主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を示す。

〔樹木花粉〕

モミ属、マツ属複葉管束型属、マツ属單葉管束型属、スギ、クリミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属-アサダ、クリーシイ属、ブナ属、コナラ属コナラ型属、コナラ属アガシ型属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、サンショウウ属、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、アオイ科、グミ属、エ

表2 泉屋追跡16次調査における花粉分析結果

学名	和名	HSK6 2号				
		1	2	3	4	5
ArboREAL pollen	樹木花粉					
Abies	モミ属		1			
Pinus Subgen. Dibotrys	マツ属被管束亞属			1	1	
Pinus Subgen. Haplotylon	マツ属單被管束亞属					
Cryptomeria japonica	スギ	1	1	1	2	9
Juglans	クルミ属			1		
Platanus rhoifolia	サリダリ属		1			1
Alnus	ハンノキ属	1		1	1	7
Betula	カバノキ属		2			1
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサガ			1		2
Castanea crenata-asianopis	クリーシイ属	1			1	1
Fagus	ブナ属		2		2	4
Quercus gen.Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	2	3	5	8	7
Quercus gen.Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属				1	3
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ				2	3
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ					1
Zanthoxylum	サンショウ属	1				
Acer	カエデ属				5	
Aesculus turbinata	トチノキ				1	1
Tilia	シナノキ属		1			
Malvaceae	オオイ科				1	
Elaeagnus	グミ属				1	
Syrna	エゴノキ属				1	
Ericaceae	ツツジ科				1	
Sambucus-Viburnum	ニリトコ属・ガマズミ属			2	5	1
ArboREAL - Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉					
Malvaceae-Unicarpaceae	タクサ科イクラクサ科		18	112	5	53
Rosaceae	バラ科			1		
Leguminosae	マメ科				1	
Nonarboreal pollen	草本花粉					
Gramineae	イネ科	60	85	99	63	182
Oryza nape	イネ属	11	13	7	4	13
Cyperaceae	カヤツリグサ科	4	1	6		14
Menocchoria	ミズアオイ属	1				
Polygonum sect.Panicaria	タデ属サエナタデ属	4	2	1	4	3
Polygonum	ソバ属	1	3	1	3	2
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカササゲヒユ科	115	84	55	72	53
Caryophyllaceae	ナデシコ科	1	6	2	3	4
Ranunculus	キンポウゲ属				1	
Cruciferae	アブラナ科	25	201	64	196	37
Vicia	ソラマメ属		1		1	
Vigna	ササゲ属				1	
Hedysarum-Myriophyllum	アリノトウダクサ属-フサモ属				3	
Umbelliferae	セリ科			2	1	1
Swertia-Tripterospermum-Gentiana	センブリ属-フルリンドウ属	3	2	1	22	11
Labiatae	シソ科			1		
Solanaceae	ナス科	3	2			
Plantago	オオバコ属	2			1	
Actinostemnum lobatum	ゴキブル				1	
Lactucaidae	タンボボ属	1		1	2	1
Asteridae	キク科			1	1	2
Xanthium	オナモミ属			1	5	
Arenaria	ヨモギ属	22	11	34	19	76
Fern spore	シダ植物孢子					
Monolete type spore	单柔清孢子	1	2	3	1	17
Trilete type spore	三柔清孢子	3	3	2		16
ArboREAL pollen	樹木花粉	6	11	13	33	41
ArboREAL - Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	18	113	6	53
Nonarboreal pollen	草本花粉	253	411	276	403	399
Total pollen	花粉總數	259	440	402	442	493
	*(1cc中に算定)	12432	14060	32160	49501	6409
Unknown pollen	未同定花粉	2	0	0	5	6
Fern spore	シダ植物孢子	4	5	5	1	33

ゴノキ属、ツツジ科、ニワトコ属—ガマズミ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科—イラクサ科、バラ科、マメ科

〔草本花粉〕

イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、ソラマメ属、ササゲ属、アリノトウグサ属—フサモ属、セリ科、センブリ属—ツルリンドウ属リンドウ属、シソ科、ナス科、オオバコ属、ゴキヅル、タンボボ亞科、キク亞科、オナモミ属、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

單条溝胞子、三条溝胞子

2) 花粉群集の特徴

各試料ともイネ属型を含むイネ科、アカザ科ヒユ科、アブラナ科が多く、ヨモギ属が伴われる。アブラナ科は試料2、4で多く特徴的である。試料3、5はクワ科—イラクサ科の出現率が高い。他にソバ属、センブリ属—ツルリンドウ属—リンドウ属が出現する。樹木花粉は各試料とも極めて低率である。

5 種実同定

(1) 方法

試料(堆積物)100ccを0.25mmの篩を用いて水洗選別を行い、双眼実体顕微鏡下で観察した。同定は形態的特徴および現生標本との対比を行い、結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

(2) 結果

1) 分類群

樹木7、草本14の計21が同定された。学名、和名および粒数を表1に示し、主要な分類群を写真に示す。

以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

〔樹木〕

a. クワ属 *Morus* 種子 クワ科

茶褐色で広倒卵形を呈し、基部に突起がある。表面はやや粗い。長さ1.8~2.2mm、幅1.4~1.6mm。

b. キイチゴ属 *Rubus* 植 バラ科

淡褐色でいびつな半円形を呈す。表面には大きな網目模様がある。長さ1.6~2.1mm、幅0.9~1.1mm。

c. ブドウ属 *Vitis* 種子 ブドウ科

黒褐色で倒卵形を呈す。腹面に「ハ」字状の孔が2つあり、背面には梢円形のカラザがある。長さ4.3~4.5mm、幅2.5~3.3mm。

d. マタタビ *Actinidia polygama* Planch. ex Maxim. 種子 マタタビ科

暗褐色ないしやや紫色を帯びる茶褐色で、梢円形を呈す。断面は両凸レンズ形、表面には穴が規則的に分布する。種皮はやや厚く堅い。長さ2.2~3.0mm、幅1.3~1.6mm。

e. グミ属 *Elaeagnus* 種子 グミ科

茶褐色で長梢円形を呈す。表面には縱方向に8本の筋が走る。長さ4.7~5.0mm、幅2.6~3.5mm。

f. ガマズミ属 *Viburnum* 植 スイカズラ科

茶褐色で梢円形を呈す。腹面に1本と背面に2本の溝が走り、下端に小さなへそがある。長さ1.6~2.0mm、幅1.1~1.3mm。

g. ニワトコ *Sambucus sieboldiana* Blume ex Graebn 種子 スイカズラ科

黄褐色~茶褐色で梢円形を呈す。一端にへそがある。表面には横方向の隆起がある。長さ2.4~2.6mm、幅1.5~1.7mm。

(草本)

h. ホタルイ属 *Scirpus* 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で、やや光沢がある。広倒卵形を呈し、断面は両凸レンズ形である。表面には横方向の微細な隆起がある。長さ1.7~1.8mm、幅1.9~2.0mm。

i. カヤツリグサ属 *Cyperus* 果実 カヤツリグサ科

淡褐色で狭倒卵形を呈す。表面はやや粗い。断面は三角形である。長さ1.0~1.2mm、幅0.5~0.6mm。

表3 泉屋遺跡16次調査における種実同定結果

学名	分類群	和名	部位	(試料100cc中)				
				1	2	3	4	5
arbor	樹木							
<i>Morus</i>	クワ属		種子	10	1			
<i>Rubus</i>	キイチゴ属		枝	93	18	1	47	866
<i>Vitis</i>	ブドウ属		種子	6	10	1		1
<i>Actinidia</i>	マタタビ属		種子	107	77	14	12	1
<i>Elaeagnos</i>	グミ属		種子	17				
<i>Viburnum</i>	ガマズミ属		枝	2				
<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex Graebn.	ニワトコ		枝			5		
herb	草本							
<i>Scirpus</i>	ホタルイ属	果実		2		1		
<i>Cyperus</i>	カヤツリグサ属	果実				1		
<i>Cyperaceae</i>	カヤツリグサ科	果実		29	6	1	1	2
<i>Asterites keisak</i> Hassk	イボクサ	種子		1				
<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子		1		2		
<i>Amaranthus</i>	ヒユ属	種子		1		6		
<i>Caryophyllaceae</i>	ナデシコ科	種子						
<i>Duchesnea-Fragaria</i>	ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属	種子			2			
- <i>Potentilla</i>	-キジムシロ属							
<i>Leonurus</i>	メハジキ属	果実				1		
<i>Perilla</i>	シソ属	果実		17	13	2		
<i>Solanum melongena L.</i>	ナス	種子	173	36	264	11		30
<i>Solanaceae</i>	ナス科	種子	2	1	30	3		1
<i>SExamen indicum L.</i>	ゴマ	種子		1	5	2		
<i>Cucumis melo L.</i>	ウリ属	種子	21	23	7	1		3
		穀片	1	2	6			5
Total	合計			438	188	349	77	929

表4 泉屋遺跡16次調査 16SK9 2層ウリ類種子計測値

長さ (mm)					
6.4	6.1	7.7	6.5	6.6	
8.3	6.0	6.3	5.1	6.8	
6.9	5.3	6.8	7.3	6.9	
5.1	6.0	6.7	6.7	6.6	
6.9	6.8	6.2	平均値	6.5	

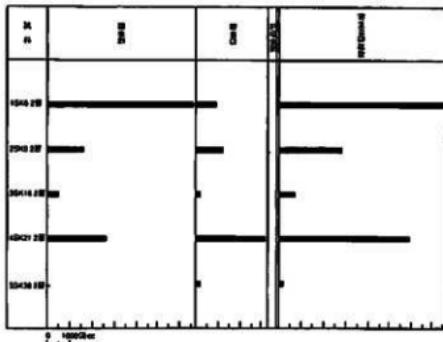


図1 泉屋追跡16次調査における寄生虫卵ダイヤグラム

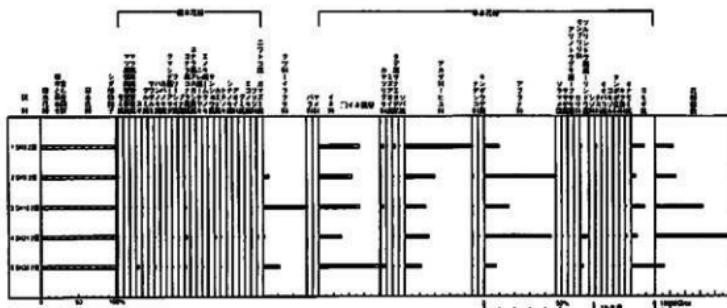


図2 泉屋追跡16次調査における花粉ダイヤグラム（花粉総数が基準）

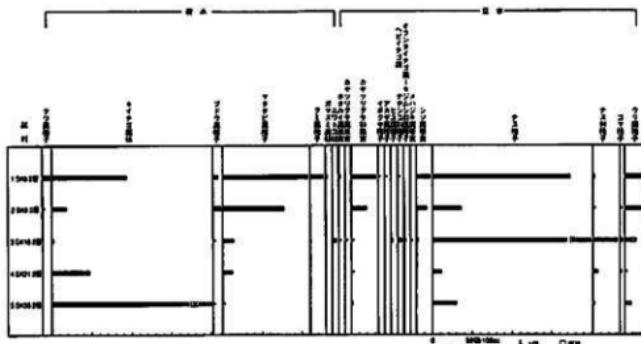


図3 泉屋追跡16次調査における根実検出図 (0.25mm薄 100 cc)

- j. カヤツリグサ科 Cyperaceae 果実
黄褐色で倒卵形を呈す。断面は扁平である。長さ1.3mm、幅1.0mm。
- k. イボクサ *Ancilema Keisak* Hassk. 種子 ツユクサ科
黒褐色で梢円形を呈す。腹部に一文字状のへそがあり、側面にくほんだ発芽孔がある。長さ2.4mm、幅1.4mm。
- l. アカザ属 *Chenopodium* 種子 アカザ科
黒色で光沢がある。円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。径1.1mm。
- m. ヒユ属 *Amaranthus* 種子 ヒユ科
黒色で光沢がある。円形を呈し、1ヶ所が切れ込みへソがある。断面は両凸レンズ形である。径1.1~1.2mm。
- n. ナデシコ科 *Caryophyllaceae* 種子
黒色で円形を呈し、側面にへそがある。表面全体に突起がある。径0.6~1.0mm。
- o. ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属-キジムシロ属
Duchesnea - Fragaria - Potentilla 種子 バラ科
黄褐色で腎臍形を呈す。表面はやや粗い。長さ1.0mm、幅0.4mm。
- p. シソ属 *Perilla* 果実 シソ科
茶褐色で球形を呈し、下端にへそがある。表面には大きい網目模様がある。径1.5~1.8mm。
- q. メハジキ属 *Leonurus* 果実 シソ科
果実は淡褐色で三角状くさび形を呈し、3稜がある。上端は切形で三角形、下端のへそにむかって細くなる。長さ2.1mm、幅1.3mm。
- r. ナス *Solanum melongena* L. 種子 ナス科
黄褐色で扁平梢円形を呈し、一端にくほんだへソがある。表面には複雑な網目模様がある。長さ2.5~3.0mm、幅2.8~2.9mm。
- s. ナス科 Solanaceae 種子
黄褐色で円形を呈す。表面にはやや大きい網目模様がある。長さ1.5~1.8mm、幅1.2~1.4mm。
- t. ゴマ *Sesamum indicum* L. 種子 ゴマ科
黒褐色で梢円形を呈し、上端がやや尖る。表面には微細な網目模様がある。長さ2.5~2.7mm、幅1.2~1.6mm。
- u. ウリ類 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科
淡褐色~黄褐色である。梢円形を呈し、一端には「ハ」字状のへこみがある。
- 16 S K 9 2層の種子の長さについて計測を行い、表に示した。最大粒長は8.3mm、最小粒長は5.1mm、平均粒長は6.5mm。藤下(1992)の現生種子を基本とする分類では、長さ6.0以下の中粒種子(雜草メロン型)、長さ6.1mm~8.0mmの中粒種子(マクワウリ・シロウリ型)、長さ8.1mm以上の大粒種子(モモルディカ型)に分類している。本試料を比定すると、雜草メロン型が5、マクワウリ・シロウリ型が17、モモルディカメロン型が1である。
- 2) 種実造体群の特徴
- 各試料とも食用となる植物の種実が多く、キイチゴ属、マタタビ属、ナス、ウリ類が主に検出された。キイチゴ属は試料1、5で多く、マタタビ属は試料1、2でやや多く、ナスは試料1、3で多い。クワ属、ブ

ドウ属、シソ属は試料1、2から検出され、グミ属は試料1、ゴマは試料2、3、4から検出される。

6 寄生

(1) 粪便およびトイレ遺構の可能性

寄生虫卵分析では、各試料から寄生虫卵が検出された。このうち、試料1、2、4では試料（堆積物）1cc中1000個を超える量である。花粉群集は、各試料とも草本花粉の占める割合が極めて高く、イネ属型を含むイネ科、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科の食用または薬用とみられる植物の出現率が高い。また、明らかな栽培植物であるソバ属も出現するという特徴を示す。種実遺体群では、試料によって出現数の差異があるものの、キイチゴ属、マタタビ属、ナス、ウリ類などの食用となる果実の種実が中心に出現する。

以上のように、試料1（16SK6, 2層）、試料2（16SK9, 2層）、試料4（16SK21, 2層）は、寄生虫卵が高密度に検出され、花粉群集と種実遺体群は食用と考えられる分類群を中心に構成されていることから、これらの堆積物は糞便を主に構成されているとみなされる。試料3（16SK18, 2層）、試料5（16SK38, 2層）では、寄生虫卵密度は低いが、花粉群集と種実遺体群は食用と考えられる分類群を中心に構成されているため、糞便の堆積を多く含むとみなされる。したがって、16SK6、16SK9、16SK18、16SK21、16SK38がトイレ遺構である蓋然性は高いと判断される。

(2) 食生活と薬用植物について

寄生虫卵の構成では、各試料とも定住農耕生活によって疊延する回虫卵、鞭虫卵の占める割合が高いことから、特に農作物が頻繁に食べられていたとみなされる。柳之御所遺跡などで検出される日本海製頭条虫卵は検出されず、本遺跡ではサケ・マス類の摂食は一般的ではなかったとみなされる。泉屋遺跡15次調査においても日本海製頭条虫卵が検出される遺構とそうでない遺構があることから、サケ・マス類の摂食にはなんらかの制限があったことが考えられる。

花粉では、イネ属型およびイネ科、アブラナ科、アカザ科-ヒユ科の花粉が多い。イネ科は穀の中に花粉が残存し果実に付着するため、これらは摂食されたコメや穀類からもたらされたものと考えられ、イネ科の穀類の摂食が示唆される。アブラナ科は、花芽を含めた野菜として摂食されたことが考えられる。アカザ科-ヒユ科も食用となるアカザやヒユの摂食が考えられる。ソバ属も果実に付着していた花粉と考えられ、ソバの摂食が推定される。センブリ属-ツルリンドウ属-リンドウ属は、薬用としてのセンブリ *Swertia japonica* Makinoが考えられる。ヨモギ属も食用の可能性があるが、一般的に出現するため摂食されたものかはわからない。

種実ではキイチゴ属、マタタビ属、クワ属、ブドウ属、グミ属の樹木とナス、ウリ類、ゴマの農作物が検出され、これらが摂食されていたと考えられる。特にキイチゴ属、マタタビ属、ナスが多く認められる。

(3) 試料における遺体群の差異について

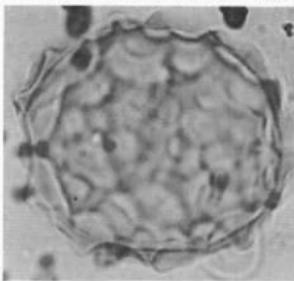
試料3（16SK18, 2層）、試料5（16SK38, 2層）では寄生虫卵密度は低いが、花粉群集および種実遺体群では食用となる分類群が主に構成される。これは堆積物に含まれる糞便の量あるいは宿主への寄生虫の寄生数の個体差を反映している可能性が考えられる。また、これらの試料でクワ科-イラクサ科やヨモギ属の花粉が他より多いため、周囲から供給された堆積物が多かったことも考えられる。

試料2 (16S K9, 2層)、試料4 (16S K21, 2層) ではアブラナ科の花粉が高率で、クワ科－イラクサ科とヨモギ属は低率になる。種実では試料1 (16S K6, 2層)、試料3 (16S K18, 2層)、試料5 (16S K38, 2層) でナスが多い。他に傾向を示さない分類群もあるが、アブラナ科の花粉は春を示唆し、クワ科－イラクサ科、ヨモギ属の花粉とナスの種子は秋を示唆する。このことから、食物も季節性が反映されている可能性があり、試料2 (16S K9, 2層)、4 (16S K21, 2層) は春、試料1 (16S K6, 2層)、3 (16S K18, 2層)、5 (16S K38, 2層) が秋を反映している可能性が示唆される。

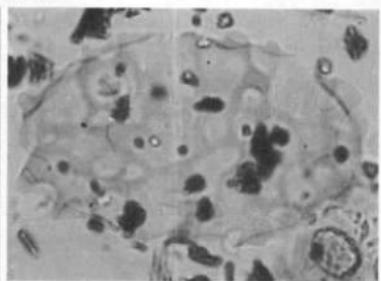
参考文献

- Peter J. Warrick and Karl J. Reinhard (1992) Methods for Extracting Pollen and Parasitic Eggs from Latrine Soils. *Journal of Archaeological Science*, 19, p. 231-245.
- 金原正明・金原正子 (1992) 花粉分析および寄生虫。藤原京跡の便所遺構－藤原京7条1坊－, 奈良国立文化財研究所, p. 14-15.
- 金子清俊・谷口博一 (1987) 線形動物・扁形動物。医動物学, 新版臨床検査講座, 8, 医衛薬出版, p. 9-55.
- 中村純 (1973) 花粉分析。古今書院, p. 82-110.
- 金原正明 (1993) 花粉分析法による古環境復原。新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p. 248-262.
- 島倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態。大阪市立自然博物館収蔵目録第5集, 60p.
- 中村純 (1980) 日本産花粉の標識。大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
- 中村純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネ (*Oryza sativa*)を中心として。第四紀研究, 13, p. 187-193.
- 中村純 (1977) 稲作とイネ花粉。考古学と自然科学, 第10号, p. 21-30.
- 笠原安夫 (1985) 日本雑草図説。斐賢堂, 494p.
- 藤下典之 (1992) 出土種子からみた古代日本のメロンの仲間、その種類、渡来、伝播、利用について。考古学ジャーナルNo354, ニュー・サイエンス社, p. 7-13.
- 松谷晚子 (1983) エゴマ・シソ。縄文文化の研究第2巻, 雄山閣出版株式会社, p. 50-62.
- 金原正明・金原正子ほか (1995) 柳之御所跡の寄生虫卵・花粉・種実の同定分析。柳之御所跡－関遊水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・36・41次発掘調査, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集, p. 500-514.
- 古環境研究所分析報告 (1996) 泉屋遺跡15次調査におけるトイレ遺構分析。

泉屋遺跡16次調査の寄生虫卵・花粉・胞子遺体



1 回虫卵



2 回虫卵



3 肝吸虫卵



4 鰐虫卵



5 鰐虫卵



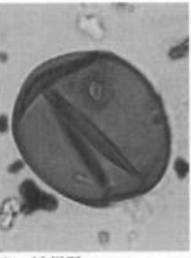
6 スギ



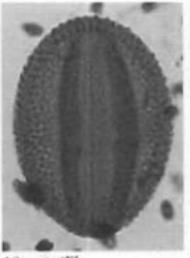
7 コナラ属コナラ亜属



8 グミ属



9 イネ属型



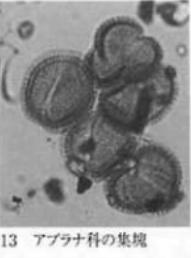
10 ツバ属



11 アカザ科ヒュ科



12 アブラナ科



13 アブラナ科の集塊



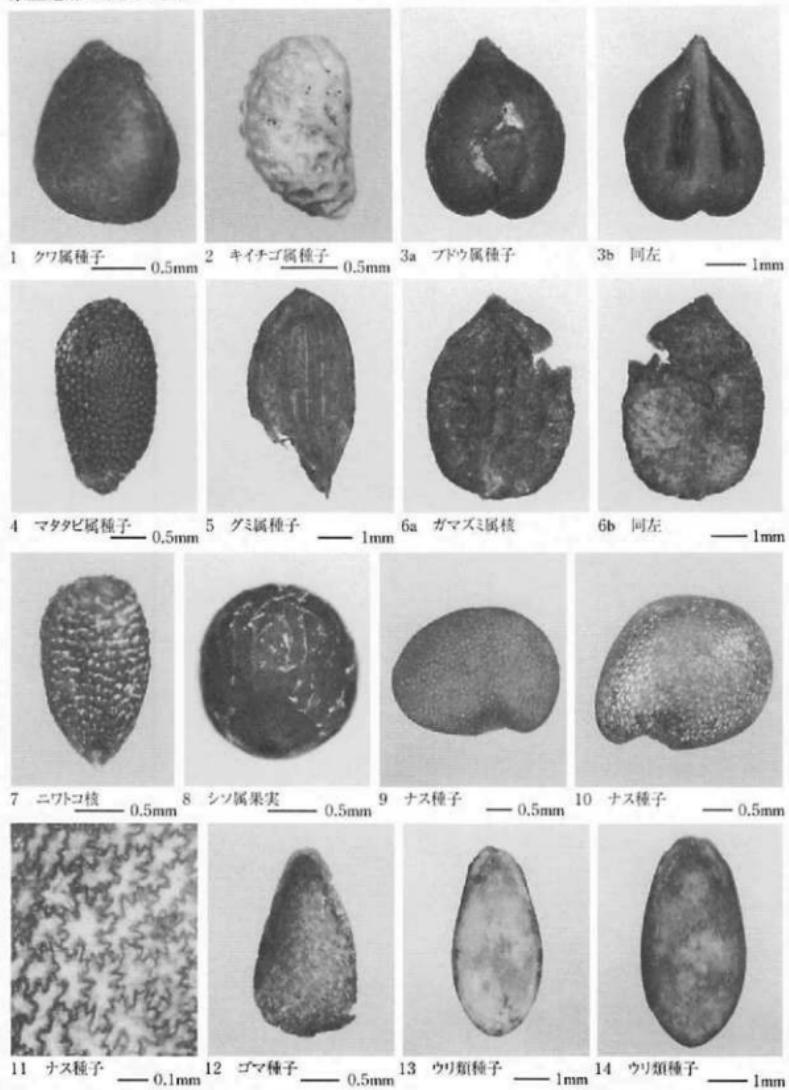
14 ソラマメ属



15 センブリ属フルリンドウ属
—リンドウ属

45μm

泉屋遺跡16次出土種実



写 真 図 版



写真図版 1 調査区遠景



写真図版 2 調査区航空写真



16SB3完掘



16SB6完掘



16SB3完掘



16SB8完掘



16SB7完掘



16SB13完掘



16SB16完掘



16SB17完掘

写真図版3 堀立柱建物①



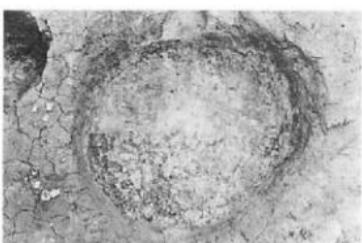
P 1075 断面 (16SB6)



P 1075 完掘 (16SB6)



P 1076 断面 (16SB6)



P 1076 完掘 (16SB6)



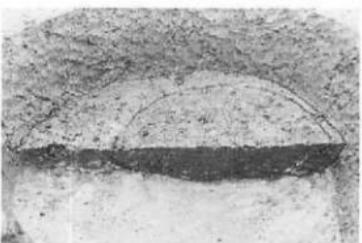
P 1077 断面 (16SB6)



P 1077 の礎盤 (16SB6)



P 1080 断面 (16SB6)



P 1080 断面 (16SB6)

写真図版4 掘立柱建物②



P 1085 断面 (16SB 6)



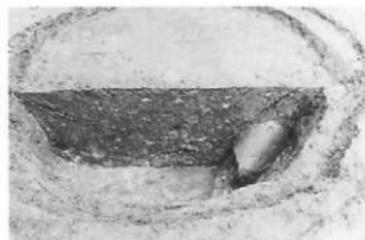
P 1085 完掘 (16SB 6)



P 1088 断面 (16SB 6)



P 1088 完掘 (16SB 6)



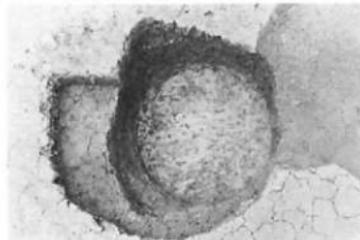
P 1087 断面 (16SB 6)



P 1089 断面 (16SB 6)

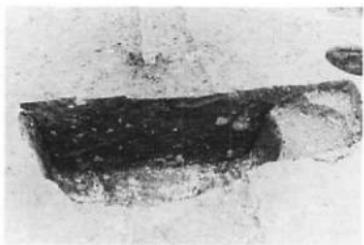


P 1090 断面 (16SB 6)



16SB 1090 完掘 (16SB 6)

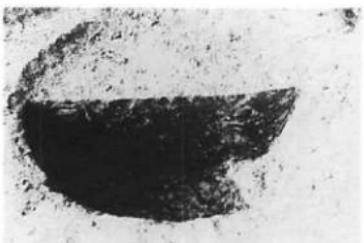
写真図版 5 据立柱建物③



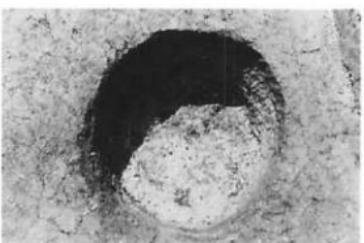
P 1091 断面 (16SB 6)



P 1091 完掘 (16SB 6)



P 1095 断面 (16SB 6)



P 1095 完掘 (16SB 6)



P 1096 断面 (16SB 6)



P 1096 完掘 (16SB 6)



P 1103 断面 (16SB 6)



P 1112 断面 (16SB 6)

写真図版 6 掘立柱建物④



16S B 18 完掘



16S B 19 完掘



16S B 21 完掘



16S B 22 完掘



16S B 18 完掘



16S B 24 完掘



16S B 28 完掘



16S B 29 完掘

写真図版 7 樹立柱建物⑤



16S B30 完掘



16S B31 完掘



16S B32 完掘



16S B33 完掘



16S B34 完掘



16S B35 完掘



16S B36 完掘



16S B30 完掘

写真図版 8 掘立柱建物⑥



16 S B 39 完掘



16 S B 42 完掘



16 S B 43 完掘



16 S B 46 完掘



16 S B 47 完掘



16 S B 53 完掘



16 S B 54 完掘



16 S B 63 完掘

写真図版 9 挖立柱建物⑦



16S B 64 完掘



16S B 65 完掘



16S E 1 上部断面



16S E 1 下部断面



16S E 1 完掘



16S E 2 上部断面



16S E 2 下部断面

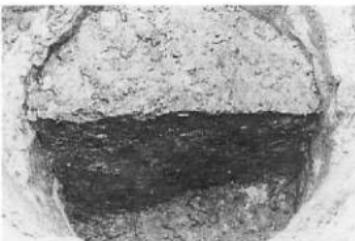


16S E 2 完掘

写真図版10 堀立柱建物⑧・井戸①



16SE3 上部断面



16SE2 下部断面



16SE3 完掘



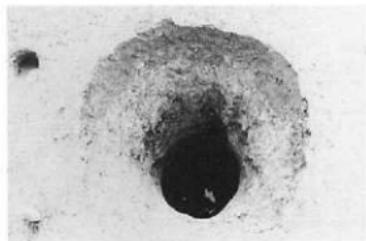
16SE4 上部断面



16SE4 中部断面



16SE4 下部断面



16SE4 完掘



16SE5 上部断面

写真図版11 井戸②



16SE5 下部断面



16SE5 完掘



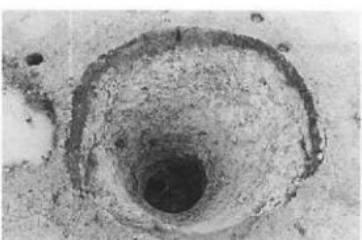
16SE6 上部断面



16SE6 中部断面



16SE6 下部断面



16SE6 完掘

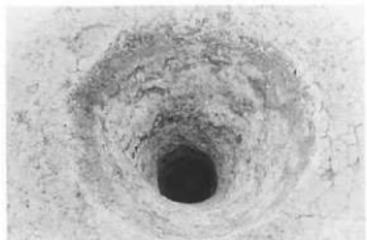


16SE7 上部断面



16SE7 下部断面

写真図版12 井戸③



16 S E 7 完掘



16 S E 8 断面



16 S E 8 完掘



16 S E 9 上部断面



16 S E 9 下部断面



16 S E 9 完掘



16 S E 10 上部断面



16 S E 10 下部断面

写真図版13 井戸④



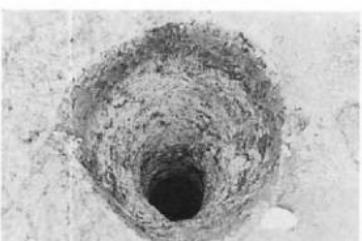
16S E 10 完掘



16S E 11 上部断面



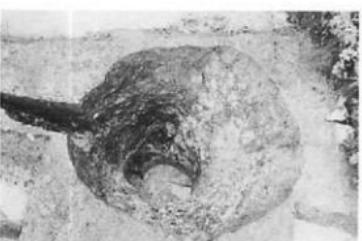
16S E 11 下部断面



16S E 11 完掘



16S E 12 断面



16S E 12 完掘



16S E 13 断面



16S E 13 完掘

写真図版14 井戸⑤



16SE14 断面



16SE14 完掘



16SK1 断面



16SK1 完掘



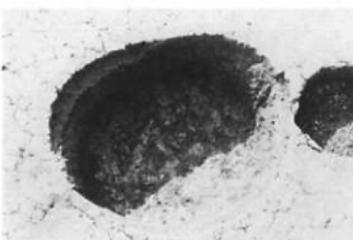
16SK3 断面



16SK3 完掘



16SK4 断面



16SK4 完掘

写真図版15 井戸⑥・土坑①



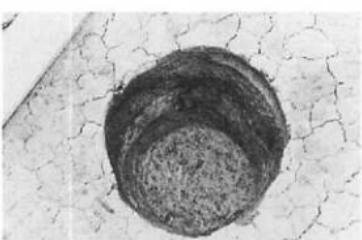
16SK 5 断面



16SK 5 完掘



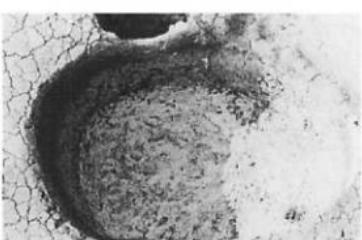
16SK 6 断面



16SK 6 完掘



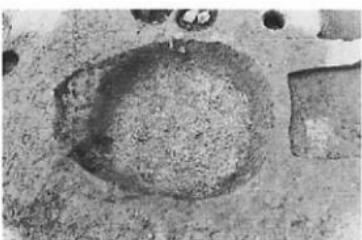
16SK 7 断面



16SK 7 完掘

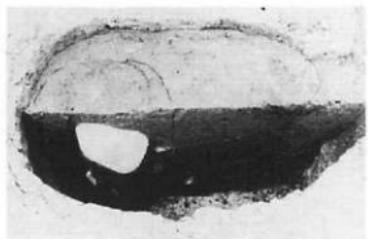


16SK 8 断面

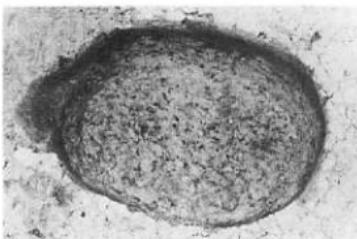


16SK 8 完掘

写真図版16 土坑②



16SK9 断面



16SK9 完掘



16SK10 断面



16SK10 完掘



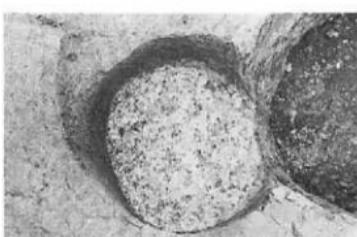
16SK11 断面



16SK11 完掘



16SK12 断面

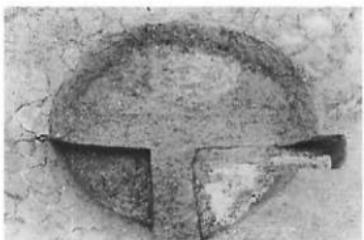


16SK12 完掘

写真図版17 土坑③



16SK13 断面



16SK13 完掘



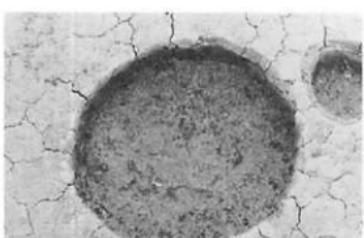
16SK14 断面



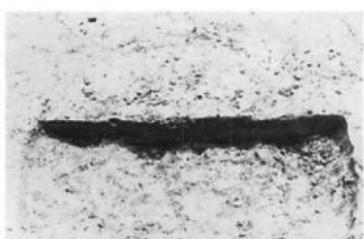
16SK14 完掘



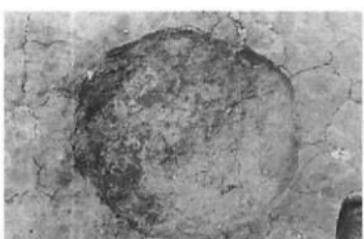
16SK15 断面



16SK15 完掘



16SK16 断面



16SK16 完掘

写真図版18 土坑④



16 SK 17 断面



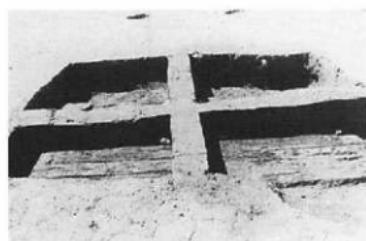
16 SK 17 完掘



16 SK 18 断面



16 SK 18 完掘



16 SK 19 断面



16 SK 19 完掘



16 SK 20 断面



16 SK 20 断面

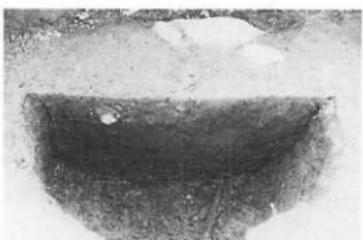
写真図版19 土坑⑤



16SK20 完掘



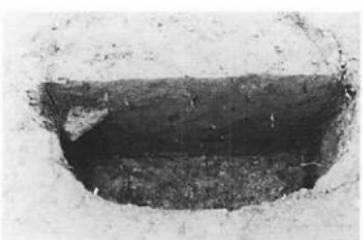
16SK20 完掘



16SK21 断面



16SK21 完掘



16SK22 断面



16SK22 完掘



16SK23 断面

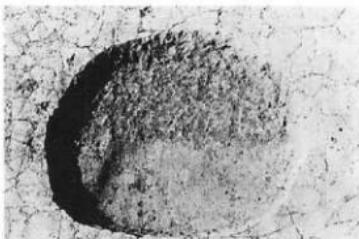


16SK23 完掘

写真図版20 土坑⑥



16SK24 断面



16SK24 完掘



16SK25 断面



16SK25 完掘



16SK26 断面



16SK26 断面

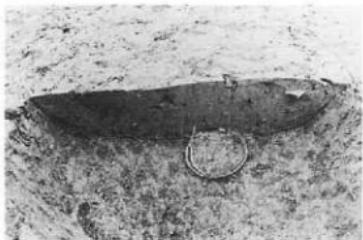


16SK27 断面

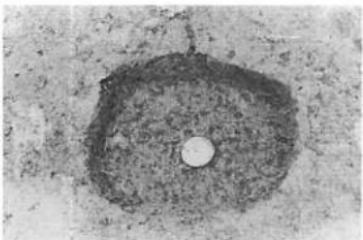


16SK27 断面

写真図版21 土坑⑦



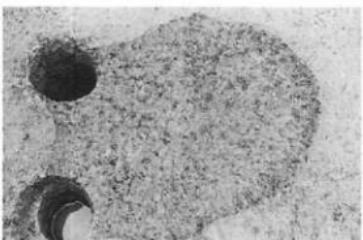
16SK28断面



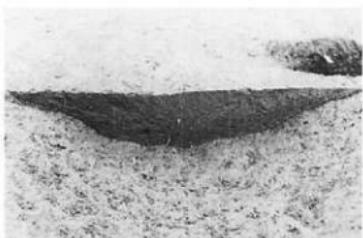
16SK28完掘



16SK29断面



16SK29完掘



16SK30断面



16SK30完掘



16SK31断面



16SK31完掘

写真図版22 土坑⑧



16 SK 32 断面



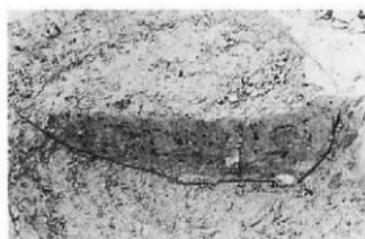
16 SK 32 完掘



16 SK 33 断面



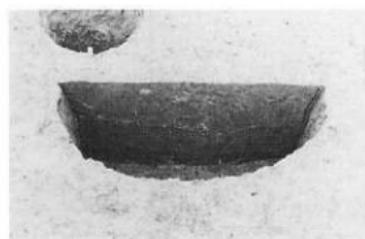
16 SK 33 完掘



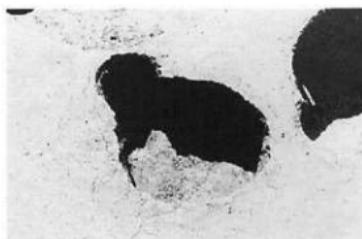
16 SK 34 断面



16 SK 34 完掘



16 SK 35 断面

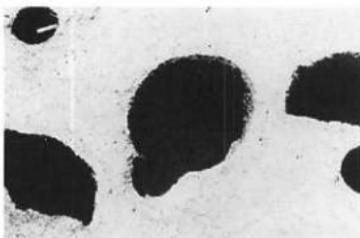


16 SK 35 完掘

写真図版23 土坑⑨



16SK36 断面



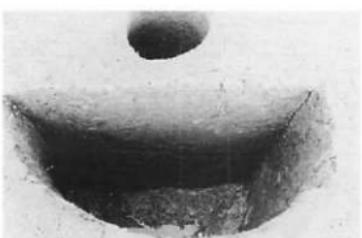
16SK36 完掘



16SK37 断面



16SK37 完掘



16SK38 断面



16SK38 完掘



16SK39 断面



16SK39 完掘

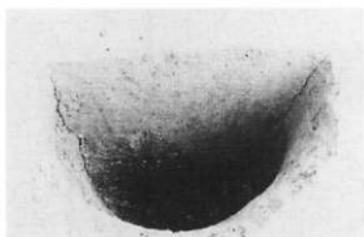
写真図版24 土坑⑩



16 SK 40 断面



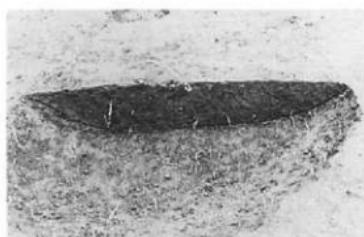
16 SK 40 完掘



16 SK 41 断面



16 SK 41 完掘



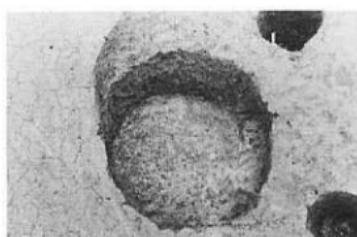
16 SK 42 断面



16 SK 42 完掘



16 SK 43 断面



16 SK 43 完掘

写真図版25 土坑①



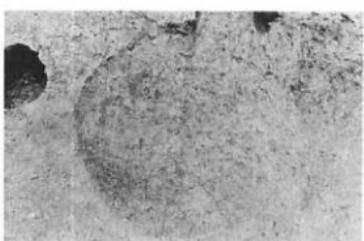
16SK44 断面



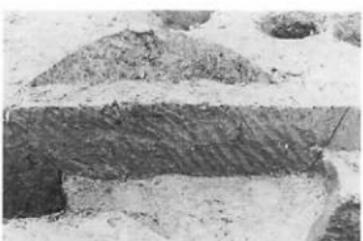
16SK44 完掘



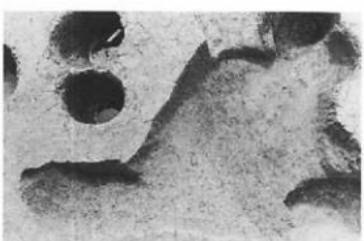
16SK48 断面



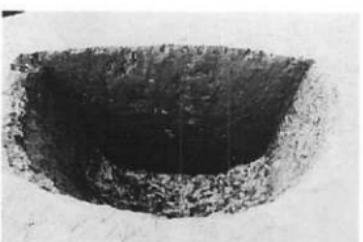
16SK48 完掘



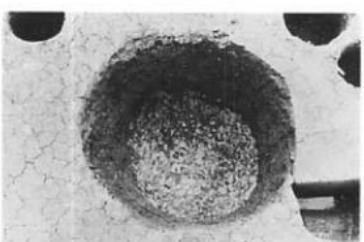
16SK50 断面



16SK50 完掘



16SK53 断面



16SK53 完掘

写真図版26 土坑⑫



16SK55 断面



16SK55 完掘



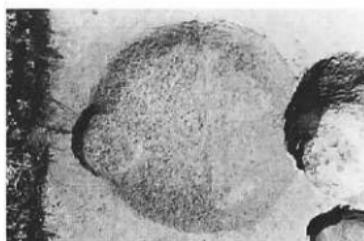
16SK56 断面



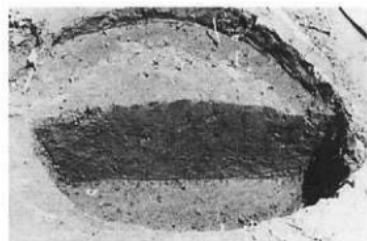
16SK56 完掘



16SK57 断面



16SK57 完掘



16SK58 断面



16SK58 完掘

写真図版27 土坑⑬



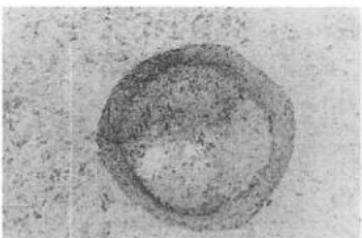
16SK59 断面



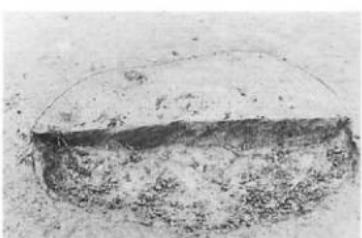
16SK59 完掘



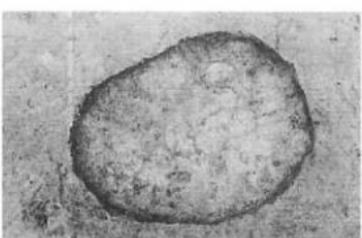
16SK101 断面



16SK101 完掘



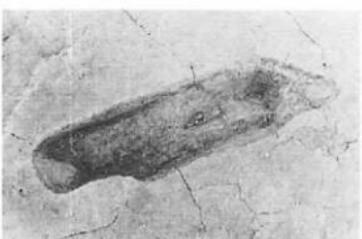
16SK102 断面



16SK102 完掘

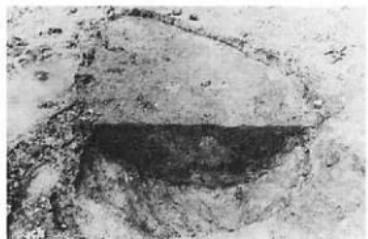


16SK103 断面



16SK103 完掘

写真図版28 土坑④



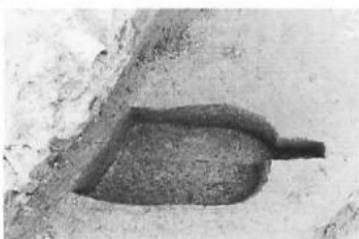
16SK104 断面



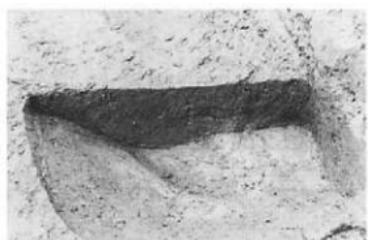
16SK104 完整



16SK105 断面



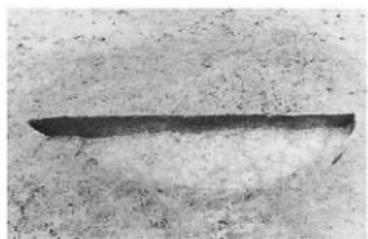
16SK105 完整



16SK106 断面



16SK106 完整



16SK107 断面

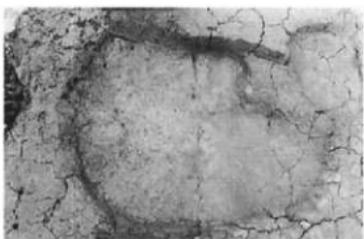


16SK107 完整

写真図版29 土坑⑮



16SK108 断面



16SK108 完掘



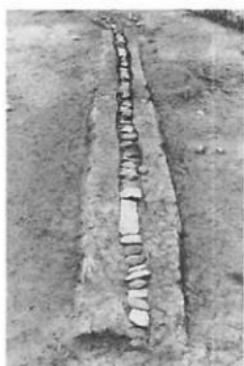
16SK109 断面



16SK109 完掘



16SD1 完掘



16SD1 完掘



16SD2 完掘



16SD2 断面

写真図版30 土坑⑩・溝①



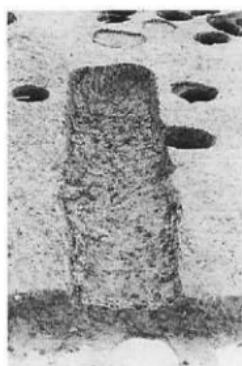
16 SD 3 完掘



16 SD 3 断面



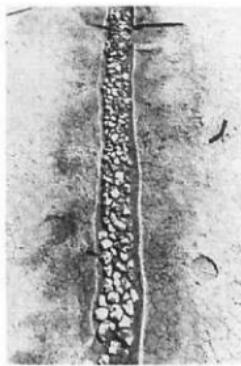
16 SD 4 断面



16 SD 4 完掘



16 SD 5 完掘（南側）

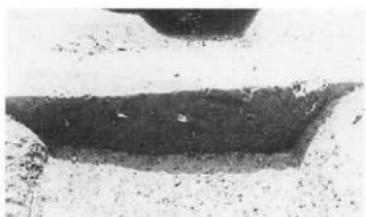


16 SD 5 暗渠部分



16 SD 5 完掘（全景）

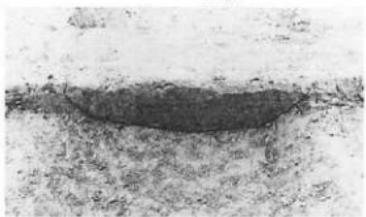
写真図版31 溝②



16SD5 完掘（北側）



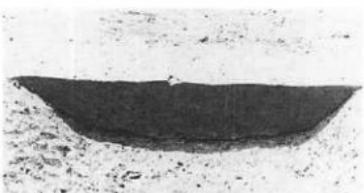
16SD6 完掘



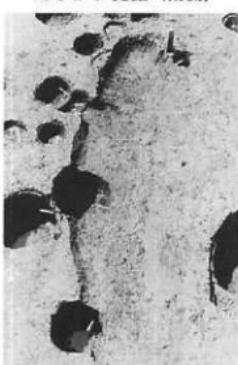
16SD7 完掘



16SD8 完掘



16SD5 完掘（南側）



16SD6 完掘



16SD7 完掘

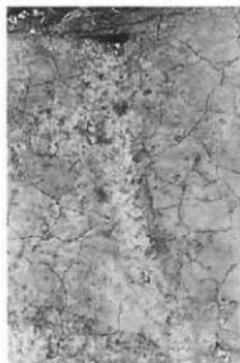


16SD8 断面

写真図版32 溝③



16 S D 9 断面



16 S D 9 完掘



16 S D 10 完掘



16 S D 10 断面



16 S D 11 断面



16 S D 12 断面 (A-B)



16 S D 12 断面 (C-D)



16 S D 12 断面 (E-F)

写真図版33 溝④



16S D12 断面 (G-H)



16S D12 完掘



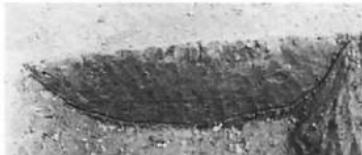
16S D12 完掘



16S D13 完掘



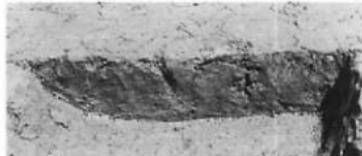
16S D13 完掘



16S D13 断面 (A-B)



16S D13 断面 (C-D)



16S D13 断面 (E-F)

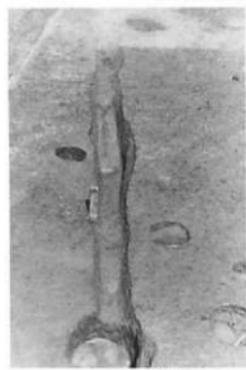
写真図版34 溝⑤



16S D 14 断面



16S D 15 断面



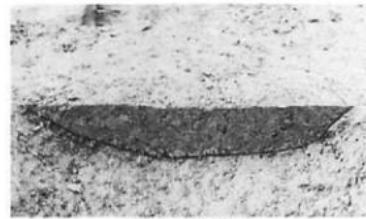
16S D 14 完掘



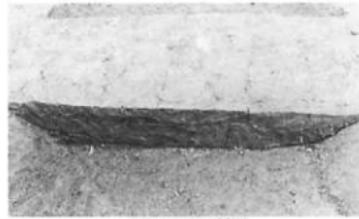
16S D 15 完掘



16S D 16 完掘



16S D 16 断面



16S D 17 断面



16S D 18 断面



16S D 19 断面

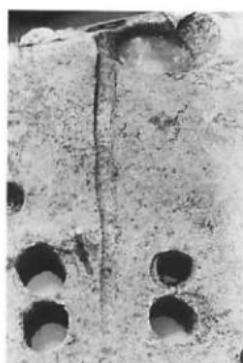
写真図版35 溝⑥



16 S D 17 完掘



16 S D 18 完掘



16 S D 19 完掘



16 S D 20 断面



16 S D 20 完掘



16 S D 21 完掘



16 S D 21 断面

写真図版36 溝⑦



16S I 1 壁溝 断面（北）



16S I 1 壁溝 断面（南）



16S I 1 壁溝 断面（東）



16S I 1 完掘



16S I 2 断面

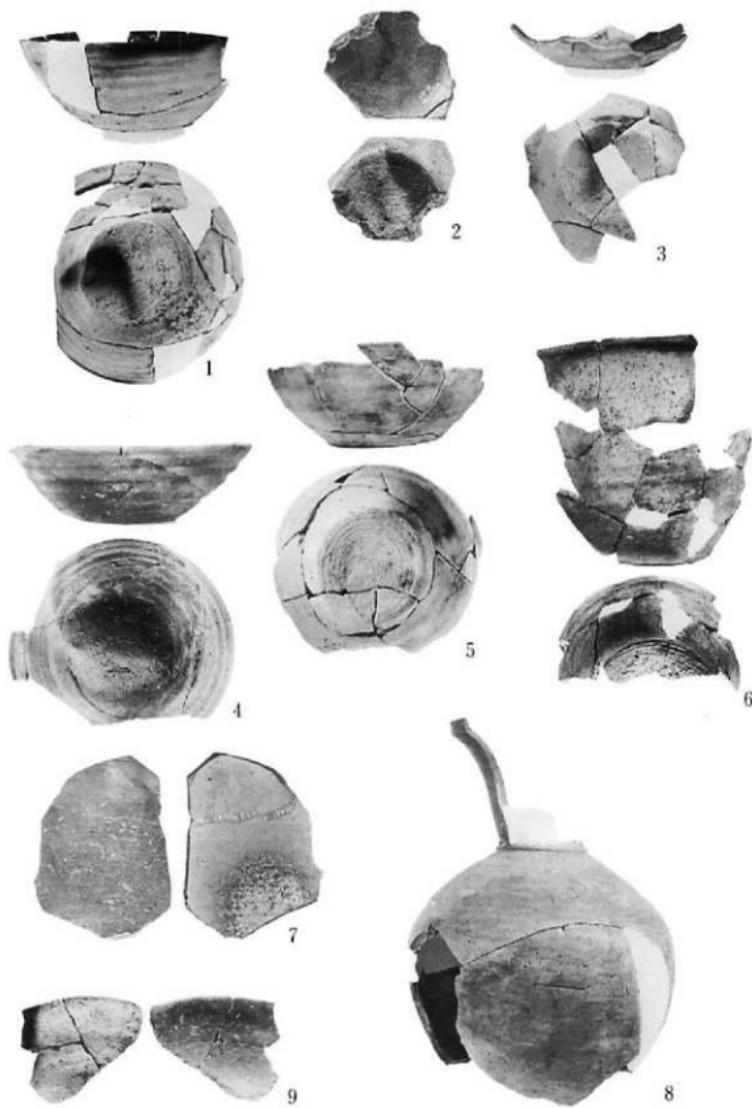


16S I 2 断面

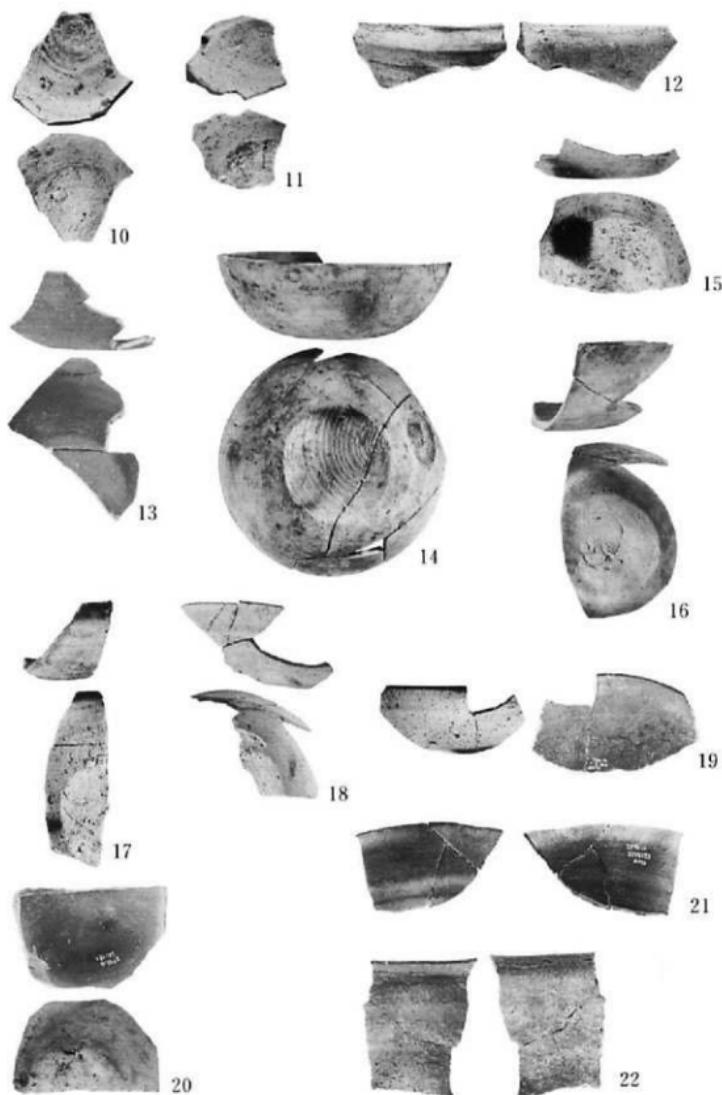


16S I 2 完掘

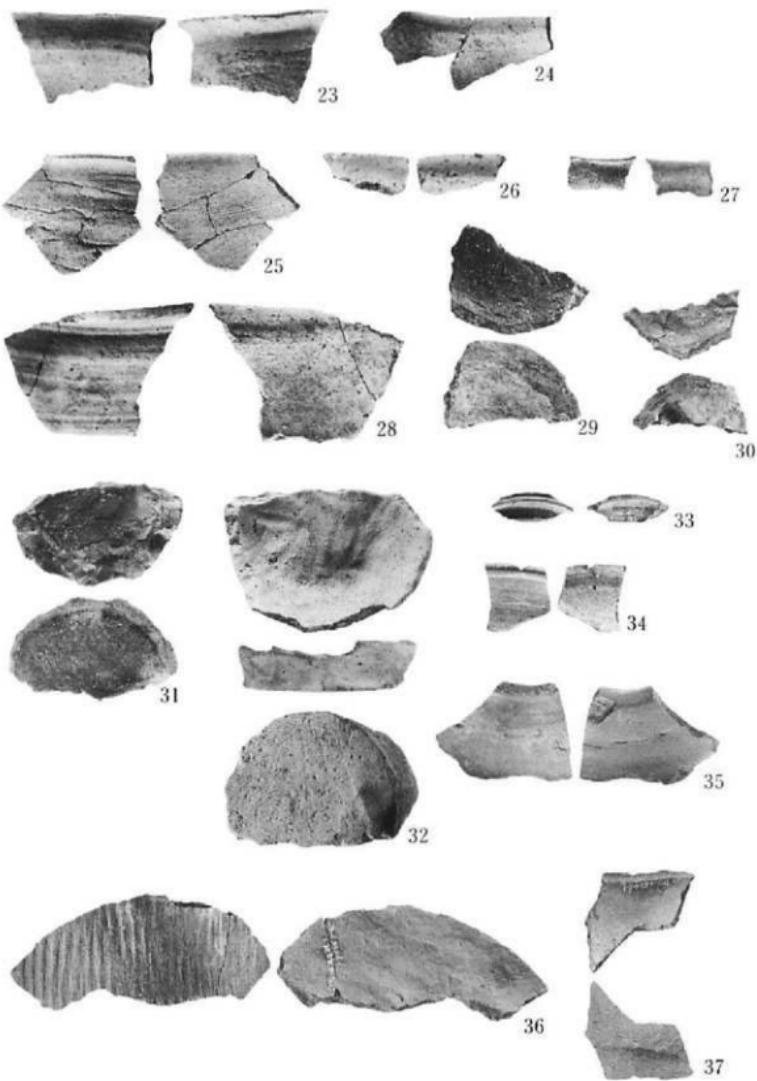
写真図版37 穹穴建物



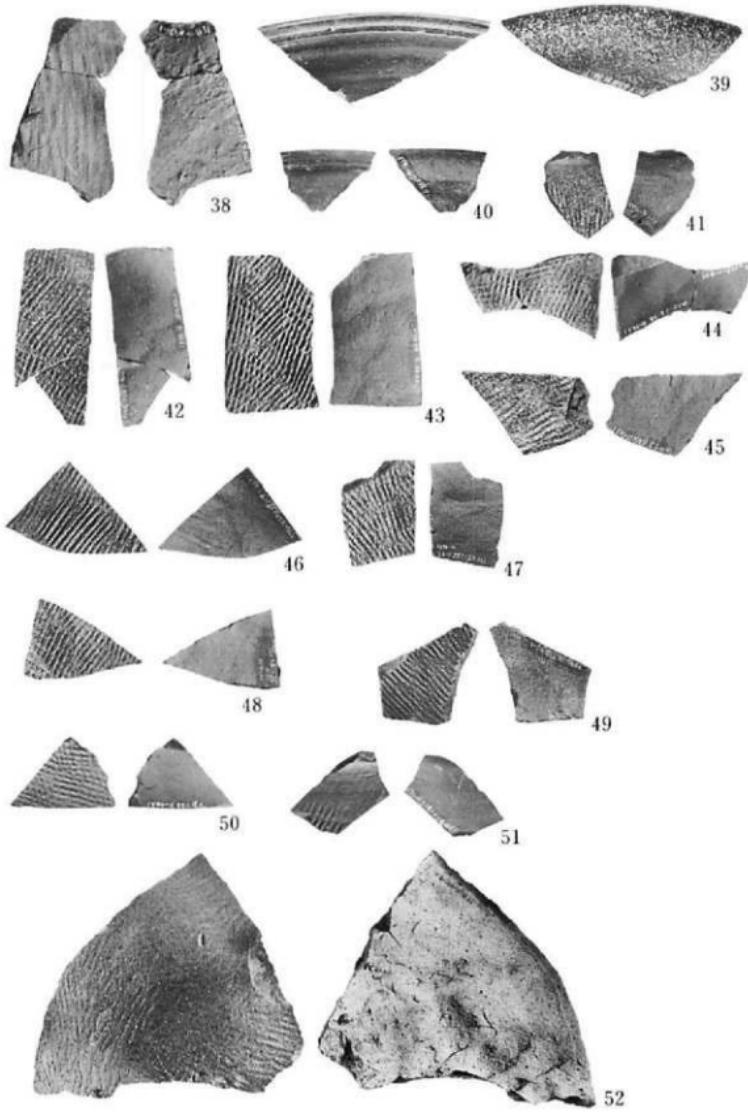
写真図版38 古代の土師器、須恵器①



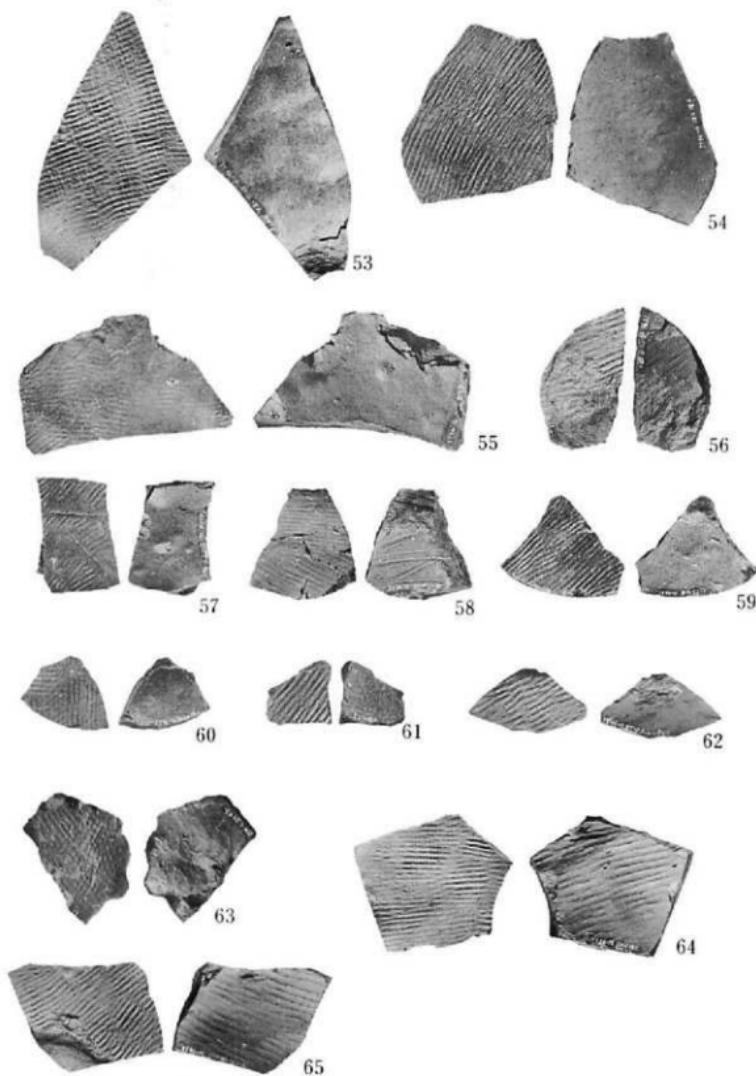
写真図版39 古代の土師器、須恵器②



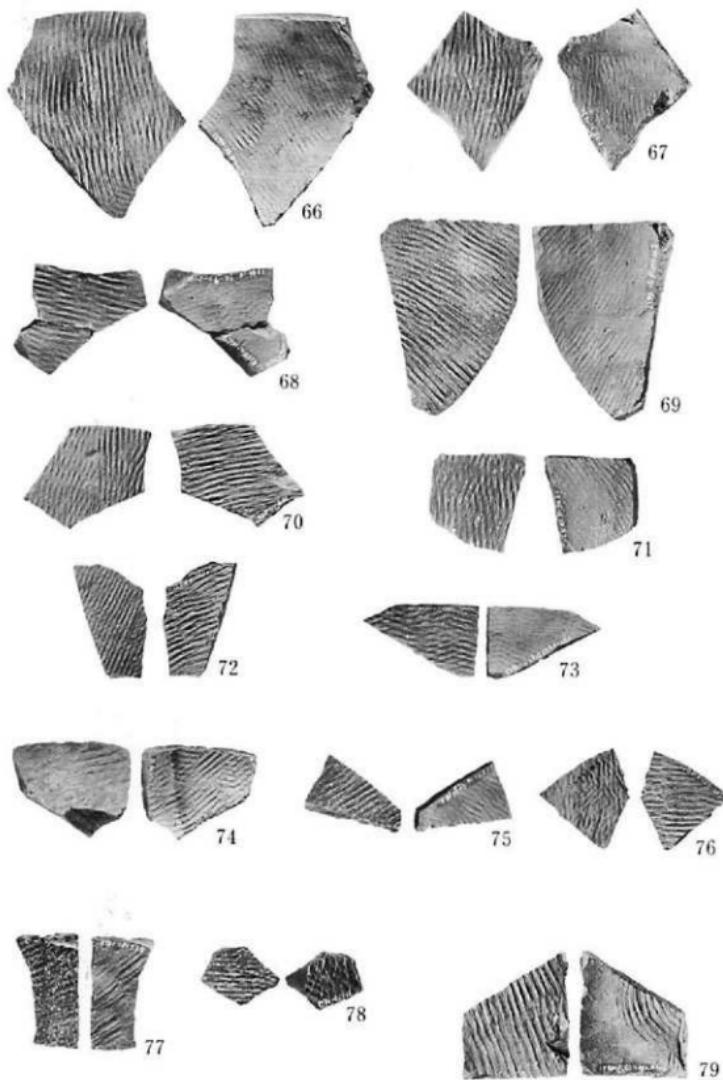
写真図版40 古代の土師器、須恵器③



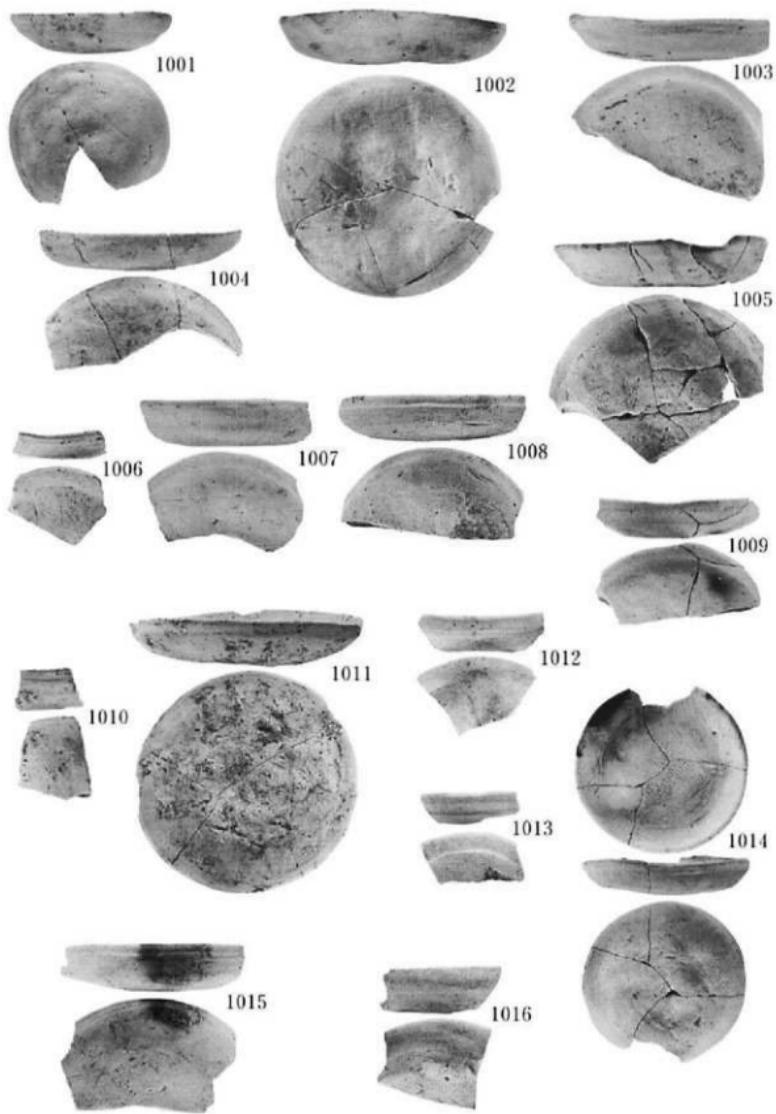
写真図版41 古代の土師器、須恵器④



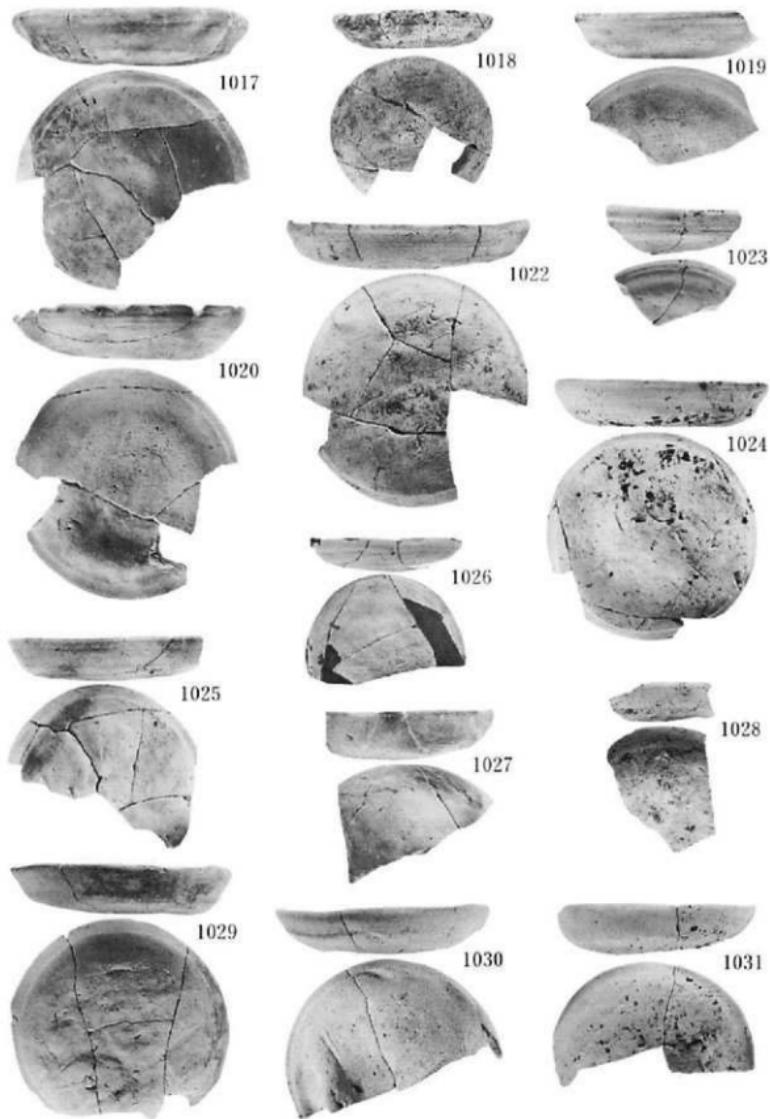
写真図版42 古代の土師器、須恵器⑤



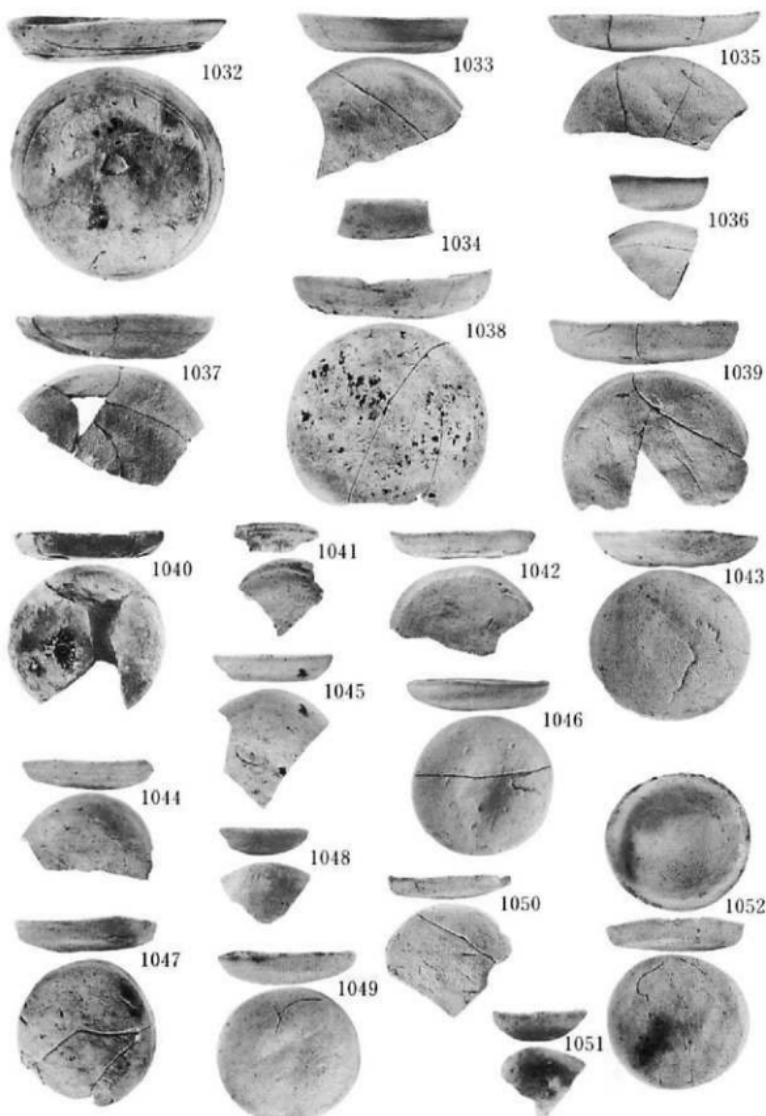
写真図版43 古代の土師器、須恵器⑥



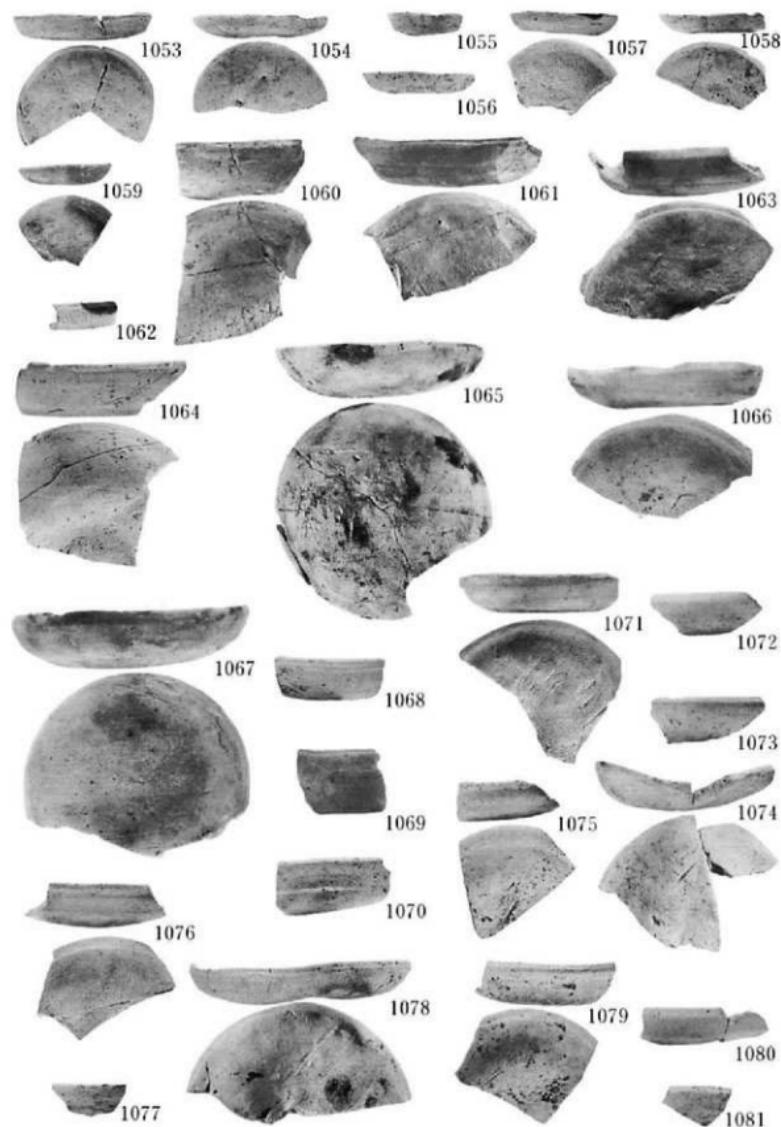
写真図版44 かわらけ①



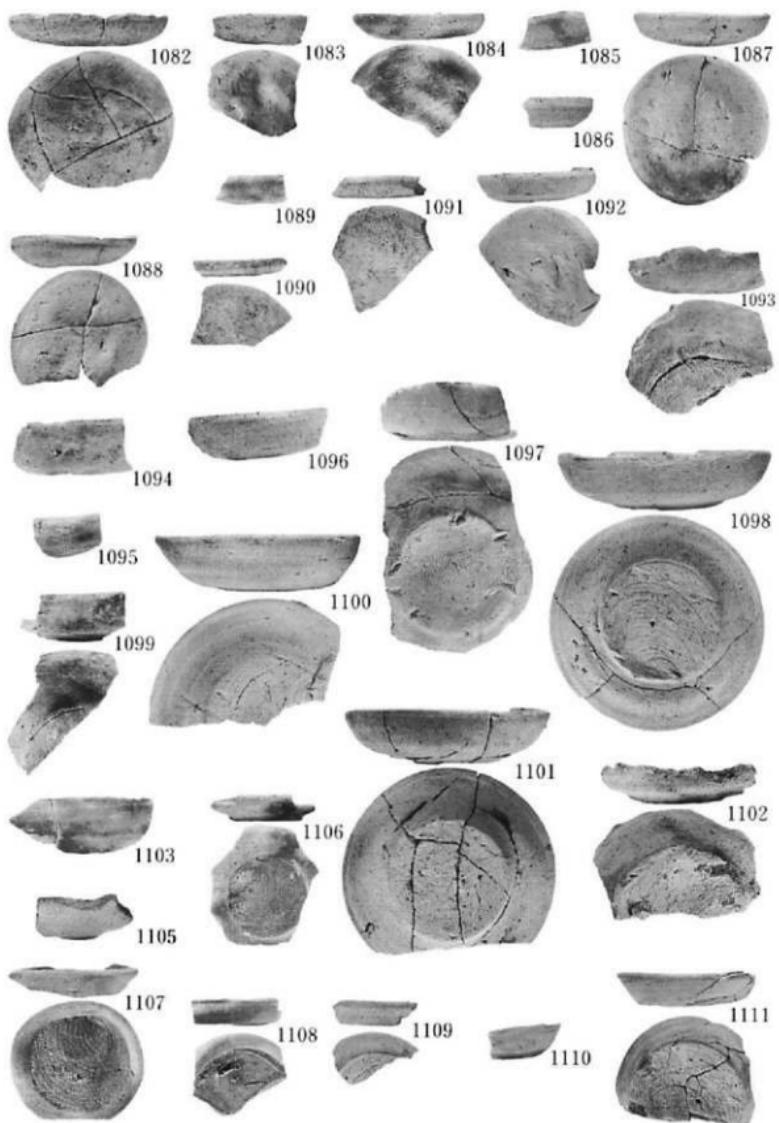
写真図版45 かわらけ②



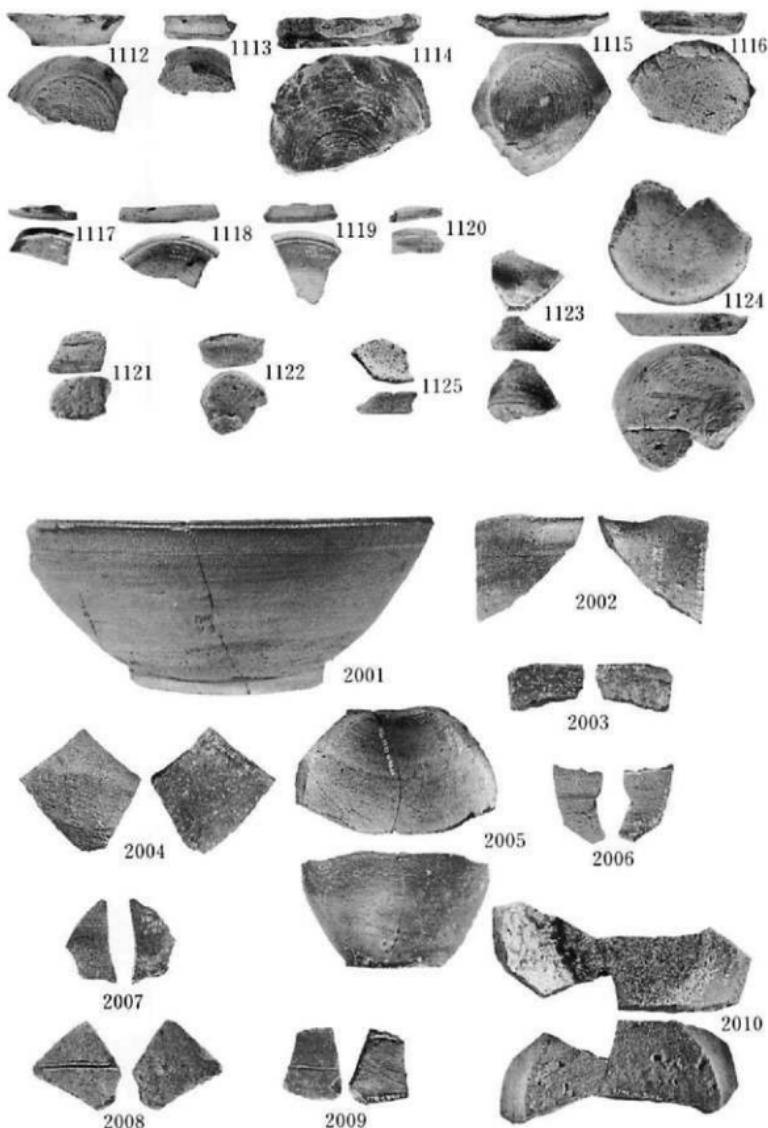
写真図版46 かわらけ③



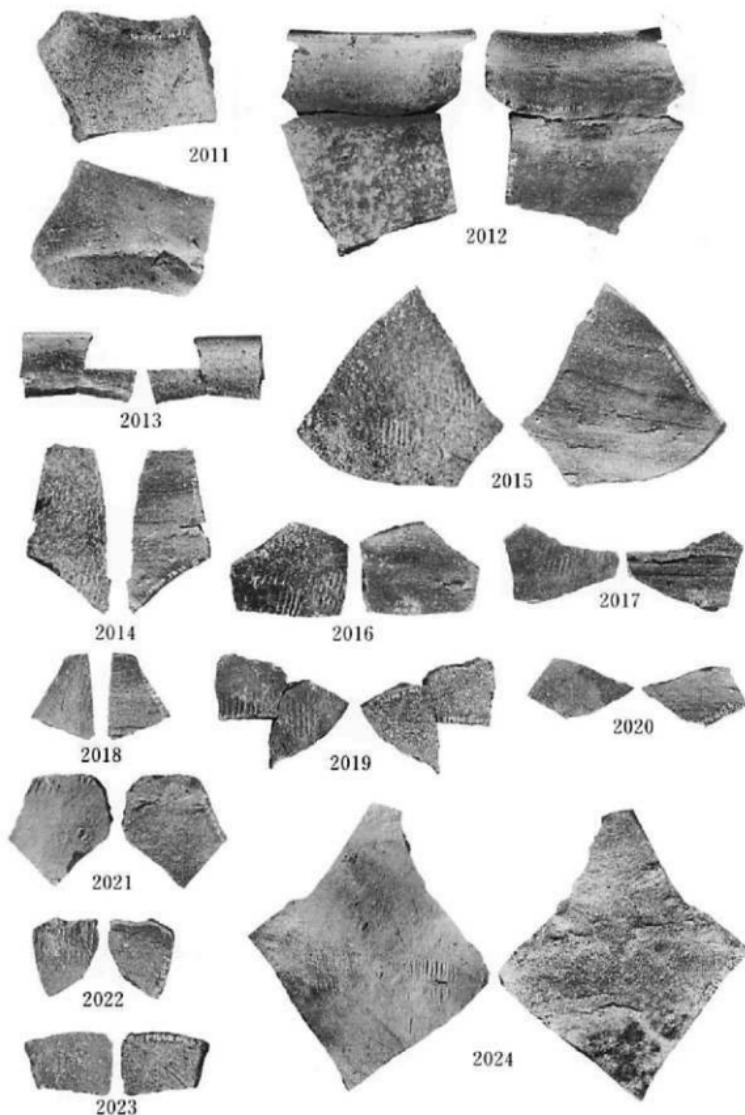
写真図版47 かわらけ④



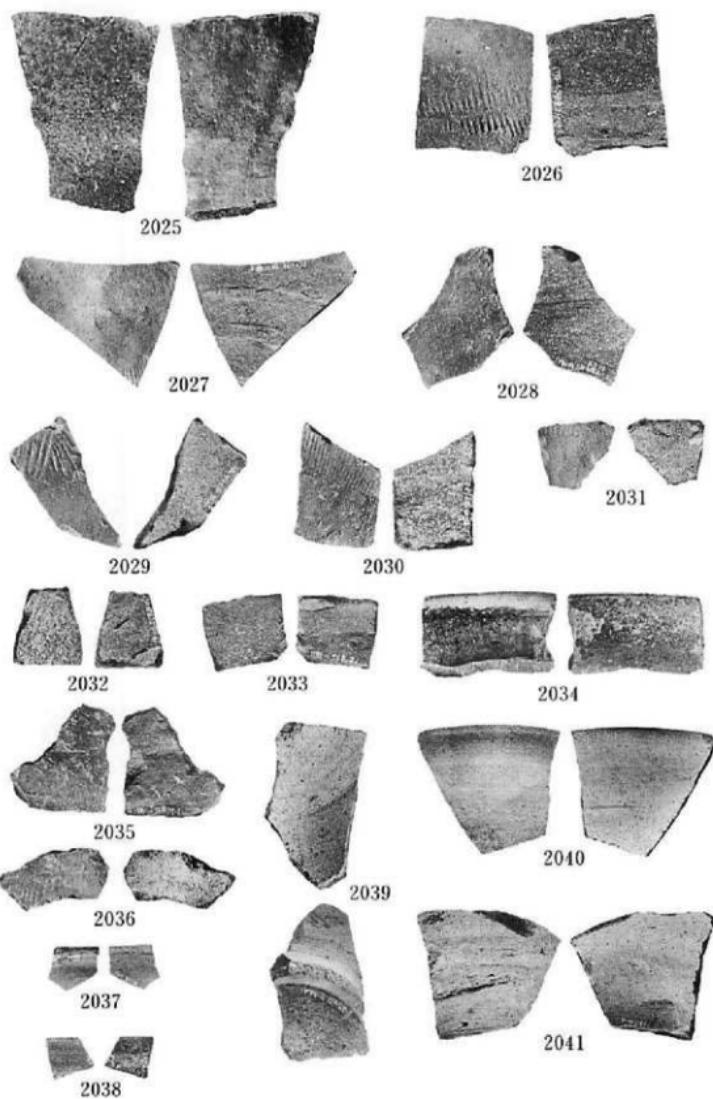
写真図版48 かわらけ⑤



写真図版49 かわらけ⑥・常滑産陶器①



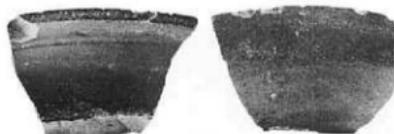
写真図版50 常滑産陶器②



写真図版51 常滑産陶器③・渥美産陶器①



2042



2043



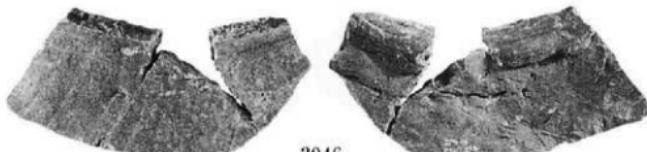
2044-a



2044-b



2045



2046



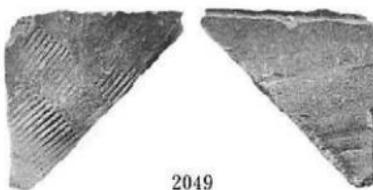
2047



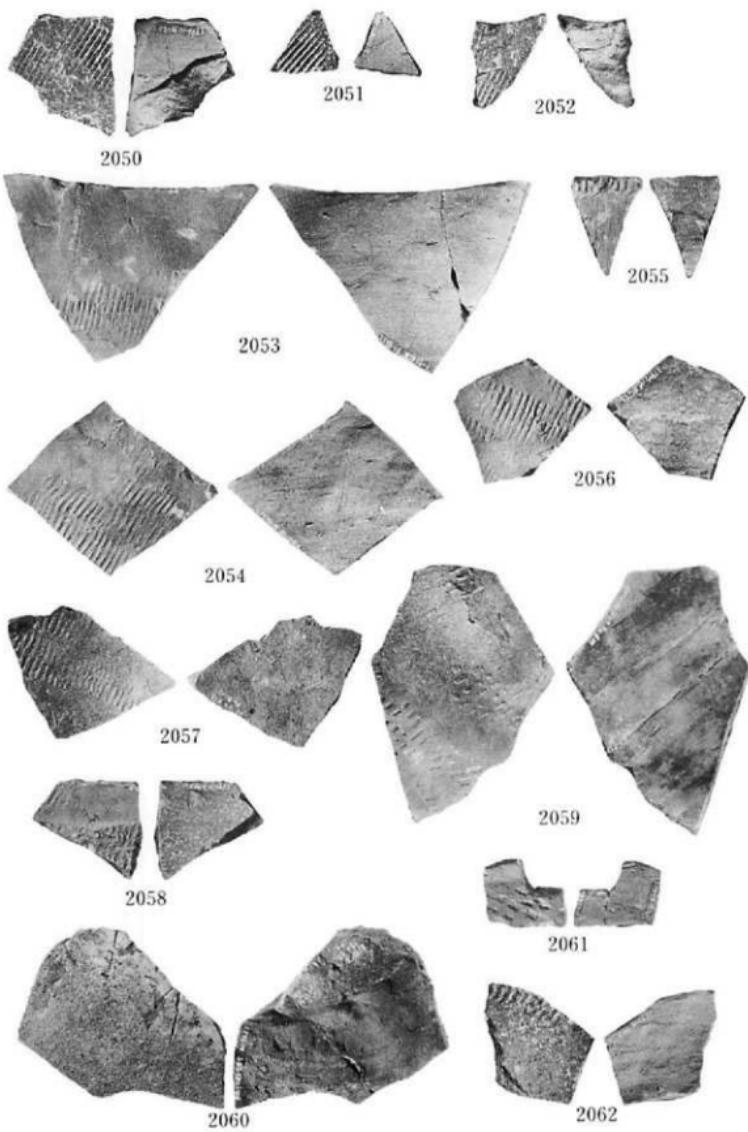
2048



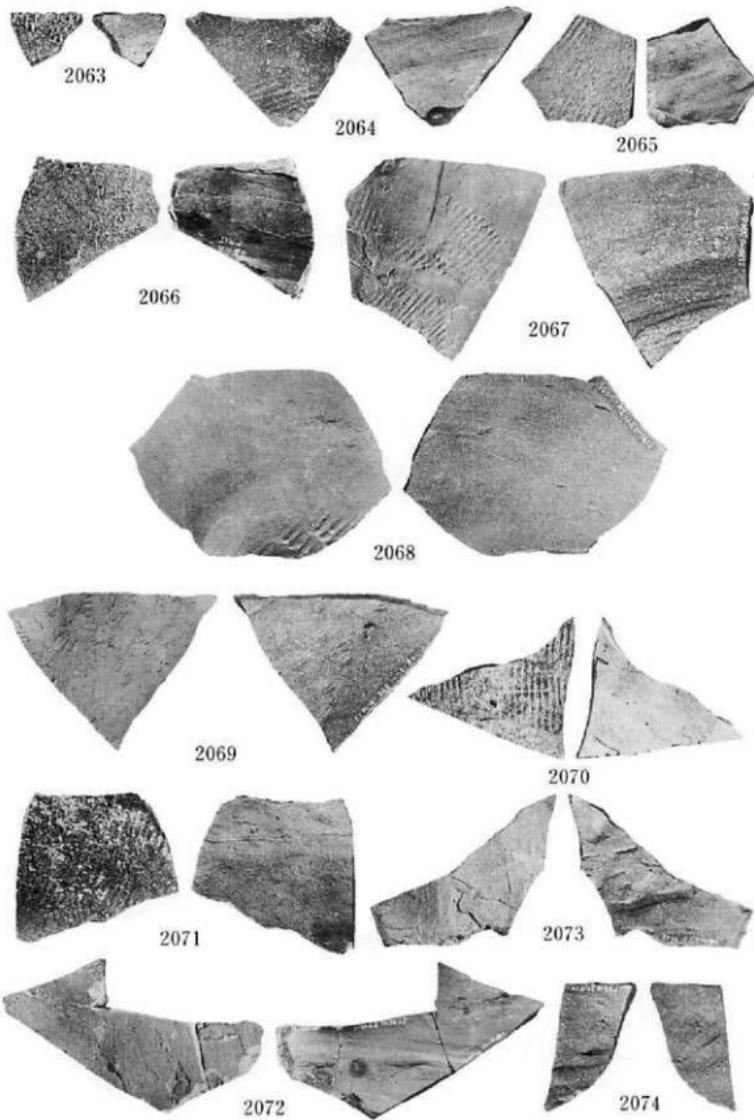
2049



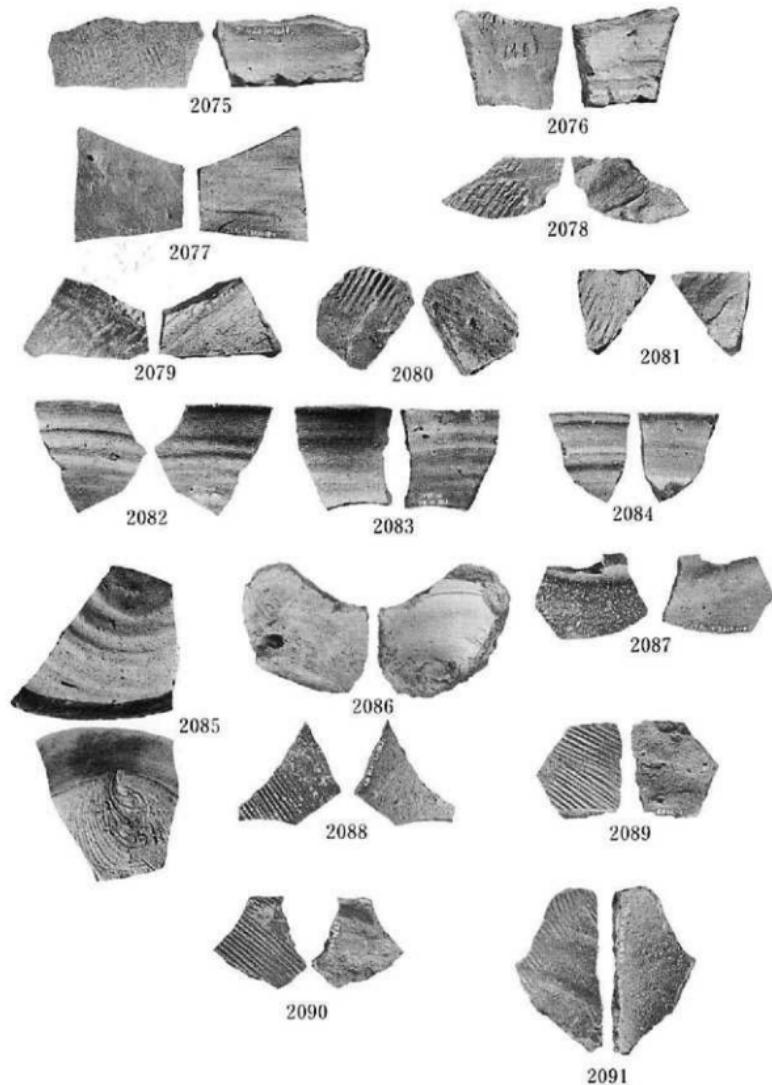
写真図版52 涅美産陶器②



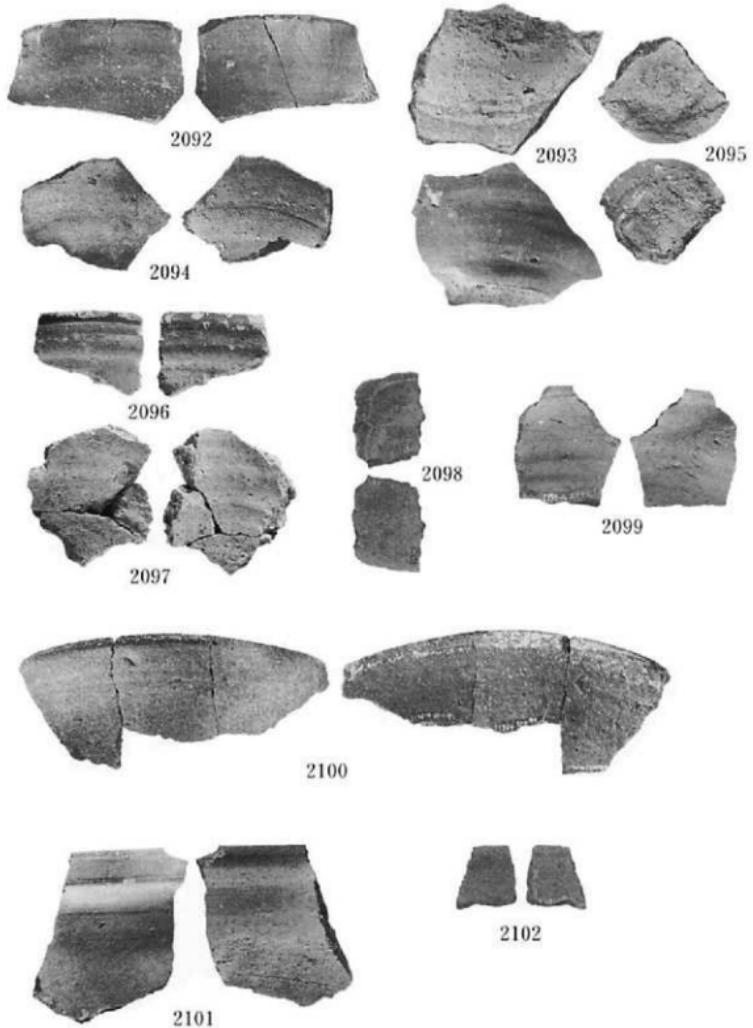
写真図版53 濱美産陶器③



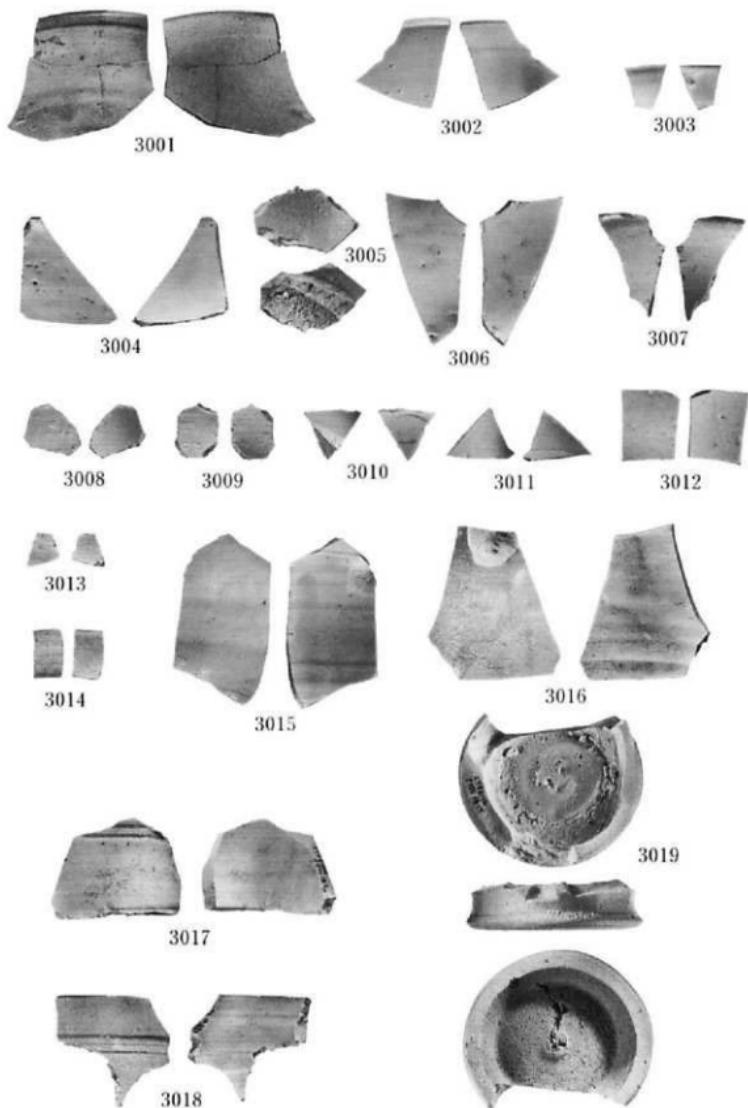
写真図版54 濡美産陶器④



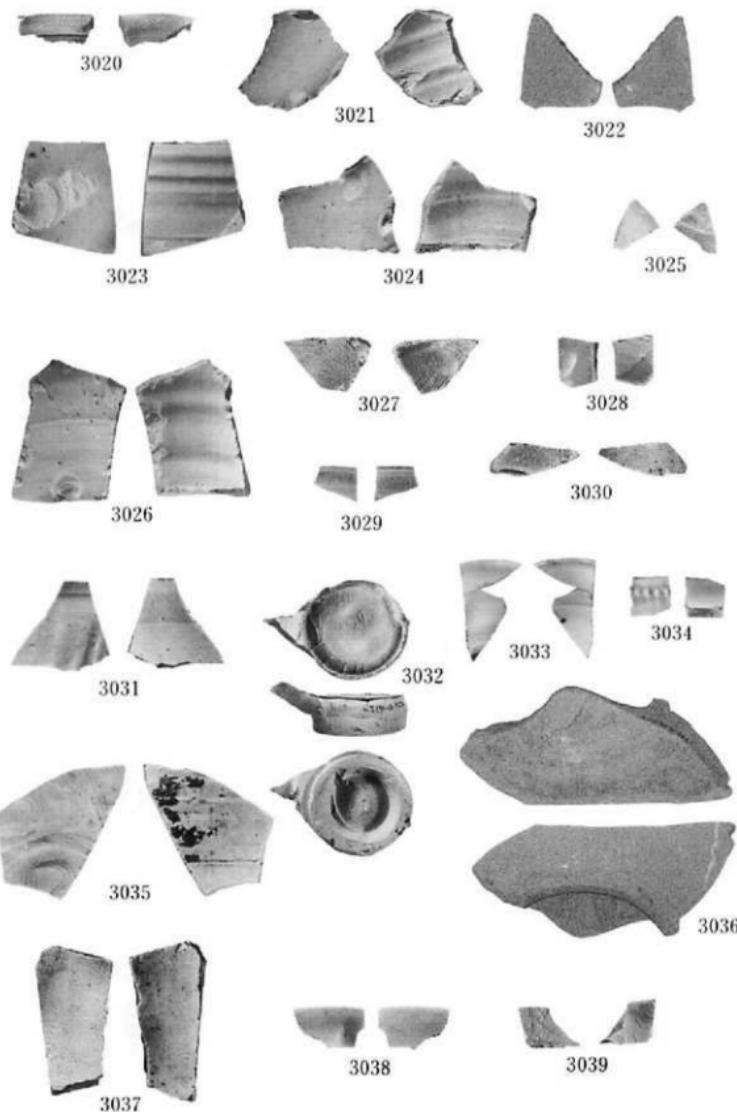
写真図版55 涅美産陶器⑤・須恵器系陶器



写真図版56 中世の瓷器系陶器



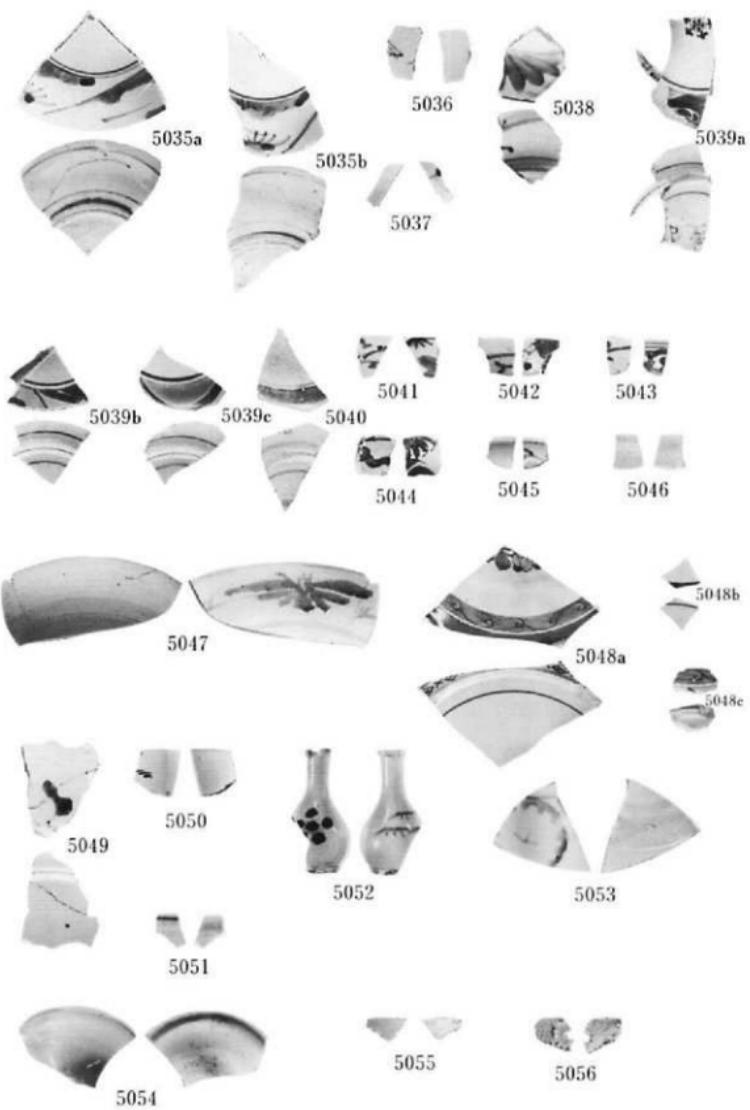
写真図版57 中国産磁器①



写真図版58 中国産磁器②



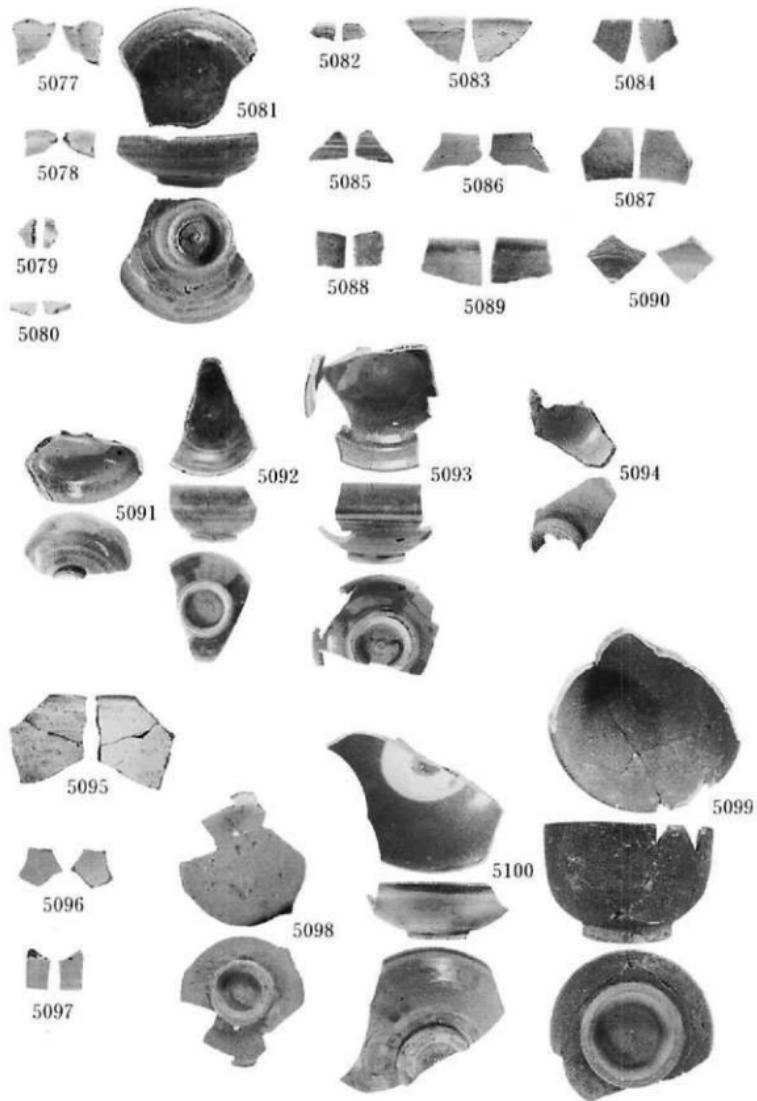
写真図版59 近世の磁器①



写真図版60 近世の磁器②



写真図版61 近世の陶器①



写真図版62 近世の陶器②



写真図版63 近世の陶器③



5118a



5118b



5119



5118c



5120

5121



5122



5123a



5123b

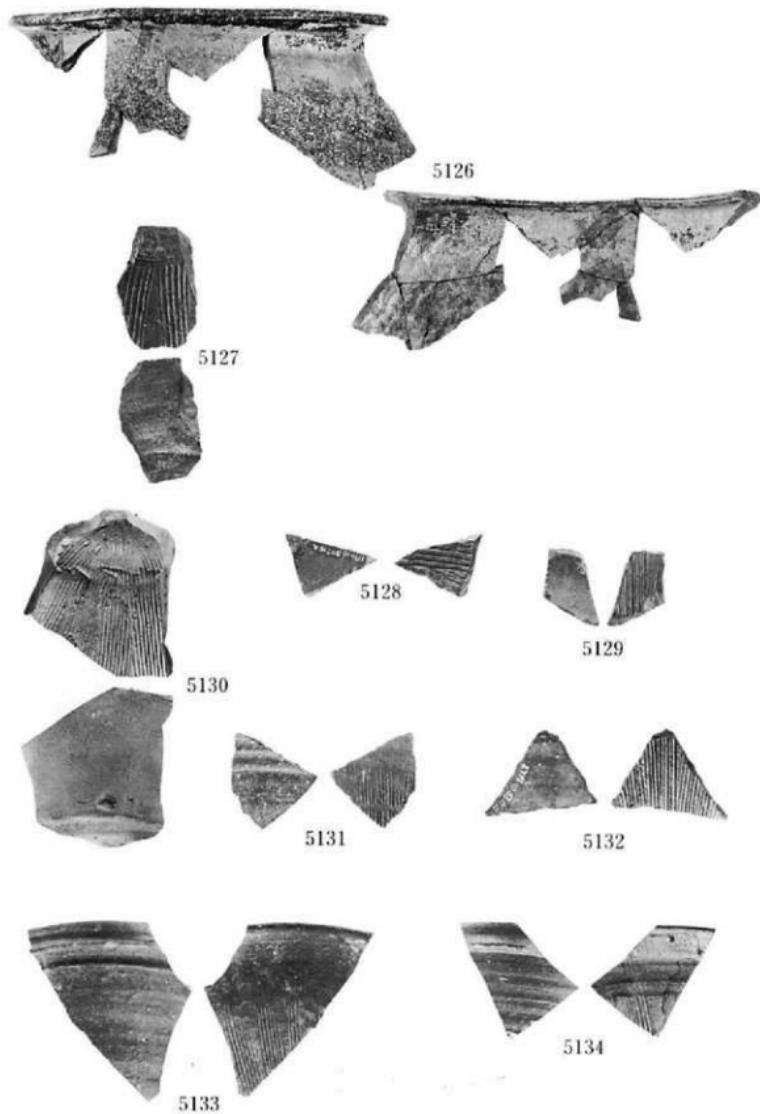


5124

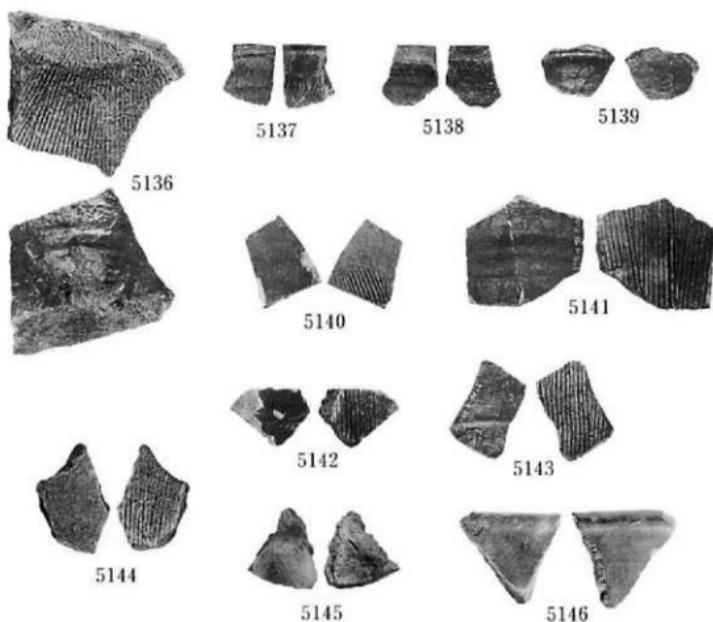


5125

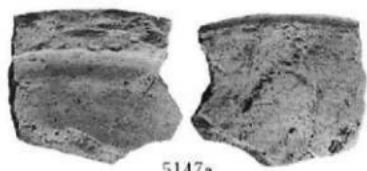
写真図版64 近世の陶器④



写真図版65 近世の陶器⑤



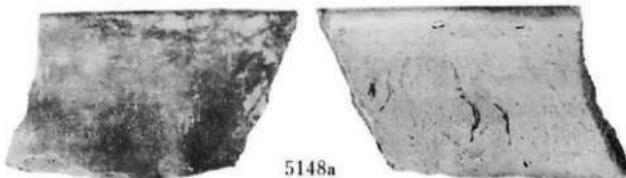
写真図版66 近世の陶器⑥



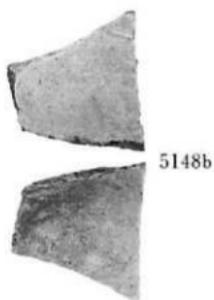
5147a



5147b

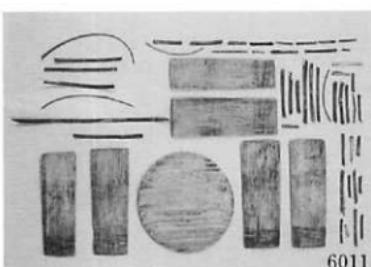
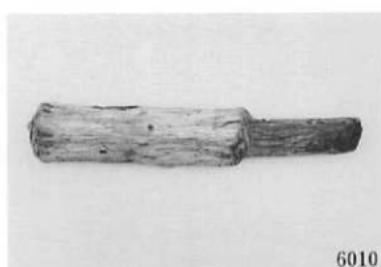
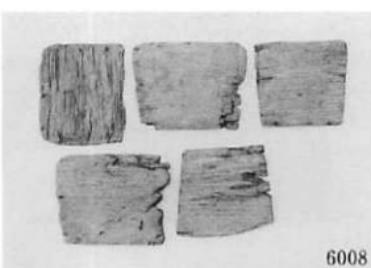
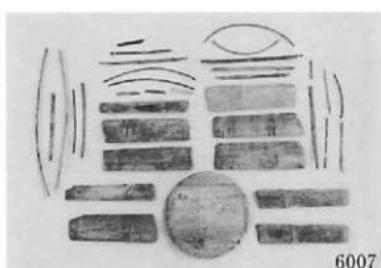
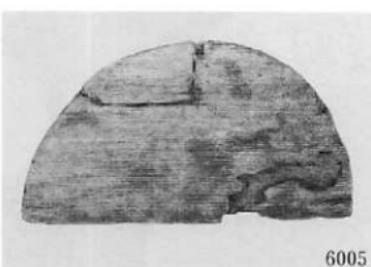
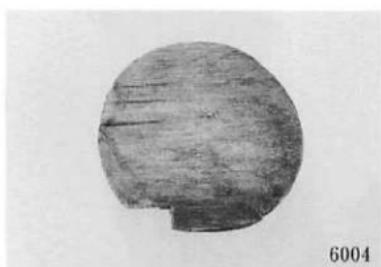
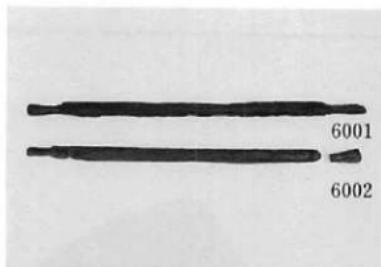


5148a

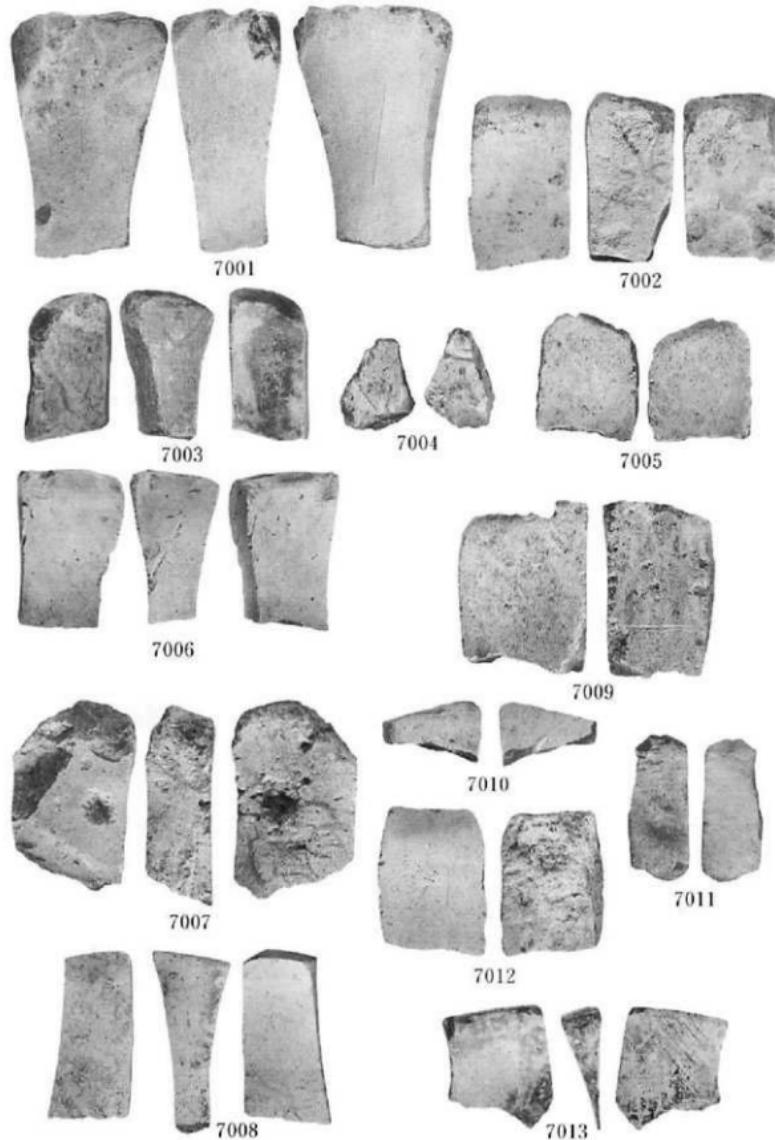


5148b

写真図版67 近世の陶器⑦



写真図版68 木製品



写真図版69 石製品①



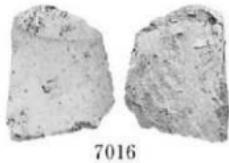
7014



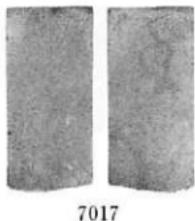
7020



7015



7016



7017



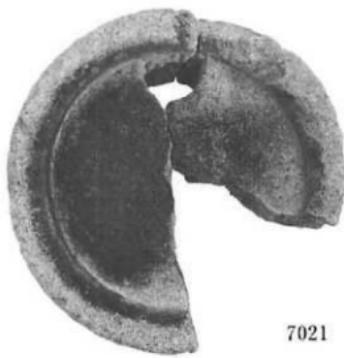
7018



7019



7021



写真図版70 石製品②



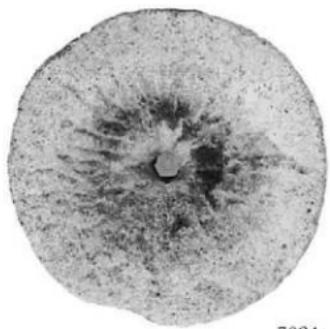
7022

7023

写真図版71 石製品③



7025



7024



7026

写真図版72 石製品④



8001



8002



8003



8004



8005



8006



8007



8008



8009



8010



8011



8012



8013



8014

写真図版73 錢貨①



8015



8016



8017



8018



8019



8020



8021



8022



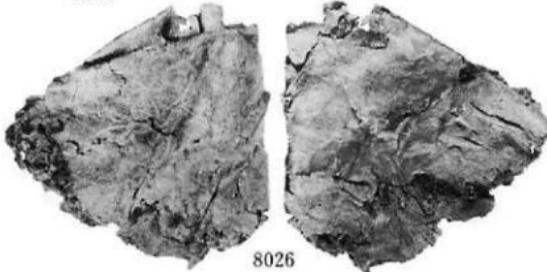
8023



8024

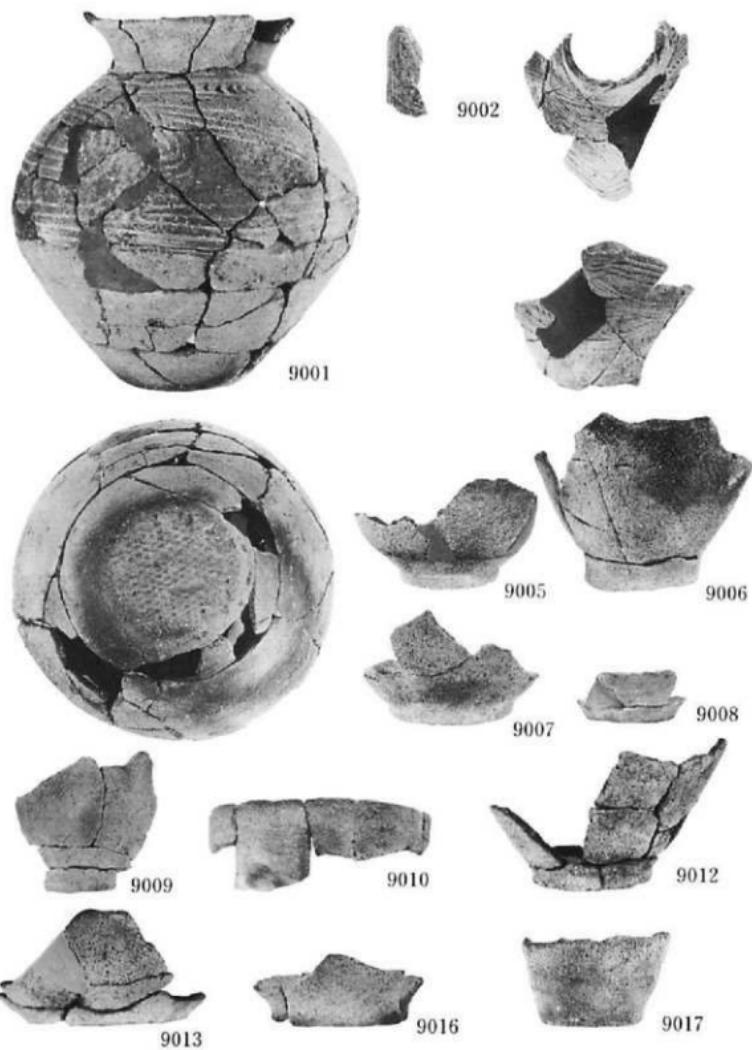


8025

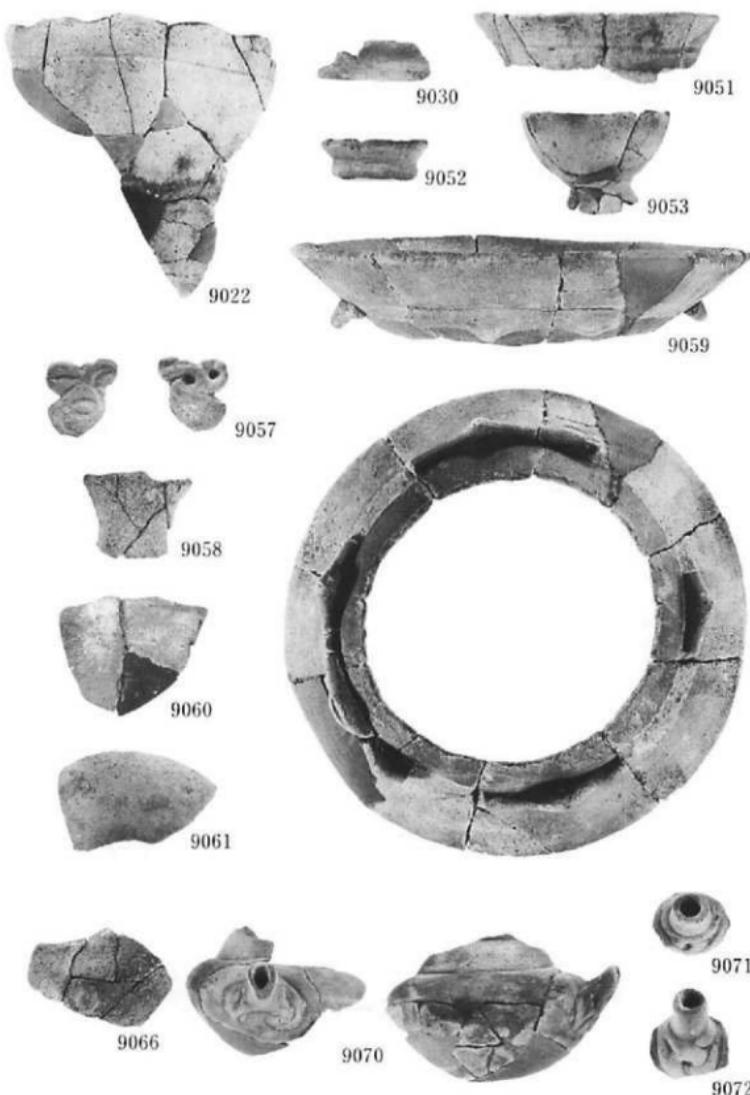


8026

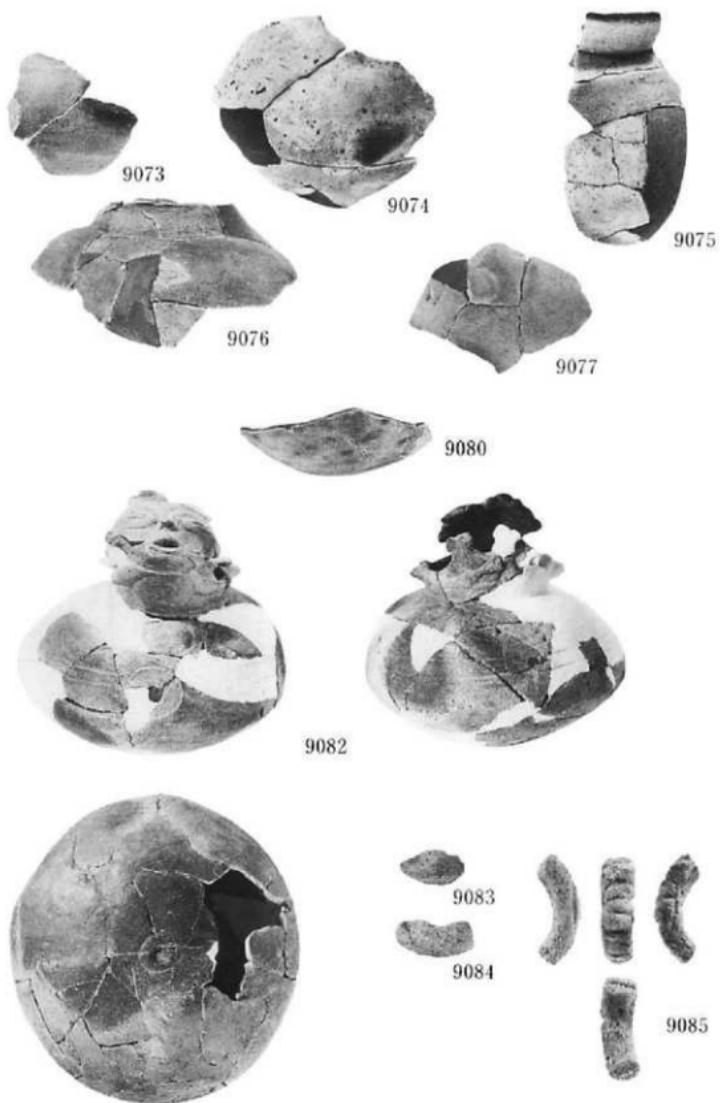
写真図版74 錢貨②



写真図版75 繩文時代の土器①



写真図版76 繩文時代の土器②

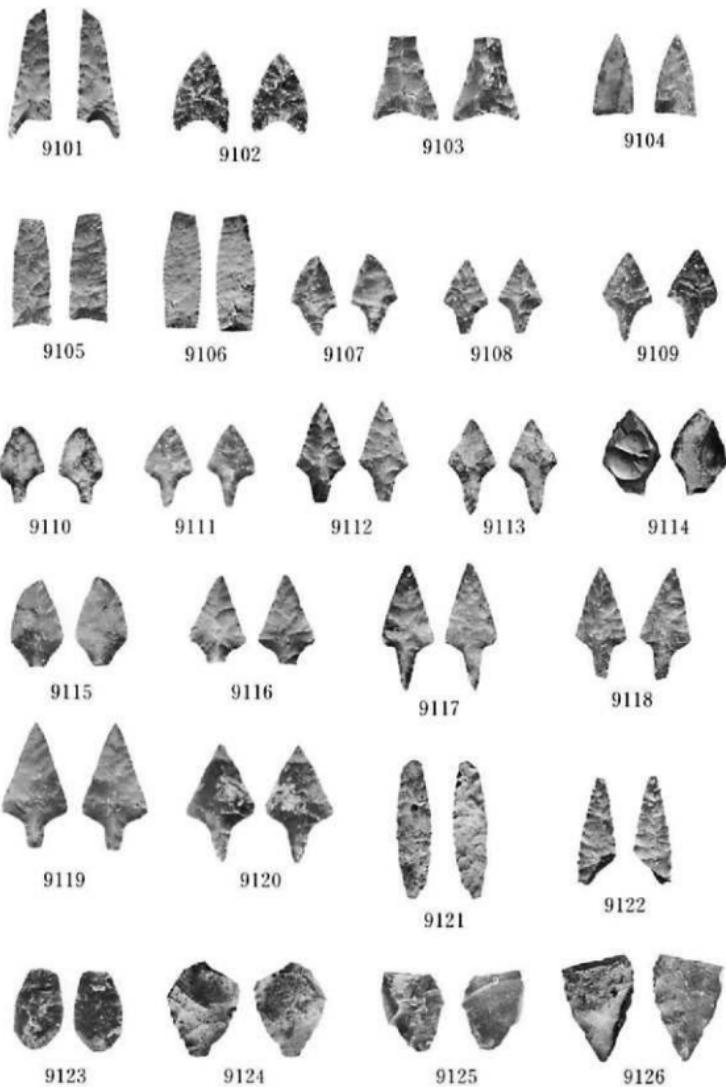


写真図版77 繩文時代の土器③

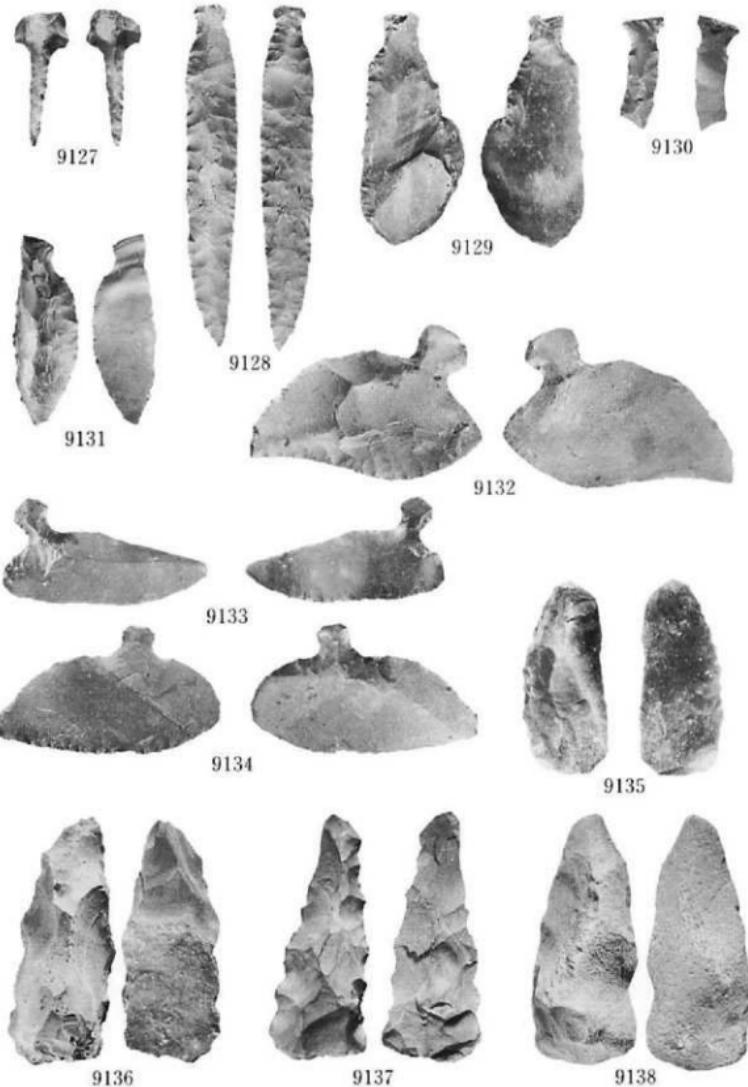


9082

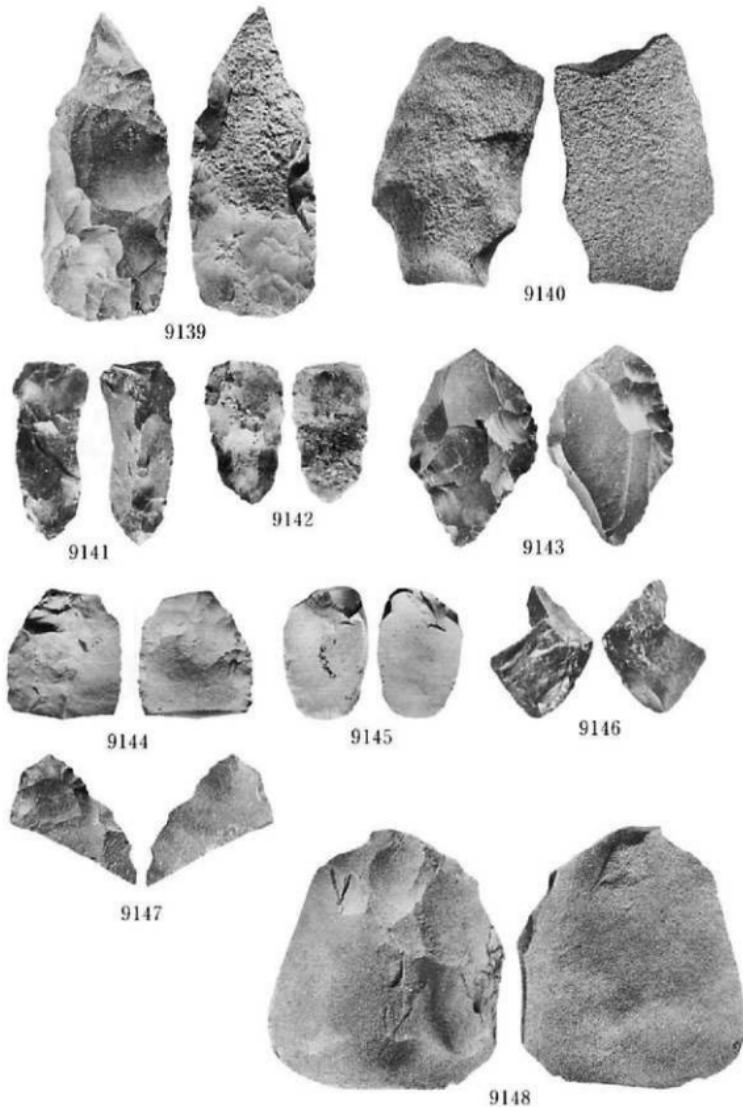
写真図版78 縄文時代の土器④



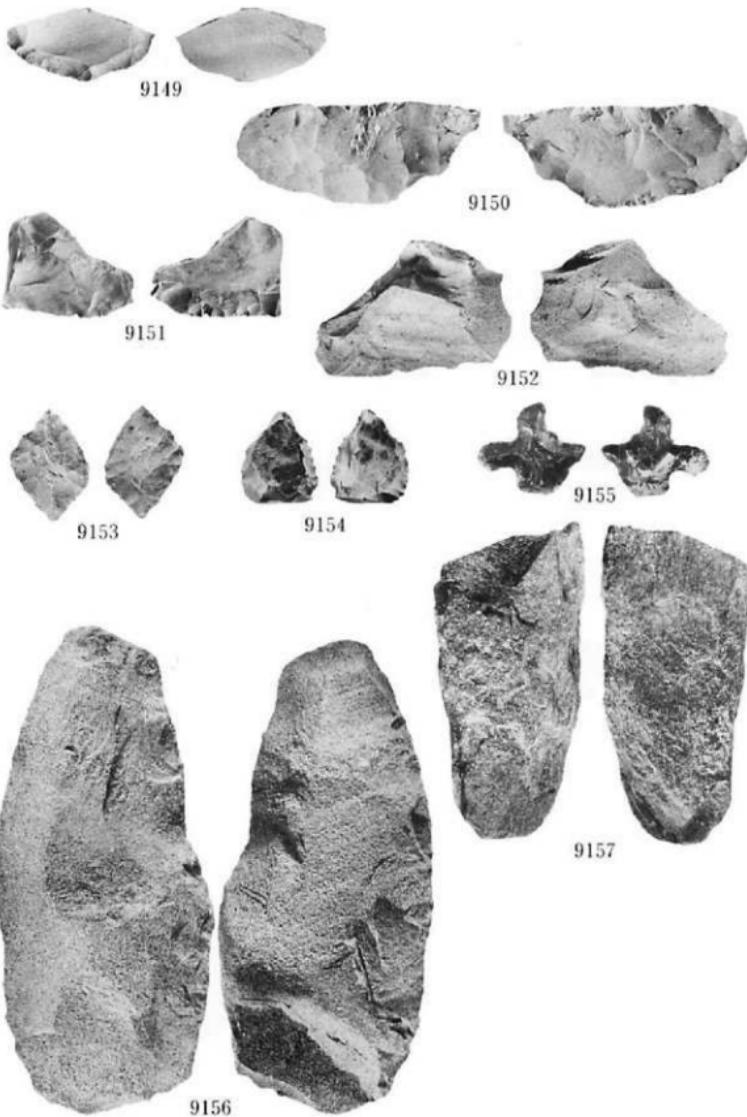
写真図版79 縄文時代の石器①



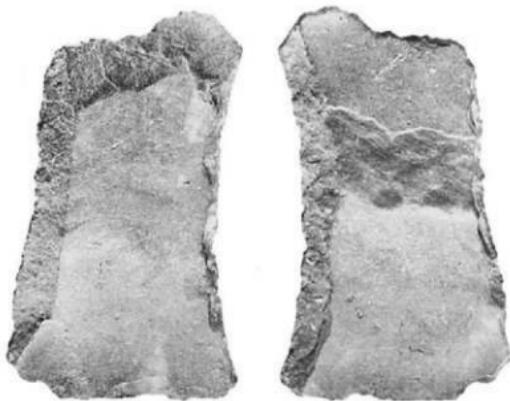
写真図版80 繩文時代の石器②



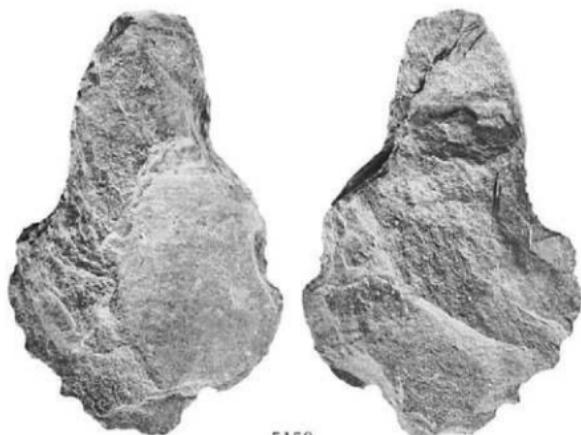
写真図版81 縄文時代の石器③



写真図版82 縄文時代の石器④

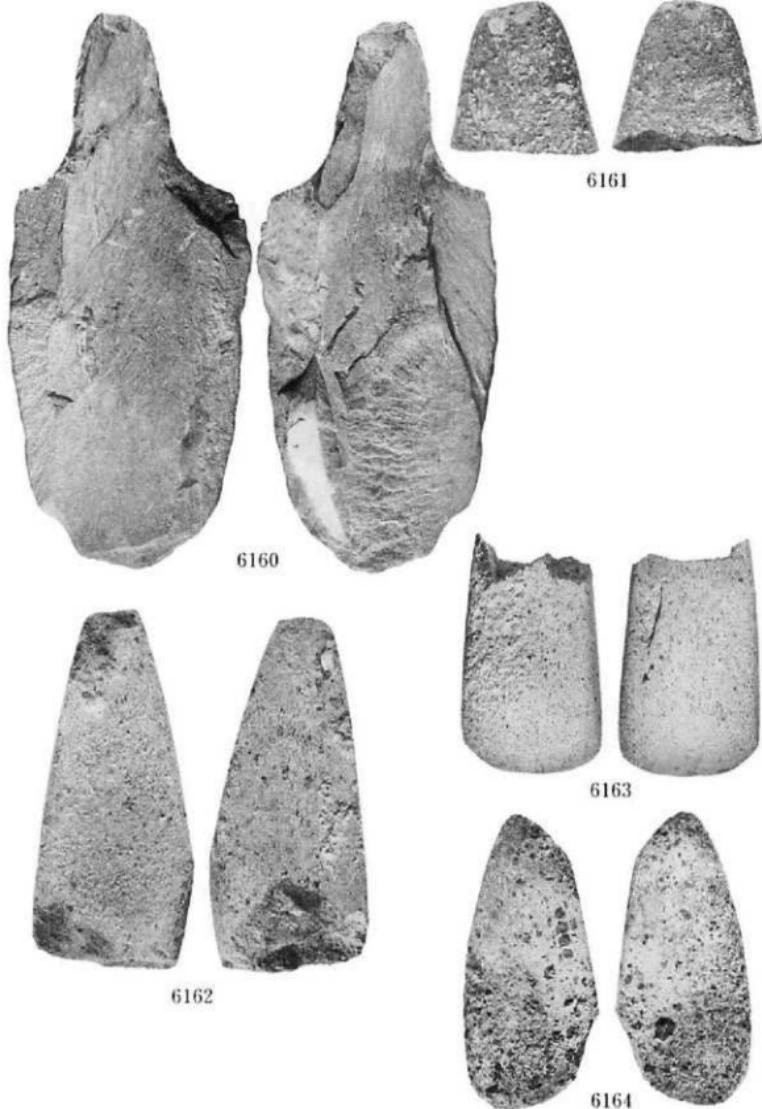


5158

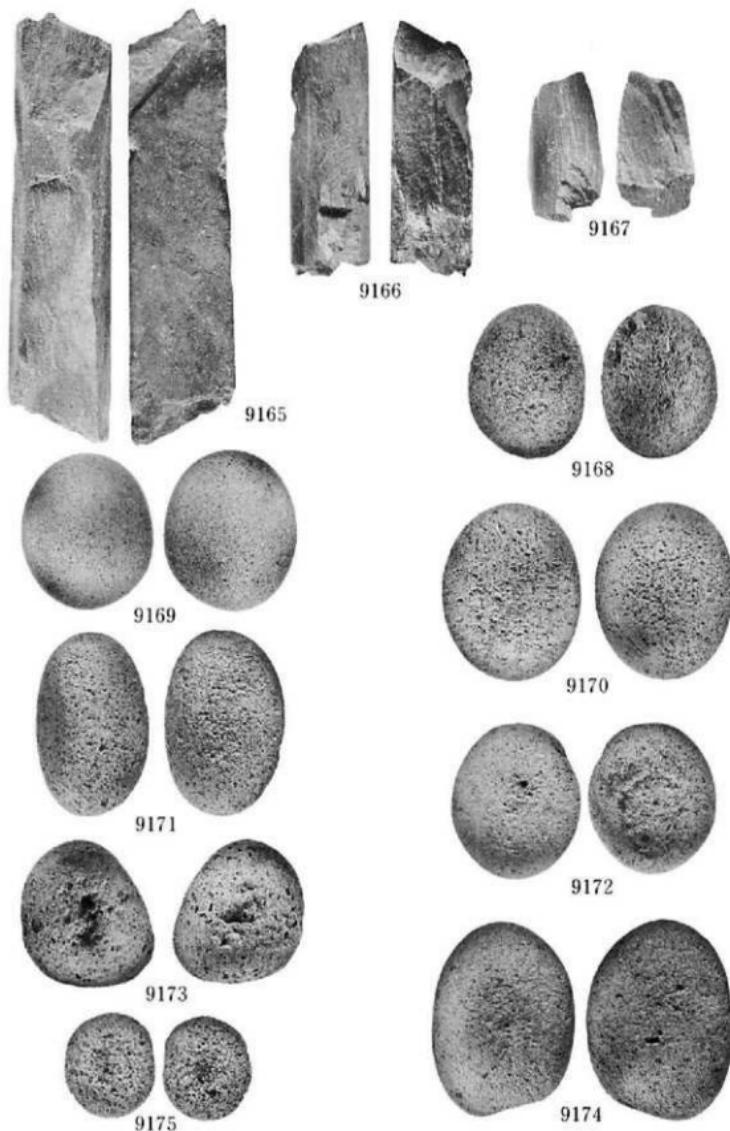


5159

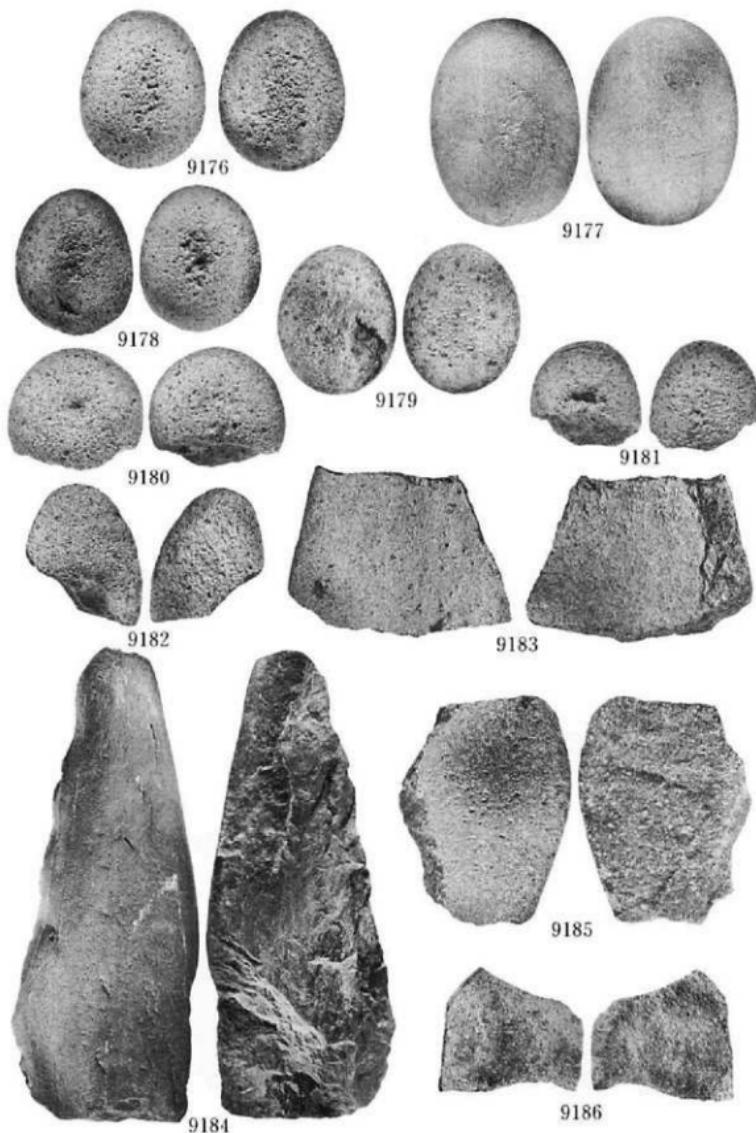
写真図版83 繩文時代の石器⑤



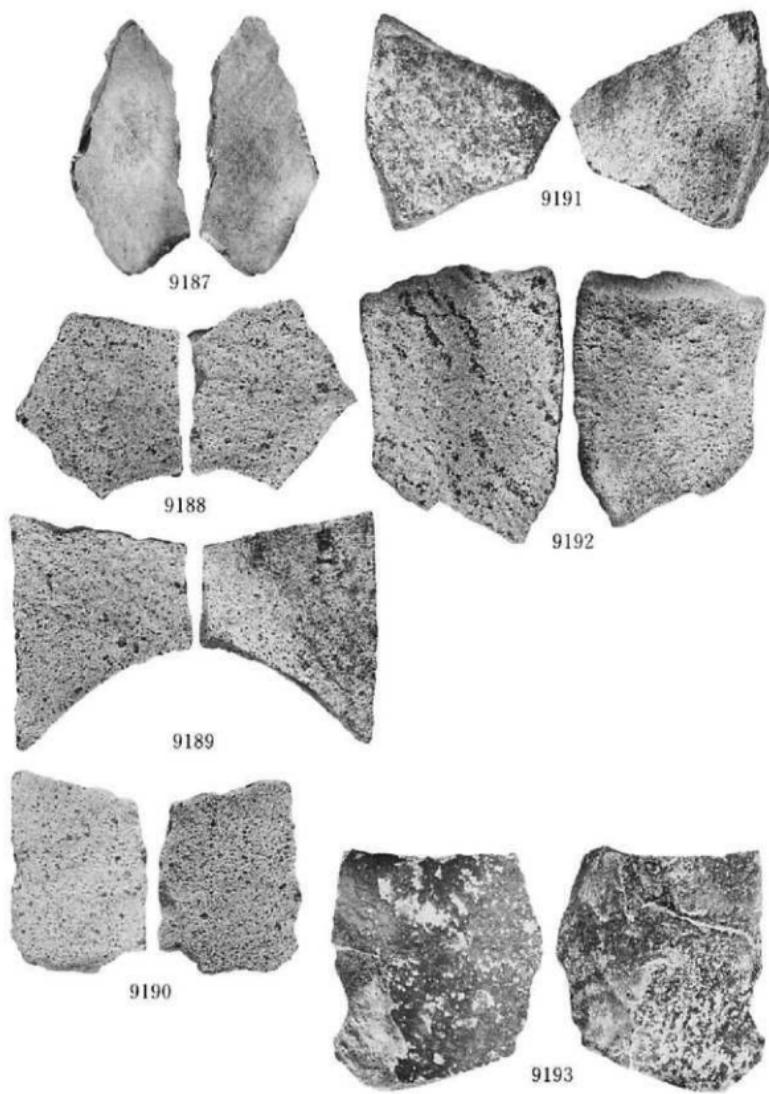
写真図版84 縄文時代の石器⑥



写真図版85 縄文時代の石器⑦



写真図版86 繩文時代の石器⑧



写真図版87 縄文時代の石器⑨

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第399集

泉屋遺跡第16・19・21次発掘調査報告書

一関遊水地事業関連遺跡発掘調査

(第1分冊)

印刷 平成15年3月20日

発行 平成15年3月25日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

電話 (019)638-9001

印刷 小松総合印刷株式会社

〒 020-0827 岩手県盛岡市鉢巻町15-4

電話 (019)624-1374
